

令和6年度

高知医療センター年報

高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

目次

I 病院の概要

1 高知医療センター理念及び基本方針	
患者さんの権利章典	6
小児患者さんの権利について	7
2 高知医療センターの概要	8
3 沿革	9
4 高知県・高知市病院企業団体制	12
5 職員数と診療体制	
(1) 職員・職種別現員表	13
(2) 診療体制	14
(3) 経営分析に関する調	15
6 施設基準	17
7 財務の状況	
(1) 損益状況	25
(2) 貸借対照表	26
(3) 収益費用明細書	27
(4) 資本的収支明細書	29
(5) 一般会計繰入金	30

II 各局資料

医療局	34
看護局	36
薬剤局	38
医療技術局	40
栄養局	42
事務局	44

III 各診療科資料

総合診療科	48
精神科	49
児童精神科	50
地域医療科	51
血液内科・輸血科	52
糖尿病・内分泌内科	53
放射線療法科	54
緩和ケア内科	55
腫瘍内科	56
ペインクリニック科	57
放射線科	58
病理診断科	59
脳神経外科	60
眼科	61
耳鼻咽喉科	62
歯科口腔外科	63
呼吸器内科	64
呼吸器外科	65
循環器内科	66
心臓血管外科	68
消化器内科	69
消化器外科・一般外科	70
泌尿器科	71
腎臓内科・膠原病科	72
移植外科	73
婦人科	74
産科	75
生殖医療科	76
小児科・新生児科	77
小児外科	78
救命救急科	79
麻酔科・集中治療科	81
皮膚科	82
整形外科	83
形成外科	84
乳腺・甲状腺外科	85

IV 各委員会資料

医療安全管理委員会	88
院内急変対応部会	89
医療関連感染対策委員会	90
ICT(感染制御チーム) 運営部会	91
AST(抗菌薬適正使用支援チーム)運営部会	92
透析機器安全管理委員会	93
職員の業務負担軽減委員会	94
診療情報管理委員会	95
DPCコーディング委員会	96
臨床研修管理委員会(医科)	97
臨床研修管理委員会(歯科)	98
臨床倫理委員会	99
治験審査委員会	100
がんセンターボード運営部会	101
抗がん剤レジメン管理委員会	102
検体検査運営委員会	103
褥瘡防止委員会	104
行動制限最小化委員会	105
適正輸血療法推進委員会	106
薬事委員会	107

V クリニカルインディケーター

1 退院患者数	
(1) 診療科別・性別退院患者数	110
(2) 診療科別・在院期間別・性別退院患者数	111
(3) 診療科別・性別・在院日数の平均	114
(4) 診療科別・年齢階層別・性別退院患者数	115
(5) 診療科別・年齢階層別・ 性別在院日数の平均	118
(6) 大分類別・性別退院患者数・平均年齢・ 在院日数の平均	121
(7) 中分類別・性別退院患者数・平均年齢・ 在院日数の平均	124
(8) 小分類別・手術の有無・年齢階層別退院 患者数・平均年齢・在院日数の平均	145
2 外来患者数	180
3 疾病分類統計	
全科疾病分類別上位頻度表	181
4 D P C 統計	
(1) MDC 別退院患者数	186
(2) 在院期間別退院患者数	187
(3) MDC 別・年齢別・性別退院患者数	188
(4) MDC 別退院患者・救急搬送数	189
(5) 科別診断群分類(D P C)上位頻度表	190
(6) 退院後の患者の動向	197
5 悪性新生物統計	
(1) 悪性新生物 主な手術・処置件数	198
(2) 悪性新生物による死亡患者数	205
6 死亡患者統計	
(1) 科別死亡率	206
(2) 死亡患者数	207
(3) 死亡患者数の割合	208
(4) 年齢別死亡患者数	209
(5) 死亡患者疾病順位表<性別・年齢別>	210

2024年(令和6年)度の高知医療センター年報が完成しました。当院の活動状況、経営状況などについてまとめておりますので、ご参照いただければ幸いです。

当院は2005年3月、県立中央病院と市立市民病院を統合して開院し、皆さまのお力添えによりこの3月、開院20周年を迎えることができました。この間2020年2月から新型コロナウイルス感染症が全世界で大流行しました。この感染症対応に尽力されたすべての方々に敬意を表し感謝いたします。当院も感染症指定医療機関(重症者対応医療機関)として、中等症から重症者、リスクの高い軽症者を含むすべての患者さんの入院治療に取組み、県内外の多くの患者さんの療養に関わることができました(入院加療患者数はこれまで1700名余)。この感染症は2023年5月より5類感染症となり、現在は通常の医療体制で対応しています。今後も終息することはないでしょうが、当院は新興感染症を含む感染症に罹患する患者さんに対し他医療機関とともに真摯に対応してまいります。

2024年度、「働き方改革」として医師時間外労働に関する上限規制適用が開始された影響もあり、当院では麻酔科、集中治療科、循環器内科、腎臓内科・膠原病科、糖尿病・内分泌内科等の医師が減少しました。対応可能手術件数の減少、手術日遅れ等の影響も見込まれましたが、影響が最小限となるよう最大限努力するとともに、地域医療機関で対応可能な手術症例については、他医療機関への転院加療のお願いもさせていただきました。皆さま方にはご心配をおかけしておりますが、引続きご理解とご協力の程お願い申し上げます。医療機関関係者の皆さまには転院等のご相談にご協力いただき厚く感謝申し上げます。

当院には地域医療連携を基本とする「地域医療支援病院」や「地域がん診療連携拠点病

院」、県全体の高度急性期および急性期医療を行う中核病院としての機能を発揮し、安心して安全な質の高い医療を提供する責務がございます。がん診療など高度急性期医療に関しては、2022年にロボット支援胸・腹腔鏡下手術(ダ・ビンチ)を導入し、複数診療科で同手術を開始しました。導入から3年が経過し、2024年度は400例以上のダ・ビンチ手術を施行するなど、安定かつ高水準な稼働を実現しております。2025年7月、2台目のダ・ビンチを導入しました。救命救急、総合周産期母子医療、こころのサポート等の診療に関しても、職員一同協力しながら多職種との連携・協働による「チーム医療」実践に努め、当院の役割を果たしてまいります。さらに、基幹災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院として、近隣の地域医療機関の皆さまと、より密接な連携を維持推進し、「高知県の医療」を守る中心的な医療機関のひとつとして、その役目を果たしてまいります。また、他の医療・介護施設とともに医療介護連携を深め、県内の各医療機関が持ちうる力を十二分に発揮できるよう医療機能の分化集中を後押ししてまいります。

今後の日本や、私たち医療者が歩む未来は、ますます予測困難な変動の時代を迎えるものと推察します。その不確実性や、社会・環境の変化に柔軟に適応してゆく所存です。

当院の理念は「医療の主人公は患者さん」です。患者さんが安心して安全に高度な医療を受けていただけるよう、当院内6局6センターが相互に連携し、多くの課題に対して柔軟に対応して努力を続け、当院が受け持つ役割、病院機能をひとつずつ確実に果たし続けます。

県民市民の皆さま、関連する医療機関・介護施設等の皆さまのご理解ご協力ご支援に厚くお礼申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

I 病院の概要

高知医療センター理念及び基本方針

【理 念】医療の主人公は患者さん

【基本方針】

1.患者さんから信頼され、温かい人間性に裏打ちされた夢と希望を提供する医療を実践します

- 患者さんの人間性を尊重し、十分な説明を行うことで、患者さんの理解をもとにした診療を実践します。
- 患者さんのプライバシーを守り、安全で質の高い療養環境を提供します。
- チーム医療を推進し、患者さんの心と体の痛みを和らげるように努め、一日も早い日常生活への復帰を目指します。

2.地域医療連携を基本とした良質で高度な医療を提供します

- 医療や保健・福祉の向上のため、地域の病院や診療所、関係機関との連携を強化します。
- 高度な医療機器を備えて、高度で先進的な医療を提供します。
- 365日24時間体制で救急患者を受け入れます。

3.自治体病院としての使命を果たします

- 基幹災害拠点病院として、大地震などの災害時にも医療機能が発揮できる病院にします。
- 地域で不足する医療の確保に努めます。
- 医療福祉職、学生などの教育・研修に力を入れ、今後の医療・保健・福祉を担う人材を育てます。

4.職員が誇りとやりがいを持ち、成長できる病院にします

- 高知医療センターに関わるすべての職員が、誇りと向上心を持ち、総力を挙げて患者さんの立場に立った医療を提供するための資質向上に取り組みます。
- 医学、看護学、薬学、栄養学などの臨床研究に力を入れ、職員のキャリア形成を支援します。

5.公正で開かれた病院運営と健全な経営を目指します

- モラルを守り、公正で開かれた病院を目指します。
- 効率的な病院運営に努め、健全な経営を実践します。

患者さんの権利章典

患者さんには「受ける権利」「選べる権利」「守られる権利」の3つの権利があります

1.「受ける権利」

- ①患者さんは、ご自身の病気について最善の医療を受ける権利があります。
- ②患者さんは、経済的・社会的地位、年齢、性別、病気の種類などにかかわらず、公平な医療を受ける権利があります。
- ③患者さんは、原則としてご自身の正確な病状や治療・経過を知る権利があります。
- ④患者さんは、病気に立ち向かうための支援を受ける権利があります。あらゆるご相談は、1階の[まごころ窓口]へお寄りください。
- ⑤患者さんは、病気に立ち向かうために自ら学ぶ機会を提供される権利があります。どなたでも病気についての知識を深めるため、2階の[なるほどライブラリ]をご利用いただけます。

2.「選べる権利」

- ①患者さんは、検査、治療法、病気の見通しなどについて、わかりやすい言葉で納得できるまで説明を受け、そのうえで自らの生き方に沿って治療方法などを選択する権利があります。
- ②患者さんは、病状や治療法などについて担当医以外の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めたうえで、治療方法などを選択する権利があります。
- ③患者さんは、正しい病名を告知される権利がありますが、一方、告知されない権利もあり、このいずれかを選ぶことができます。
- ④患者さんは、判断する能力が失われたような場合にそなえて、治療法などについて、あらかじめ明らかにしておく権利があります。
- ⑤患者さんは、法律が許す範囲で治療を拒絶する権利があります。またその場合には、医学的にどのような結果になるかを知る権利もあります。

3.「守られる権利」

- ①患者さんは、病気を克服しようとする主体として、その生命・身体・人格を尊重され、守られる権利があります。
- ②患者さんは、医療が実践されるあらゆる場面で、ご自身の個人情報第三者の目に触れることのないように配慮され、守られる権利があります。
- ③患者さんは、法令に基づく場合以外においては、本人の同意がなければ個人情報に関与する医療従事者以外に開示されないよう、守られる権利があります。
- ④患者さんは、医療に関係するすべての記録などが守秘されることを期待する権利があります。
- ⑤患者さんは、診断・治療データなどが研究・発表などに使われる際には、当院の定めるところによりプライバシーが守られる権利があります。

小児患者さんの権利について

高知医療センターでは、公益社団法人日本小児科学会が策定した「医療における子ども憲章」(2022年3月)に基づいて、小児患者さんの権利を尊重します。

「医療における子ども憲章」

1.人として大切にされ、自分らしく生きる権利

あなたは、病気や障害、年齢に関係なく、人として大切にされ、あなたらしく生きる権利を持っています。

2.子どもにとって一番よいこと(子どもの最善の利益)を考えてもらう権利

あなたは、医療の場であなたに関係することが決められるとき、すべてにおいて、周囲のおとなにそれが「あなたにとってもっとも良いことか」を第一に考えてもらえる権利を持っています。

3.安心・安全な環境で生活する権利

あなたはいつでも自分らしく健やかでいられるように、安心・安全な環境で生活できるよう支えられる権利を持っています。

もし、あなたが病気になったときには、安心・安全な場で、できるだけ不安のないようなやり方で医療ケア(こころやからだの健康のために必要なお世話)を受けられます。

4.病院などで親や大切な人といっしょにいる権利

あなたは、医療を受けるとき、お父さん、お母さん、またはそれに代わる人とできる限りいっしょにすることが出来ます。

5.必要なことを教えてもらい、自分の気持ち・希望・意見を伝える権利

あなたは、自分の健康を守るためのすべての情報について、あなたにわかりやすい方法で、説明を受ける権利を持っています。そして、あなた自身の方法で、自分の意思や意見を伝える権利を持っていて、できるだけその気持ち・希望・意見の通りにできるように努力してもらえます。

6.希望どおりにならなかったときに理由を説明してもらう権利

あなたの気持ち・希望・意見の通りにすることができない場合は、なぜそうなったのか、その理由などについてわかりやすい説明を受けたり、その理由が納得できないときは、さらにあなたの意見を伝えたりする機会があります。

7.差別されず、こころやからだを傷つけられない権利

あなたは、病気や障害、その他あらゆる面において差別されることなく、あなたのこころやからだを傷つけるあらゆる行為から守られます。

8.自分のことを勝手にだれかに言われない権利

あなたのからだや病気のことは、あなたにとって大切な情報であり、あなたのものです。あなたらしく生活することを守るために、あなたのからだや病気、障害に関することが他のひとに伝わらないように守られます。

また、だれかがあなたのからだや病気、障害のことを他のひとに伝える必要があるときには、その理由とともに伝えてもよいかをあなたに確認をます。

9.病気のときも遊んだり勉強したりする権利

あなたは、病気や障害の有無に関わらず、そして入院中や災害などを含むどんなときも、年齢や症状などにあった遊ぶ権利と学ぶ権利を持っていて、あなたらしく生活することができます。

10.訓練を受けた専門的なスタッフから治療とケアを受ける権利

あなたは、必要な訓練を受け、技術を身につけたスタッフによって医療やケア(気配り、世話など)を受ける権利を持っています。

11.今だけではなく将来も続けて医療やケアを受ける権利

あなたは継続的な医療やケア(気配り、世話など)を受けることができます。また、日々の生活の中でさまざまな立場のおとなに支えてもらう権利を持っています。

「医療における子ども憲章」

公益社団法人 日本小児科学会 JAPAN PEDIATRIC SOCIETY (jped.s.or.jp)

2 高知医療センターの概要

令和6年4月1日現在

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

名 称	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
開 設 者	企業長 村岡 晃
病 院 長	小野 憲昭
住 所	〒781-8555 高知市池 2125 番地 1
連 絡 先	TEL : 088-837-3000 FAX : 088-837-6766
ホームページ	URL : https://www2.khsc.or.jp
E - m a i l	khsc_info@khsc.or.jp
病 床 数	一般 548 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床 計 620 床 内 ICU 12 床、HCU 20 床、NICU 12 床、GCU 15 床、小児 32 床 産科 33 床、MFICU 3 床 (LDR 3 床)、開放病棟 10 床、SCU 18 床 特別室 19,800 円 (8 床) 9,900 円 (117 床)
特 殊 病 床	人工透析 9 床 (許可病床数に含まず)
施 設 概 況	敷地面積 約 56,000 m ² 延床面積 本 館 : 約 67,400 m ² 精神科病棟 : 約 2,800 m ² がんセンター棟 : 約 3,600 m ² ドクターヘリ棟 : 約 2,000 m ² 滞在施設やまもも : 約 1,100 m ² 構 造 本 館 : 鉄骨鉄筋コンクリート造(基礎免震工法) 精神科病棟、がんセンター棟 : 鉄筋コンクリート造 ドクターヘリ棟 : 鉄骨造 滞在施設やまもも : 鉄筋コンクリート造 階 数 本 館 : 地上 12 階 塔屋 1 階 精神科病棟 : 地上 2 階 塔屋 1 階 がんセンター棟 : 地上 4 階 ドクターヘリ棟 : 地上 3 階 滞在施設やまもも : 地上 1 階 高 さ 地上 58.5m 駐 車 場 約 560 台 (患者さん・見舞い客用) 身障者用 17 台、救命救急センター外来用 14 台
診療科目(40)	アレルギー科、移植外科、眼科、感染症内科、緩和ケア内科、救急科、形成外科、外科、血液内科、呼吸器外科、呼吸器内科、産科、婦人科 (生殖医療)、歯科口腔外科、腫瘍内科、耳鼻いんこう科、消化器外科、消化器内科、小児科、小児外科、神経内科、心臓血管外科、循環器内科、腎臓内科、心療内科、整形外科、児童精神科、精神科、内科、糖尿病・内分泌内科、乳腺外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、病理診断科、ペインクリニック内科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科
外来診療時間	8 時 30 分から 12 時、13 時から 16 時 30 分 受付 : 診療開始時間及び診療終了時間の 30 分前まで 休診 : 土・日・祝日・年末年始 (12/29~1/3)
職員数(別掲)	医師 看護師 薬剤師 管理栄養士 医療技術 事務 その他
そ の 他	臨床研修指定病院 救急告示病院 (平成 17 年 2 月 26 日指定) 総合周産期母子医療センター (平成 17 年 2 月 26 日指定) 救命救急センター (平成 17 年 3 月 25 日指定) 基幹災害拠点病院 第 1 種感染症指定病院 地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院

3 沿革

高知医療センターの前身は高知県立中央病院と高知市立市民病院です。高知県立中央病院は、昭和 23 年 5 月 1 日に開設、昭和 41 年に高知市桜井町に移転整備され、地域がん診療拠点病院、臨床研修拠点病院、救急病院などの機能を持ち、良質な医療を提供する病院として運営してきました。一方、高知市立市民病院は、明治 26 年に市立伝染病隔離病舎として開設、明治 31 年高知市西弘小路（現：丸の内一丁目）に移転し、市立伝染病院として開院、昭和 24 年高知市立厚生病院と改称、さらに昭和 25 年高知市立市民病院と改称し、昭和 44 年潮江市市民病院との統合を経て、オーダリングシステムを有する救急病院、開放型病院として、県立中央病院と同じく良質な医療を提供してきました。

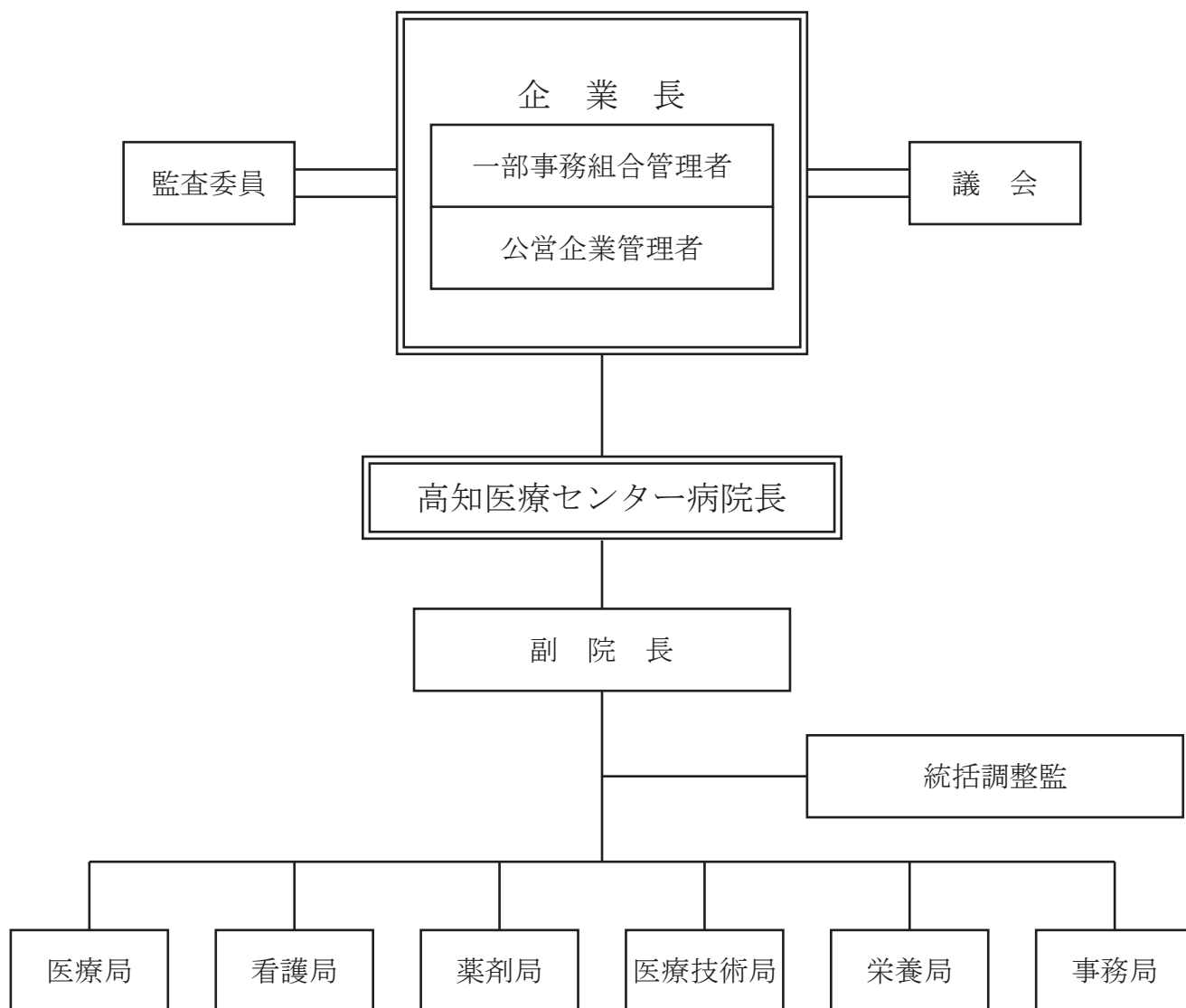
しかし、県民、市民の医療に対するニーズが多様化・高度化する中で、両病院はともに施設の老朽化、狭隘化が著しく、十分な診療機能の発揮が困難となりました。この問題を解決するため、高知市池に両病院を統合整備することにより、スケールメリットを生かして機能の充実を図り、医療資源を効率的に活用し、住民に高度医療を提供することとし、平成 17 年 3 月に高知県・高知市病院企業団立高知医療センターとして開院しました。

- 1993（平成 5）年 高知県立中央病院および高知市立市民病院統合協議開始
- 1998（平成 10）年 4 月 高知県・高知市新病院整備推進室を設置
 - 11 月 高知県・高知市病院組合（一部事務組合）設立
- 1999（平成 11）年 3 月 新病院整備基本計画策定
- 2001（平成 13）年 2 月 新病院整備運営事業の PFI 法に基づく実施方針の策定・公表
 - 3 月 公募により名称を「高知医療センター」に決定
 - 5 月 「高知医療センターPFI 事業化検討委員会」設置、PFI 事業者の選定開始
- 2002（平成 14）年 8 月 高知医療センターPFI 事業優先交渉権者選定
 - 10 月 PFI 基本協定の締結
 - 12 月 PFI 事業契約の締結
- 2004（平成 16）年 12 月 統合情報システム IIMS（電子カルテ）総合リハーサル開始（5 回）
- 2005（平成 17）年 2 月 高知医療センター開設（診療開始）
 - 高知中央病院、高知市民病院から高知医療センターへ患者移送
 - へき地医療拠点病院に指定される
 - エイズ治療拠点病院に指定される
 - 第 1 種感染症指定医療機関に指定される
 - 総合周産期母子医療センターに指定される
 - 全国で 3 番目となるドナルド・マクドナルド・ハウスこうち開所
 - 3 月 高知県・高知市病院企業団設立（地方公営企業法全部適用）、『高知県・高知市病院企業団立高知医療センター』として開院
 - 許可病床数 648 床（一般 590 床、結核 50 床、感染症 8 床）
 - 救命救急センターに指定される

沿革

- 2007（平成 19）年 4 月 病床見直しにより施設リハ訓練室、心臓リハ運用開始
許可病床数 632 床（一般 574 床、結核 50 床、感染 8 床）
地域医療支援病院に指定される
7 月 DPC 準備病院に承認される
- 2008（平成 20）年 2 月 地域がん診療連携拠点病院に指定される
- 2009（平成 21）年 2 月 日本医療機能評価機構による認定「病院機能評価（一般病院）」
4 月 DPC 対象病院に指定される
12 月 高知医療センター整備運営事業（PFI 事業）契約解約合意に係る確認書を締結
- 2010（平成 22）年 3 月 高知医療センター整備運営事業（PFI 事業）契約終了
8 月 欧州型ドクターカー（FMRC）の導入
11 月 高知女子大学（現高知県立大学）と包括的連携に関する協定締結
- 2011（平成 23）年 3 月 高知県ドクターヘリの導入
- 2012（平成 24）年 2 月 統合情報システム IIMS（電子カルテ）更新
3 月 「くじらネット」による電子カルテの地域公開開始
4 月 こころのサポートセンター（精神科病棟）新設（44 床）
許可病床数 676 床（一般 574 床、結核 50 床、感染 8 床、精神 44 床）
基幹災害拠点病院に指定される
5 月 ドクターヘリ場外離着陸場設置
10 月 病床再編により SCU 新設（3 床）
許可病床数 676 床（一般 574 床、結核 50 床、感染 8 床、精神 44 床）
- 2013（平成 25）年 1 月 結核病床 30 床減床（計 20 床）
許可病床数 646 床（一般 574 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
- 2014（平成 26）年 2 月 日本医療機能評価機構による認定更新「病院機能評価（一般病院 2）」
3 月 日本医療機能評価機構による認定「病院機能評価付加機能認定証(救急医療機能)」
4 月 NICU 3 床増床（計 12 床）
許可病床数 649 床（一般 577 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
病床再編により SCU 3 床増床、HCU12 床増床
許可病床数 649 床（一般 577 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
7 月 ハイブリッド手術室新設
10 月 一般病床（周産期関係）8 床増床
許可病床数 657 床（一般 585 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
- 2015（平成 27）年 2 月 GCU 3 床増床(計 15 床)
許可病床数 660 床（一般 588 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）

- 3月 病床再編により SCU 4 床増床（計 10 床）
許可病床数 660 床（一般 588 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
- 5月 開院 10 周年記念式典開催
- 2017（平成 29）年 3月 がんサポートセンター竣工
- 11月 患者支援センター新設
- 2019（平成 31）年 2月 日本医療機能評価機構による認定更新「病院機能評価（一般病院 2）」
- 3月 日本医療機能評価機構による認定更新「病院機能評価付加機能認定証(救急医療機能)」
ドナルド・マクドナルド・ハウスこうち閉所
- 2019（令和 元）年 7月 滞在施設「やまもも」開所
- 2020（令和 2）年 2月 一般病床 40 床廃止
許可病床数 620 床（一般 548 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
新型コロナウイルス感染症指定医療機関に指定される
新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ開始
- 4月 滞在施設「やまもも」一時休止（高知県に貸与）
（高知県による滞在施設での新型コロナ感染症患者受け入れ開始）
- 2021（令和 3）年 10月 病床再編により ICU 12 床、HCU 20 床
許可病床数 620 床（一般 548 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
病床再編により SCU 8 床増床（計 18 床）
許可病床数 620 床（一般 548 床、結核 20 床、感染 8 床、精神 44 床）
- 2022（令和 4）年 6月 低侵襲手術支援ロボット導入
- 2023（令和 5）年 10月 滞在施設「やまもも」高知県に貸与終了
- 2025（令和 7）年 3月 開院 20 周年



● 6つのセンター機能

- 「救命救急センター」
- 「循環器病センター」
- 「がんセンター」
- 「総合周産期母子医療センター」
- 「こころのサポートセンター」
- 「地域医療センター」

5 職員数と診療体制

(1) 職員・職種別現員表

正職員数

所属	職種	令和5年4月1日		令和6年4月1日	
		人数	備考	人数	備考
医療局	医師	150		149	
	歯科医師	6		6	
	救急救命士	0		1	
看護局	看護師	706	助産師含む	700	助産師含む
薬剤局	薬剤師	33		33	
医療技術局	放射線技師	27		29	
	臨床検査技師	22		23	
	臨床工学技士	15		18	
	理学療法士	13		14	
	歯科衛生士	3		3	
	視能訓練士	2		2	
	言語聴覚士	6		6	
	臨床心理士	3		3	
	作業療法士	6		6	
栄養局	管理栄養士	13		14	
事務職	行政職	35		36	
	診療情報管理士	10		10	
	MSW	9		9	
	司書	1		1	
	電気	2		2	
	医療情報事務	2		2	
合 計		1,064		1,067	

(2) 診療体制

看護職員配置数(病棟看護師のみ)

令和6年4月1日現在

階	フロア	病床分類	許可病床数	有効病床数	看護師
2F	なごやか	精神	44	44	20
3F		ICU	12	12	45
		HCU	20	20	39
4F	すこやかA	NICU	12	12	29
		GCU	15	15	18
		一 般	32	32	26
	すこやかB	MFICU	3	3	7
		一 般	30	30	32
5F	ほがらかA	一 般	48	48	35
	ほがらかB	一 般	48	48	35
6F	にこやかA	一 般	48	48	33
		SCU	18	18	21
7F	のびやかA	一 般	48	48	35
	のびやかB	一 般	48	48	35
8F	さわやかB	一 般	48	48	34
9F	おだやかA	一 般	48	48	34
	おだやかB	一 般	40	40	0
10F	あたたかA	一 般	30	30	24
		結 核	20	20	
	あたたかB	一類感染症	2	2	
		二類感染症	6	6	
合 計			620	620	502

病床数

			令和5年4月1日～						令和6年4月1日～					
			許可 病床数	有効 病床数	一般病棟 病床数 (病床利用 率分母)	その他 病床数	施設基準 上の一般 病床数	一般 病床数 (運用病 床数)	許可 病床数	有効 病床数	一般病棟 病床数 (病床利用 率分母)	その他 病床数	施設基準 上の一般 病床数	一般 病床数 (運用病 床数)
2F	なごやか	精 神	44	44		44			44	44		44		
		児童・思春期		44						44				
3F		救命救急												
		HCU	20	20	32	20	20	20	20	20	32	20	20	20
		院内ICU	12	12		12	12	12	12	12		12	12	12
4F	すこやかA	NICU	12	12		12	12	12	12	12		12	12	12
		GCU	15	15	59	15	15	15	15	15	59	15	15	15
		小児入院	32	32		32	32	32	32	32		32	32	32
	すこやかB	MFICU	3	3	33	3	3	3	3	3	33	3	3	3
		一般	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30
5F	ほがらかA	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
	ほがらかB	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
6F	にこやかA	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
	にこやかB	HCU												
		SCU	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
7F	のびやかA	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
	のびやかB	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
8F	さわやかA	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	さわやかB	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
9F	おだやかA	一般	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
	おだやかB	一般	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
10F	あたたかA	一般	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
		結 核	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	あたたかB	感染症	8	8	8	6	2	6	8	8	8	6	2	6
合 計			620	620	477	143	442	548	620	620	477	143	442	548

(3)経営分析に関する調（決算統計検収調書より）

区 分			算 式	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	類似規模 全国平均 (R 5年度)	
病 床	病床利用率 (%)	一 般	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	69.4	70.4	74.3	74.6	75.6	81.4	
		結 核	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	21.2	33.7	49.4	17.5	2.5	21.4	
		精 神	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	36.7	36.7	36.2	40.2	36.6	57.2	
		感 染	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	
		計	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	64.6	65.9	66.7	69.4	69.5	163.3	
		患 者 数	1日平均患者数 (人)	入 院	$\frac{\text{年延入院患者数}}{365 \text{ 日} \cdot 366 \text{ 日}}$	401.1	408.7	413.4	430.3	430.9
外 来	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$			699.4	743.9	757.9	786.6	802.7	1,200.0	
計				1,100.5	1,152.6	1,171.3	1,216.9	1,233.6	1,703.0	
外 来 入 院 比 率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$			116.1	120.7	122.1	121.4	124.0	159.2	
医師1人1日 当たり患者数	入 院		$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$	2.0	2.0	2.7	2.2	2.2	3.2	
	外 来		$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$	2.3	2.5	3.3	4.0	4.1	5.2	
	計			4.3	4.5	6.0	6.2	6.2	6.2	
収 入	職員1人1日当 たり診療収入 (円)		医 師	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延医師数}}$	231,718	240,035	255,535	274,165	277,280	315,524
			看護職員	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延看護師数}}$	56,913	61,944	69,691	69,248	70,665	79,215
	患者1人当 たり診療収入 (円)		入 院	投薬・注射料	$\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{年延入院患者数}}$	2,964	3,830	2,919	3,086	3,394
		処置・手術		$\frac{\text{処置手術収入}}{\text{年延入院患者数}}$	29,840	31,498	32,370	33,067	33,159	2,159
		検 査		$\frac{\text{検査収入}}{\text{年延入院患者数}}$	996	1,190	1,420	1,351	1,018	18,853
		放 射 線		$\frac{\text{放射線収入}}{\text{年延入院患者数}}$	689	764	800	692	807	1,012
		そ の 他		$\frac{\text{その他入院収入}}{\text{年延入院患者数}}$	50,869	51,063	54,421	55,242	57,477	5,017
		計		$\frac{\text{入院収入}}{\text{年延入院患者数}}$	85,358	88,345	91,931	93,438	95,855	27,746
		外 来	投薬・注射料	$\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{年延外来患者数}}$	11,886	11,826	11,804	12,740	11,827	2,664
			検 査	$\frac{\text{検査収入}}{\text{年延外来患者数}}$	4,364	4,454	4,702	4,804	4,781	3,579
			放 射 線	$\frac{\text{放射線収入}}{\text{年延外来患者数}}$	3,999	3,985	4,014	3,994	4,018	2,843
			そ の 他	$\frac{\text{その他外来収入}}{\text{年延外来患者数}}$	3,751	3,864	3,239	4,375	4,221	2,210
			計	$\frac{\text{外来収入}}{\text{年延外来患者数}}$	24,000	24,129	23,759	25,913	24,847	11,296

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

職員数と診療体制

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

区 分				算 式	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	類似規模 全国平均 (R 5 年度)	
費 用	患者 1 人 1 日 当たり薬品費 (円)			薬 品 費 年延入院外来患者数	9,293	9,497	10,480	9,935	11,603	1,734	
	入院患者1人1日当たり給食材料費(円)			患 者 用 給 食 材 料 費 年延入院外来患者数						362.0	
費 用 構 成	医業収益に対する 割合 (%)	職 員 給 与 費	職 員 給 与 費 医 業 収 益	×100	57.8	55.5	55.7	55.4	55.5	46.5	
			薬 品 費	薬 品 費 医 業 収 益	×100	16.6	16.8	16.4	16.8	19.5	18.0
		その他の材料費		そ の 他 医 療 材 料 費 医 業 収 益	×100	14.5	14.5	15.0	15.6	13.2	12.2
職 員 数	病床100床 当たり職員数	医 師	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	31.6	32.3	31.9	31.6	31.8	23.9	
			看 護 部 門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	120.9	117.6	117.1	125.2	124.7	91.0
		薬 剤 部 門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	4.6	5.2	5.6	5.3	5.5	4.8	
		事 務 部 門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	16.2	16.5	16.8	16.9	18.1	12.7	
		給 食 部 門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	2.2	2.1	2.1	2.6	2.7	1.7	
		放射線部門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	4.5	4.4	4.5	4.7	4.7	4.8	
		臨床検査部門	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	4.1	4.4	4.5	4.5	4.2	6.0	
		そ の 他	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	12.0	12.9	12.9	13.2	13.7	11.2	
		計	年 度 末 (各 種) 職 員 数 年 度 末 病 床 数	×100	204.3	202.6	203.4	204.0	205.4	156.1	
検 査 薬 品	診療収入に対する 割合 (%)	検 査 収 入		検 査 収 入 入 院 外 来 収 益	×100	5.3	5.6	5.8	5.8	5.6	6.9
		放射線収入		放 射 線 収 入 入 院 外 来 収 益	×100	4.7	4.7	4.7	4.4	4.6	5.2
		薬 品 収 入		薬 品 収 入 入 院 外 来 収 益	×100	14.8	15.4	14.2	14.9	14.3	19.4
室 料 差 額	1 人 1 日 当 たり 徴収額 (円)	個 室	最高		19,800	19,800	19,800	19,800	19,800		
			最低		9,900	9,900	9,900	9,900	9,900		
		2 人以上室	最高								
			最低								
	室料差額対象病床数／総病床数 (%)					20.1	20.1	20.1	20.1	20.1	15.4

類似規模全国平均は地方公営企業年鑑 第2編 統計資料 6 病院事業 (12) 経営分析に関する調 イ 経営規模別
(ウ) 全事業 における 500床以上データから抜粋

	届 出 項 目	算定開始月
基本診療料の 施設基準に係る届出書	地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年 4月
	歯科外来診療医療安全対策加算 2	令和 6年 6月
	歯科外来診療感染対策加算 4	令和 6年 6月
	歯科診療特別対応連携加算	平成22年 4月
	医療D X推進体制整備加算	令和 6年10月
	急性期一般入院料 1	平成20年 7月
	結核病棟入院基本料	平成20年 7月
	精神病棟入院基本料	平成24年 3月
	急性期充実体制加算 1	令和 6年 6月
	小児・周産期・精神科充実体制加算	令和 6年 6月
	救急医療管理加算	令和 2年 4月
	超急性期脳卒中加算	平成20年 4月
	診療録管理体制加算 1	令和 6年 6月
	医師事務作業補助体制加算 1	平成21年 5月
	急性期看護補助体制加算(50対1急性期看護補助体制加算)	令和 6年 6月
	急性期看護補助体制加算(100対1夜間急性期看護補助体制加算)	平成23年 2月
	看護職員夜間配置加算(12対1看護職員夜間配置加算)	令和 4年 4月
	看護補助加算	平成24年 5月
	療養環境加算	平成20年 3月
	重症者等療養環境特別加算	平成19年 2月
	無菌治療室管理加算 1、2	平成24年 4月
	緩和ケア診療加算	平成23年 2月
	小児緩和ケア診療加算	令和 6年 6月
	精神科応急入院施設管理加算	平成24年 4月
	精神病棟入院時医学管理加算	平成24年 4月
	精神科身体合併症管理加算	平成31年 3月
	摂食障害入院医療管理加算	令和 4年 4月
	精神科リエゾンチーム加算	令和 4年 6月
	栄養サポートチーム加算	平成22年 6月
	医療安全対策加算 1	平成20年 4月
	医療安全対策地域連携加算 1	平成20年 4月
	感染対策向上加算1(指導強化加算)	令和 4年 5月
	感染対策向上加算「注2」に規定する指導強化加算	令和 6年 6月
	感染対策向上加算「注5」に規定する抗菌薬適正使用体制加算	令和 6年 6月
	患者サポート体制充実加算	平成24年 4月
	重症患者初期支援充実加算	令和 4年 6月
	報告書管理体制加算	令和 4年 4月
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成19年 1月
	ハイリスク妊娠管理加算	平成20年 4月

	届出項目	算定開始月
基本診療料の 施設基準に係る届出書	ハイリスク分娩管理加算	平成20年 4月
	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	平成24年 5月
	呼吸ケアチーム加算	令和 5年 4月
	術後疼痛管理チーム加算	令和 4年10月
	後発医薬品使用体制加算 1	令和 2年 9月
	病棟薬剤業務実施加算1	令和 6年12月
	データ提出加算 2	平成24年 4月
	入退院支援加算 1	平成28年10月
	入退院支援加算「注4」に規定する地域連携診療計画加算	令和 6年11月
	入退院支援加算 3	令和 2年 5月
	認知症ケア加算 1	平成28年 4月
	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和 2年 4月
	精神疾患診療体制加算	平成28年 4月
	地域医療体制確保加算	令和 2年 4月
	地域歯科診療支援病院入院加算	平成20年 4月
	特定集中治療室管理料 6	令和 6年 6月
	特定集中治療室管理料「注4」に規定する早期離床・リハビリテーション加算	令和 6年 6月
	特定集中治療室管理料「注5」に規定する早期栄養介入管理加算	令和 6年 6月
	ハイケアユニット入院医療管理料 1	平成25年 6月
	ハイケアユニット入院医療管理料「注4」に規定する早期栄養介入管理加算	令和 6年11月
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	平成24年12月
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料「注4」に規定する早期栄養介入管理加算	令和 4年11月
	新生児特定集中治療室管理料 2	令和 6年 6月
	新生児治療回復室入院医療管理料	平成22年 5月
	一類感染症患者入院医療管理料	平成17年 5月
	小児入院医療管理料 2	平成22年 4月
	小児入院医療管理料「注2」に規定する加算（保育士1名の場合）	令和 6年 6月
	小児入院医療管理料「注7」に規定する加算（養育支援体制加算）	令和 6年 6月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	外来栄養食事指導料の「注2」に規定する基準	令和 4年 4月
	外来栄養食事指導料の「注3」に規定する基準	令和 4年 4月
	心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に規定する遠隔モニタリング加算	令和 2年 4月
	がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年 4月
	がん性疼痛緩和指導管理料の「注2」に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	令和 6年 6月
	がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	平成26年 4月
	外来緩和ケア管理料	平成24年 4月
	移植後患者指導管理料（臓器移植後）	平成24年 4月
	移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	平成24年 4月
	糖尿病透析予防指導管理料	平成24年 4月
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	平成30年 4月

	届 出 項 目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	婦人科特定疾患治療管理料	令和 2年 4月
	一般不妊治療管理料	令和 4年 4月
	生殖補助医療管理料1	令和 4年 4月
	二次性骨折予防継続管理料 1	令和 4年 4月
	二次性骨折予防継続管理料 3	令和 4年 4月
	下肢創傷処置管理料	令和 4年 9月
	院内トリアージ実施料	平成25年 5月
	外来放射線照射診療料	平成25年 6月
	外来腫瘍化学療法診療料 1	令和 4年 4月
	外来腫瘍化学療法診療料「注8」に規定する連携充実加算	令和 4年 4月
	ニコチン依存症管理料	平成18年 4月
	開放型病院共同指導料	平成17年 2月
	がん治療連携計画策定料	平成22年 4月
	こころの連携指導料（Ⅱ）	令和 4年 4月
	薬剤管理指導料	平成17年 2月
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年 6月
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料「注18」に規定する検査・画像情報提供加算	平成28年 6月
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料「注18」に規定する電子的診療情報評価料	平成28年 6月
	医療機器安全管理料 1	平成20年 4月
	医療機器安全管理料 2	平成20年 4月
	医療機器安全管理料（歯科）	平成20年 4月
	精神科退院時共同指導料 1 及び 2	令和 2年 4月
	歯科治療時医療管理料	平成26年 4月
	救急搬送診療料の「注 4」に規定する重症患者搬送加算	令和 4年10月
	救急患者連携搬送料	令和 6年 6月
	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の「注2」	令和 5年 6月
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	令和元年 6月
	持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	平成26年 4月
	持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	令和 3年12月
	遺伝学的検査の「注 1」に規定する施設基準	平成22年 4月
	骨髓微小残存病変量測定	平成30年 4月
	B R C A 1 / 2 遺伝子検査（腫瘍細胞を検体とするもの）	令和 2年 4月
	B R C A 1 / 2 遺伝子検査（血液を検体とするもの）	令和 4年 5月
	がんゲノムプロファイリング検査	令和 2年 4月
	先天性代謝異常症検査	令和 2年 4月
	抗H L A抗体（スクリーニング検査）及び抗H L A抗体（抗体特異性同定検査）	平成30年 4月
	H P V核酸検出及びH P V核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	平成22年 4月
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（SARS-CoV-2 核酸検出を含まないもの）	令和 2年 4月
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）	令和 6年 9月

	届出項目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	検体検査管理加算（Ⅰ）	平成20年 4月
	検体検査管理加算（Ⅱ）	平成22年 4月
	遺伝カウンセリング加算	平成30年10月
	遺伝性腫瘍カウンセリング加算	令和 2年 4月
	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	平成20年 4月
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成28年 4月
	胎児心エコー法	平成30年 4月
	ヘッドアップティルト試験	平成24年 4月
	コンタクトレンズ検査料 1	平成18年 4月
	小児食物アレルギー負荷検査	平成26年 5月
	内服・点滴誘発試験	平成22年 4月
	画像診断管理加算 2	平成30年 8月
	遠隔画像診断	平成17年 2月
	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)	平成29年 4月
	C T 撮影及びMR I 撮影	平成17年 2月
	冠動脈C T 撮影加算	平成22年 4月
	心臓MR I 撮影加算	平成20年 4月
	乳房MR I 撮影加算	令和 3年 3月
	小児鎮静下MR I 撮影加算	平成30年 8月
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年 4月
	外来化学療法加算 1	平成20年 4月
	無菌製剤処理料	平成17年 2月
	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	平成22年 4月
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	平成28年 4月
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成23年 5月
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成22年 7月
	歯科口腔リハビリテーション料 2	平成26年 4月
	通院・在宅精神療法の「注 4」に規定する児童思春期精神科専門管理加算	平成26年 4月
	通院・在宅精神療法の「注 8」に規定する療養生活継続支援加算	令和 4年12月
	通院・在宅精神療法の「注10」に規定する児童思春期支援指導加算	令和 7年 1月
	精神科作業療法	令和 7年 3月
	抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	平成24年 4月
	医療保護入院等診療料	平成24年 4月
	医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の休日加算 1	平成22年 4月
	医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の時間外加算 1	平成22年 4月
	医科点数表第 2 章第 9 部処置の通則の 5 に掲げる処置の深夜加算 1	平成22年 4月
	エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	平成17年 3月
	エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	平成17年 3月
	人工腎臓 1	平成30年 4月

	届 出 項 目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	人工腎臓「注2」に規定する導入期加算 1	平成30年 4月
	口腔粘膜処置	平成30年 5月
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	平成30年 4月
	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	令和 4年 4月
	ストーマ合併症加算	令和 6年 6月
	う蝕歯無痛の窩洞形成加算	平成20年 4月
	歯科技工士連携加算 1 及び光学印象歯科技工士連携加算	令和 6年 6月
	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	令和 4年 4月
	皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	平成28年 4月
	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	平成22年 4月
	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	令和 4年 4月
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））	平成29年 4月
	椎間板内酵素注入療法	令和 2年 4月
	緊急穿頭血腫除去術	令和 6年 6月
	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	令和 4年 4月
	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成25年10月
	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）	令和 4年 9月
	角結膜悪性腫瘍切除術	令和 4年 4月
	緑内障手術《緑内障手術〔流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術〕》	令和 4年 4月
	緑内障手術〔濾過胞再建術（needle法）〕	令和 4年 4月
	経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	令和 4年 4月
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る）	令和 4年 4月
	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	令和 4年 7月
	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	平成28年 4月
	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	令和 6年 4月
	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）	平成17年 2月
	乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）	平成17年 2月
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	平成25年10月
	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 5年 6月
	胸腔鏡下縦隔良性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 5年 6月
	胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 6年 6月
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	令和 4年 4月
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）	令和 5年 4月
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 5年 4月
	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	令和 6年 6月
	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 6年 1月
	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 6年 1月

	届 出 項 目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	平成30年 4月
	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	平成17年11月
	経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）	平成23年 7月
	経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）	平成17年11月
	胸腔鏡下弁形成術	令和 3年12月
	胸腔鏡下弁置換術	令和 3年12月
	経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）	平成26年12月
	経皮的僧帽弁クリップ術	令和元年 5月
	不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）	令和 4年 4月
	不整脈手術左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）	令和 3年 4月
	経皮的中隔心筋焼灼術	令和 2年 3月
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成17年 2月
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	平成30年 4月
	両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）	平成17年 2月
	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術	平成24年12月
	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	平成24年 4月
	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	平成26年 4月
	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	平成30年 4月
	経皮的下肢動脈形成術	令和 6年 2月
	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	令和 4年 4月
	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、等	平成24年 4月
	骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	令和 6年 6月
	内視鏡的逆流防止粘膜切除術	令和 4年 4月
	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））	令和 5年 1月
	腹腔鏡下噴門測胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門測胃切除〔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）〕	令和 5年 5月
	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））	令和 5年 5月
	腹腔鏡下胃縮小術	令和 2年10月
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	平成23年 2月

	届 出 項 目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）	令和 4年 4月
	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	平成28年 4月
	体外衝撃波胆石破碎術	平成24年12月
	腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）	平成24年 4月
	腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）	平成24年 4月
	体外衝撃波膵石破碎術	平成26年 4月
	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	平成26年 4月
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成26年 4月
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年 4月
	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 5年 2月
	腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 4年 8月
	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	令和 6年 6月
	同種死体腎移植術	平成20年 4月
	生体腎移植術	平成20年 4月
	膀胱水压拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	令和 4年 4月
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成24年 4月
	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	平成26年 4月
	精巣内精子採取術	令和 4年 4月
	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	平成31年 1月
	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 4年 8月
	腹腔鏡下仙骨陰固定術	令和 2年12月
	腹腔鏡下仙骨陰固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 5年 3月
	腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	令和 4年12月
	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	令和 4年 4月
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）	令和 5年 8月
	胎児胸腔・羊水腔シャント術	平成30年 4月
	体外式膜型人工肺管理料	令和 4年 4月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算 1	平成17年 2月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算 1	平成17年 2月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算 1	平成17年 2月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	平成20年 4月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する乳房切除術に限る）	令和 3年 5月
	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術）	令和 4年 1月
	周術期栄養管理実施加算	令和 4年 6月
	輸血管理料 I	平成20年 8月
	輸血適正使用加算	令和 4年10月
	コーディネート体制充実加算	令和 4年 6月
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年 4月
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成26年 4月

	届出項目	算定開始月
特掲診療料の 施設基準に係る届出書	歯周組織再生誘導手術	平成20年 4月
	手術時歯根面レーザー応用加算	平成22年 4月
	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成25年11月
	口腔粘膜血管腫凝固術	平成30年 5月
	レーザー機器加算	平成30年 5月
	麻酔管理料（Ⅰ）	平成17年 2月
	麻酔管理料（Ⅱ）	平成22年 4月
	放射線治療専任加算	平成17年 2月
	外来放射線治療加算	平成20年 4月
	高エネルギー放射線治療	平成17年 2月
	一回線量増加加算(全乳房照射)	平成26年 4月
	一回線量増加加算(前立腺照射)	平成26年 4月
	強度変調放射線治療（IMRT）	平成29年11月
	画像誘導放射線治療加算（IGRT）	平成29年11月
	体外照射呼吸性移動対策加算	平成29年11月
	定位放射線治療	平成17年 2月
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算(低位放射線治療・その他のもの)	平成29年11月
	保険医療機関間の連携による病理診断	令和元年11月
	病理診断管理加算2、口腔病理診断管理加算2	平成26年 4月
	悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年 4月
	クラウン・ブリッジ維持管理料	平成17年 2月
	看護職員処遇改善評価料（73）	令和 4年10月
	外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）	令和 6年 6月
	歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）	令和 6年 6月
	入院ベースアップ評価料（89）	令和 6年 6月
保険外併用療養費	特別の療養環境の提供	平成17年 2月
	初診等の保険外併用療養費	平成17年 2月
	180日を超える入院	平成17年 2月
	齲蝕に罹患している患者の指導管理	平成17年 2月
	金属床による総義歯の提供	平成17年 2月
入院時食事療養の基準	入院時食事療養・生活療養（Ⅰ）	平成17年 2月

7 財務の状況

(1) 損益状況（2年度～6年度）

（単位：円，％）

区 分 年 度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
経 常 収 益 (a)	24,728,626,441	25,103,327,346	25,462,352,314	24,969,208,256	24,499,155,024
うち 医 業 収 益 (b)	17,143,640,780	18,073,729,728	18,997,925,936	20,228,030,289	20,570,674,892
うち 料 金 収 入 (c)	16,577,112,371	17,522,519,296	18,467,494,356	19,667,504,672	19,937,784,003
うち 他 会 計 繰 入 金 (d)	2,396,750,826	2,433,807,830	2,414,735,000	2,363,978,000	2,379,426,850
経 常 費 用 (e)	23,354,240,946	23,249,804,606	23,865,644,113	24,657,018,640	25,766,374,982
うち 医 業 費 用 (f)	21,948,511,158	21,791,285,122	22,185,610,748	23,034,565,946	23,958,314,227
うち 職 員 給 与 費 (g)	10,275,084,558	10,349,885,723	10,622,625,170	10,651,448,545	11,400,904,227
うち 材 料 費 (h)	5,506,765,275	5,814,389,616	5,963,917,155	6,577,358,327	6,851,305,169
うち 支 払 利 息 (i)	359,964,856	332,465,310	304,374,173	279,260,635	253,860,826
経 常 損 益 (j)	1,374,385,495	1,853,522,740	1,596,708,201	312,189,616	△ 1,267,219,958
特 別 損 益 (k)	△ 568,314,322	△ 17,966,024	△ 214,166,576	△ 105,104,875	△ 7,027,121
純 損 益 (l)	806,071,173	1,835,556,716	1,382,541,625	207,084,741	△ 1,274,247,079
累 積 欠 損 金 (△) (m)	10,182,677,279	8,347,120,563	6,964,578,938	6,757,493,732	8,031,740,811
不 良 債 務 (n)	—	—	—	—	—
経 常 収 支 比 率 (a)/(e)	105.9%	108.0%	106.7%	101.3%	95.1%
医 業 収 支 比 率 (b)/(f)	78.1%	82.9%	85.6%	87.8%	85.9%
職 員 給 与 比 率 (g)/(b)	59.9%	57.3%	55.9%	52.7%	55.4%
材 料 費 比 率 (h)/(b)	32.1%	32.2%	31.4%	32.5%	33.3%
他 会 計 繰 入 金 比 率 (d)/(b)	14.0%	13.5%	12.7%	11.7%	11.6%
不 良 債 務 比 率 (n)/(b)	—	—	—	—	—

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

(2) 貸借対照表 (2年度～6年度)

(単位：円，％)

区 分		令和3年3月31日		令和4年3月31日		令和5年3月31日		令和6年3月31日		令和7年3月31日	
		金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
資産の部	固定資産	25,221,172,946	68.4	23,771,969,418	63.9	23,283,801,711	60.6	22,538,215,888	59.2	22,465,184,288	60.7
	有形固定資産	23,814,818,213	64.6	22,787,548,834	61.3	22,619,370,444	58.9	22,298,143,657	58.6	22,266,855,540	60.2
	無形固定資産	1,110,881,295	3.0	762,815,506	2.1	516,694,549	1.3	166,203,873	0.4	198,314,708	0.5
	投資	295,473,438	0.8	221,605,078	0.6	147,736,718	0.4	73,868,358	0.2	14,040	0.0
	流動資産	11,644,499,955	31.6	13,425,797,891	36.1	15,114,650,603	39.4	15,542,272,036	40.8	14,523,152,642	39.3
	現金預金	4,544,662,082	12.3	5,149,718,308	13.8	5,427,292,385	14.1	7,684,763,251	20.2	7,791,674,659	21.1
	未収金	5,860,364,370	15.9	5,619,407,621	15.1	7,173,674,209	18.7	5,273,236,944	13.8	4,309,919,689	11.7
	貯蔵品	74,839,978	0.2	68,206,182	0.2	98,178,809	0.3	210,759,841	0.6	238,959,284	0.6
	前払金	1,792,525	0.0	1,887,780	0.0	2,235,200	0.0	2,376,000	0.0	1,974,010	0.0
	有価証券	1,162,841,000	3.2	2,586,578,000	7.0	2,413,270,000	6.3	2,371,136,000	6.2	2,180,625,000	5.9
資産合計		36,865,672,901	100.0	37,197,767,309	100.0	38,398,452,314	100.0	38,080,487,924	100.0	36,988,336,930	100.0
負債の部	固定負債	24,444,483,007	66.3	22,777,196,003	61.2	22,016,812,371	57.3	20,624,338,949	54.2	19,511,475,284	52.8
	企業債	20,253,586,700	54.9	18,382,897,793	49.4	17,378,382,490	45.3	15,754,541,188	41.4	14,292,888,545	38.6
	長期借入金										
	引当金	4,190,896,307	11.4	4,394,298,210	11.8	4,638,429,881	12.1	4,869,797,761	12.8	5,218,586,739	14.1
	流動負債	5,485,723,493	14.9	5,182,079,999	13.9	5,150,897,598	13.4	5,550,816,872	14.6	5,953,931,834	16.1
	企業債	2,659,760,296	7.2	2,471,888,907	6.6	2,277,215,303	5.9	2,617,841,302	6.9	2,736,852,643	7.4
	長期借入金										
	未払金	2,110,531,912	5.7	2,013,391,348	5.4	2,154,713,178	5.6	2,155,041,338	5.7	2,374,669,651	6.4
	前受金	480,000	0.0	83,366	0.0	900,000	0.0	380,000	0.0	580,900	0.0
	賞与引当金	633,297,122	1.7	611,240,419	1.6	631,815,698	1.6	688,394,994	1.8	747,071,096	2.0
	預り金	81,654,163	0.2	85,475,959	0.2	86,253,419	0.2	89,159,238	0.2	94,757,544	0.3
	繰延収益	2,659,759,962	7.2	2,971,988,152	8.0	3,423,023,565	8.9	3,728,344,582	9.8	4,454,416,905	12.0
長期前受金	2,659,759,962	7.2	2,971,988,152	8.0	3,423,023,565	8.9	3,728,344,582	9.8	4,454,416,905	12.0	
負債合計		32,589,966,462	88.4	30,931,264,154	83.2	30,590,733,534	79.7	29,903,500,403	78.5	29,919,824,023	80.9
資本の部	資本金	13,385,957,629	36.3	13,385,957,629	36.0	13,385,957,629	34.9	13,385,957,629	35.2	13,385,957,629	36.2
	自己資本金	13,385,957,629	36.3	13,385,957,629	36.0	13,385,957,629	34.9	13,385,957,629	35.2	13,385,957,629	36.2
	剰余金	△ 9,110,251,190	△ 24.7	△ 7,119,454,474	△ 19.1	△ 5,578,238,849	△ 14.5	△ 5,208,970,108	△ 13.7	△ 6,317,444,722	△ 17.1
	資本剰余金	1,072,426,089	2.9	1,227,666,089	3.3	1,386,340,089	3.6	1,548,524,089	4.1	1,714,296,089	4.6
	利益剰余金	△ 10,182,677,279	△ 27.6	△ 8,347,120,563	△ 22.4	△ 6,964,578,938	△ 18.1	△ 6,757,494,197	△ 17.7	△ 8,031,740,811	△ 21.7
資本合計		4,275,706,439	11.6	6,266,503,155	16.8	7,807,718,780	20.3	8,176,987,521	21.5	7,068,512,907	19.1
負債資本合計		36,865,672,901	100.0	37,197,767,309	100.0	38,398,452,314	100.0	38,080,487,924	100.0	36,988,336,930	100.0

(3) 収益費用明細書 (2年度～6年度)

①収益

(単位: 円, %)

科 目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医業収益比	対前年比
事業収益	25,216,889,138	25,198,562,220	25,631,793,883	25,143,455,113	24,588,528,500	119.5	97.8
医業収益	17,143,640,780	18,073,729,728	18,997,925,936	20,228,030,289	20,570,674,892	100.0	101.7
入院収益	12,497,164,707	13,178,421,688	13,870,178,337	14,714,332,306	15,091,298,676	73.4	102.6
外来収益	4,079,947,664	4,344,097,608	4,597,316,019	4,953,172,366	4,846,485,327	23.6	97.8
その他医業収益	566,528,409	551,210,432	530,431,580	560,525,617	632,890,889	3.1	112.9
室料差額	218,930,116	196,943,152	200,780,840	214,453,808	215,477,094	1.0	100.5
公衆衛生	92,476,455	104,385,246	94,637,968	103,684,306	123,607,719	0.6	119.2
その他医業	255,121,838	249,882,034	235,012,772	242,387,503	293,806,076	1.4	121.2
医業外収益	7,584,985,661	7,029,597,618	6,464,426,378	4,741,177,967	3,928,480,132	19.1	82.9
受取利息配当金	15,078,246	15,030,516	22,530,516	22,530,600	24,499,343	0.1	108.7
預金利息	78,246	30,516	30,516	30,600	1,999,343	0.0	6,533.8
有価証券利息	15,000,000	15,000,000	22,500,000	22,500,000	22,500,000	0.1	100.0
補助金	3,574,456,363	3,247,118,548	2,919,013,120	1,070,795,876	462,667,356	2.2	43.2
国庫補助金	153,026,975	35,712,000	23,206,000	21,673,000	24,349,000	0.1	112.3
県補助金	3,414,422,000	3,205,069,000	2,888,982,528	1,042,448,038	430,961,396	2.1	41.3
高知市補助金	7,007,388	6,337,548	6,824,592	6,674,838	7,356,960	0.0	110.2
構成団体負担金	2,396,750,826	2,433,807,830	2,414,735,000	2,363,978,000	2,379,426,850	11.6	100.7
構成団体負担金	2,396,750,826	2,433,807,830	2,414,735,000	2,363,978,000	2,379,426,850	11.6	100.7
長期前受金戻入	1,399,650,060	1,111,745,980	880,695,042	921,786,075	711,026,362	3.5	77.1
長期前受金戻入	1,399,650,060	1,111,745,980	880,695,042	921,786,075	711,026,362	3.5	77.1
その他医業外	199,050,166	221,894,744	227,452,700	362,087,416	350,860,221	1.7	96.9
不用品売却	1,058,452	1,185,702	1,476,982	1,721,199	1,821,458	0.0	105.8
有価証券評価益							
その他医業外	197,991,714	220,709,042	225,975,718	360,366,217	349,038,763	1.7	96.9
消費税差額							
特別利益	488,262,697	95,234,874	169,441,569	174,246,857	89,373,476	0.4	51.3

②費用

科 目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医業収益比	対前年比
事業費用	24,410,817,965	23,363,005,504	24,249,252,258	24,936,370,372	25,862,775,579	125.7	103.7
医業費用	21,948,511,158	21,791,285,122	22,185,610,748	23,034,565,946	23,958,314,227	116.5	104.0
給与費	10,275,084,558	10,349,885,723	10,622,625,170	10,651,448,545	11,400,904,227	55.4	107.0
医師給	1,055,808,484	1,078,905,969	1,093,472,295	1,081,278,014	1,104,417,866	5.4	102.1
看護師給	2,564,649,710	2,530,175,867	2,579,885,723	2,607,088,390	2,719,829,501	13.2	104.3
医療技術職員給	473,865,034	479,521,396	509,061,103	518,203,776	566,780,243	2.8	109.4
事務職員給	296,839,993	323,414,644	332,312,314	363,874,902	400,877,238	1.9	110.2
医師手当	1,835,663,688	1,852,479,553	1,855,837,475	1,809,083,834	1,889,950,667	9.2	104.5
看護師手当	1,243,665,555	1,253,197,089	1,304,427,510	1,350,825,051	1,450,400,305	7.1	107.4
医療技術職員手当	214,809,769	226,115,616	252,666,349	257,711,529	288,223,338	1.4	111.8
事務職員手当	104,774,291	105,889,023	117,342,336	140,698,408	176,923,937	0.9	125.7
賞与引当金繰入額	633,297,122	611,240,419	631,815,698	688,394,994	747,071,096	3.6	108.5
賃金							
報酬							
法定福利費	1,414,989,435	1,412,038,043	1,464,913,360	1,433,920,735	1,479,471,757	7.2	103.2
退職給与金	436,721,477	476,908,104	480,891,007	400,368,912	576,958,279	2.8	144.1
材料費	5,506,765,275	5,814,389,616	5,963,917,155	6,577,358,327	6,851,305,169	33.3	104.2
薬品費	3,382,737,499	3,566,684,115	3,511,180,815	3,910,724,974	4,096,454,332	19.9	104.7
診療材料費	2,087,465,679	2,199,198,953	2,409,103,085	2,632,826,079	2,723,006,648	13.2	103.4
医療消耗備品	36,562,097	48,506,548	43,633,255	33,807,274	31,844,189	0.2	94.2
経費	3,740,572,569	3,704,868,562	3,971,894,409	4,142,096,558	4,462,121,931	21.7	107.7
厚生福利費	22,433,006	22,102,508	31,673,558	22,292,675	22,770,969	0.1	102.1
報償費	112,580,171	101,030,541	86,565,588	101,840,305	157,266,679	0.8	154.4
旅費交通費	4,004,378	3,512,155	7,269,030	6,531,556	9,001,589	0.0	137.8
職員被服費	2,165,780	1,763,530	2,548,600	1,920,780	2,228,200	0.0	116.0
消耗品費	64,872,956	67,421,677	73,160,734	86,444,197	92,813,899	0.5	107.4
光熱水費	341,751,866	355,810,898	501,290,716	437,634,292	461,925,442	2.2	105.6
燃料費	2,431,427	2,535,391	2,558,568	3,505,895	3,961,421	0.0	113.0
食料費	21,433	8,722	15,699	44,997	27,091	0.0	60.2
印刷製本費	3,346,200	3,870,900	3,679,400	5,373,300	5,766,500	0.0	107.3
修繕費	162,790,982	147,893,020	218,560,839	213,768,056	232,548,146	1.1	108.8
特別修繕引当金	41,006,000	41,006,000	41,006,000	41,006,000	41,006,000	0.2	100.0
保険料	24,261,592	27,509,131	33,641,217	35,087,366	34,622,180	0.2	98.7
賃借料	122,130,680	129,973,967	127,317,395	148,241,978	170,897,304	0.8	115.3
通信運搬費	17,776,101	18,467,791	19,055,694	22,725,964	17,739,436	0.1	78.1
委託料	2,627,564,920	2,602,839,131	2,649,884,057	2,820,987,119	2,996,073,720	14.6	106.2
手数料					657,200	0.0	
負担金諸会費	174,573,887	151,224,328	153,066,924	168,634,994	188,310,697	0.9	111.7
交際費		5,273	31,965	71,283	70,567	0.0	99.0
雑費	16,861,190	27,893,599	20,568,425	25,985,801	24,434,891	0.1	94.0
減価償却費	2,387,084,149	1,870,245,087	1,561,645,940	1,595,896,549	1,164,688,774	5.7	73.0
建物	1,201,921,587	781,571,986	580,944,462	578,919,524	594,079,652	2.9	102.6
構築物	31,649,027	11,379,559	11,379,559	11,379,559	11,379,559	0.1	100.0
機械備品	786,376,206	709,495,753	601,502,562	616,991,790	512,730,958	2.5	83.1
無形固定資産	367,137,329	367,797,789	367,819,357	388,605,676	46,498,605	0.2	12.0
資産減耗費	14,770,290	21,547,789	21,515,625	11,699,075	17,990,587	0.1	153.8
たな卸	8,722,200	7,018,754	8,324,724	10,513,265	8,817,222	0.0	83.9
固定資産除却費	6,048,090	14,529,035	13,190,901	1,185,810	9,173,365	0.0	773.6
研究研修費	24,234,317	30,348,345	44,012,449	56,066,892	61,303,539	0.3	109.3
謝金	482,243	1,909,538	653,351	662,826	837,929	0.0	126.4
旅費	825,634	1,471,090	9,130,348	18,488,399	20,853,189	0.1	112.8
研究雑費	22,926,440	26,967,717	34,228,750	36,915,667	39,612,421	0.2	107.3

財務の状況

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

科 目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		
						医業収益比	対前年比
医業外費用	1,405,729,788	1,458,519,484	1,680,033,365	1,622,452,694	1,808,060,755	8.8	111.4
支払利息	359,964,856	332,465,310	304,374,173	279,260,635	253,860,826	1.2	90.9
企業債利息	359,825,218	332,192,036	303,795,671	278,808,815	253,281,188	1.2	90.8
企業債手数料及び取扱諸費	139,638	273,274	578,502	451,820	579,638	0.0	128.3
長期前払消費税償却	73,868,360	73,868,360	73,868,360	73,868,360	73,868,358	0.4	100.0
議会費	1,333,606	1,330,040	1,325,192	1,297,284	1,204,819	0.0	92.9
報酬	953,000	954,248	953,000	959,491	952,999	0.0	99.3
旅費交通費	259,106	259,092	259,092	239,093	251,820	0.0	105.3
委託料	121,500	116,700	113,100	98,700			
監査委員費	120,417	112,916	112,000	112,916	344,000	0.0	304.7
報酬	120,417	112,916	112,000	112,916	344,000	0.0	304.7
企業団管理費	3,094,147	4,555,981	5,453,511	6,382,993	5,502,193	0.0	86.2
報償費	703,703	1,333,415	1,220,230	1,715,071	1,159,614	0.0	67.6
消耗品費	17,500	9,350	39,684	111,000			
賃借料					40,000	0.0	
通信運搬費	161,820	121,364			30,000	0.0	
委託料	100,050	354,175	831,060	934,720	538,140	0.0	57.6
負担金諸会費	1,220,910	1,080,455	1,799,273	1,814,200	2,172,300	0.0	119.7
雑費	890,164	1,657,222	1,563,264	1,808,002	1,501,356	0.0	83.0
その他雑損失	967,348,402	1,046,186,877	1,294,900,129	1,261,530,506	1,473,280,559	7.2	116.8
その他雑損失	34,423,101	43,472,731	39,352,106	81,081,957	275,735,303	1.3	340.1
3条控除対象外	349,641,945	354,347,905	384,659,468	394,909,185	414,175,002	2.0	104.9
4条 "	41,065,351	51,909,451	114,700,310	91,776,949	116,196,973	0.6	126.6
貯蔵品 "	532,405,005	564,206,667	582,880,245	651,628,415	667,173,281	3.2	102.4
有価証券評価損	9,813,000	32,250,123	173,308,000	42,134,000	190,511,000	0.9	452.2
有価証券売却損							
特別損失	1,056,577,019	113,200,898	383,608,145	279,351,732	96,400,597	0.5	34.5
過年度損益修正損	713,777,019	113,200,898	293,369,170	278,376,912	75,685,145	0.4	27.2
固定資産売却損					42,151	0.0	
その他特別損失	342,800,000		90,238,975	974,820	20,673,301	0.1	2,120.7

科 目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		
						医業収益比	対前年比
当年度純損益	806,071,173	1,835,556,716	1,382,541,625	207,084,741	△ 1,274,247,079	(6.2)	(615.3)
累積欠損金	△ 10,182,677,279	△ 8,347,120,563	△ 6,964,578,938	△ 6,757,493,732	△ 8,031,740,811	△ 39.0	118.9

(4) 資本的収支明細書 (2年度～6年度)

(単位：円，%)

科 目	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
						対前年比
資本的収入	1,785,837,074	2,180,902,170	2,763,931,000	2,383,651,535	2,878,982,013	120.8
企業債	307,200,000	601,200,000	1,272,700,000	994,000,000	1,275,200,000	128.3
医療器械整備事業債	307,200,000	601,200,000	1,272,700,000	994,000,000	1,275,200,000	128.3
構成団体負担金	1,411,682,174	1,571,848,170	1,482,139,000	1,389,111,535	1,593,731,150	114.7
高知医療センター建設改良費負担金	1,411,682,174	1,571,848,170	1,482,139,000	1,389,111,535	1,593,731,150	114.7
固定資産売却代金					755,863	
固定資産売却代金					755,863	
補助金	66,954,900	7,854,000	9,092,000	540,000	9,295,000	1,721.3
国庫補助金	9,194,900	2,332,000				
県補助金	57,760,000	5,522,000	9,092,000	540,000	9,295,000	1,721.3
資本的支出	2,785,026,701	3,219,894,543	3,748,469,300	3,295,116,687	3,730,171,869	113.2
建設改良費	437,311,567	560,134,247	1,276,580,393	1,017,901,384	1,112,330,567	109.3
医療器械整備費	137,391,067	320,049,470	847,865,241	676,279,114	508,155,439	75.1
資産購入費	95,348,000	37,289,777	168,660,152	55,364,870	119,218,128	215.3
施設整備費	204,572,500	202,795,000	260,055,000	286,257,400	484,957,000	169.4
企業債等償還金	2,347,715,134	2,659,760,296	2,471,888,907	2,277,215,303	2,617,841,302	115.0
構成団体長期借入金償還金						
収 支 差 引	Δ 999,189,627	Δ 1,038,992,373	Δ 984,538,300	Δ 911,465,152	Δ 851,189,856	93.4

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

(5) 一般会計繰入金

①繰入金内訳（2年度～6年度）

（単位：円）

区 分		年 度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
収 益 的 収 入	企業債利息負担金		140,560,000	131,032,000	121,188,000	113,111,000	103,358,000
	割賦金利息負担金		83,583,000	75,631,000	67,543,000	59,317,000	50,951,000
	結核病棟運営費負担金		73,686,000	9,184,000			
	小児医療負担金		208,958,000	212,804,000	218,558,000	185,296,000	169,177,000
	周産期医療負担金		329,798,000	353,123,000	325,923,000	365,888,000	367,867,000
	救急医療確保負担金 ※1～※5 ①		490,569,000	474,642,000	534,311,000	373,775,000	391,128,000
	高度特殊医療等負担金		283,166,000	333,733,000	336,291,000	573,209,000	632,136,000
	リハビリテーション医療負担金		46,408,000	37,516,000	49,090,000	53,550,000	54,748,000
	院内保育所運営負担金		23,347,000	22,603,000	13,755,000	15,314,000	17,015,000
	保健衛生行政事務負担金 ②		20,150,000	18,449,000	17,700,000	14,814,000	11,995,000
	医師等研究研修負担金		29,476,000	25,696,000	20,931,000	15,406,000	11,841,000
	地共済追加費用負担金		159,445,000	145,418,000	127,690,000	118,102,000	100,802,000
	医師確保対策費用負担金		6,013,000	11,524,000	7,425,000	6,842,000	5,247,000
	基礎年金拠出金負担金		229,202,000	251,481,000	245,616,000	178,876,000	213,625,000
	児童手当負担金		57,661,000	62,351,000	59,338,000	59,372,000	48,862,000
	企業団管理費負担金		14,259,000	14,717,000	14,086,000	15,208,000	17,063,000
	感染症病床運営費負担金		4,716,000	3,894,000	5,610,000	2,614,000	1,573,000
	精神科医療に要する負担金 ※6 ③		193,909,826	250,009,830	249,680,000	213,284,465	245,391,850
	滞在施設やまもも負担金 ※7 ④		1,844,000				
	計 (A)		2,396,750,826	2,433,807,830	2,414,735,000	2,363,978,465	2,442,779,850
資 本 的 収 入	企業債償還元金出資金		894,878,000	1,046,610,000	948,322,000	846,567,000	1,004,437,000
	〃 高度医療機器分		22,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	59,875,000
	割賦金償還元金出資金		465,797,000	473,749,000	481,837,000	490,064,000	498,430,000
	施設整備出資金		1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
	精神科医療に要する負担金 ※8 ⑤		24,308,174	24,723,170	25,145,000	25,574,535	26,011,150
	災害時における救急医療のために行う施設整備費		3,199,000	3,266,000	3,335,000	3,406,000	3,478,000
	計 (B)		1,411,682,174	1,571,848,170	1,482,139,000	1,389,111,535	1,593,731,150
繰入金合計			3,808,433,000	4,005,656,000	3,896,874,000	3,753,090,000	4,036,511,000

医療セクター分の計算式	県負担分	2,045,145,000	2,170,240,000	2,115,515,000	2,025,505,000	2,355,518,500
	収益的 ((A)-①-②-③-④)×1/2+①+②+③+④	1,327,148,826	1,371,953,830	1,361,873,000	1,318,161,465	1,545,647,350
	資本的 ((B)-⑤)×1/2+⑤	717,996,174	798,286,170	753,642,000	707,343,535	809,871,150
医療セクター分の計算式	市負担分	1,763,288,000	1,835,416,000	1,781,359,000	1,727,585,000	1,680,992,500
	収益的 ((A)-①-②-③-④)×1/2	1,069,602,000	1,061,854,000	1,052,862,000	1,045,817,000	897,132,500
	資本的 ((B)-⑤)×1/2	693,686,000	773,562,000	728,497,000	681,768,000	783,860,000

- ※1 2年度の救命救急に対する繰入のうち、補助金相当分41,633,000円については県負担。
 ※2 3年度の救命救急に対する繰入のうち、補助金相当分41,636,000円については県負担。
 ※3 4年度の救命救急に対する繰入のうち、補助金相当分41,622,000円については県負担。
 ※4 5年度の救命救急に対する繰入のうち、補助金相当分44,242,000円については県負担。
 ※5 6年度の救命救急に対する繰入のうち、補助金相当分46,496,000円については県負担。
 ※6～8 精神科医療に要する負担金および滞在施設やまももに要する負担金については県負担。

②繰入率・一床当り繰入額（2年度～6年度）

（単位：円，％）

年 度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度	
区 分		金 額	対前年比	金 額	対前年比	金 額	対前年比	金 額	対前年比	金 額	対前年比
一般会計からの繰入金	収益的収入繰入 (a)	2,396,750,826	99.9	2,433,807,830	101.5	2,414,735,000	99.2	2,363,978,465	97.9	2,442,779,850	101.2
	負 担 金	2,396,750,826	99.9	2,433,807,830	101.5	2,414,735,000	99.2	2,363,978,465	97.9	2,442,779,850	101.2
	資本的収入繰入 (b)	1,411,682,174	90.9	1,571,848,170	111.3	1,482,139,000	94.3	1,389,111,535	93.7	1,593,731,150	107.5
	出 資 金	1,411,682,174	90.9	1,571,848,170	111.3	1,482,139,000	94.3	1,389,111,535	93.7	1,593,731,150	107.5
	繰 入 金 合 計 (c)	3,808,433,000	96.4	4,005,656,000	105.2	3,896,874,000	97.3	3,753,090,000	96.3	4,036,511,000	103.6
収 益 的 収 入 (d)		25,216,889,138	109.2	25,198,562,220	99.9	25,631,793,883	101.7	25,143,455,113	98.1	24,588,528,500	95.9
資 本 的 収 入 (e)		1,785,837,074	81.5	2,180,902,170	122.1	2,763,931,000	126.7	2,383,651,535	86.2	2,878,982,013	104.2
繰入率	収益的収入 $\frac{(a)}{(d)} \times 100$	9.5		9.7		9.4		9.4		9.9	
	資本的収入 $\frac{(b)}{(e)} \times 100$	79.0		72.1		53.6		58.3		55.4	
	収益的収入に対する繰入金計 $\frac{(c)}{(d)} \times 100$	15.1		15.9		15.2		14.9		16.4	
一床当り繰入金（千円）	収益的収入繰入	3,866		3,925		3,895		3,813		3,940	
	資本的収入繰入	2,277		2,535		2,391		2,241		2,571	
	繰 入 金 合 計	6,143		6,461		6,285		6,053		6,511	

II 各局資料

医療局

1. 概要

高知医療センターの標榜診療科は 40 診療科（院内標榜診療科としては 46 診療科）あり、急性期医療におけるほぼ全領域の疾患に対応している。また、2024 年 4 月における医療局の構成は、正職医師 155 名、専修医 10 名、初期研修医 29 名（1 年目 15 名、2 年目 14 名）、招聘医師 50 名の合計 244 名である。常勤換算医師数は 202.7 名であり、この数年間ほぼ横這いである。

医師の所属医局は、岡山大学 51 名、高知大学 41 名、徳島大学 9 名、その他大学医局 10 名であり、大学医局に所属しない医師数は 83 名であった。

2023 年度の初期研修医の採用人数は 15 名と前年度より増加している。また昨年度から臨床研修管理センターに 2 名の副センター長を配置した体制となり、新に研修医のメンター制度を導入し、研修医に選ばれる医療機関を目指して体制整備を進めている。

当院医療局は各大学からの医学生実習対応を行っている。昨年度末までの 2 年間は新型コロナウイルス感染症により大幅な受入れ制限が続いたが、2024 年度は高知大学 135 名、自治医科大学 3 名、岡山大学 5 名、神戸大学 1 名の学生を受入れた。（延べ人数）

2. 活動状況

【外来および入院患者動向】

2024 年度はのべ入院患者数 157,291 名、のべ外来患者数 195,049 名であり、前年度比はそれぞれ -186 名、+3,905 名であり、入外患者数に大きな動きはなく、コロナ禍のあと回復傾向は維持されていると考えられるが、2019 年度水準にまで至っていない。これらの動向には人口減少、高齢化並びに地域医療連携推進による患者数の変化など様々な要素が関係しており、引き続き慎重な分析

が必要である。

手術症例数は合計 5,090 件（全身麻酔 3,989 件）であり、前年度（2023 年度）の合計 5,515 件（全身麻酔 4,611 件）より減少した。また、2022 年度は 4 診療科（消化器外科、婦人科、呼吸器外科、泌尿器科）においてロボット支援手術の導入が行われたが、2023 年は実施症例数が 109 例から 364 例と大幅な伸びがみられた。これらは各科のロボット支援手術執刀医の習熟とともに、執刀医ならびにすべてのロボット支援手術に携わるスタッフが定期的に集まり手術支援ロボットワーキングを継続開催してきたことが、手術室の効率的な運営に取り組んできたことによると考えられる。

当院における 2024 年のがん登録患者数は 2,038 件で、2023 年度の登録患者数 2,088 名と同水準を維持しており、コロナ禍以降もがん診療連携拠点病院としての役割を維持している。

【コロナ診療】

当院は感染症指定医療機関として高知県の新型コロナウイルス感染症の診療における重要な役割を果たしてきた。2023 年度の当院の新型コロナウイルス入院患者（陽性＋疑性）受入数は合計 296 名であり。2020 年 2 月から 2024 年 3 月末までの累計入院患者受入れ数は 1,450 名に達した。

2023 年 5 月のコロナ感染症 5 類移行に伴い、軽症～中等症コロナ診療の運用は、これまでの総合診療科を中心とした 10 階南病棟での診療から患者の主病態を治療する診療科が主治医となる体制に切替えた。同時に 10 階病棟の一般診療科による持ち回り行う体制は廃止した。また、重症コロナ感染症患者は従来通り 3 階 HCU あるいは ICU にコロナ感染症専用部屋を設置し、集中治療科および救命救急科を中心に対応を行った。

【救急医療】

救急・集中治療・手術診療環境（救外＋3 階診療）

の安定化が課題である。診療科が定まらないため病棟決定に難渋するケースもあり、スムーズな病棟連携を構築することは救急医療施設で共通する問題である。特に高知県では救急搬送患者の1/4が85歳以上の高齢者となっており、ガイドラインに即した診療が適応しにくい患者さんが激増している。診療科が定まらない患者に対し、適切な医療が提供できる施設に転院することも必要であり、2024年度はそのような問題を現場で検討してきた。

手術症例への対応能力の維持のために、麻酔科・集中治療科医師の確保も重要であり、手術が必要な待機紹介患者さんに対する手術対応能力という点に関しては麻酔科医の充足が根本的な解決法であったが、十分な人数が確保できなかった。現在高知県における対人口比の麻酔科医充足率は全国でも上位にあり、今後高知県の麻酔科医総数が右肩上がりに増えることは期待できないため麻酔科医を適切に配置することが重要で、大学との連携は重要であり、これまでの岡山大学との連携を維持しながら高知大学との新たな連携を進めること働きかけを行ってきた。また、2024年度は麻酔領域の特定行為看護師の養成にも取り組み、2025年度には1名確保予定である。

【医師の働き方改革】

2024年4月から施行となった時間外労働上限規制を遵守する時間外労働管理体制の整備を進め、また勤務間インターバルの確保や代償休息の付与および長時間労働医師に対する面接指導といった追加的健康確保措置を実践するための管理システム構築も行った。

働き方改革関連法が施行開始となった後も、局内では引き続き医療局協議会、不定期の医局会、研修医会などを通して働き方改革の内容や情報を周知、共有し、新たな医師の働き方に関する意識

改革を進めている。

タスク・シフティングの面では、医師事務作業補助者の補助業務内容の充実や、看護師特定行為パッケージ研修修了者による実地での活動が進んでいる。さらに、医療技術局の臨床工学技士(CE)による腹腔鏡手術の補助(スコープオペレーター)業務の導入も進み医師不足の手術現場で大きな助けとなっている。

またタスク・シェアリングに関しては、ほとんどの診療科で複数主治医制を導入しており、診療業務をグループやチームの複数医師でシェアするという意識が浸透してきたが、さらに同一診療科内の医師時間外労働実績はメンバー全員が閲覧できるようにし、この情報を共有することで特定医師のみに負荷がかかりすぎないようにメンバーで業務をシェアし協力する体制を進めている。

当院での医師の働き方改革の取り組みは、厚労省のWebページ「いきサポ」に取り組みの好事例として掲載された。

(<https://iryou-kinmukankyou.mhlw.go.jp/casestudy-movie>)

3. 今後の課題・目標

全国に先駆けて高知の医療圏では、この5-10年が高齢患者が減らずに、生産人口の減少に歯止めがかからない状態が続いており、県民に適正な医療を提供するために、当院においてなすべきことを考えて実行してゆく必要がある。

2〜3次救急患者の受入れ体制の充実と、がん診療体制を保持し、これから5-10年この医療圏で高度急性期医療の提供を維持することが当院の存在意義であることを、医療局内で再認識し、概況の変化にもしっかりと対応していきたい。

看護局

1. 概要

看護局の理念は「いのちに寄り添い ところをつなぐ パートナーシップ」である。

令和 6 年 4 月 1 日の正規看護職員数は 691 人（平均年齢 39.4 歳）、うち男性看護師 79 人（11.4%）、助産師 50 人（7.2%）であった。令和 6 年度の新規採用者は 25 人（うち新人看護師 18 人）であった。

看護局の重点取組の一つとして、「転倒転落による骨折ゼロ」に取り組み、防ぎ得ない骨折事例 1 件にとどめることができた。また、経営計画の実行においては、入院棟看護師による退院支援を推進し、入退院支援加算 1 の算定件数が増加した。収益面への貢献だけではなく、患者の退院後の生活を見据えた目標の共有や患者・家族への説明が実施されたと考えている。令和 6 年度の退職率（再任用除く）は 3.8%であった。

2. 活動状況

1) 総務担当

①看護職員の人事、労務管理等

職員が健康で誇りとやりがいを持ち成長できる職場であること、仕事と生活を両立してキャリアを継続できる職場であることを目指し、ワークライフバランス推進に取り組んでいる。また、自分の生活を大切にしつつ、看護師としての専門性を磨き仕事を続けていけるよう、育児休業からの復職支援やメンタルヘルス支援に取り組んでいる。

②看護職員採用に向けた広報活動

看護学生を対象としたインターンシップを開催し、当院の概要や新人教育体制、福利厚生についての説明や希望部署での看護体験を実施している。また、先輩看護師からの話を聴く機会を提供し看護のやりがいについて伝えている。

2) 業務担当

①IC 同席率の向上と患者・家族の意思決定支援する看護の提供

院内のインフォームド・コンセントの指針を基に各部署で IC 同席の基準を定め、IC への看護師同席に努めた。令和 7 年 2 月時点は各部署で定めた IC の 86.1%（全体平均）に同席できた。IC に同席できなかった場合は、患者・家族の意思を確認し、患者・家族の意思を尊重した選択につながるような支援に努めている。

②患者・家族が安心できる質の高い看護の提供
看護局への宝箱件数は 41 件、その内、看護師へのお褒めが 8 件（外来 1 件、患者支援 1 件、中央手術 1 件、5 階 1 件、7 階 3 件、8 階 1 件）あった。また、看護師・看護補助者の対応に関する意見が 10 件あり、看護局で共有し改善している。

3) 地域連携担当

①入退院支援の取り組み

患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養生活が送れるよう、入院早期から入退院支援に取り組んでいる。令和 6 年度の入退院支援加算 1 の算定数は、3,823 件、入院時支援加算 1 は 1,091 件、入院時支援加算 2 は 148 件であった。令和 4 年から高知県立大学入退院支援事業に参加し、入院時から「地域・病院・多職種」で切れ目のない円滑な移行を目指した入退院支援体制づくりに継続して取り組んでいる。

②効果的な病床管理

日々の病床管理と部署別月別に病床稼働状況を把握している。令和 6 年度の一般病床の稼働率は 87.6%であった。

4) 教育担当

①新人看護師研修：4 月～2 月までの 11 ヶ月間のプログラムで集合研修と OJT を行っている。新人看護師 1 人に対し実地指導者 2 人、実地指導者グループをまとめる実地指導者リーダーを配置している。新人看護師の 1 年以内の退職率は令和 6 年度 11.1%だった。

②継続教育：教育担当、CN、CNS らが中心とな

り卒後教育を企画・運営している。令和 6 年度は 31 研修（新人看護師研修・院外研修を除く）を実施した。

3. 看護チーム活動

チーム医療とは、医療に従事する多種多様なスタッフが、各々の高い専門性を前提に目的と情報を共有し、明確な役割分担の中で他者に説明できる成果を生み出す責任を持つ組織的な取り組みである。看護局では以下のチーム活動を行っている。

1) チーム楽楽

紙屋克子氏が開発した「ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術」と「ノーリフティング」の実践を看護局全体に定着させることをめざしている。患者にとって体位変換は自立につながる第一歩である。看護技術の中でも特に体位変換・移乗技術の普及啓発に努めている。

2) 接遇マナー改善チーム

「患者さんに適切なサービスを提供することができる」「良好な人間関係を築くことができる」「職業人としてのマナーを身につけることができる」、この 3 つを目標とし、新人看護師や看護補助者を対象に研修を行い、部署では互いに身だしなみを良くする取り組みをしている。

3) コンチネンスケアチーム

NPO 日本コンチネンス協会の排泄ケア専門員教育課程を修了したメンバーを中心に活動している。各フロアの排泄に関するアセスメント力を高め、ケアの質を向上できるよう技術や知識を組み込んだ勉強会を行っている。

4) 感染管理リンクナース会

感染対策委員会や感染制御チームと部署スタッフをつなぐ重要な役割を担っている。そして率先して自部署での感染防止対策の改善に取り組んでいる。毎月の会において院内外の感染管理情報や自部署の環境や手指衛生の現状を報告し、ミニ研

修会なども実施している。

5) 緩和ケアチームリンクナース会

各フロアにおける苦痛スクリーニングの実施や基本的緩和ケアの要として活動している。また、専門的緩和ケアが必要な状態や家族により良い看護が提供できるよう、緩和ケアチームと所属フロアを繋ぐ役割も担っている。緩和ケアに関する知識や技術習得のほか、院内の緩和ケア体制の構築に向け話し合いを行っている。

6) 摂食・嚥下チームリンクナース会

チームに所属する言語聴覚士・歯科衛生士等の各職種や摂食・嚥下障害看護認定看護師から、嚥下評価や安全な食事介助に関するレクチャーを受けている。リンクナース会で学んだ内容をもとに、知識・技術を部署に広めたり、嚥下障害を持つ患者に必要な看護ケアが適切に提供されているかを確認する等の活動を行っている。

7) 褥瘡防止委員会リンクナース会

各部署のリンクナースと皮膚・排泄ケア認定看護師で構成され、褥瘡やスキントラブルの発生予防、早期治癒に向けてのケアが実践できるように、知識・技術の向上に取り組んでいる。

8) せん妄・認知症ケアリンクナース会

リンクナース会では、せん妄・認知症を理解するための研修や情報の共有を行い、リンクナースが各フロアで患者アセスメント・環境調整などの看護ケアをスタッフと共に実践する役割を担っている。令和 6 年度は不眠時・不穏時の薬剤の使い方についてマニュアルを作成し、各フロアで教育を行い、認知症症状の悪化やせん妄予防を行った。

4. 今後の課題・目標

看護の質を担保するとともに働き続けることのできる組織をめざしている。地域の医療・看護に貢献できるよう、目標に向かって個人も組織も成長できる組織づくりに取り組みたい。

薬剤局

1. 概要

理念：「“臨床薬剤師”として、人に社会に貢献できる薬学ケアサービスを実践する」

1) 医薬品管理部

調剤科

製剤科

医薬品情報科

2) 臨床薬剤部

薬剤管理指導科

救急医療支援科

業務スタッフ（令和7年3月31日現在）

常勤薬剤師	31人
会計年度薬剤師	3人
会計年度事務	7人
SPD	11人

勤務形態：24時間体制（夜勤：変則2交代制）

専門・認定薬剤師

専門・認定薬剤師	人数
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	2
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1
日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師	1
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	1
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	1
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	2
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	11
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	3
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療養士	1
日本臨床救急医学会 救急専門薬剤師	1
日本小児臨床薬理学会 小児薬物療法認定薬剤師	1
日本循環器学会 心不全療養指導士	2
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師	6
日本DMAT隊員	5
高知県災害薬事コーディネーター	4

2. 業務実績

外来稼働日数*1：243日

入院稼働日数*2：令和5年度 366日

令和6年度 365日

調剤業務		令和5年度	令和6年度
外来院外処方箋枚数 (枚)*1	1ヶ月平均	6,854.1	6,917.7
	1日平均	338.5	341.6
院外処方箋発行率		94.3%	94.7%
外来院内処方箋枚数 (枚)*2	1ヶ月平均	412.9	393.1
	1日平均	13.5	12.9
入院処方箋枚数(枚)	1ヶ月平均	6,303.4	6,491.5
	1日平均	206.7	213.4
退院処方箋枚数(枚)	1ヶ月平均	875.3	910.3
	1日平均	28.7	29.9
麻薬処方箋枚数(枚)	1ヶ月平均	83.5	60.3
	1日平均	2.7	2.0
外来注射処方件数 (件)*1	1ヶ月平均	541.3	529.5
	1日平均	26.7	26.1
入院注射処方件数(件)	1ヶ月平均	29,708.6	30,693.1
	1日平均	974.0	1,009.1
麻薬注射処方件数(件)	1ヶ月平均	1,171.3	1,068.7
	1日平均	38.4	35.1
抗がん剤注射処方件数(件)	1ヶ月平均	4,005.4	4,150.1

製剤業務	1ヶ月平均	令和5年度	令和6年度
院内製剤調製件数		31.6	21.2
TPN無菌調製件数		49.8	79.2
無菌製剤処理料1(イ)		33.1	42.4
無菌製剤処理料1(ロ)		750.3	1006.8

抗がん剤調製業務			令和5年度	令和6年度
外来*1	患者数 (人)	1ヶ月平均	592.5	602.9
		1日平均	29.3	29.8
	調製件数 (件)	1ヶ月平均	970.8	997.3
		1日平均	47.9	49.3
入院*2	患者数 (人)	1ヶ月平均	382.6	465.9
		1日平均	12.5	15.3
	調製件数 (件)	1ヶ月平均	551.3	649.3
		1日平均	22.2	26.4
		平日		
		休日	10.0	11.3

外来患者指導業務	1ヶ月平均件数	令和5年度	令和6年度
がん患者指導管理料(ハ)		8.2	4.8
バイオ後続品初期導入加算		3.7	0.8
連携充実加算		316.8	308.5
抗悪性腫瘍剤処方管理加算		19.8	20.8

抗がん剤レジメン登録数

(令和6年12月31日現在、直近6ヶ月利用率)

登録レジメン数：752

レジメン利用率：32.7%

患者支援センター業務	1ヶ月平均(人)	令和5年度	令和6年度
初回化学療法予定入院患者数		18.1	19.2
全身麻酔手術予定入院患者数		274.8	231.4

病棟薬剤管理指導業務	1ヶ月平均	令和5年度	令和6年度
指導実施患者数(人)		983.4	972.9
指導実施件数(件)		1109.7	1122.5
指導算定患者数(人)		891.5	899.9
指導算定件数(件)		1005.3	1030.8
麻薬指導加算件数(件)		4.2	2.7
退院時指導件数(件)		1.6	2.2
薬物血中濃度解析(TDM)件数(件)		42.3	59.1

DI室業務	1ヶ月平均	令和5年度	令和6年度
院外処方疑義照会回答件数(件)		1753.9	1750.3
処方内容等(DI担当)(件)		1107.1	1136.7
保険関係等(医療事務担当)(件)		646.8	613.6
疑義照会率(%)		25.6	25.2
処方内容 変更率(%)		93.7	97.0
トレーシングレポート(件)		37.8	40.8
医薬品情報 質疑応答件数(件)		308.6	345.3
DI情報Web掲載件数(件)		26.1	52.7
医薬品マスタメンテナンス件数(件)		79.2	106.3

採用薬品情報 (令和7年3月31日現在)

採用医薬品総数：1,376品目

処方薬：809品目

注射薬：567品目

後発医薬品数：316品目

後発医薬品利用率(数量ベース)：93.0%

3. 研修等受け入れ：研修施設認定日本病院薬剤師会

がん薬物療法認定薬剤師 研修施設

日本医療薬学会

医療薬学専門薬剤師 研修施設

がん専門薬剤師 研修施設

薬物療法専門薬剤師 研修施設

地域薬学ケア専門薬剤師 研修施設

日本臨床腫瘍薬学会

がん診療病院連携研修受入施設

令和6年度 薬学部 長期実務実習受入実績

Ⅲ期 3名(松山大学、兵庫医科大学、就実大学)

4. 今後の課題・目標

- 1) 病棟薬剤業務実施加算1の算定継続。
病棟薬剤業務実施加算2の算定開始。
- 2) がん患者指導、患者支援センター業務など外来薬剤指導業務の充実。
- 3) 医薬品の標準使用のための院内フォーミュラリー(医薬品の使用指針)の作成。
- 4) RPAによる業務効率化の推進。

医療技術局

1. 概要

医療技術局は、検査・画像診断・リハビリテーション・手術など、診断や治療に関する技術を提供し、医師の診断や治療を支える多職種集団です。臨床検査部・放射線技術部・臨床工学部・リハビリテーション部の4部よりなり、また職種も臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・歯科技工士・視能訓練士・看護師・准看護師・事務職員の12職種の4部12科119名（2025.4.1）で構成されています。常にその専門分野のレベル・スキルを向上し、患者さんに必要とされる医療技術を提供することを使命と考えています。

2. 活動状況

【臨床検査部】

生理検査・病理検査・血液管理業務や採血・生殖医療にも参画しています。生理検査では、認定心電検査技師・認定心電図専門士、脳波検査・神経検査の専門技術士、超音波検査士（体表・循環器・消化器）等の認定取得技師が検査に対応しております。眼科で勤務している視能訓練士も生理検査に属しています。病理検査には、細胞検査士4名、血液管理室には、認定輸血検査技師1名が在籍しており、また、生殖補助医療胚培養士の資格取得者が生殖医療に携わっています。

臨床検査部		2023年度	2024年度
生理	心機能検査	17,964	18,251
	肺機能検査	4,994	4,432
	脳波検査	723	759
	エコー検査	8,468	8,166
病理	組織検査	14,499*	17,939
	細胞診検査	4,330	4,217
血液管理	輸血準備	9,860	8,914
学会発表		7題	9題
実習生受け入れ		8名	9名

* システム障害のため集計は9か月分
学会発表は暦年集計

【放射線技術部】

大きく分けて検査部門と治療部門があります。

検査部門はX線撮影やマンモグラフィ検査、血管内に造影剤を注入し血管内の詳細観察を行う検査や治療も行っています。

画像検査のCT・MRIには専従の技師をそれぞれに配置し、放射線科医や看護師との協働のもと、検査を行っている。

心臓や脳などの様々な臓器の血流状態や機能状態を検査するために、RIと呼ばれる微量の放射線を放出する薬剤を体内に注入し、その後の薬剤の体内分布をガンマカメラとSPECT-CTと呼ばれる装置で画像として見る検査も行っています。がん細胞が増殖のために、より多くのブドウ糖を取り込むという性質を利用したPET-CT検査とともに、がん診断の重要な部分を担っています。

また、CT・MRI・SPECT-CTの検査は、他の医療機関から地域連携の一環として共同利用での検査も受けています。

治療部門では、放射線治療専門放射線技師を配置し、放射線治療医とともに治療計画を策定し、より安全で正確な照射ができるように努めています。患者さんや職員の線量被ばくの管理も行っています。

放射線技術部		2023年度	2024年度
一般	総件数	51,460	49,438
	ポータブル	18,234	18,319
	アンギオ	2,969	3,270
断層	CT	24,768	25,977
	MRI	7,947	8,070
核医学	SPECT-CT	516	463
	PET-CT	921	1,041
治療	総件数	5,542	5,790
学会発表		12題	11題
実習生受け入れ		2名	4名

学会発表は暦年集計

医療技術局

【臨床工学部】

生命維持管理装置の操作や多種にわたる医療機器の保守点検・一元管理等医療機器の管理と操作を行っています。手術部門・カテーテル部門・救急／集中治療部門・血液浄化部門・医療機器管理部門等、業務は多岐にわたりますが、各々スペシャリストとして活躍しています。

手術部門では手術室で使用する大小様々な機器の操作や点検を行っています。特に心臓の手術時には心臓をとめるための装置や、手術の間心臓や肺の代わりを担う人工心肺装置等、患者さんの命に直結する高度な医療機器の操作や管理・保守点検を行っています。脳神経外科や整形外科のナビゲーション業務や神経モニタリング、スコープオペレーター業務、眼科手術の機器類の対応もしています。ロボット支援手術では前日の準備から当日のドレーピング・術中トラブル・術後の機材洗浄等にも対応しております。

心臓カテーテル部門では、カテーテル検査や治療時、医師の補助的業務や生命維持管理装置の操作を担っております。

臨床工学部	2023年度	2024年度
心臓血管外科手術件数	212	234
手術室支援	746	736
補助循環	42	50
循環器内科対応	1,769	2,074
血液浄化	2,296	2,239
学会発表	3題	13題
実習生受け入れ	4名	5名

学会発表は暦年集計

【リハビリテーション部】

リハビリ部門と口腔衛生部門に分かれ、リハビリ部門では、理学・作業・言語療法士がそれぞれの専門性を持って連携を取りながら総合的なリハビリテーションを提供しています。

術後、早期の離床は、患者さんの術後回復に大きな影響を与え、当院でも2023年2月からはICU病棟において多職種でチームを構成し、「早期離床リハビリテーション加算」も算定しております。運動器・脳リハ・心リハ・救命とチームに分かれて対応し、重症患者には土日祝日も極力介入できる体制作りをしています。

口腔衛生部門では、歯科衛生士を歯科口腔外科の診察介助ばかりではなく、患者支援センターや病棟にも配置し、周術期の口腔ケア等、口腔内からの感染リスクの軽減に貢献しています。

リハビリテーション部	2023年度	2024年度
PT・OT・ST実施単位数	56,460	57,082
歯科衛生士（外来/病棟介入）	1,554	1,721
学会発表	6題	10題
実習生受け入れ	2名	5名

学会発表は暦年集計

3. 今後の課題・目標

職種が多すぎるデメリットの一つに、横の繋がりが乏しい点があります。対策の一つとして、局内の他職種を理解することを目標に「医療技術局合同勉強会」を開催しています。

また、2021年度から「医療技術のスキルアップ・レベルアップ」を目標に認定資格の取得など各科で具体的な目標を定め、各職種のレベルアップに向け精進しています。

学会発表も大きな目標の一つです。技師本人の自己研鑽はもとより、部内で共有し職種毎で切磋琢磨することで、より質の高い医療技術を提供することを目標に日々研鑽を積んでいます。

多職種で構成されている医療技術局の横の繋がりを強化し、より迅速で正確な診断・治療に貢献できる医療技術を提供するよう努めていきます。

栄養局

1. 概要

【理念】

県民・市民の健康づくりのために、患者さんに喜ばれる食事提供とチーム医療による栄養サポートなど、栄養ケアサービスを実践する。

【目標】

- ①患者さんに喜ばれる食事の提供に努めます。
- ②患者さんの栄養状態を把握し、栄養改善のサポートを行います。
- ③管理栄養士養成など、臨地実習病院として研修・教育を行います。
- ④県・市行政や栄養士会などの職能団体、また、他局との協力体制を整えて、栄養分野における調査研究を行います。
- ⑤保健・医療・福祉の分野における地域医療連携を図り、予防医学や健康増進活動に努めます。
- ⑥生産者の顔が見える食材を積極的に利用し、地産地消をすすめます。

【組織】

1. 臨床栄養部門

各フロアに管理栄養士を配置し、医師、看護師、薬剤師など多職種との話し合いのもと、患者さん一人ひとりにあった食事提供、栄養管理を行っている。

1) 栄養食事指導

- ・外来・入院：個人指導（糖尿病、高血圧、腎臓病、脂質異常症、肥満、がんなど）
- ・入院：集団指導（糖尿病教室、心臓リハビリテーション、マタニティ教室）

2) 多職種連携

- ・栄養サポートチーム(NST)
- ・緩和ケアチーム
- ・摂食嚥下チーム
- ・褥瘡対策チーム
- ・心不全チーム

2. フードサービス部門

入院生活を少しでも快適に過ごしていただくため、四季折々のメニューを取り入れ、美味しい病院食の提供に努めている。

1) 行事食

お正月、節分、雛祭り、クリスマス等、季節の行事に合わせたメニューを提供。

2) 出産祝い膳

出産された方を対象にお祝カードを添えて洋食メニューを提供。

3) 選択食（おこのみ食オーダーシステム）

一般食および一部の治療食を対象にした選択食（標準食・減塩食・定番食・スペシャルメニュー）を実施。

4) その他の取り組み

① えいようだより

毎月、栄養関連の情報発信として発行。旬の食材や栄養学のお知らせをするとともに管理栄養士によるレシピも紹介。

② がん治療中の食欲低下に対応した食事（ぼっちり食・リード食）

がん治療の患者さんを対象に食欲低下時に嗜好や食欲に合わせた対応を行っている。メニューは、アンケート結果をもとに作成。

2. 活動状況

【主な栄養局関連項目】

① 栄養食事指導：実施件数

	2023 年度	2024 年度
外来 個別	1,989	1,920
外来 個別（がん）	567	1,041
入院 個別・集団	2,573	2,761
計	5,129	5,722

栄養局

② 早期栄養介入管理加算：算定件数

	2023 年度	2024 年度
ICU	875	1,237
HCU	2,952	2,944
SCU	2,168	2,200
計	5,995	6,381

③ 周術期栄養管理実施加算：算定件数
2023 年度 2,632 件、2024 年度 2,561 件

④ 学会発表等

学会発表 2023 年度 9 題、2024 年度 9 題

⑤ 臨地実習生受け入れ

	2023 年度	2024 年度
高知県立大学 健康栄養学部	59 名	35 名
高知学園大学健康科学 学部 管理栄養学科	26 名	29 名

3. 栄養管理（NST）運営委員会**1. 目的**

高知医療センターに、病院フードサービスおよび栄養の改善、向上を図るため栄養管理（NST）運営委員会を設置する。

2. 開催・審議事項

1) 定期開催：四半期ごと 第 3 月曜日

2) 審議事項

- ① 患者さんの栄養管理に関すること
- ② 栄養食事指導に関すること
- ③ フードサービスに関すること
- ④ システム運用に関すること
- ⑤ 給食施設の整備に関すること
- ⑥ 食品衛生管理に関すること
- ⑦ NST に関すること
- ⑧ その他委員会が必要と認める事項

組織：委員長（栄養局長） 1 名
副委員長（医師） 1 名
医療局 2 名 看護局 3 名
薬剤局 3 名 医療技術局 2 名
事務局 1 名 栄養局 2 名
病院食委託 2 名

下部組織として

NST（栄養サポートチーム）運営部会メンバー：医師、歯科医師、看護師、
薬剤師、管理栄養士

対象・活動日：全フロア・毎週水曜日

介入件数：2023 年度 541 件

2024 年度 539 件

**4. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携
による健康栄養連携部会事業**

高知県立大学健康栄養学部の学生、教員と連携し共同で様々な事業を行っている。

<事業内容>

- ・高知県立大学健康栄養学部の学生臨地実習。
- ・カレンダー作成、「慢性疾患食事療法パンフレット」の作成と料理教室の開催、「あいうえお塩分表」・「減塩生活ガイドブック」の作成、腎臓食に関する動画等。
- ・勉強会・研修会・共同研究・災害訓練等。

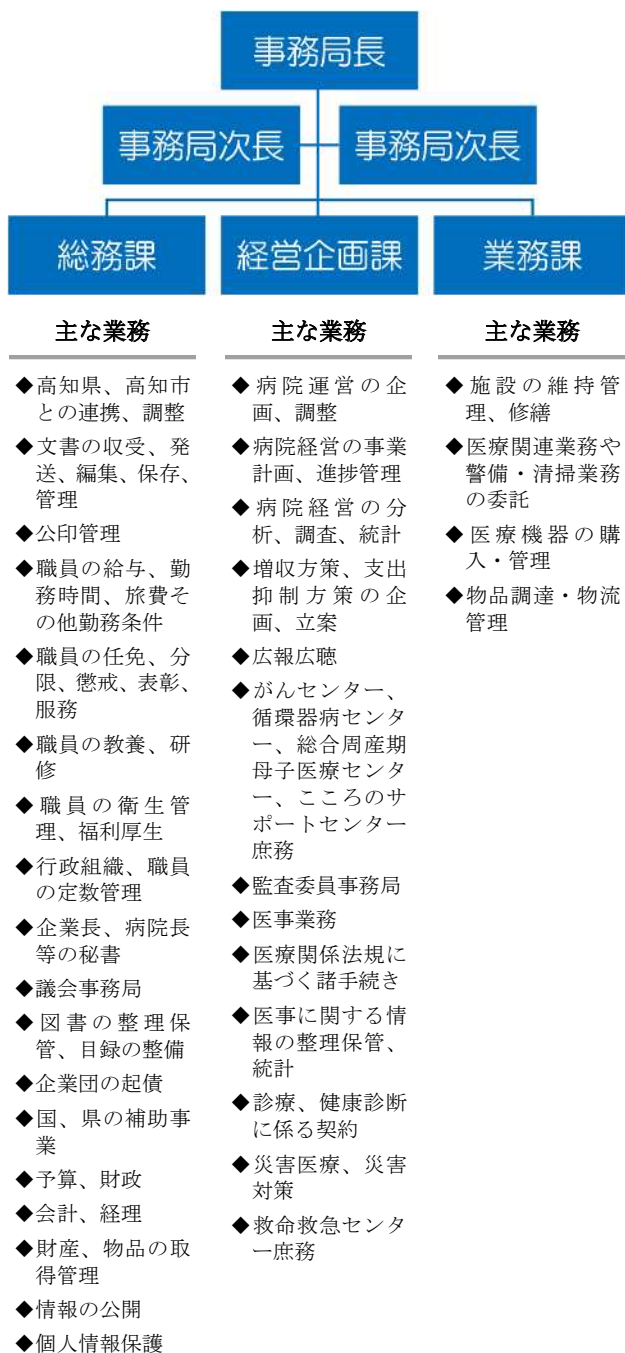
5. 今後の課題・目標

1. 栄養指導算定件数 6,200 件以上
(うち、がん専門管理栄養士による 950 件以上)
2. 早期栄養介入管理加算 算定率の増加
3. 周術期栄養介入管理加算 算定率の増加
4. 栄養情報連携料 算定率の増加
5. 患者満足度に繋げる取り組み
6. 自己研鑽（学会発表、新規・更新認定取得、論文等）
7. その他 宝箱（患者さんからの声）
クレーム 9 件以下 お褒めの言葉 100 件以上

事務局

1. 概要

高知医療センター事務局には「総務課」「経営企画課」「業務課」の3つの課があり、病院経営の効率化をすすめ、県民・市民の皆さんに良質な医療が提供できる環境づくりに努めている。



2. 活動状況

<総務課>

29名の職員（うち、会計年度任用職員12名、派遣職員2名）で構成。

○主な活動内容は以下のとおり。

- ・例規改正作業
- ・職員の人事、給与、福利厚生、衛生管理等の各種手続
- ・初期研修医プログラム及び新専門医制度の手続
- ・障害者雇用の推進
- ・医師の働き方改革の推進
- ・職員採用試験の実施
- ・組織改正及び定数管理
- ・企業団議会の開催（2回）
- ・企業団議会議員協議会の開催（3回）
- ・なるほどライブラリ所蔵図書の整理保管等
- ・起債及び国、県、市補助事業の申請手続
- ・予算編成作業及び財務会計処理
- ・職員満足度調査の実施

<経営企画課>

12名の事務職員（うち、会計年度任用職員3名）、47名の医療秘書（会計年度任用職員）、2名の院内交番（会計年度任用職員）、2名のがん相談員（会計年度任用職員）で構成。経営計画の策定・進捗管理、病院経営に関わる分析・統計・調査、医事業務の委託契約及び管理、医療関連法規に基づく諸手続き、広報に関する業務等、病院運営の企画・調整に係る業務を多く担っている。令和6年度は重要課題として以下のことに取り組んだ。

1. 経営計画の進捗管理

- ・アクションプランの進捗管理

第1四半期で振り返りを実施し、年度替わりにおける施策の進捗状況を確認した。その後、半期における中間評価の実施、年度末には年度評価の実施及び令和7年度アクションプラン策定を行い、それぞれ企業団運営会議で報告した。令和6年度の取り組みについては概ね計画通り目標達成できた。

- ・人事評価制度の見直し

令和4年度、当院が求める人材ビジョンと期待役割を定め、令和5年度にはその実現に向けた職員研修計画を策定した。今年度、これまでの取り組みを踏まえ、人事評価制度の見直し及び、これまで導入されていなかった医師の人事

評価制度の策定に向けて取り組んだ。医師以外の人事評価は、各職種で検討のうえ新たな人事評価制度を策定し、令和 7 年度に試行することとした。医師の人事評価制度は、大まかの評価の方向性の検討を行い、令和 7 年度に継続して取り組むこととした。

・委託業務一部内製化の検討

当院では多くの業務を委託して運営しているが、委託業務を管理する職員に知識や経験の蓄積がされず、業務管理が十分でない状況が見られる。また、業務委託の範囲も広いため特定の業者に偏りがちで、業者間の競争性が高まらない委託業務がある。これらのことから、職員の育成を図り、業者間の競争性を高めることを目的に委託範囲を見直して、一部業務を内製化に向けて取り組むこととした。

1. 令和 6 年度診療報酬改定への対応

令和 6 年度診療報酬改定は 6 月施行となった。前年度の検討に基づいて、令和 6 年 5 月末に施設基準の届出を行った。また、経過措置や年度途中に新たな届出を行うものについては適宜適切に届出を行った。

2. 歯科共同指導・適時調査の実施対応

歯科共同指導は初めてであり、院内で対策チームを立ち上げ、確認事項リスト等を使用して事前準備にあたった。歯科共同指導では経過観察の評価となり、指摘事項には速やかに改善報告を行って、診療報酬の自主返還手続きを開始した。適時調査では数点の指摘はあったが概ね妥当であるとの評価をいただいた。

3. 病院機能評価更新受診準備

令和 6 年 8 月に病院機能評価の更新受審予定であったが、悪天候のため前日に延期の決定となった。改めて 12 月に受審することとなり、TQM 委員会を中心に、継続して各部署の改善活動に取り組み、無事受審となった。受審して終わりではなく、TQM 委員会を中心に今後も改善活動を継続していく。

<業務課>

11 名の職員（うち、会計年度任用職員 3 名、派遣職員 1 名）で構成。業務課は、業務担当と施設担当で構成している。業務担当は、医療機器、診療材料、医薬品等、院内の物品購入及び管理、また、業務に関する委託契約及び管理と担当している。

施設担当は、建物、設備の維持管理、各種工事の調整、警備や清掃等の契約・管理を担当している。

これらの業務に取り組むことにより、患者さんやご家族の皆さん、職員を含めた全ての方がより利用しやすい施設となるよう努めている。

また、経営計画に基づいた、委託費の削減及び材料費の財務管理強化を進めていくため、3 業務について新たな契約を締結した。

【清掃業務】

仕様書の見直しにより業務範囲を縮小し、落札（契約）金額を抑制するよう入札を実施したものの、人件費上昇による委託料の増額が避けられず委託契約を締結した。

【患者等給食業務】

人件費や食材費が上昇し、委託料の増額は避けられなかったが、業者選定をプロポーザル方式にすることにより、業者提案による業務品質の向上が見込まれる委託契約を締結した。

【物品管理・物流管理業務（SPD）】

給食業務と同様に、業者選定をプロポーザル方式で実施し、業務品質の向上が見込まれる委託契約を締結した。

3. 今後の課題・目標

令和 6 年度の経営状況は、日本経済全体がインフレ基調に変化しつつあり歳出増の圧力が強まる一方で公定価格である診療報酬改定が取り残された状況にあることや、コロナ関連補助金が終了したことなどの影響により、経常収支 12 億 6 千万円余りの赤字となった（決算見込）。こうした状況下でも医業収益は 3 億 4 万円余り増加しており、経営改善の努力は一定の成果が表れている。

事務局としては引き続き経営改善の努力を続け、以下の点について取り組みを進めていく。

1. 経営の安定化

- ①経営計画の着実な実行と新経営計画の策定
 - ・現行の経営計画を着実に実行するとともに、厳しい時代に対応する新経営計画を策定する。
- ②経費節減への取り組み
 - ・共同購入の制度を活用した材料費の縮減や委託費の適正化に引き続き努める。

2. 施設・設備の適正な管理

- ・開院後 20 年を迎える施設や設備の計画的な修繕・更新を行い、患者さんや職員の安全・安心の確保に努める。

Ⅲ 各診療科資料

総合診療科

1. 概要

総合診療科では、初診外来および日勤帯の救急外来において、臓器別ではなく疾患に偏りがない幅広い領域にわたる疾患や訴えを持つ患者さんへの診療を行っている。特に日常よく遭遇する common disease をはじめ、診断困難症例への対応や地域医療機関からのセカンドオピニオン、紹介状を持参せず来院された患者さんで、どの診療科にかかったら良いかわからない方、複数の健康問題に対する包括的なケア、根拠に基づく医療（EBM）、臨床推論、入院・外来患者さんの外来フォロー（再診診療）などを行っている。また病棟（入院）では、高齢者（特に虚弱高齢者）や複数の病態を抱える患者さんへのケア、必要に応じて他の専門診療科との連携、心理・社会・倫理的複雑事例への対応、癌・非癌患者さんへの緩和ケア、退院支援と地域医療連携機能の提供、在宅患者さんの緊急入院対応などの役割も同時に担っている。当科では、特に救命救急センターや精神科（身体合併症）、神経内科とコラボレーションして、複数の診療科に渡る幅広い症例を豊富に診療している。本来であれば二次病院レベルで入院治療が可能な症例も、夜間や時間外に救命救急センターへ救急搬送されてくることから、救急専門医と一緒にこれらの救急患者さんを急性期病棟で診療、治療している。

2. スタッフ活動状況

石井 隆之（科長）

日本脳神経外科学会専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

吉村 彰人（地域医療科長）

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

田邊 義貴（副医長）総合診療専門医

宮本 大地（副医長）日本内科学会専門医

矢野 彰彦（副医長）

村松 佐知子（副医長）

山本 直（内科専攻医）

山本 将大（総合診療科専攻医）

3. 診療実績

現在、月曜日～金曜日まで午前・午後と 3～4 診の外来枠で外来診療を行っている。初期臨床研修医をはじめ、高知大学医学部学生さんらの臨床実習受け入れも行っている。一般病棟は約 15～20 床前後で運用している。その他、地域医療分野における地域包括ケア、在宅医療などの業務として、黒潮町国保拳ノ川診療所、宿毛市沖の島へき地診療所、佐川町立高北国保病院、四万十町国保大正診療所、仁淀川町国保大崎診療所等へ毎週医師を派遣している。

毎週木曜日には学生や研修医教育を兼ねてカンファレンスで症例の振り返りを行っている。

その他、院内内科カンファレンス（月・木）、アレルギー膠原病カンファレンス（隔週）などを行い、総合内科としての診療能力向上を目指している。

4. 今後の課題・目標

JCEP による指導の中で、臨床研修における外来診療の位置づけが大きいことが分かり、医療面接やコミュニケーションに重きをおいた教育体制の充実を目指していく。また、救命救急センターや精神科、神経内科とのコラボレーションはより深化したものとし、内科専門医・総合診療専門医の教育拠点としても努力していく所存である。

精神科

1. 概要

令和 6 年度は、成人精神科病棟を再開して 7 年目となった。これまで培った経験を活かしつつ、さらなる診療の充実を図った。当院身体科や高知県内の身体科病院との連携を強化し、リエゾン精神科としての活動を推進した。また、自殺企図者への早期介入を目的に、高知県精神保健福祉センターとの共同事業を継続し、地域全体での支援体制の整備に努めた。さらに、精神科病院や行政から依頼される対応困難症例、司法からの要請による精神鑑定など、幅広いニーズに応える体制を維持した。

2. スタッフ活動状況

令和 6 年度の成人精神科を担当する医師数は、常勤医師 4 名、非常勤医師 2 名であった。成人精神科 30 床と児童思春期病棟 14 床を合わせた計 44 床を、看護師 20 名、言語聴覚士 1 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名、心理技術員 2 名、薬剤師 1 名（兼務）、管理栄養士 1 名（兼務）とともに診療を行った。

3. 診療実績

令和 6 年度の診療実績は以下のとおりである。

	令和 6 年度	令和 5 年度
延べ入院患者数	5,144 人	5,227 人
全入院患者数	115 人	117 人
延べ外来患者数	2,092 人	1,646 人
外来新患患者数	248 人	284 人
医療保護入院数	85 人	95 人
任意入院数	17 人	22 人
措置入院数	5 人	7 人
応急入院数	3 人	1 人
起訴前鑑定入院数	2 人	2 人

医療観察法鑑定入院	2 人	0 人
本鑑定入院	1 人	0 人
輪番での入院数	14 人	2 人

4. 問題点・今後の課題・目標

令和 6 年度も、限られた人員と病床の中で、地域の多様な精神医療ニーズに対応することが求められた。成人精神科病棟 30 床では、身体合併症を持つ患者や自傷他害のおそれのある患者を受け入れ、地域の救急精神医療体制を支えてきた。特に起訴前鑑定入院は、前年の 1 例から 5 例へと増加し、司法精神医学領域への対応強化が課題となった。また、措置入院数や医療保護入院数は減少傾向にあったが、その背景には地域全体での入院調整や在宅支援の広がりが影響している可能性がある。

一方、自殺企図者への介入として実施している「Hope to Life」事業では、72 名の患者への導入を試みたが、実際に導入できたのは 40%にとどまった。対象者の意向や家族の理解、受け入れ体制の不十分さが要因と考えられ、今後は導入プロセスの改善や多職種による働きかけをさらに充実させる必要がある。

また、感染症流行による人員不足や輪番事業の代行など、突発的な対応を求められる場面もあった。柔軟な体制運営とスタッフ全体の能力向上が不可欠である。

今後は、リエゾン精神科としての役割をさらに強化しつつ、救急精神医療、司法精神医学、地域連携の三本柱を基盤に、県内精神科医療における中核的役割を果たしていきたい。

児童精神科

1. 概要

当科は、児童思春期の精神疾患に対する専門的医療の提供を目的として平成 24 年に開設され、14 床の児童思春期精神科病棟を有している。病棟と共に外来診療も精力的に行っており、高知県の児童思春期医療で重要な位置を占めている。

2. スタッフ活動状況

令和 6 年度の医師数は、常勤医師 2 名、非常勤医師 2 名であった。精神科と兼務をする職員でスタッフは構成されている。成人精神科 30 床と児童思春期病棟 14 床を合わせた計 44 床を、看護師 20 名、言語聴覚士 1 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名、心理技術員 2 名、薬剤師 1 名（兼務）、管理栄養士 1 名（兼務）とともに診療を行った。

3. 診療実績

	令和 6 年度	令和 5 年度
延べ入院患者数	843 人	1,075 人
退院患者数	20 人	31 人
延べ外来患者数	2,438 人	2,240 人
外来新患患者数	95 人	75 人
医療保護入院数	19 人	27 人
任意入院数	2 人	1 人
措置入院数	0 人	0 人

4. 問題点・今後の課題・目標

令和 6 年度において、児童思春期の精神保健に関する課題は多様化・複雑化している。全国的に不登校児童生徒数は過去最多を更新し、その背景には神経発達症の特性、家庭機能不全、SNSトラブルなどが複雑に関与している。当科は、不登校児童の心理発達や環境要因を総合的に評価し、教育機関や地域と連携した支援を強化する必要がある。

近年、若年の自殺は大きな社会的課題となっている。救命救急科とともに自殺対策も行う必要がでている。自殺企図者への介入として精神保健福祉センターとの共同して行う「Hope to Life」事業では、自殺未遂をした 18 歳未満の子ども 4 名に対して、3 名に導入をすることとなった。今後も介入を続けていきたい。

また、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などの神経発達症に、うつ病や不安症、摂食障害といった精神疾患を併発するケースが増えている。発達特性を理解したうえで早期に支援を行い、精神疾患への移行を予防する体制づくりが重要である。

さらに、令和 6 年度にはヤングケアラー支援が国の重点政策に位置づけられ、家庭内で過度なケアを担う子どもへの早期介入が課題として浮上した。当科としても教育機関や福祉機関と協力し、地域で支える仕組みを構築していきたい。

診療体制の面では、オンラインでのカンファレンスや遠隔相談の導入が進み、利便性の向上につながっている。しかし一方で、非対面であるがゆえの観察の限界も存在する。今後は、対面でのカンファレンスと適切に組み合わせることで、利便性と医療の質を両立させることが課題となる。

今後は、常勤 2 名体制を基盤に成人精神科医とも連携して、多職種協働をさらに推進し、県下唯一の児童精神科病棟として、緊急入院対応や家族支援プログラムの充実を図る。若手精神科医や研修医へ児童思春期医療の教育についても積極的に行っていききたい。また、不登校や神経発達症、自殺未遂児童に関する研究を進め、その成果を地域や学会に発信することで、地域の子どもと家族の心の健康を支える拠点としての役割を一層強化していきたい。

地域医療科

1. 概要

高知医療センターは、へき地医療拠点病院として指定を受け、無医地区巡回診療やへき地診療所への代診医派遣主たる業務として担っている。また、臨床研修医や高知大学医学部の学外実習、地域医療夏期実習などで医学生に対する教育にも携わっている。

2. スタッフ活動状況

地域医療科医師（科長は高知県へき地医療支援機構専任担当官を兼務）が中心となって無医地区巡回診療やへき地診療所への医師派遣、代診医派遣調整などを行っている。また、総合診療科医師とも連携して業務を行っている。各医師を週1回程度派遣している。

3. 診療実績

・無医地区巡回診療（長岡郡大豊町久寿軒・北川地区）

医師・看護師、薬剤師、事務職員で巡回診療班を構成し、毎月第3火曜日に巡回診療を行っている。

・へき地診療所への代診医派遣

令和5年度の代診医派遣実績は219日（実日数）であり、その内訳は、

仁淀川町国保大崎診療所	75日
四万十町国保大正診療所	68日
宿毛市立沖の島へき地診療所	37日
黒潮町国保拳の川診療所	32日
四万十市西土佐診療所	6日
馬路村立馬路診療所	1日であった。

・へき地医療情報ネットワークの活用

県内で33ヶ所の地域医療機関（へき地診療所を含む）がネットワークで繋がっており、画像コンサルトなどで活用されている。遠隔画像伝送によ

り院内の各専門医に直接コンサルトすることが可能となっている。宿毛市沖の島へき地診療所では、天候不良などで医師が島に渡ることができない場合に、通信機器等を利用したオンライン診療を行っている。また、コロナウイルス感染症流行により代診医が派遣できなかった期間にも、ネットワークを活用したへき地診療支援が可能であった。

・医学教育

平成16年4月から始まった新医師臨床研修制度では、「地域保健・医療」が研修必修項目の中に挙げられており、中小自治体病院や診療所およびそれに関連する社会福祉施設、介護老人保健施設、へき地・離島にある医療機関や保健所等の地域保健・医療の現場を経験することが研修目標に明記されている。当院では地域医療科が中心となり、へき地医療機関を研修協力施設とする高知県内共通のプログラムに従って、プライマリ・ケア研修を学ぶことができる教育体制をとっている。

4. 今後の課題・目標

総合診療科との連携によって、地域医療科として積極的に地域医療支援等を行ってきた。しかし高知県は県内に23ヶ所の無医地区（R4年10月現在）を抱えており、65歳以上の高齢者人口比率は36.1%で全国第2位（令和4年版高齢社会白書）の高齢県となっている。このような状況下では、当院の地域医療科単独で担うことのできる業務は限られている。しかし、今後も引き続き県内のへき地医療拠点病院間で連携を図ることで、更なる地域医療への貢献が可能と考えている。

また、オンライン診療の活用や災害時（自然災害や感染症流行等）の地域医療支援への備えも今後の重要な課題である。

血液内科・輸血科

1. 概要

日本血液内科学会研修認定施設（県内で2施設のみ）、非血縁者間骨髄採取・移植認定施設（認定カテゴリー1は県内で当科のみ）として、血液内科の全ての領域の疾患の外来・入院診療と自家および同種造血幹細胞移植を行った。新規紹介患者数の増加、移植症例数は前年とほぼ同程度であった。LTFU（移植後長期フォローアップ外来）も順調に進行している。

2. スタッフ活動状況

現在、岡山大学第二内科からの医師8名が派遣されており、常勤医師8名と非常勤医師2名で診療を行っている。スタッフは週に1から2回の専門外来診療を行っている。また、幡多けんみん病院への月に3回の診療支援（岡医師が月に2回、今井医師・町田医師が月に1回）を継続中である。

3. 診療実績

（外来）

平日の午前中に2名の医師が専門外来を行っている。基本的には、全ての紹介患者の受け入れを行っており、紹介患者数は2019年339名、2020年293名、2021年287名、2022年281名、2023年331名、2024年は316名であった。

（入院）

入院患者数は例年通り50名から60名と安定した患者数が維持できている。

造血幹細胞移植件数は、2020年30件、2021年34件、2022年29件、2023年22件、2024年24件、造血幹細胞採取件数は2020年23件、2021年27件、2022年28件、2023年24件、2024年21件と推移している。

新規患者数は、悪性リンパ腫は2020年86名、2021年102名、2022年90名、2023年88名、2024年110名、多発性骨髄腫は2020年26名、2021年24名、2022年28名、2023年32名、

2024年27名、急性白血病は2020年27名、2021年34名、2022年32名、2023年53名、2024年43名、骨髄異形成症候群2020年45名、2021年45名、2022年40名、2023年32名、2024年34名と推移している。過去3年の新規造血器腫瘍全体の患者数は、2022年212名、2023年217名、2024年247名と推移している。

4. 今後の課題・目標

高知県内の血液内科基幹病院の事情もあり、当科に紹介して頂く患者数は非常に多く、造血幹細胞移植件数も四国で1、2番目に多い症例数を維持している。臍帯血・HLA半合致移植を含む全ての移植が当科にて対応可能であり、現時点で県外の高度専門施設への紹介はほぼなくなった。しかし、県内の血液専門医の不足、医師の高齢化が進んできており、数年後の県内の診療には非常に不安を抱えている。当科においても若手医師を含む安定した医師数確保が重要である。また患者数増加に伴い慢性的に病床数（特に個室）の不足が生じており、病床管理が困難な状況が続いている。

ここ最近の血液内科領域はCAR-T療法等の免疫細胞療法や二重特異性抗体等のさまざまな新薬の登場や造血器腫瘍遺伝子パネル検査も使用できるようになり、日進月歩で発展してきており、知識の更新は不可欠である。そのため、今後も講演会及び学会参加などで研鑽などを積み、さらに良質な医療の提供を目標としたい。移植医療は多職種によるチーム医療が必須であり、多くの人材と時間が必要である。継続してHCTC（造血細胞移植コーディネーター）の育成にも努めている。今後も安定した人員確保とスタッフの教育、研鑽が必要と考える。

数少ない専門医で高知県内の血液疾患の診療を担っている状況であり、今後も他の専門病院との診療連携、協力なども行っていきたい。

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

基幹病院として、糖尿病・内分泌疾患の外来診療、入院診療を中心に行った。

2. スタッフ活動状況

令和 6 年度は、常勤医師 2 名、非常勤医師 2 名の体制で行なった。

3. 診療実績

令和 6 年度の外来患者さんの延べ人数は 5,140 人、入院患者さんの延べ人数は 275 人であった。

4. 今後の課題・目標

外来および他科で入院中の患者さんの糖尿病管理を継続する。

糖尿病患者さんは増加しており、また高齢化も進んでいるため、糖尿病の早期発見・治療に努め、合併症の進展を抑制したい。かかりつけ医との連携さらに強固に行い、逆紹介の増加に努める。

救急科をはじめ他科との診療連携を行ない、糖尿病や内分泌疾患の診療レベルを維持する。

令和 7 年度からは、常勤医師不在となっており、院内で糖尿病・内分泌内科の診療を継続していくために、常勤医師の確保が喫緊の課題である。

非常勤医師の協力のもと日常診療を継続しつつ、常勤医師確保に、まずは注力したい。

放射線療法科

1. 概要

放射線治療に関して、日本医学放射線学会／日本放射線腫瘍学会の修練施設としての幅広い診療を行っている。

がんサポートセンターのオープンから足かけ 9 年が経過し、現在、強度変調放射線治療(IMRT／VMAT)や定位放射線治療(SRS, SRT)といった高精度放射線治療から癌の骨転移による疼痛緩和のための放射線治療まで、様々な疾患や症状に対する放射線治療を実施しており、さらなる症例数の増加を目指している。

2. スタッフ活動状況

放射線治療は、放射線治療専門医 1 名と専攻医 1 名、そして、高知大学放射線治療科から派遣していただいている 2 名の非常勤医師で行なっている。

平成 29 年 7 月からは、がんサポートセンターの 1 階に設置した 2 台の高精度放射線治療装置を用いて、前述のように、頭頸部癌や前立腺癌等に対する強度変調放射線治療、脳腫瘍や肺腫瘍に対する定位放射線治療といった高精度放射線治療も実施している。

2023 年度と比較して 2024 年度は総件数で 34 件の増加となった。2024 年度は肺、消化器を除く多くの部位で 2023 年度より症例数が増加しており、放射線治療全体の需要が増えつつあることが期待される。より一層の情報提供と迅速な対応に努めて、さらなる症例数の増加を計りたい。

尚、以前からの当院の傾向として、骨髄移植や造血幹細胞移植等の移植の前処置としての全身照射の実施数が多いことがあげられるが、こちらも件数は増加しており、安定した提供もできている。

3. 2024 年度診療実績 (2023 年度件数)

放射線治療総件数：	296 件	(262 件)
・頭頸部	42 件	(34 件)
・食道	19 件	(16 件)
・肺	45 件	(53 件)
・乳房	56 件	(45 件)
・消化器 (肝胆膵含む)	44 件	(49 件)
・前立腺	37 件	(24 件)
・造血器・リンパ系	32 件	(10 件)
・骨転移	62 件	(57 件)
・全身照射	10 件	(5 件)
・強度変調放射線治療	108 件	(95 件)
・定位放射線治療	4 件	(9 件)

4. 今後の課題・目標

さらなる症例数の増加を目指して、院内各部署および他の医療機関への放射線治療に関する情報提供、啓蒙活動を促進する。

高知大学放射線治療科に協力して頂き、マンパワーの充実を計る。

緩和ケア内科

1. 緩和ケア内科と緩和ケアチームの概要

治療の早期の段階から専門的緩和ケアを提供し、全人的苦痛を取り除くように MSW やがん専門看護師などと共働している。治療継続が困難な患者さんには最適な療養環境を整えることも行う。緩和ケアチームでは、介入依頼のあった患者さんの治療や療養場所についてなどを主治医チーム、病棟看護師、緩和ケアチーム看護師、薬剤師、MSW、管理栄養士、理学療法士などの多職種でカンファレンスを行い、診療支援に努めている。

2. スタッフ活動状況

緩和ケア内科は、医師 1 名。緩和ケアチームは、医師（専従 1 名、専任 2 名、兼任 1 名）、がん専門看護師（専従 1 名、専任 1 名）、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、理学療法士 1 名、MSW 2 名で活動を行なっている。

PEACE 緩和ケア研修会を開催、また院内では病棟リンクナースの勉強会を行なっている。

高知県がん連携連絡協議会の緩和ケア部会緩和ケアチーム委員会において、副部長兼副委員長として研修会の計画などを行い高知県のがん診療、緩和ケア診療の向上にむけて参画している。

医学部学生、看護学大学院生などへの緩和ケアに関する講義、研修医や地域の臨床医の研修、医学部学生、看護学大学院生等の実習受け入れも行なっている。

平成 29 年 4 月から、がんサポートセンター緩和ケアセンター、がん相談支援センターを開設。がん相談支援センターでは専従の相談員が常駐し、対面あるいは電話やメールでの相談に応じている。

3. 診療実績

緩和ケア内科の外来診療は、月曜日～金曜日の午前中に行なっている。基本的には当院に通院中の紹介患者さんが対象である。全人的な苦痛を取り除くことを目的にして治療を行ない、治療継続が困難となった患者さんには最適な療養環境を整えるように MSW やがん専門看護師と協力し、他院の外来に紹介するなどの地域連携を行なってい

る。令和 6 年度の外来診療件数は、557（うち初診 31）件であった。入院患者に対する緩和ケア診療加算は以前より算定していたが、外来緩和ケア管理料も算定することができるようになった。

緩和ケアチームは、火曜日と金曜日に定期チーム回診、カンファレンスを行うほかに、随時、診療支援を行っている。令和 6 年度のチーム介入依頼件数は、184 件であり、その依頼内容の多くは症状緩和目的であるが、在宅ケア導入相談、家族ケアや鎮静・意思決定支援などの倫理的課題の解決支援、担当者の診療支援など多岐である。退院のうち、在宅ケア導入が 5 件、緩和ケア病棟転院が 25 件、その他の転院が 20 件、死亡退院が 15 件であり、数年来変化はみられていない。ほとんどががんの患者であるが、非がん（心疾患、呼吸器疾患 COVID-19 関連患者の症状コントロールも含む）は 6 件あった。なお、緩和ケア診療加算件数は、481 件であるが、前述のとおり加算算定の要件にかかわらず、ニーズにあわせて介入している。

また IIMS ライブラリの緩和ケア系マニュアル内に症状緩和基準を作成掲載し随時見直しを行っている。

4. 今後の課題・目標

入院外来ともにまたがん非がんにかかわらず質の高い専門的緩和ケアの提供を実施したいと考えている。

外来常駐看護師、医療秘書、緩和ケアセンター事務も不在であったが、受付まで常駐されなくなった。また医師や看護師が勉強会や講演会の企画運営事務や会場準備まで担当する厳しい状態である。がん診療連携拠点病院の施設基準は改定を重ねる毎に厳しくなっている。緩和ケアセンターの積極的な運用、提供する緩和ケアの質向上のために、人的資源の充実が必要不可欠である。

他診療科・他部署との連携、地域連携、教育講演など院内外への緩和ケアの啓発も重要であり、継続課題である。

併せて、がん相談支援センターの活用の充実も目標とする。

腫瘍内科

1. 概要

消化器がんを中心とした固形がんの抗がん剤治療を担当し、2017年4月開院のがんサポートセンター3階、外来ケアルームを主たる診療場所としている。

術前・術後化学療法、再発・転移例に対する化学療法を実施、治験・臨床試験も積極的に導入している。

診療初期より多職種のかかわりによる全人的医療を実践しており、病状進行期には、近隣の緩和ケア専門医療機関や在宅診療機関との連携を密に図っている。

また、高知県立大学と共同で、がん専門看護師、がん化学療法認定看護師の育成にあたっており、県下のみならず、全国的なメディカル・スタッフ育成にも寄与している。

2. スタッフ活動状況

腫瘍内科を主たる業務とする常勤医は科長の根来医師1名である。非常勤医師として島田前院長（週2回）および香川大学より3名を交代制で招聘（週2回）し、外来診療を依頼している。また消化器内科より1名、腫瘍内科枠での外来業務を担って貰っている。

3. 診療実績

外来のべ患者数は令和4年度5,119名、令和5年度4,736名、令和6年度4,747名であり、令和5年度にやや減少したもののそれ以上には減少することなく推移している。

対象がん腫は、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がんを主とした消化器がんを中心に、一部の原発不明がんも担当している。標準治療を第一に実施し、臨床試験や治験の適格条件を満たす場合には患者さんに説明し参加を依頼している。また、薬

剤師や栄養士も交えた定期多職種カンファレンスを設けているほか、必要に応じキャンサーボードにおいて複数科・多職種で協議し、より良い経過を得るべく個々の症例の検討を行っている。

がん遺伝子プロファイリングも適宜利用している。しかしながら疾患領域的に実際の治療に結び付くことは稀である。

4. 今後の課題・目標

1) 腫瘍内科医の確保は大きな懸案事項である。腫瘍内科医の必要性が増す一方で、安定した供給体制がないのが実情である。現在のところ腫瘍内科を目指す若手医師は大都市圏のがんセンターに集中する傾向があり、地方都市への招聘は極めて困難である。今後の高知県のがん診療を担う人材輩出のためにも、当センターにおいて消化器内科、外科と連携を図り若手ががん診療医の育成をしていく。院外からの研修も受け容れており、今後とも積極的に外来化学療法実践の場を提供していく。

高知大学医学部に腫瘍内科学講座が開講された。直接的な人材交流はまだ無いものの、県内の各種活動においては共同しており、今後の発展的関係性構築を目指したい。

2) JCOG 他の研究者主導臨床研究や治験に積極的に症例登録を行い、当センターの立場をアピールしていく。

3) 抗がん剤、支持療法の高騰化を適正化するために、新規薬剤の適応、導入について十分な検討を行い、医療経済的視点を持って抗がん剤治療提供にあたる。

4) がんサポートセンター外来ケアルームの安定した運用のため、看護師をはじめとしたメディカル・スタッフの育成を継続する。

ペインクリニック科

1. 概要

外来診療を中心として、患者さんへの治療を行った。主に神経ブロック治療や、キシロカイン、アルプロスタジルアルファデクスの点滴治療や内服薬による治療、ボトックス注射、脊髄刺激電極による治療、硬膜外癒着剥離術、高周波パルス療法などを実施した。

2. スタッフ活動状況

令和 6 年度の医師数は、常勤医師が 1 名であった。

3. 診療実績

令和 6 年度の診療実績は、下記のとおりである。

- ・延入院患者数 18 人
- ・退院患者数 18 人
- ・外来患者数 4,344 人

4. 今後の課題・目標

令和 6 年度、常勤医師が 1 名退職し、常勤医 1 名体制となっている。

ペインクリニック科が麻酔業務を兼務しており、ペインクリニック外来業務を縮小している。

外来においては新規患者の受け入れ制限をせざるを得ない状況である。

インターベンショナル治療が適応となる患者も一定数いるものの、医師の不足や手術枠の確保の困難さなどが問題となっている。

放射線科

1. 概要

各種画像診断(CT、MRI、核医学検査、PET-CT)、IVR など日本医学放射線学会の総合修練施設および新専門医制度における高知大学のプログラム修練協力機関として幅広い診療を行っている。

今年度はCTの更新を行なった。

令和6度は令和5年度と比較し画像検査は核医学検査を除くモダリティ全てにおいて検査数が増加している。IVRも総件数が増加している。

2. スタッフ活動状況

読影・レポート作成業務は非常勤読影医師の協力のもと放射線診断専門医3名、放射線専門医4名及び1名の専攻医で実施しており、画像診断管理加算Ⅱの請求を継続している。

IVRは1名のIVR専門医と4名の医師(放射線専門医3名、専攻医1名)で実施しており、令和6年度の実施件数は全国の日本IVR学会登録438施設中9位と、例年通り全国有数の症例数を維持している。内容もCV関連の他、塞栓術やドレナージ等多岐にわたり行なっている。また、オンコール体勢にて365日24時間緊急IVR対応を継続している。

令和6年度には3名の専攻医が放射線科専門医を取得した。他、1名の放射線科専門医が令和7年度に放射線科診断専門医を取得すべく修練している。

3. 2024年度診療実績(2023年度件数)

画像検査

・CT	25,977件(24,768)
・MRI	8,070件(7,947)
・核医学	463件(516)
・PET-CT	1,041件(921)

血管造影・IVR : 1,843件(1,568)

・CVカテ、PICC、リザーバー留置	1,118件(804)
・動脈塞栓術(頭頸部・胸腹部・他)	82件(121)
・ドレナージ(腹胸部・他)	172件(121)
・生検(頭頸部、胸腹部・他)	78件(66)
・血管形成術(PTA、下肢、シャント)	37件(60)
・ステントグラフト(胸部・腹部)	18件(40)
・動注	25件
など	

病理診断科

1. 概要

各臨床科の外来診療・入院診療の一翼を担い、種々の検体を対象とした病理診断（組織診・細胞診・病理解剖）を行った。日本病理学会の認定施設、および日本臨床細胞学会の認定施設・教育研修施設の資格も維持している。

2. スタッフ活動状況

前年と同じく、3名の常勤病理医が業務に携わっている。いずれも日本病理学会認定病理専門医であり、うち2名は病理専門医研修指導医である。病理医1人あたりの業務量がやや多めであるが、業務の遂行に大きな支障は生じていない。

なお、医師に加え、医療技術局に属する6名の臨床検査技師（常勤職員5名、臨時職員1名、前者のうち3名は細胞検査士）、および事務局に属する医療秘書1名が業務をともにしている。臨床検査技師は前年度の7名から1名減となった（ただし今年度になって1名増員され元の数に戻った）。

3. 診療実績

組織診は6,994件（うち迅速組織診421件）、細胞診は4,247件（うち迅速細胞診3件）、病理解剖は10件で、いずれも昨年より増加した。特に組織診の件数は迅速組織診を含め過去最多であった。

組織診と細胞診においては、臨床科の幅広さを反映して、多領域・多臓器にわたる検体が提出されている。特に組織診では、手術検体の比率が高く（生検検体と手術検体の数に大差がない）、件数の割には作製ブロック数・標本数が多いという特徴がある。コンパニオン診断を含め、診断や治療

に際して有用な情報を提供しうる免疫染色の標本数も多い。前年度と比較すると、組織診標本数は増加したが、組織診ブロック数、組織診免疫染色標本数、細胞診標本数は減少した。

組織診ブロック数 43,284→41,737

組織診標本数 63,120→66,775

組織診免疫染色 9,625→8,824

細胞診標本数 5,766→5,709

病理解剖は内科系からの依頼が主で、特に血液内科が多い。全例において初期臨床研修医が臨床医の一員として関与し、また、全例において臨床病理検討会（CPC）を行っている。

4. 今後の課題・目標

病理検体の数が近い将来において大幅に変化するとは思われないが、組織診と細胞診いずれも件数は増加しており、その傾向が続く可能性もある。臨床科から求められる情報の量や質も高まる一方である。ブロック数や標本数が増加し続けているわけではないが、それらの数字に反映されない臨床研究や治験に関する業務が増えている。よって、現時点では確保できている病理医のマンパワーを、将来にわたって維持してゆくための体制づくりが重要である。日本病理学会認定病理専門医の研修については、当院は高知大学医学部附属病院を基幹施設としたプログラムの連携施設の一つとなっている。今後の人的要素の安定のためにも、高知大学医学部附属病院、および他の連携施設との関係を密にしてゆく所存である。一方、標本作製等に携わる技師への配慮も必要であり、人員減の状況が今年度に改善されたのは喜ばしい。

脳神経外科

1. 概要

脳神経外科学会専門医研修プログラムの連携・関連施設、脳神経血管内治療学会研修施設、脳卒中学会認定研修教育病院、脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設として、脳神経外科救急を中心に、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、機能的疾患（てんかんを含む）、などほぼすべての脳神経外科疾患に対する診療を行っており、内科的治療はもちろん、直達手術（開頭術、穿頭術など）、血管内手術など行った。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフは6名（うち脳神経外科専門医5名）。脳卒中学会専門医2名、脳血管治療指導医1名、脳血管内治療3名の体制で、外科治療を主目的にご紹介いただいた外来受診患者さんのみならず、脳卒中や頭部外傷などの急性期の神経疾患で救急受診した患者さんを幅広く診療した。

3. 診療実績

診療実績は、外来、入院、救急、手術などの実績は昨年と大きな変化は認められなかった。

（外来）延べ人数 2,803 人

週3日の外来診療体制で行った。そのほか緊急患者さんを診療する人員を常に確保し、24時間県内全域からの新たな患者さんを受け入れる体制を維持した。

専門外来は設けてはいないが、脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医が各曜日に診療を担当している。

（入院）延べ人数 11,240 人

急性期脳卒中はSCU病棟の9床で治療を行ない、そのほか、一般入院加療は06A病棟、特に重篤な急性疾患に関しては03ICU、HCU、加療を行った。

平均在院日数は15.7日であった。

（手術）

令和5年度の脳神経外科の手術総数は210例であった。直達手術116例、脳血管内治療は94例であった。

4. 今後の課題・目標

当科においては科の特性上、救急患者搬送の減

少が大きく、外来、入院、救急、手術すべてにおいて診療実績に影響することとなる。そのため、院内救急患者受け入れ体制の見直し等を行い救急の確保に努めている。

高知県では他県よりも顕著に高齢化が進行している。高齢者に対する外科治療としては、低侵襲性を重視した脳血管内治療の適応が拡大している。

当科の診療体制の強みは、大半が脳神経外科専門医であること、脳神経血管内治療学会研修施設として中心的な役割を果たしていること、複数の脳卒中学会専門医および神経内視鏡専門医が在籍すること、医師以外のさまざまな職種が治療に能動的に関与していることである。したがって、当科の診療の特徴は、急性期脳卒中に対する集中的な治療である。

今後の問題点としては、県人口の全体的な減少や同様の診療体制を喧伝する競合施設の出現による症例分散に伴う症例数の減少である。したがって、今後も日常診療における治療成績を向上させることは当然だが、各症例での収益率を高めること、脳神経外科を志す若手医師を養成すること、当院の協力施設を増やすこと、急性期脳卒中以外の高齢者の対象疾患を拡大することが重要である。

脳卒中に関しては急性期治療後は脳卒中地域連携パスで連携医療機関との情報共有を行い、速やかな自宅退院を目指すとともに、回復期リハビリテーションの転院を目指している。

さらに脳卒中急性期治療だけでなく、脳卒中患者、家族との医療・福祉連携の充実のため、2023年1月から、当院地域連携室に「脳卒中相談窓口」を設置、現在多職種で脳卒中療養相談士の資格を取得し、入院、外来患者の病気によって変化する様々な問題、ニーズに対応できるよう活動してる。

DPCII超率は35.2%と昨年からやや低下しているが例年に比べ高値であった（目標20%）。

現在の診療体制は近隣より高い評価をいただいているため、その迅速かつ信頼される診療体制を今後も守りつつも、より幅広い専門的疾患に対応できるような体制に移行していきたい。

眼科

1. 概要

眼科領域の外来診療や手術治療を主とする入院診療を行った。

2. スタッフ活動状況

常勤医師 3 名で診療を行った。視能訓練士 2 名により眼科諸検査を行った。

3. 診療実績

(外来)

週 5 日の外来診療を常勤医師 3 名で行った。主に視能訓練士による屈折検査、視力検査、眼圧検査、眼底カメラ撮影、OCT（眼底三次元断層撮影）などの検査後に、医師が細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などにより診察を行った。また、術前検査として超音波検査、角膜内皮測定、涙管通水検査を行った。さらに、緑内障や脳外科疾患などの患者には視野検査、眼球運動検査などを視能訓練士が行った。斜視患者には眼位検査、両眼視機能検査などを行った。糖尿病網膜症や網膜血管閉塞症には蛍光眼底造影などの検査を行い、必要に応じて網膜光凝固術を施行した。毎週水曜日には NICU での未熟児診療を行った。

(入院)

入院患者の延数は、147 名であった。多くは手術症例であった。手術症例以外でも重症例では入院管理の下に治療を要する例もあった。

(手術)

令和 6 年度の眼科での手術総数は 201 例であった。内訳は、白内障 107 例、眼瞼手術 13 例、斜視手術 32 例、網膜光凝固術 9 例、虹彩光凝固術 4 例、抗 VEGF 硝子体注射 32 例、その他 4 例であった。

4. 今後の課題・目標

抗 VEGF 薬による硝子体注射は、現在アフリベルセプト（アイリーア）およびラニビズマブ BS を中心に実施している。これらの薬剤は加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症などに対して有効である。今後は高濃度のアフリベルセプト 8mg 製剤の導入が予定されている。従来製剤に比べて効果の持続期間が長く、治療間隔の延長が期待される。ラニビズマブ BS は価格が比較的抑えられているメリットがある。各薬剤の効果および患者の経済的負担の双方を考慮しつつ薬剤を選択する必要がある。

糖尿病内科が非常勤体制になったことにより、眼科での糖尿病網膜症患者の減少が予想されたが、汎網膜光凝固を要するような重症例は変わらず経験される。糖尿病眼網膜症の定期健診は重要であり、積極的に検診をすすめていきたい。今後もひきつづき他科や地域の医療機関との連携をすすめ、安全で確実な医療を提供していく必要がある。

耳鼻咽喉科

1. 概要

地域の基幹病院として、手術と入院を中心に診療を行った。救急部と協力して耳鼻咽喉科救急疾患に対応した。時間外呼出しにも応需した。急性期めまい診療、慢性めまい特殊検査を行った。

2. スタッフ活動状況

耳鼻咽喉科学会認定専門医の常勤医 3 名・専攻医 1 名で診療を行っている。

3. 診療実績

週 3 回（月水金）の外来診療を医師 3 名で行なった。令和 6 年度の外来患者数は 10,872 人で前年度の 9,765 人から大幅に増加した。休診日でも緊急性を認めたときにはできる限り対応した。

（入院）

令和 6 年度入院患者の延べ数は 356 例であった。内訳は手術症例が 218 例、めまいや突発性難聴などの感覚器障害が 31 例であった。入院患者のうち、がん患者は延べ 117 例で、うち手術を施行したのは 52 例、放射線治療および化学療法を施行したのは 61 例であった。

合併症がある患者も多く、必要に応じて関連他科と連携して診療を行なった。

（手術）

令和 6 度の手術症例数は 400 例であった。鼓室形成術等の耳科手術は 57 例、内視鏡下鼻副鼻腔手術は 121 例、口腔・咽喉頭手術は 157 例、耳下腺などの唾液腺手術は 17 例、頸部手術は 19 例であった。気管切開その他 23 例であった。

頭頸部進行がんなどの再建を要する手術については、形成外科、歯科口腔外科や消化器外科など他科と協力して手術を行なった。耳科手術は完全内視鏡手術が多数を占めつつある。

（地域連携）

令和 6 年度の新規紹介患者数は年間 398 人で、逆紹介率は 82.8%であった。

（検査）

一般開業医では施行できない検査を中心に行った。めまいの精密検査として電気眼振図は 44 例、重心動揺検査は 159 件。頭頸部腫瘍に対して超音波（エコー）検査 241 例、エコーガイド下穿刺吸引細胞診 91 例。組織診は 160 例施行している。

4. 今後の課題・目標

①転院先の確保

すぐに自宅退院できない患者やリハビリが必要な患者の受入れ先、逆紹介先の確保。限られた医療資源を有効に活用するため、当院での急性期医療、耳鼻科集学的治療を終えた患者さんの受入れ先を充実させる。

②頭頸部癌治療の充実

形成外科、消化器外科、その他関連他科、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、言語聴覚士らとのチーム医療を実践する。

③耳鼻咽喉科救急への対応、救急部との協力

高知医療センター耳鼻咽喉科に求められる診療範囲は広く、外来紹介患者診療、手術、入院管理、特殊検査など多岐にわたる。特に救急時間外対応は医師の過重労働へとつながるため業務役割分担を行う。

④地域医療機関への密な報告

当科への紹介患者さんの診療経過を報告する。逆紹介率アップのため当院での精査治療終了後は、速やかに紹介元に逆紹介を行った。

（注）手術件数は、日本耳鼻咽喉科学会算定方法によった。このため入院症例数に対して、手術症例数が見かけ上多くなっている。

歯科口腔外科

1. 概要

日本口腔外科学会、日本有病者歯科医療学会、日本障害者歯科医療学会の認定施設として、口腔顎顔面領域の外来診療や入院手術治療、および有病者・障害者歯科診療、周術期口腔機能管理などを行った。

2. スタッフ活動状況

令和6年度は常勤医6名（歯科口腔外科担当4名、小児歯科および障害者歯科担当1名、周術期口腔機能管理担当1名）と専攻医1名が在籍し、4名は日本口腔外科学会専門医（うち3名は指導医）、1名は日本小児歯科学会認定医、日本障害者歯科学会認定医として専門的な診療を行った。救急対応を含む外来・入院・手術・周術期口腔機能管理への対応、地域貢献活動として歯科医師会での講演などを行った。非常勤医師は2名で昨年度から変化はない。チーム医療としては周術期口腔機能管理、摂食・嚥下チームおよびNSTに積極的に関与している。

3. 診療実績

（外来）

院内・外の紹介患者受け入れを行い、外来患者数は、新患数3,066人（昨年度3,051人）、再初診では延べ15,383人（昨年度14,805人）、外来1日平均患者数は65.2人であった。紹介率については、昨年度よりわずかに上昇し61.4%（昨年度54.9%）であった。逆紹介は患者さんや紹介先との診療上の繋がりを重要視してほぼ院外からの紹介では全例で行っているが、診療情報提供書算定要件が厳しく統計上の逆紹介率は13.8%となっている。なお令和6年度、周術期口腔機能管理の新規受診件数は対象疾患を再整理し積極的に介入したが、567件（昨年度737件）と減少した。

（入院）

入院患者延べ数は、1,075人（昨年度1,571人）であった。ここ数年の傾向として、高齢化に伴う疾患割合の変化、具体的には薬剤関連顎骨壊死や糖尿病など合併症を有する難治性歯性感染症や後期高齢者以上の口腔癌治療症例が増加傾向にある。

（手術）

手術室での年間執刀症例は111件（昨年度116件）であり、内訳は、埋伏歯、嚢胞、外傷、蜂窩織炎・膿瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍および顎矯正に関連した手術などを行った。日本口腔外科学会認定施設として施設基準を満たす口腔外科疾患の症例数の確保ができています。

4. 今後の課題・目標

当科における診療は、（一般歯科診療を除く）口腔顎顔面領域の疾患に対する専門的治療、および有病者・障害者に対する外来診療、入院手術治療、周術期口腔機能管理（院内・院外連携）であり、高齢化に伴って地域歯科医療の後方支援としての役割もより一層期待されるものと考えています。新規紹介患者や救急患者の受け入れ体制を充実させるために専門性を持った歯科医師、歯科衛生士の人員確保と維持が必要である。また開院より20年を経過し、歯科用チェアユニットなど様々な医療機器の更新も順次必要となってきた。患者支援センターにおける周術期口腔機能管理の介入率はまだ改善の余地があり、引く続き課題として挙げられる。

われわれの目標として、①地域医療連携をベースとした高知県内では数少ない口腔顎顔面疾患に特化する診療科として、口腔外科専門医による診断・処置・手術の提供が常に一定レベルで行えるような体制を大学の協力を得ながら今後とも維持すること、②周術期口腔機能管理の介入率のアップと（40～50%台を目標）、それに関連して口腔ケアに熟知し、病院歯科で活躍できる歯科衛生士を養成していくこと、を掲げている。

呼吸器内科

1. 概要

当科は、呼吸器疾患の内科的診断、治療全般を行っており胸部異常陰影に対する気管支鏡、胸腔鏡など精査や、肺癌に対する化学療法、放射線治療など集学的治療、急性呼吸不全や慢性呼吸不全の増悪などの急性期疾患、難治性肺炎、間質性肺炎の治療を行える病院として高知県全域からも患者さんを受け入れており、各地域の医院、病院の先生方と連携を保ちながら診療を行っている。

2. スタッフ活動状況

2名の呼吸器内科専門医の2名の常勤スタッフで診療を行っている。外来診療および気管支鏡検査で各1名の非常勤医師の協力を得て診療を行っている。

3. 診療実績

週5日の外来診療を、常勤医2名、非常勤1名で診察を行っている。表1に令和6年度の呼吸器系患者の入院、外来数の延べ人数を示した。延べ入院患者3,852人、外来患者数は4,222人である。

入院患者の内訳は肺癌が6割をしめる。肺癌の化学療法は104人に施行されており、免疫チェックポイント阻害剤(41人導入)、や分子標的治療薬を積極的に使用している。肺癌の化学療法については入院での治療導入後は外来化学療法が主体となっており、患者さんのQOLの維持を目的として緩和ケアチームと連携を取りながら治療に当たっている。

呼吸器内科の人員の減少により、通常の肺炎などは総合診療科や救命救急科で治療していただき、難治性肺炎や間質性肺炎など特殊な疾患については呼吸器内科での加療となる体制となっている。

気管支鏡検査は年間125例施行しており1泊2日のパスを使用している。末梢肺の小型病変に対してはEBUS-GSやバーチャル気管支ナビゲーションを使用して診断率向上に努めている。縦隔リンパ節病変の精査に対してはEBUS-TBNAを施

行。原因不明の胸水の精査および膿胸の加療目的に局所麻酔下胸腔鏡を施行している。なおCOVID-19病棟として使用され休止していた結核病棟はコロナ5類への移行に伴い再開され、2024年より結核患者の受け入れが可能となっている。

表1 入院・外来実績

入院・外来患者数		
	延べ入院患者数	延べ外来患者数
呼吸器内科	3,852人	4,222人

表2 疾患別退院患者数(362人)

疾患名	退院患者数(人)
誤嚥性肺炎	4
間質性肺炎	33
その他肺炎	21
肺癌	259
気管支喘息	12
気胸	0
肺結核	4
肺非結核性抗酸菌症の疑い	3
肺化膿症	2
慢性閉塞性肺疾患	4
COVID-19	3
その他	29

表3 化学療法実績

	患者数	レジメン適用回数 (患者・回数1カウント)
呼吸器内科	110人	750回

4. 今後の課題・目標

肺炎などについては総合診療科や救命救急科の協力のもと加療を行い、肺癌など悪性疾患については呼吸器外科と連携のもと診断、治療を行っているが今後もスタッフの充実が望まれる。

呼吸器外科

1. 概要

当科は、呼吸器疾患を中心に外科的治療（手術）を主に行う科で、「肺がん、気胸などの呼吸器疾患に対する安全を重視した外科的治療」を基本理念としている。高知県全域および県外からも患者さんを受け入れており、各地域の医院、病院の先生方と連携を保ちながら診療を行っている。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフ 3 名とも呼吸器外科専門医、ロボット支援下手術の術者認定医などの資格を有している。

3. 診療実績

週 2 日の外来診療を常勤医 3 名で担当した。表 1 に呼吸器系患者さんの入院・外来数の延べ人数を示した。入院、外来の呼吸器外科患者数はそれぞれ約 3,400~3,800 人であった。

表 2 に手術実績を示した。令和 5 年度は 235 例であったが、令和 6 年度は 211 例とやや減少傾向である。（<https://www2.khsc.or.jp/shinryouka-bumon/shinryouka/kokyuukigeka/#jisseki>）

令和 6 年度の内訳では、原発性肺癌が 116 例で最多であり、そのほとんどでロボット支援下手術や胸腔鏡下手術などの低侵襲手術を実施している。令和 6 年度も年間を通して手術関連死亡（術死、在院死）を認めなかった。気管支鏡検査は、呼吸器内科、呼吸器外科合わせて 165 件で、呼吸器内科を中心に施行している。

表 1 入院・外来実績（令和 5 年）

	延べ入院患者数	延べ外来患者数
呼吸器外科	3,427 人	3,654 人
呼吸器内科	3,852 人	4,222 人

表 2 手術実績

手術実績	令和 5 年	令和 6 年
肺癌	143	116
転移性肺腫瘍	30	38
縦隔腫瘍	15	14
気胸	17	17
膿胸	9	11
外傷	2	1
その他	24	22
合計	235	211

※肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸で重複計上あり

表 3 化学療法実績

	患者数	レジメン適用回数 (患者・回数 1 カウント)	レジメン適用回数 (患者・回数複数カウント)
呼吸器外科	38 人	54 回	187 回
呼吸器内科	110 人	200 回	750 回

表 3 に示す通り呼吸器内科、呼吸器外科ともに多くの化学療法を行っている。肺癌診療ガイドラインや TNM 病期分類の改訂に伴い、これまで手術を行なってこなかった進行期肺癌に対して、手術＋化学療法を行なう症例が増加している。また切除不能肺癌や再発肺癌に対する化学療法も多様化しており、遺伝子変異やバイオマーカーに基づいた治療を選択し実施している。DPC 資料からも地域での肺悪性腫瘍の診療実績が上位にあり、基幹病院としての役割を果たしていると考えられる。

4. 今後の課題・目標

今後も発展し続ける内視鏡手術・ロボット支援下手術の安全性と精度の維持継続、適切な更新とともに、肺癌化学療法の分野の著しい進歩に合わせた呼吸器内科・呼吸器外科の連携、スタッフの充実、教育、がん診療連携拠点病院の機能保持が望まれる。

循環器内科

1. 概要

『紹介患者さんを断らない』をモットーに、迅速な患者さん受け入れ直後より専門医師による救急医療を提供する。救急外来での診断、緊急カテーテル治療、CCU・一般病棟管理、早期からの心臓リハビリテーション（心リハ）、病診連携による外来フォローと、切れ目のない循環器診療を実践している。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフ 5 名で診療を行っている（表 1、2）。日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本不整脈心電学会専門医、経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会指導医、日本超音波医学会指導医の資格を持つ専属スタッフにより、質の高い医療を実践している。

3. 診療実績

令和 6 年度の診療実績を表 3 に示す。

令和 6 年度の外来患者数は延べ 5,641 人、入院患者数は延べ 7,566 人であり、平均入院日数は 6.7 日であった。

当科での治療であるが PCI については、ロータブレーター、エキシマレーザー、方向性粥腫切除術（DCA）、IVL（Intravascular Lithotripsy）の認定施設であり、複雑冠動脈病変への PCI を積極的かつ安全に行っている。

また心臓弁膜症へのカテーテル治療に関しては、重症大動脈弁狭窄症に対する TAVI、僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁閉鎖不全修復術（TEER）の施行施設である。重症心不全症例に対する補助循環

装置であるインペラの実施施設であり、高知県の心不全治療の最先端を担っている。また心不全治療に関しては心不全療養指導士が当院でも活動を開始しており、入院から退院、外来での心不全患者に対するケアの充実を図っている。

不整脈に関しては、主に心房細動に対するカテーテルアブレーション及び植え込みデバイスの症例が増加している。特にリードレスペースメーカー留置は四国でも有数の症例数である。

当院は日本循環器学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本内科学会認定教育施設、日本超音波専門医研修施設であり、種々認定医・専門医の教育を行っている。

4. 今後の課題・目標

多くの患者さんを県内の医療機関からご紹介いただけるよう、地域連携の強化及び救急医療のレベルアップを図る。

また、迅速な緊急患者さんの受け入れのため、急性期を脱し病状が安定すれば、迅速な退院・転院が可能となるよう密な病診・病病連携を継続し地域医療を更に推し進める。

課題としては、今後のいわゆる「医師の働き方改革」に向けて、現在の診療体制を維持するためにも、スタッフの充足を図ることが急務である。

高知県で世界標準の循環器医療が受けられるようソフト面・ハード面ともに充実させ、地域完結型の循環器診療を目指したい。

循環器内科

(表 1)

名前	役職	専門分野
山本 克人	副院長	不整脈
尾原 義和	科長	虚血／弁膜症
川田 哲史	医長	不整脈
福岡 陽子	医長	心エコー
吉村 由紀	医長	弁膜症

(表 3)

	件数
PCI	286
カテーテルアブレーション	93
ペースメーカー留置	80
TAVI	45
TEER	14

(表 2)

曜日	午前・午後	名前
月曜	午前	尾原 吉村 山本（不整脈）
	午後	尾原
水曜	午前	山本
	午後	ペースメーカー外来
木曜	午前	福岡
金曜	午前	川田
	午後	ペースメーカー外来

心臓血管外科

1. 概要

心臓血管外科専門医機構の基幹施設として、心臓血管外科領域の外来診療・入院診療を行っている。入院診療は手術治療を中心とし、手術対象は心臓・大血管・末梢血管である。

2. スタッフ活動状況

現在常勤スタッフ4名の体制で診療を行っている。医師数に余裕ができ、予定手術を含めた日々の診療への対応はもちろん、終日自由に行動できるスタッフをおくことができるため、ICU・病棟での処置対応や急変対応、および救急外来における緊急対応までもを万全に行える体制となっている。既に手術中である場合、または、麻酔科・手術室体制として受け入れ不可能な場合を除いて全ての緊急症例を受け入れる体制で診療している。

3. 診療実績

(外来診療)

火・金曜日に外来診療を行っており、各々が特殊外来を兼任する形で行っている。一般的な心臓血管外科外来およびその他の特殊領域の外来；静脈瘤、末梢血管、ステントグラフト；などを対象として、外来診療を受診しやすく、紹介しやすくして対応している。

当科では手術をした患者さんに関しては基本的に術後終生診させていただくことを原則とし、術後状態についても責任を持って行くべく診療体制をとっている。

また、救急救命センターとの連携において、通常の急患はもちろん、術後状態変化のあった患者さんに関しても可及的早期に受診できるようにしている。

(入院診療)

当院9階フロアを循環器病センターとし、循環器内科と心臓血管外科を同一病棟に配置して、術前後の連携を図っている。心臓・大血管術後急性期は当院3階のICUにて、集中治療科医との連携のもと、必要な期間治療している。

(手術治療)

週2日の手術日にて手術治療を、また、半日のカテ治療日にカテ治療を行っている。また人工心肺装置は2台となり開心術も並列で施行可能な体制が整い緊急手術への対応力も向上している。

2024年の手術総数は302例で、弁膜症45例、虚血性心疾患6例、胸部大動脈瘤46例、腹部大動脈瘤35例などであった。僧帽弁逆流は基本的に形成術を施行し、症例に応じてMICS(正中切開を伴わない小開胸での手術)も17例行い、胸部、腹部の大動脈瘤はステントグラフト治療も症例に応じて行っている。カテーテル治療も積極的に行っており、ステントグラフト治療はTEVARとEVARを併せて33例、TAVI治療は45例に施行した。両治療ともに緊急・準緊急症例に対しても積極的に行っている。

4. 今後の課題・目標

様々な合併疾患を有し、複雑化・高齢化した手術症例が増加する傾向はますます進行しているが、院内他科、特に麻酔科・集中治療科・救命救急科との協力が充分に行われており、良好な成績を得ている。最新の手術動向を取り入れつつも、高知で最も早く開心術を行ったチームから引き継がれた歴史と伝統を活かしつつ治療を行っており、しっかりした礎に建てられた最新の快適な家のように、病気に冒された患者さんに少しでも快適を提供できるように努力していきたいと考えている。

消化器内科

1. 概要

当診療科は消化器内科領域、特に消化管、胆膵疾患の診断・治療を担当し、外来および入院診療を行った。なかでも内視鏡診断・治療を中心として、救急治療、専門的な精査、治療を行った。また研修医および院外からの研修医師を受け入れ、診療および内視鏡研修の指導を行った。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフは計 11 名、他非常勤医師 8 名が水曜午後の外来及び内視鏡検査を担当している。

3. 診療実績

外来業務

週 5 日午前、月・木は 2 診、火・水・金は 1 診での常勤スタッフによる診察、水曜午後に非常勤医師による診察を行った。また救命救急科を主として各科と連携しつつ救急外来の対応を行った。基本的には早期の転医を推進し、再診患者数の削減を目指している。

入院業務

検査、予定治療入院、緊急入院診療を行い、地域医療連携、退転院調整、離床促進やリハビリを早期より積極的に利用し、在院日数の短縮を図っている。

内視鏡実績以外には急性膵炎、炎症性腸疾患が主たる疾患で入院期間も長期になりやすい。

内視鏡実績：2024 年度の消化器内科での内視鏡実績は以下の通りであった。

上部消化管内視鏡検査

通常検査	2,206
止血術	164
食道 ESD	30
胃 ESD	77
胃ポリペクトミー・EMR	14

十二指腸ポリペクトミー・EMR	11
静脈瘤硬化療法	6
静脈瘤結紮術	6
異物除去	22
胃瘻造設術	44
消化管拡張術：食道	61
胃十二指腸	5
ステント留置：食道	7
胃十二指腸	2
内視鏡下胃管挿入	32
胆膵 EUS	31
FNA・ドレナージ	14
迅速ウレアーゼテスト	64

下部消化管内視鏡検査

通常検査	865
止血術	80
大腸ポリペクトミー・EMR	592
大腸 ESD	11
消化管拡張術 小腸・大腸	9
ダブルバルーン小腸内視鏡検査	16

ERCP

通常検査	73
結石除去	328
ステント留置	261

4. 今後の課題・目標

主な業務となる消化器救命救急、がん診療に対する院内外からの要望がより高まる中、年々減少するスタッフの数が絶対的に足りていないのが現状である。また数年来肝疾患専門常勤スタッフ不在で、週 1 回非常勤医師の外来のみの対応となっている。これらは当科の指導システムや新しい人材の確保、施設認定等においても影響する課題といえる。

スタッフの確保と、いかに安全性を保ちつつ診療体制の維持・進歩をはかっていくかが最大の課題・目標である。

消化器外科・一般外科

1. 概要

高知県の消化器外科の基幹病院として、手術治療を主とした入院診療、外来診療および救急医療を行った。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフ 11 人+専攻医 1 人の体制で活動した。

3. 診療実績

(外来)

外来診療においては、平日午前、午後それぞれ 2-3 診察室の体制で、外来患者数 14,552 人（新患者数 707 人）を診察した。本年度より遺伝子外来と骨盤機能外来を開設し、より専門性の高い診療が行えている。今後再診患者診療の効率化と共に、さらなる新患者の紹介増加を図る工夫を行いたい。

(入院)

新規入院患者数は月平均 153.5 人、1 日平均入院患者数は 69.2 人であり、入院患者総数は 1,842 人であった。平均在院日数は 12.3 日であり、例年通りの水準であった。

(手術)

令和 5 年の消化器外科手術総数は 1,274 件であった。令和 6 年の手術総数は 1,315 件であり、過去最高人数の手術件数となった。主な疾患別では、食道疾患 28 件、胃疾患 141 件、大腸疾患 357 件、肝胆膵腫瘍手術は 145 件であった。また、胆嚢摘出術 145 件、ヘルニア 143 件であった。腹腔鏡下手術は総数 830 件であり、全症例の約 63.1%を占めていた。令和 4 年 10 月から下部消化管手術、令和 5 年 1 月から上部消化管手術に、ロボット支援下手術（ダビンチ手術）が導入された。さらに令和 7 年 1 月から肝胆膵外科手術にもロボット支援下

手術（ダビンチ手術）が導入された。令和 6 年はダビンチ手術を 230 例施行しており、新しい術式を安全に行えている。

4. 今後の課題・目標

以前同様に常勤スタッフ数に対し、消化器外科専攻医が少ない状況が続いているが、近年県外から当院での研修および研修後の就職の問い合わせ、相談件数が増えている。全国の基幹病院と引けをとらない豊富な手術症例数、上級医からの教育体制が評価されつつあるのかもしれない。今後は県内外の研修医に向けて積極的にアピールを行い、岡山大学との連携も図り専攻医の更なる増加を実現したい。また、女性医師も就任し、女性医師が安心して働ける消化器外科を目指して環境整備を進めている。

高知県内では唯一、内視鏡外科専門医や肝胆膵外科高度技能専門医を定期的に輩出している。高知県内での臨床外科医育成の拠点となっている。さらに県内では唯一、消化器領域すべてにロボット支援下手術（ダビンチ手術）が行える状況となった。

平成 30 年度から実施している消化器外科内での臓器別グループ化も定着してきた。各グループ毎のカンファレンスも行なわれており、専門性のより高い診療が提供できるように努力をしている。各領域における臨床試験、治験等への取り組みもさらに充実できればと考えている。学会発表・論文業績においてもこれまで岡山大学関連病院の中で有数を保持しており、今後も業績を維持・向上させるべく、各スタッフの努力が望まれる。

患者さんにとって最善の治療を追求し、「断らない」「諦めない」「待たせない」をモットーに地域の医療機関と連携を取り、診療を行なっていきたい。

泌尿器科

1. 概要

泌尿器科領域の外来診療や手術治療を主とする入院診療を行った。当院は地域がん診療連携拠点病院であるため、泌尿器悪性腫瘍の患者さんが中心となるが、前立腺肥大症など排尿障害の治療や、尿路結石の手術なども積極的に行っている。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフ4名と、専修医2名の6名体制で診療を行った。常勤スタッフ4名は日本泌尿器科学会の専門医、3名は指導医であり、3名は泌尿器腹腔鏡技術認定医、ダビンチ手術 Certificate を取得している。

診療時間外についても1名のオンコール体制により緊急対応も行っている。

3. 診療実績

(外来)

令和6年度の外来患者総数は5,355人、月平均446人であり、前年度よりは減少している。

週4日（水曜以外）の外来診療は各日午前中2-3診察室の体制で行った。初診患者さんの紹介状は地域医療連携室へ事前にFAXで送っていただき、初診時にできるだけ効率よく検査ができるようにしている。

(入院)

入院患者さんの延べ数は3,525人で、こちらも前年度より減少していた。

入院目的となる大半の疾患に対してはクリニカルパスを使用し入院期間の短縮に努めている。パス適応の手術・検査は、腹腔鏡下副腎摘除術、腎摘除術、腎尿管全摘除術、TUL、尿管ステント留置術、TUR-BT、前立腺全摘除術、ロボット支援下前立腺全摘除術、HoLEP、精巣摘除術、前立腺生検である。

(手術)

令和6年の総手術件数は468例（前立腺生検も含む）であった。前年度に比べ減少している。当院麻酔科の人員減少に伴い、良性疾患の手術制限が行われたことによる影響が大きい。

主な手術内容としては泌尿器腫瘍に対する手術が多く、副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術を2例、腎腫瘍に対する鏡視下腎摘除術を21例、鏡視下腎部分切除術を5例行った。上部尿路腫瘍に対して後腹膜鏡下腎尿管全摘除術を8例行い、膀胱腫瘍に対しては腹腔鏡下膀胱全摘除術を6例（尿路変向はすべて回腸導管）、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）を76例（初発45例）行った。

前立腺癌に対しては前立腺全摘除術を腹腔鏡下で5例、ロボット支援下で33例行い、外科的去勢術を7例行った。精巣腫瘍に対する高位精巣摘除術は1例であった。

腫瘍以外については、鏡視下腎盂形成術を1例、前立腺肥大症に対する経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）を41例行い、結石治療として経尿道的結石破碎術（TUL）17例、経尿道的膀胱碎石術4例行った。尿管ステント留置・交換は73例、前立腺生検は106例（前立腺癌検出は74例）であった。

4. 今後の課題・目標

泌尿器科悪性腫瘍の手術においては、ほぼすべての術式でロボット支援下手術が保険適応となっており、こちらが今や標準的治療となりつつある。

令和4年より手術支援ロボット（ダビンチ Xi）が当院へ導入され、当院では前立腺全摘除術のみを行っていたが、令和7年からは腎部分切除術、膀胱全摘除術へ適応を拡大している。今後さらなる適応術式の拡大により、より安定した手術経過が期待される。

また、令和6年より自科麻酔による脊椎麻酔下手術の施行を開始している。これによりホルミウムレーザーを使用した前立腺肥大症手術や結石手術などの良性疾患に対する手術数の回復が期待される。

腎臓内科・膠原病科

1. 概要

腎臓疾患の基幹病院として、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、膠原病、血管炎の外来診療、入院診療を中心に行った。

2. スタッフ活動状況

平成 27 年 4 月から常勤スタッフ 3 名であったが、平成 28 年 8 月に 1 名退職し、常勤 2 名体制になった。令和 3 年度より、西村誠明先生に週 1 回外来担当いただき（火曜日午後、隔週）、佐田憲映先生に週 1 回膠原病院内対診枠担当いただき（水曜日午後、隔週）、計 4 名体制で診療した。

3. 診療実績

外来患者さんの延べ数は、3,748 人（令和 4 年度）、4,169 人（令和 5 年度）、4,160 人（令和 6 年度）、前年比 99.8%と減少した。6 月より新患の受け入れを停止したが、当院にカルテ歴を有する新患は受入れた。

入院患者さんの延べ数は、1,863 人（令和 4 年度）、1,836 人（令和 5 年度）、2,095 人（令和 6 年度）、前年比 114.1%と増加し、重症患者が多かった。

腎炎・ネフローゼ症候群、膠原病、血管炎の診断、診療を中心に継続した。血液浄化療法に関しては、①急性腎不全、慢性腎不全急性増悪時に対する血液透析、血液透析導入、②他院にて血液透析中の合併症に対する治療（手術、内視鏡治療、循環器内科的治療、化学療法等）、③腎移植前後の管理（血漿交換、血液透析）、④消化器疾患（GCAP、血漿交換等）、⑤特殊な疾患に対する血漿交換療法（血栓性血小板減少性紫斑病など）を行った。

日本透析学会令和 6 年末統計調査報告は、当院新規導入 24 名（平均 74.3 歳、23～94 歳、男性 17 名、女性 7 名）、原疾患①腎硬化症 45.8%、②糖尿病性腎症 12.5%、③慢性糸球体腎炎 4.2%と報告し

た。

他科入院中に合併する腎不全は、頻度が多く早期対応が望ましいと考え、対診枠は月～金、従来どおり継続した。時間外の急性腎不全、急性血液浄化、特殊な疾患に対する血漿交換療法に関しては、集中治療科、救急科と連携し対応した。定期的血液透析は休日も同様に継続し、周術期に関連した血液浄化は、ICU と連携し、時間外の臨時（緊急）透析に対応した。COVID-19 合併透析患者さんの入院中の血液透析（10A 病棟）を行った。

4. 今後の課題・目標

院内発症の腎不全管理、腎代替療法の選択・導入、維持透析中の合併症治療における血液透析管理を継続する。

腎炎・ネフローゼ症候群、血管炎が増加しており、また高齢化も進んでおり、早期発見・治療に努め、末期腎不全への進展を抑制したい。

当院の新規血液透析導入の傾向は、平均年齢が上昇（全国平均 71.4 歳）、本年度は、腎硬化症が増加する傾向が認められた。かかりつけ医との連携した慢性腎臓病（CKD）対策、特に早期発見・治療、その後の逆紹介アップに努める。

若手医師育成に関しては、当院は、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設であり、腎臓専門医、透析専門医の育成に努める。学生実習は可能な範囲で受入れた。腎臓疾患は、全身と密接に関連しており、全身疾患によって腎障害は惹起され、また、腎障害は全身に影響を与える。原疾患と腎疾患の関連を常に考えながら診断、治療を行う generalist の意識を育成する。平成 28 年 8 月透析専門医が 1 名退職したため、日本透析医学会認定施設の条件が満たされなくなり、平成 29 年度より教育関連施設に変更した。他の内科系診療科と協力し、総合内科専門医育成に努める。

移植外科

1. 概要

県内唯一の腎臓移植施設として生体腎臓移植手術・献腎移植手術を行い、現在までの多数の腎移植患者さん（他院で腎移植を施行した方も含む）のフォローアップを外来で行っている。

また、総合的な腎不全治療として、内シャント設置術、シャントトラブルの対応を行い、入院中の維持血液透析患者さんの診療を腎臓膠原病内科と協力して行っている。

2. スタッフ活動状況

現在、澁谷祐一医師と堀見孔星医師にて、外来診療・入院診療を行っている。

また、日本移植学会認定レシピエント移植コーディネーターである三谷と米本は入院外来患者さんへの生活指導やその他の様々な相談に対応しており、その他各方面のメンバーでチーム医療を展開する事でより多角的できめ細やかな腎移植後フォローを行っている。

また、学会活動も積極的に行っており、移植関連の各種地方学会や全国学会で発表を行った。

3. 診療実績

令和6年度は

生体腎移植 15 例

腹腔鏡下移植用腎採取術 15 例

シャント関連手術 56 例

を行った。

近年は透析導入することなく腎移植を行う先行的腎移植が増加している。透析による動脈硬化の進行や手術リスクの増加を考慮すると先行的腎移植はより良い成績が報告されており、当科でも積極的に取り組んでいる。

また、手術手技の確立や薬剤の飛躍的な発達により、腎移植自体の適応も広がっており、高齢者や合併症を多く持つ方の腎移植も増えてきている。

4. 今後の課題・目標

腎臓移植は患者の生活の質や生存率を向上させるだけではなく、医療費（移植医療は腎臓提供者も含め公費負担がほとんど）の面でも透析療法に比べ安価となるため、そのメリットは非常に大きいと考えられる。腎不全患者さんだけでなく一般の方へ腎臓移植医療の情報をきちんと提供し、腎移植を考える方・腎提供を考える方を増やしたいと考えている。

婦人科

1. 概要

産婦人科は婦人科腫瘍、産科周産期医療、生殖医療と女性ヘルスケア疾患に専門が更に分かれてきている。

婦人科は婦人科腫瘍と女性ヘルスケア疾患を取り扱っている。

2. スタッフ活動状況

婦人科は他の産科、生殖医療科の医師も兼任している。

3. 診療実績

週 5 日の外来診療を行っている。

令和 6 年度の初診患者さんは 613 例（紹介患者さんは 530 例）であり、逆紹介患者さんは 153 例であった。

4. 今後の課題・目標

初診患者さんの受け入れを遅滞なく行うため、逆紹介患者さんを増やし、再診患者数の削減が必要である。産科周産期症例が増加している中、婦人科疾患の救急対応に対して他施設との連携が必要である。

産科

1. 概要

産科は令和5年度末現在、専攻医2名を含む合計17名で診療にあたっている。

当院は高知県唯一の総合周産期母子医療センターとして、MFICU3床を有し、妊娠高血圧症候群（HDP）、妊娠糖尿病（GDM）、胎盤位置異常、癒着胎盤などのリスクの高い（ハイリスク）妊婦の診療を中心に診療にあたっている。また、NICU12床、GCU15床を有し、小児科、新生児科、小児外科の協力を得て、高知県全域から胎児発育不全、切迫早産、胎児疾患症例を受け入れている。なお、当院で対応が困難な胎児疾患症例に関しては診断までを当院で行い、治療を含めた管理については他県の高次施設とも連携しながら対応している。前述のようにこれまではハイリスク妊婦を中心に診療にあたっていたが、高知県内の分娩取り扱い施設の減少に伴い、リスクの高くない（ローリスク）妊婦の受け入れも開始した。また無床診療所で妊婦健診を行い、分娩や夜間・休日時に緊急対応を当院で行うセミオープンシステムを開始し、多くの妊婦が利用している。さらに、高齢妊娠の増加を背景に出生前診断を希望される妊婦も多いため、特殊外来を受診していただき、カウンセリングを含めた診療も行っている。

2. スタッフ活動状況

外来診療、入院診療および定時手術に加え、緊急手術や母体搬送などに対応している。

学術活動としては、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本超音波医学会をはじめ、周産期医療関連の学会に積極的に参加して、演題発表を行い、得られた最先端の情報を臨床現場に反映させている。学会発表後は論文作成も行っている。また、各学会指導医のもとで、専門医の取得も可能である。

シミュレーション教育にも力を入れている。看護スタッフとともにJ-CIMELS（日本母体救命システム普及協議会）、NCPR（新生児蘇生法普及事業）などチーム医療や産科救急に関する研修会に積極的に参加し、そこでの学びを病棟内での様々なシミュレーションを通して、診療技術の向上に加え、チーム医療のあり方を研修、実践できるよう取り組んでいる。また、コロナ禍で中止してい

た病院前産科救急研修（BLSO）の再開し、救急医や救命救急士の教育に取り組んでいる。その他、高知県周産期医療関係者研修事業の委託を受けて、周産期医療関係者研修会、症例検討会を開催することで、周産期に関わる人材育成や情報共有を進めている。

3. 診療実績

産科外来患者数	延べ 11,056 名
産科入院患者数	延べ 8,450 名
分娩件数（22週以降）	887 件
多胎 双胎	12 組
品胎	0 組
出生児総数	899 人
（22～27週：2人、28～33週：15人 34～36週：62人、37～41週：813人）	
帝王切開	291 件
母体搬送受け入れ件数	27 件
（搬送断り：14件、他院へ転院搬送：0件）	

新型コロナウイルスなど感染症の対応やNICUの空床状況、手術室の運用状況等により、搬送受け入れ困難な場合があった。院内の関連部署だけでなく、他院とも周産期医療体制における情報共有を密に行っている。

4. 今後の課題・目標

高知県の出生数は年々減少しているが、ハイリスク妊娠率には変化はなく、今後も増加する可能性が高いため、一つひとつの症例にかかる負担が大きくなっている印象である。また、分娩取り扱い施設の減少に伴い、妊婦健診のみを実施する施設が増加している。そのため2025年4月からは全県下でセミオープンシステムを導入した。当該施設外および分娩取り扱い施設外で管理されている妊婦の夜間・休日における診療のサポート体制を強化する必要がある。早産防止対策や胎児発育不全に対する管理、妊産褥婦のメンタルヘルスケアについては精神科、産後ケア施設と連携し、引き続き取り組んでいく予定である。

母児の健康を確保するために質の高い医療（安心・安全）を提供しつつ、産科を志し、高知県の産科医療を担う医師の育成に今後も力を入れていく。

生殖医療科

1. 概要

生殖医療専門医制度の認定研修施設として、日本産科婦人科学会規約を遵守し一般不妊治療から高度生殖医療に至る幅広い診療を行っている。
2022年4月より保険適用されたことに伴い、症例数が漸増傾向にある。

2. スタッフ活動状況

2024年3月生殖医療専門医1名が退職し専門医1名を含む医師2名、胚培養士3名で不妊治療を継続した。また、各診療科から紹介されたAYA世代（思春期・若年成人）の悪性腫瘍患者の妊孕性温存希望者に対して精子、未受精卵子および胚の凍結保存を行い高知県がん生殖部会にも報告している。更に、不妊症看護認定看護師2名による外来カウンセリングを適宜実施している。

また、全国および地方学会で積極的に演題発表を行っている。

3. 診療実績

主に体外受精、顕微受精（精巣内精子回収法を含む）、凍結融解胚移植など高度生殖医療、およびタイミング法、排卵誘発法など一般不妊治療を行っている。2023年12月新たにタイムラプスインキュベーターを導入し24時間体制での安定した環境下での受精卵、胚培養が可能になった。高度生殖医療の2024年1月～12月の実施件数および成績を示す。

【実施件数および成績】

- ① 採卵手術 114 周期
 - 体外受精 cIVF 74 周期
 - 顕微受精 ICSI 32 周期
 - 体外受精&顕微受精 split ICSI 8 周期
- ② 凍結融解胚移植 147 周期
- ③ 妊孕性温存のための未受精卵子凍結 2 周期、精子凍結 5 周期

胚移植あたりの臨床妊娠率 34.9%

- ④ 妊孕性温存療法
 - 未受精卵子凍結 2 例
 - 精子凍結 5 例

採卵周期はほぼ全例全胚凍結とし、ホルモン補充期下凍結融解胚移植を週2日行っている。

一方、インシデントとして融解胚紛失が数例発生した。

4. 今後の課題・目標

生殖医療に関する技術は日進月歩であり、顕微受精率、良好胚獲得率等の向上に向け、医師、培養士共に更なる技術向上を目指す。

また、インシデントに対して速やかな原因究明と対策を構築する。

小児科・新生児科

1. 概要

当科は、主に小児の内科的疾患を対象とし、高知県全域から患者さんを受け入れており、各地域の開業医院、病院の先生方と連携を保ちながら診療を行っている。また、外科的治療を要する児に関しても、小児外科および他の外科系診療科との連携を図りながら、患者さん全身の診療を行っている。小児病棟では院内学級も併設、院内保育士も配備されており、長期入院児の学業面および生活面のサポートを行っている。

総合周産期母子医療センターを有しており、県内の新生児疾患全般に関して診療を行っており、先天性心疾患および希少な重複外科疾患の一部は県外の専門施設と連携しながら対応している。

2. スタッフ活動状況

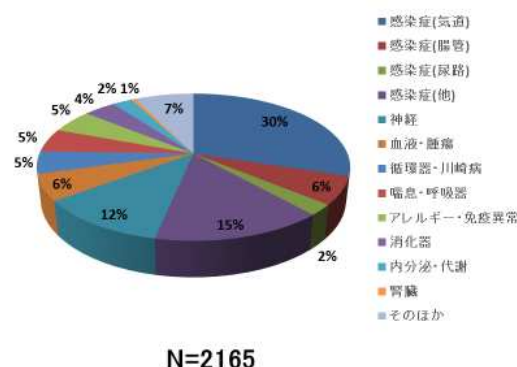
スタッフ 9 名(うち小児科専門医 7 名)、専攻医 1 名である。外来診察室は感染症 2 室、非感染症 4 室(小児外科含む)と分けて診療を行い、院内感染に配慮している。一般外来は、午前・午後行っている。専門外来では、小児循環器、小児神経、小児血液・腫瘍、内分泌・腎臓、慢性疾患、NICU 卒業児の発達フォローアップなどを行っている。

3. 診療実績

(入院：小児科病棟 図 1)

一般病棟への入院数は、2022 年度 643 人、2023 年度 718 人、2024 年度 804 人であった。入院数は年々増加傾向であり、2024 年度では年間 800 人台の入院数となり、3 年間の入院数は 2,165 人であった。RS ウイルス、インフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ノロウイルス等の流行がみられ、感染症は約 53%と半数程度であった。感染症以外では、神経疾患が約 12%と最も多かった。内訳はほぼ例年通りであった。

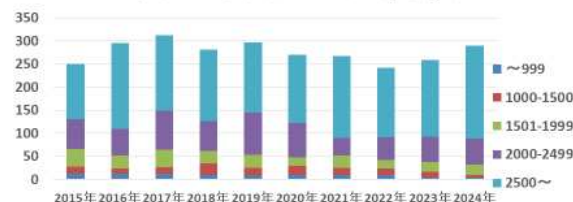
図1 2022～2024年度の疾患別入院割合(NICUを除く)



(入院：NICU 図 2)

NICU は過去 10 年間で 2,475 人の入院があった。低出生体重児が全体 4 割ほどで、近年減少傾向にある。10 年間の全死亡例は 21 例で、救命率は平均 99.2%であった。

図2 年別NICU入院数



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
総入院数	251	295	313	281	297	270	267	242	259	290	2475
死亡数	1	3	2	2	5	2	2	2	1	1	21
救命率(%)	99.6	99.099.4	99.3	98.3	99.3	99.3	99.3	99.2	99.6	99.7	99.2

(外来)

2024 年度の外来患者数は 15,954 名、予防接種件数 4,220 回(複数接種含む)、乳児健診 1,424 名であった。昨年度より外来患者数は増加、予防接種は減少しているが、いずれも増加している。また、分娩件数の増加に伴い、外来患者数・乳児健診数は大幅に増加している。

4. 今後の課題・目標

今後も現状と同様、地域の医療機関と連携して診療を継続していく予定である。

小児外科

1. 概要

日本小児外科学会認定施設として、小児外科・小児泌尿器科領域の外来・入院診療を行った。

2. スタッフ活動状況

日本小児外科学会専門医 1 名が一人医長として勤務する体制で、手術・病棟業務は主に小児領域を研修している初期臨床研修医と行っている。

緊急手術や高難度の予定手術は、他診療科の協力を得ながら、症例によっては岡山大学より学会認定指導医や専門医の応援を得て施行している。小児泌尿器科領域も小児外科領域と同様に泌尿器科の協力を得ている。

当院小児科が日本小児血液・がん学会研修施設であることから、若手小児科医の修練を外科的な立場でサポートしている。また日本周産期・新生児学会も修練施設であり、新生児外科的疾患に関する若手小児科医の修練をサポートしている。

日本外科学会専門医取得のためには、小児の手術経験が 10 例以上必要であるため、若手外科医の修練を院内・院外を問わず行っている。

3. 診療実績

(外来)

従来と同様に、月曜日と水曜日に外来診療を行っている。受診患者数が多く患者さん達からの希望もあり、金曜日にも外来診療を枠外で行っている。外来検査は火曜日と金曜日に行っているが、月曜日の午前中も必要に応じて行っている。多くの画像検査で小児の場合鎮静が必要となり、鎮静を行う場合は小児外科医が鎮静を行い、その後もすべての検査に立ち会っている。

(入院)

少子化影響で、小児患者数自体が少なくなっていることに加え、諸事情により当科の手術枠が 3 枠から 2 枠になったこともあって、手術症例数は 110 例となり、昨年の約 2/3 に減じている。

鏡視下手術は 10、新生児手術は 7 例、泌尿器科関連手術は 9 例であった。

4. 今後の課題・目標

日本小児外科学会は発足当初より日本の山々・津々浦々で等しく小児外科医療を行うべく専門医制度（以前は認定医制度）を 1980 年代から行ってきたが、近年の少子化による症例確保の問題もあり、複数県での集約化を行うべきではないかとその考え方を変えようとしている。

高知県における出生数が年々減少している現状を踏まえて、高知県における小児外科の必要性をどのように考えるか、他施設との集約化をどのように図るか、当院の施設認定を含め、行政とも十分に議論を行い、病院としての長期的なビジョンを示す必要がある。そのビジョンに沿うように、今後も恒常的に小児外科診療を行うための人的資源の確保に努めたい。

日本小児外科学会認定施設を維持に必要な手術数は年間 100 例は維持できている。今後さらなる出生数の減少を考慮すると、当院が施設認定を維持するために、今後もその年間 100 例の手術症例数を確保することが、必須の目標となる。

救命救急科

1. 概要

救命救急センターを拠点に、院内各科の専門医と連携を密にとりながら、早期診断と集学的治療において『救急医療は医の原点』という理念を実践し、患者さんが安心して高度救急医療を受けられるよう努めている。

2. スタッフ活動状況

常勤医 8 名(救急専門医 3 名)に加え、院内救命士(高知市消防からの派遣)1 名が令和 6 年 4 月から勤務開始となった。非常勤医師や院内協力も併せ、病院前・救急外来・入院診療を行う他、RRS 等を通じ病院全体の医療安全に関わると共に、COVID-19 等感染症診療も継続している。またメディカルコントロールとして各消防の事後検証や検証会出席(県内各地で月 1 回開催)、訓練参加等により教育・連携を行なっている。更に年間を通じて救急救命士を中心とした病院実習に携わり、その能力維持・向上に努めている。教育面では救急医学会認定 ICLS など各蘇生講習会、チーム診療・外傷診療・災害対応・集中治療・終末期医療等の標準化コース開催や、インストラクターとして県内外への参加を積極的に行っている。

3. 診療実績

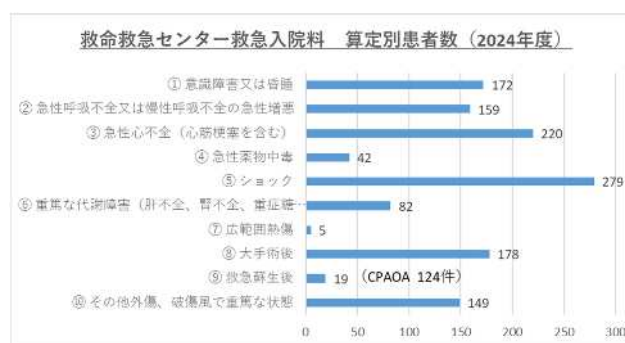
(病院前診療)

高知県ドクターヘリ事業の基地病院として、傷病者の積極的な受入れだけではなく、スタッフの教育、訓練も担っている。また近隣地域では欧州型ドクターカー(通称 FMRC)を積極的に活用しており、今後さらなる増加を見込んでいる。消防からの院内救命士の派遣によりタスクシフトが進み日勤帯でのドクターカー対応が円滑になり、転

院搬送については夜間オンコールを追加した体制で連携搬送料の確保の仕組みが進んだ。ICT により救急隊活動や病院前診療を支援しており、全国的にみて先進的な取り組みと評価されている。

(救急外来)

各科と連携し、外傷や脳卒中、急性冠症候群の対応など、直ちに必要な処置が実施できる体制を確保している。CPAOA は 124 件、t-PA 投与症例は 75 件であった。



(入院)

専任の薬剤師、栄養士、リハビリスタッフをICUに配置している。毎朝の他職種カンファレンスで治療内容が検討され、各診療科と連携しつつ遅滞なく治療を進めている。容態が落ち着き一般床への転棟時は総合診療科をはじめとした専門科への協力をいただいている。自殺未遂患者さんについては精神科への迅速な相談で再自殺予防のために退院後の支援に繋げている。

救命救急科

4. 今後の課題・目標

①診療

(病院前診療)

消防との活動検証により安全、迅速な活動を保証する。高知県ドクターヘリの安全運航を引き続き行い、ドクターカーは24時間運航を目標に体制を構築する。

(救急外来)

多発外傷など重症例に対する複数同時の診療体制を更に充実させるべく、効率的な救急外来運用を目指してレイアウト変更を行なっていく。また救急患者応需後はPFMを意識した入院の流れが構築できるように院内体制の見直しをおこなう。

(集中治療)

他科を含めたチーム医療を継続する。またリハビリテーションを重視し、早期の機能回復と集中治療室滞在期間の短縮を目指す。

②医療安全

情報の見える化と共有を推進し、チーム医療の実践と研修医を含めた医師によるインシデントレポートの提出増加を図る。倫理的課題には必要に応じ、多職種カンファレンスを実施する。

③教育・研究

講習会参加を奨励し、学会発表、論文作成を支援する。高知県の事情に即した高齢者医療を理解しつつ、救命センターとして求められる救急対応能力の向上を各スタッフが図ると共に、後進への継承に努める。

麻酔科・集中治療科

1. 概要

当院は急性期病院として多くの手術件数をこなしている。心臓血管外科手術や移植医療といった難度の高い手術も多く、また合併症を多く持つハイリスク患者さんや超高齢者の手術症例にも対応している。

集中治療室において、ハイリスク症例の術後管理を麻酔科・集中治療科が担当しており、術中～術後まで一貫した周術期管理を行っている。

2. スタッフ活動状況

現在、常勤、非常勤、専修医の計 15 名で運営しており、麻酔科専門医・指導医 12 名を擁する。2023 年に日本専門医機構の集中治療科専門研修施設として認定を受け、集中治療専門医 2 名を擁し、2 名の専攻医が専門医をめざし研鑽を積んでいる。また、心臓血管麻酔認定施設として心臓血管麻酔専門医 3 名を擁する。

スタッフ各自が麻酔専門医を土台とし、さらに上位の専門医取得に努めている。

3. 診療実績

手術室は 11 室あり、うち 1 室はハイブリッド手術室である。平成 27 年より稼動したハイブリッド手術室では、経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)、経皮的僧帽弁形成術 (MitraClip)、経皮的左心耳閉鎖術 (Watchman) などの低侵襲カテーテル心臓手術を実施している。

手術件数

令和 3 年度	約 4,900 件
令和 4 年度	約 5,100 件
令和 5 年度	約 5,500 件
令和 6 年度	約 5,100 件

術後鎮痛は、以前は硬膜外麻酔が主流であったが、抗凝固薬や抗血小板薬投与を受けている患者さんが増加しており、硬膜外麻酔が実施できないケースが増加している。このような患者さんに対して、近年急速に進歩している超音波ガイド下末梢神経ブロックを積極的に行っている。

集中治療室は 12 床で、外科の術後症例、内科の病棟急変症例、救急外来からの重症例を受け入れており、集中治療科が重症 COVID-19 患者の治療を担当している。

4. 今後の課題・目標

手術室での麻酔管理のみならず、集中治療、ペインクリニックの充実のため、教育システムの質をさらに向上させ、多くの麻酔科、集中治療科専攻医を獲得し、さらなる人員の拡充、育成に努めたい。

専攻医の先生方には、麻酔科専門医はもちろん、それを土台として集中治療専門医、心臓血管麻酔専門医、ペインクリニック専門医などの subspeciality 習得への道を開いている。

皮膚科

1. 概要

日本皮膚科学会認定専門医研修施設として、皮膚科領域の外来診療や入院診療（自科、他科問わず）を行った。

2. スタッフ活動状況

これまで常勤スタッフ 2 名が、平日午前 2 診体制で外来診療をおこない、緊急時の対応にも速やかに行えるようにした。他科からの対診依頼にも時間的に可能な範囲で対応した。

また、医療秘書も診療補助につき診療業務を円滑に行うために不可欠となっている。

さらに、不定期ではあるが、1 ヶ月単位での初期研修医の皮膚科研修で、人手のいる処置などでも非常に助かっている。

3. 診療実績

外来患者数	5,486 人(累計)
入院患者数	354 人(累計)
平均在院日数	12.4 日
局所麻酔下年間手術数（生検含む）	230 例
全身麻酔下年間手術数	6 例
(いずれも全身熱傷や形成手術応援)	
☆皮膚科への対診数	866 件（院内で 2 番目）
外来対診	344 件
入院対診	522 件

(外来)

従来のように、平日週 5 日の外来診療を常勤医師 2 名で、毎日 2 診体制で行った。開業医師からの紹介も多く、個々の症例に対する細やかな診療・治療を心がけてきた。院内他科からの当日紹介も多くあった。

鶏眼処置、疣贅冷凍凝固、紫外線治療、皮膚生

検、小手術、乾癬患者やアトピー性皮膚炎患者に対する生物学製剤の使用など可能な限り行っている。

皮膚悪性腫瘍の場合には、皮膚生検の結果や手術の侵襲の程度等に応じ、形成外科等へ紹介している。美容・レーザー治療などは他院へ紹介している。

毎月院外にて大学、勤務医、開業医と皮膚科の病診連携につながる勉強会・研究会等に参加し、スキルアップにつなげている。

(入院)

蜂窩織炎、带状疱疹、自己免疫性水疱症、中毒疹、薬疹、紅皮症、難治性下腿潰瘍、アトピー性皮膚炎の急性増悪等で入院治療を行ってきた。褥瘡に関しては褥瘡防止委員会の一員として WOC ナースや他のコメディカルと連携をとりながら、褥瘡回診を行っている。

他科入院中患者に関しては、一般病床、ICU、NICU、救急外来、手術室などありとあらゆる部署への往診を含め診察治療を行い、経過をフォローしている。

4. 今後の課題・目標

様々な合併疾患を有し、複雑化、高齢化した患者の皮膚疾患も目立ってきている。

当科だけでは対応できない皮膚悪性腫瘍の手術症例、全身と皮膚との関連を思わせるデルマドローム、病院全体として取り組む褥瘡治療、予防などのチーム医療も欠かせない状況である。

今後、新専門医制度の導入にあたり、施設認定の維持、研修システムへの参加などが必要不可欠である。十分今後も検討していく予定である。

整形外科

1. 概要

日本整形外科学会が認定する専門医研修施設として外傷、脊椎、関節、腫瘍を軸に手術加療をメインに診療を行った。

2. スタッフ活動状況

2024年3月31日をもって小松原先生が退職され4月1日より藤原先生が赴任された。

3. 診療実績

外来延べ患者数 8,383 人

入院延べ患者数 14,722 人

関連病院 2024 年 (1/1～12/31) の各種手術件数 (件)

総手術件数			1,195
外傷	骨折手術	上肢	167
		下肢	266
		骨盤	22
	偽関節手術		2
	その他		7
関節	鏡視下 ACL 再建		1
	鏡視下半月板手術		10
	鏡視下肩手術		0
	鏡視下手術その他		17
	骨盤骨切り		0
	下肢骨切り		3
	人工関節	THA	47
		TKA (UKA 含む)	57
		TEA	0
		その他 (肩・手関節・指)	0
	その他		4

脊椎 脊髄	頚椎		77
	胸椎		38
	腰椎		194
	脊椎・脊髄腫瘍		3
	その他		12
腫瘍	生検		6
	骨腫瘍	良性	18
		悪性	4
	軟部腫瘍	良性	39
		悪性	5
手	絞扼性神経障害		0
	ばね指		0
	腱		4
	先天奇形		0
	その他		3
足関節 足	足関節固定（鏡視下含む）		0
	外反母趾		0
	足趾形成術		0
	その他		1
切断	上肢		0
	下肢		5
感染	切開排膿		0
	搔爬+ α		8
抜釘・その他			175

4. 今後の課題・目標

今後もさらに手術件数を増やしていきたいと考えている。

形成外科

1. 概要

日本形成外科学会の認定施設および形成外科専門研修基幹病院として形成外科領域の外来診療、入院診療、手術治療をおこなった。

2. スタッフ活動状況

形成外科では常勤スタッフとして3名が在籍している。これまでの入院診療は手術が主な目的であったが、近年の創傷管理に対する意識の高まりやデバイスの進歩に伴って、当科でも創傷管理自体が目的の入院診療、さらに他科からの創傷管理の依頼が増えてきている。これには時間と人手が必要であり、今後さらに同様のケースが増え続けるなら人員増員も視野に入れた対策が必要かもしれない。

3. 診療実績

(外来)

基本的には外来は毎日行っている。少ない人数で回しているため病棟回診などと掛け持ちすることが多い。本来なら院外施設と連携して経過観察などを依頼すべきだが、高知県には形成外科専門医が少なく地域の病院に丸投げできないのが現状である。救急外来については切断指など、超緊急を要する場合は対応できないことがある。他科も含めマイクロサージャンの育成が待たれる。

(入院)

前述の通り、近年創傷管理に対する意識、技術、デバイスなどの進歩は目を見張るものがある。当院でも形成外科が創傷管理のスペシャリストとして認識されてきた。令和6年度の入院延べ人数は2,662人で対前年比97.8%であった。これに加えて同数もしくはそれ以上の他科入院中の患者さんの創傷処置を行っている。当科での平均在院日数は12.6日と前年より2.9日長い結果となっている。

(手術)

令和6年の形成外科単独手術、他科との共同手術含め手術は総数884件であった。総数は数年来変わらないが、内容は年々変化している印象がある。創傷管理と同様に手術の分野でも新しい機器、設備が導入され、より安全、正確におこなわれるようになった。顔面骨折はほぼ全例ハイブリッド手術室で行うことで、リアルタイムで整復の正確性が検証できている。

4. 今後の課題・目標

これまで同様、形成外科領域の疾患に対しての診療を行うことに加えて、更に他科に信頼されるよう連携をすすめたい。そのためには地域の病院との連携や創傷に関する理解が絶対条件となるので、できる限りのアピールや啓発活動も行っていきたい。

乳腺・甲状腺外科

1. 概要

日本内分泌外科学会認定施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本乳癌学会認定施設として甲状腺癌、乳癌を中心とした甲状腺・乳腺疾患の内科的治療、手術、薬物療法、遺伝カウンセリング、緩和治療などを行っている。またセカンドオピニオンにも対応している。

2. スタッフ活動状況

常勤スタッフ2名、甲状腺疾患は大石、乳腺疾患は吉岡が担当し、適宜ローテーション研修医、修練医が加わる。学外活動としては全国学会、地方会ともに演題発表には積極的に取り組んでおり、論文執筆も行っている。癌診療拠点病院に関連した講演活動なども行っている。各種教育セミナーや研究会にも参加し、知識、技術のアップデートに努めている。また、多発性内分泌腫瘍や遺伝性乳癌卵巣癌症候群をはじめとした遺伝性腫瘍に対するカウンセリング、サーベイランスにも力をいれている。さらにがんゲノムプロファイリング検査に関するセカンドオピニオンにも対応している。

3. 診療実績

以下に過去4年間の手術症例数を示す。

甲状腺手術症例数は順調に増えており、進行癌症例や再発症例に対する手術の他、バセドウ病や副甲状腺疾患に対する手術も積極的に行っている。術後出血等の合併症に対しても早急に対処できるよう安全対策の徹底をおこなっている。特に切除不能甲状腺癌に対してはがんゲノム医療を導入し、

安全に新規薬剤の導入を行っている。乳癌についてはエキスパンダーインプラント実施施設の認定を取得し、インプラントによる人工物での乳房再建のみならず、広背筋皮弁等の自家組織での再建も可能である。また、遺伝性乳癌卵巣癌患者に対するリスク低減乳房切除も対応可能である。

(外来)

2名の常勤スタッフで週2回終日の外来を行っており、一日あたり最大50人程度の患者さんの診療を行っている。紹介率も年々増加傾向にある。可能な限り待ち時間を短縮すべく迅速かつ丁寧な診察に努めている。また外来診療日以外の日でも緊急を要する場合は適宜対応可能な体制を取っている。セカンドオピニオン、遺伝カウンセリングなどは時間的余裕をもって対応できるよう外来受診日以外に日程を別途もうけるようにしている。紹介医には詳細な経過報告を遅滞なく行う事に留意している。

(入院)

手術については甲状腺、乳腺ともに最大1週間の入院で可能な限り早期退院を目指している。術後リハビリ、リンパ浮腫指導なども病棟スタッフが中心となり、患者満足度を上げるべく努力している。化学療法については患者さん教育、副作用観察、服薬指導などを目的に初回のみ数日の入院で行うようにしている。終末期の患者さんについては当院の機能上、長期入院が不可能なため、原則、近隣の緩和病床への紹介を行っている。合併症発症時に総合病院のメリットを活かすべく関連科への迅速なコンサルトを心がけている。

乳腺・甲状腺外科

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
乳腺 手術件数	98 例	64 例	77 例	6 例

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
甲状腺 手術件数	109 例	115 例	139 例	96 例

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
副甲状腺 手術件数	15 例	15 例	23 例	20 例

4. 今後の課題・目標

2名のスタッフで診療に当たっているが症例数の増加に伴いマンパワー不足を感じる場面も多くなってきたため後進の育成もかねて当科への勧誘、アピールも積極的に行っていきたい。

乳癌症例については外来治療が長期にわたることも多く、特に再発症例では終末期までを視野に入れた外来、入院間の途切れのない連携をいかに構築するかが今後の大きな課題である。

認定看護師などを仲介とした医師、コメディカル間の情報共有がこれらの解決策として期待される。

甲状腺手術に関しては県内唯一の内分泌外科専門医が在籍していることから紹介数も増えているが、安全性を追求した手術を目指す努力が続いている。

地域の中核病院として地元に信頼され都会の専門病院にひけをとらない診療体制の構築が我々に課せられた義務であり、症例数のみを追求するのではなく診療の質を落とさないよう個々の患者さんに対し真摯に向きあえるようなチーム医療体制の確立が今後の目標である。

IV 各委員会資料

医療安全管理委員会

1. 目的

委員会の目的は院内の医療安全管理対策の検討及び推進を行い、医療安全に関わる協議決定を行う事。定期開催日は毎月第2月曜日。委員は病院長が任命した各局の責任ある職員を含む26名。委員会の検討結果については、各局協議会を通じて各部署の全職員に周知徹底する。

2. 開催回数

12回（毎月）

3. 1年間の活動要約

- (1) 毎月のインシデントレポート統計の件数と表題別（7項目）の詳細分析と対策の報告、重要事案に関する報告を行った。さらに、医薬品安全管理に関する情報提供、医療機器安全管理に関する情報提供、医療放射線安全管理に関する情報提供、研修や点検実績の報告。統計報告は、毎月院内 Web にて全職員が共有できるようにしている。
- (2) 各局から医療安全に関する報告や提案を受けた。患者からの医療安全に関する相談は、まごころ窓口で対応するとともに医療安全管理センターからも窓口での患者相談がスムーズに進展するよう連携し対応事例への情報提供を相互に行なった。
- (3) 報告書確認対策チームからの報告を行った。CT、MRI、PET/CT の画像診断レポート、病理検査結果レポート、超音波検査レポートの未読に起因する有害事象をゼロにする取り組みを行なった。主治医が予期しておらず、かつ経過観察が必要となる事例はチームが後追いできるような仕組みを強化した。
- (4) 院内急変対応部会（RRS）からの報告を行った。RRS 起動基準カードを活用し急変前兆のタイミングで適切な対応ができるよう推進し、予期せぬ心肺停止を減らすための取り組みを行った。
- (5) B型肝炎ウィルススクリーニング WG からの報告を行った。抗がん剤に加え、生物学的製剤、抗リウマチ薬、注射用免疫抑制剤使用による B型肝炎ウィルスの再活性化を速やかにキャッチし、治療を開始できるよう取り組みを行った。
- (6) セイフティマネジメント部会からの報告を行った。転倒・転落予防への取り組み、「転倒による骨折 0」に向けた取り組みを行った。
- (7) 年間計画に基づく医療安全管理 Web 研修会の実施報告。アンケートによる職員の反応や研修

内容の評価、各局別に参加状況等を報告し、年2回の必須研修に参加していない職員に対する啓発を継続的に実施した。その結果、委託業者も含めた全職員の受講率は100%となった。

- (8) インシデント重要事案、医療問題検証委員会、医療事故調査委員会の報告を行い、方針、結論を確定した。
- (9) 医療安全管理マニュアルの改定、行事の企画運営等についての提案や報告を行った。

4. 今後の活動目標

各部会、チーム、WG の活動、研修を継続し医療安全の質向上に寄与する。

- (1) セイフティマネジメント部会
「転倒による骨折ゼロ」に向けた転倒・転落対策への取り組み、患者誤認防止への取り組みをを継続する。
- (2) 報告書確認対策チーム
CT、MRI、PET/CT の画像診断レポート、病理検査結果レポート、超音波検査レポートの未読に起因する有害事象をゼロにする取り組みを継続する。
- (3) 院内急変対応部会
RRS 起動により、予期せぬ心肺停止を減らすための取り組みを継続する。
- (4) B型肝炎ウィルススクリーニング WG
B型肝炎ウィルスの再活性化を速やかにキャッチし、治療を開始できるよう取り組みを継続する。また、免疫チェックポイント阻害剤による副作用への対応ができるよう取り組みを行う。
- (5) 中心静脈カテーテル挿入認定 WG
中心静脈カテーテル挿入・抜去を安全に行うための取り組みを行う。
- (6) ペイシェントハラスメント WG
職員の安心・安全を担保するため、ペイシェントハラスメントに適切に対応するための取り組みを行う。
- (7) 医療安全に関する職員研修
e ラーニングによる研修を企画し全職員 100% の受講継続を目指す。
- (8) 医療事故発生時の対応
医療問題検証委員会、医療事故調査委員会開催が必要な事案が発生した場合、速やかに会を開催し対応を検討する。
- (9) 医療安全管理マニュアルの改定
適宜、見直し、改定を行う。

院内急変対応部会

1. 目的

急性期充実体制加算（R4 新設）の要件となる「院内迅速対応チーム」の運用開始に伴い必要な検討・報告を行う。

2. 開催日・審議事項等

6 回開催（6 月、8 月、10 月、12 月、2 月）

3. 院内急変部会体制

① 院内迅速対応チーム

医療安全管理委員会の下部組織として当部会を設置し、当部会メンバーを「院内迅速対応チーム」メンバーとみなして運用開始。

② 24 時間対応できる体制の構築

時間内：救命救急科医師（救急外来ホットライン担当または病棟担当）

時間外：原則、救急外来ホットライン担当医師。ホットライン医師が対応できない場合は管理当直医師（HCU 医師）

③ RRS 対応マニュアル

④ 患者急変に対する職員研修（BLS 研修）

4. 1 年間の活動要約

R6 年度は、運用の検討及び「院内迅速対応チーム」の稼働数増を目指し以下の取り組みを行った。

① 所定研修の受講

FCCS コース 医師 1 名、看護師 1 名受講済

② 実績記録の運用検討

全国的な RRS レジストリ項目に合わせた入力項目及び記録の運用検討を行った。

③ 事後検証の実施

コードブルー、RRS が起動した事例のうち、改善を要する事例については事後で検証を行った。

④ 院内研修の実施

以下 4 回の研修を実施

（1）新規採用職員対象研修

（2）RRS に関する e ラーニング

（3）KIDUKI 委員会による集合研修

（4）RRS、CCOT 運用に関する医師向け研修

⑤ 患者急変に対する職員研修

全職員の BLS 研修受講推進

5. 今後の活動目標

R7 年度は、引き続き運用検討及び「院内迅速対応チーム」の稼働数増を目指し取り組む。

① 所定研修の受講について

医師 1 名、看護師 1 名の継続研修

② 実績記録の運用検討

全国レジストリ項目に準じた記録の運用開始

③ 事後検証の実施

医師・看護師を交えた事後検証の実施と当該部会での共有を行う。

④ 院内研修の実施と充実

・新規採用職員対象研修、

・職員対象集合研修

⑤ 患者急変に対する職員研修（BLS 研修）

・全職員が受講し 5 年毎の更新を行う。

医療関連感染対策委員会

1. 目的

病院長の諮問機関として、医療関連感染防止ための必要事項について審議することを目的としている。

2. 開催日・審議事項等

1) 定期開催 1 回／月（第 2 月曜日）

開催回数：12 回／年

2) 臨時開催必要時

(1) 臨時開催

開催回数：2 回／年

(2) 新型コロナウイルス感染症対策本部会議

開催回数：1 回／年

3. 1 年間の活動要約

1) 毎月の報告・検討事項

- (1) ICT・AST 運営部会、感染管理リンクナース会活動報告
- (2) 抗菌薬抗真菌薬使用状況報告
- (3) 院内感染対策レポート(血液培養／耐性菌等)
- (4) 医療系廃棄物不法投棄状況件数報告
- (5) 針刺し切創・皮膚粘膜曝露発生状況報告
- (6) 栄養部門便培養検査結果報告
- (7) 各局・各部門での取り組み等報告
- (8) 感染対策研修会参加状況報告
- (9) 感染対策向上加算地域連携に関する報告
- (10) 各種感染症対策 など

2) 検討および審議事項

- (1) 各種感染症発生時対策
- (2) 針刺し切創・皮膚粘膜曝露対策
- (3) サーベイランス結果・対策報告
- (4) 医療系廃棄物分別対策
- (5) 軟性内視鏡定期培養検査結果報告
- (6) 抗菌薬適正使用体制加算対策
- (7) 手術関連機器・診療材料の管理適正化対策
- (8) 感染症臨床研究ネットワーク事業参加
- (9) 高知県医療関連感染対策相談対応事業報告
- (10) マニュアルの改訂・承認

3) その他

インフルエンザウイルスワクチン集団接種

4. 今後の活動目標

委員会決定事項の職員への周知徹底を図る。

ICT（感染制御チーム）運営部会

<ICT メンバー：19 名>

医師	3 名
看護師	4 名
薬剤師	6 名
臨床検査技師	4 名
事務	2 名

1. 目的

医療関連感染対策を円滑に運営することを目的とする。そのための具体的な活動を行う。

2. 開催日・審議事項等

1) 定期開催：1 回／週（水曜日）

ICT 運営部会開催 47 回／年

2) 院内ラウンド：1 回／週（水曜日）

ICT チームラウンド実施 47 回／年

3. 1 年間の活動要約

1) 院内ラウンド

ICT チームラウンド（多職種ラウンド）

1 回／週定期実施：47 回／年

2) 感染対策研修会

2 回／年 e ラーニングで実施し、企業団・協力企業とも 100%受講完了

3) マニュアル作成・改訂など

4 項目マニュアル改訂

4) アウトブレイク対応

新型コロナウイルス感染症対応

季節性インフルエンザ対応

5) 加算 2 医療機関との合同カンファレンス

対象 11 施設と 4 回／年実施

6) 加算 1 医療機関との相互評価

訪問 1 回、受審 1 回

7) 厚生労働省サーベイランスデータ提出

検査部門

手術部位感染

新生児集中治療室（NICU）部門

8) ICT・AST ニュース発行

No. 1～14 号

9) 新型コロナウイルス感染症対策

院内外の感染防止対策実施

患者・職員・家族対応

4. 今後の活動目標

ICT・感染管理リンクナース会・各部門部署との連携を強化し、迅速な感染防止対策を実践する。

AST（抗菌薬適正使用支援チーム）運営部会

<AST メンバー：17 名>

医師	3 名
看護師	2 名
薬剤師	6 名
臨床検査技師	4 名
事務	2 名

1. 目的

抗菌薬・抗真菌薬の適正使用推進を目的とする。

2. 開催日・審議事項等

1) AST 運営部会

定期開催：1 回／週開催

開催 47 回／年

2) AST カンファレンス

原則平日毎日開催

3. 1 年間の活動要約

1) AST カンファレンス

(1)血液培養・耐性菌カンファレンス

(原則平日毎日開催)

(2)週報カンファレンス（1 回／週）

(3)抗菌薬・抗真菌薬長期使用カンファレンス

(1 回／週)

(4)(1)～(3)合計カンファレンス件数：1,319 件

2) 院内患者ラウンド

45 回／年実施

3) AST 研修会

2 回／年 e ラーニングで実施し、企業団・協力

企業とも 100%受講完了

4) 施設内アンチバイオグラム作成フィードバック

1 回／年

5) 院内・他施設からのコンサルテーション対応

随時対応

4. 今後の活動目標

抗菌薬適正使用に関わる体制を強化する。

抗菌薬・抗真菌薬使用量削減に取り組む。

各診療科への情報提供およびコンサルテーション依頼に対して迅速な対応をする。

透析機器安全管理委員会

1. 目的

透析関連機器の適切な保守点検管理を行い、透析業務を安全に行えるようにする。

2. 開催日・審議事項等

年 1 回 毎年 3 月に開催

3. 1 年間の活動要約

年間の透析関連機器の点検実施報告と来年度の点検予定を確認する。

4. 今後の活動目標

透析機器の点検と透析液の清浄化の確認を行って、安全に透析を行えるようにする。

職員の業務負担軽減委員会

1. 目的

高知医療センター全職員の業務負担軽減を図るため。

2. 開催日・審議事項等

(1) 令和6年7月3日(水)

- ・ 令和5年度の評価及び令和6年度の取組みについて 他

(2) 令和7年3月17日(月)

- ・ 令和6年度の間接評価及び令和7年度の取組みについて 他

3. 1年間の活動要約

当委員会はこれまでの「医師の勤務負担軽減委員会」「ワークライフバランス委員会」をまとめて平成30年度に新設された委員会で、医師に限定せず広く職員の勤務負担軽減を検討するものである。

病院長指針を基に負担軽減計画を策定し、取組内容とそれに対応する評価尺度を設け、計画は達成状況を確認しながら、常に見直しを行い、改善へと繋げていくものである。また、医師においては、医師労働時間短縮計画を策定し、当委員会で、評価、見直しを行っていく。

4. 今後の活動目標

上記2つの計画に基づき、年度ごとに評価を行うこととし、取組内容の見直し等を行うことで負担軽減と業務効率の上昇をはかる。

診療情報管理委員会

1. 目的

診療録の電子保存、電子媒体や紙媒体記録の精度管理、適正な診療記録の記載に関する啓発・教育・研修・広報、診療録等帳票の様式およびフォーマット、診療録の開示等診療情報の提供、その他診療録管理業務に関し必要と認める事項等の審議を行う。

2. 開催日・審議事項等

毎月1回 第3木曜日に開催

3. 1年間の活動要約

(1) 退院サマリ作成状況および受取点検

退院後2週間以内の担当医によるサマリ作成率及び診療科長の承認率を、毎月97～99%で維持できた。また看護サマリについても、作成・承認状況を確認し、各フロア科長へ督促を行い、承認率向上を図った。

(2) 未承認委譲者オーダー

未承認オーダーが残っている医師に対し、督促を行った。更に一定期間経過してもオーダーが承認されない場合は、その医師の所属科長にも督促を行い、委譲者オーダーの承認期間短縮を図った。

(3) 手術レポートの作成状況

手術レポートは、手術手技料算定の根拠であるため、医事請求業務委託事業者より状況を報告してもらい、手術記録の記載や点検、管理の強化を図った。

(4) 入院診療計画書7日以内の説明交付率

入院診療計画書の交付抜けが無いよう、運用の周知徹底を図った。

(5) 説明同意書様式の改訂

患者さんにとってわかりやすい同意書を目指し、現行様式の改訂作業を進めた。

4. 今後の活動目標

引き続き、退院2週間以内の医師退院サマリ承認率90%以上、委譲者オーダーの早期承認、手術レポートの未作成防止を目標に、医師への記載・承認依頼等督促の強化を図る。

入院診療計画書については、7日以内に確実に交付できるよう、関係部署と連携した取組みを継続する。

また、引き続き説明同意書様式の改訂を進める。

DPC コーディング委員会

1. 目的

適切な診断群分類の決定を促進することを目的とする。適切な DPC コーディング、「はずれ値」の評価、提出データの精度管理等の事項に関し、関係する部署および他の委員会等と連携しながら検討を行い、当院の DPC コーディングの質向上を目指す。

2. 開催日・審議事項等

2 ヶ月に 1 回開催

2024 年 5/20・7/25・9/18・11/20

2025 年 1/15・3/19

(1) 実績報告・コーディング検討

- ・ DPC 退院患者月別集計
- ・ DPC 入院期間の月別集計
- ・ DPC 出来高差額上位 10 症例
- ・ DPC コード修正実績
- ・ DPC コード検討症例

(2) その他

- ・ DPC 請求項目 医師承認率
- ・ 留意すべき ICD コード（詳細不詳病名）の月別使用割合
- ・ 未コード化傷病名（独自病名）の月別使用割合

3. 1 年間の活動要約

実績報告については、各資料に入院の経過やそれぞれの理由等記載し、委員会メンバーによるコーディングの妥当性について協議を行った。

また、実績報告資料のうち特に検討が必要な症例や、診療情報管理士が日々の点検業務でコーディングに疑問を感じた症例等を 2～3 症例ピックアップし、退院サマリや医療資源投入量の資料を基にコーディングの妥当性について協議を行った。

コーディングの協議結果については、適宜フィードバックを行った。

その他、医師の DPC 承認率、留意すべき ICD コード、未コード化傷病名の使用割合について問題がないことを確認した。

4. 今後の活動目標

より一層、適切な診断群分類による診療報酬請求と精緻なデータ提出ができるよう、医事請求担当と協力していくと共に、DPC 制度等について、医師をはじめとする院内職員に情報提供を行い、周知を図っていきたい。

臨床研修管理委員会（医科）

1. 目的

初期研修医が、円滑かつ充実した臨床研修生活を遂行できることを目的として開催する。

2. 開催日・審議事項等

第1回：令和6年4月30日（火）

- ・臨床研修管理委員会委員確認
- ・委員会要綱及び臨床研修病院としての理念・基本方針の確認
- ・令和6年度採用研修医の報告
- ・令和5年度及び令和6年度採用研修医研修ローテーション表
- ・令和7年度初期臨床研修プログラム
- ・令和6年度医学部医学科の学生向け説明会日程
- ・令和6年度医師臨床研修マッチングスケジュール及び採用試験日程
- ・令和6年度臨床研修管理委員会開催予定
- ・メンター制度

第2回：令和6年9月27日（金）

- ・令和7年度採用研修医マッチング試験
- ・令和5年度及び令和6年度採用研修医研修状況
- ・研修医の360度評価

第3回：令和7年3月21日（金）

- ・令和5年度採用研修医初期臨床研修プログラム修了等
- ・令和6年度及び令和7年度採用研修医研修予定
- ・令和7年度採用研修医オリエンテーション
- ・令和7年度採用研修医初期臨床研修プログラム
- ・令和6年度医師臨床研修補助金
- ・令和7年度採用研修医試験日程 他
- ・研修医レポート提出様式・運用

3. 1年間の活動要約

委員会として、病院長以下院内の指導医、初期研修医、事務職員、院外の連携施設の先生方（委任状提出）とともに研修上の問題点や課題について討論。

また、臨床研修管理センターを常時設置し、研修ローテーションや出向研修の管理、院外からの研修医受け入れなどに、円滑に対応できるようにしている。

<主な議題>

研修プログラムについての確認

- 概要、スケジュール、評価方法など
- 問題点・改善点など

採用試験についての確認

- 試験日の調整、試験結果の報告など
- マッチングの結果報告
- 医学部医学科の学生へのアプローチなど

4. 今後の活動目標

来年度も年3回の開催を予定している。当院の良さを活かした研修プログラムを提供できるよう、指導医や臨床研修管理センターで万全の体制を整え、初期研修医を指導する。

臨床研修管理委員会（歯科）

1. 目的

臨床研修歯科医（管理型2・1年コース、管理型3・2年コース）や後期研修歯科医に対し円滑かつ充実した研修生活が当院にて遂行できる事を目的として開催する。

2. 開催日・審議事項等

第1回（書面開催）：令和6年11月14日（木）
～令和6年11月28日（木）

報告事項を郵送して意見、質問を受付け

- ・今年度の応募状況、二次募集の実施なし
- ・令和7年度以降の歯科臨床研修プログラム変更事項
 - 協力型（Ⅰ）、（Ⅱ）臨床研修施設に「うぐるす歯科医院」を追加
 - 症例数の数え方、考え方を明確化
 - 修了判定を行う基準を明確化

3. 1年間の活動要約

研修プログラムの問題点や改善点の確認。

研修歯科医募集期間および採用試験日の調整、
採用試験に関する結果報告。

マッチングの結果報告。

院外の管理型研修施設の指導歯科医、院内の研修管理委員会の委員での研修上の問題点や今後の研修のあり方などを書面で確認。

4. 今後の活動目標

来年度は研修歯科医、後期研修歯科医を迎えることができるように研修環境を整えていく。

臨床倫理委員会

1. 目的

当院での診療や研究において、倫理的配慮を要する事例について（外部委員を含む）多職種での審議を行い、倫理的及び法的規範に即して実施されるよう病院としての統一見解を出す。

2. 開催日・審議事項等

令和6年 4/15・4/22・5/1・6/12・10/23

令和7年 1/28

（1）審議事項

- ・身体抑制に関する検討
- ・児童死亡確認後の角膜提供手順の検討 など

（2）その他

「適切な意思決定支援に関する指針」の策定に向けた検討

3. 1年間の活動要約

「臨床倫理委員会」と、下部組織として「臨床倫理コンサルテーション部会」を開催した。

倫理に関する研修を実施した。

4. 今後の活動目標

- ・倫理問題に現場で対応できるチーム作りを目指し、倫理に関する研修を実施する。
- ・下部組織の「臨床倫理コンサルテーション部会」においては、臨床現場で日常的に遭遇する倫理的に価値判断が困難な事案に対する相談・支援を行う。

治験審査委員会

1. 目的

治験を依頼した製薬会社や治験を実施する医師等とは独立した第三者的な機関として設置されている。治験を計画通りに実施することができるか、参加される患者さんの治療に不利益にならないかな等を事前に取り決めた手順書に従って、治験を開始する前に確認している。また、治験実施中に、治験が正しく実施されているか確認したり、安全性に問題がないかを評価し、治験を継続すべきか判断したりしている。

2. 開催日・審議事項等

令和 6 年 4 月 22 日

令和 6 年 5 月 27 日

令和 6 年 6 月 24 日

令和 6 年 7 月 22 日

令和 6 年 8 月 26 日

令和 6 年 9 月 30 日

令和 6 年 10 月 28 日

令和 6 年 11 月 25 日

令和 6 年 12 月 23 日

令和 7 年 1 月 27 日

令和 7 年 2 月 17 日

令和 7 年 3 月 24 日

院内実施中治験の安全性報告、治験に関する変更、新規案件実施の可否等審査している。

3. 1 年間の活動要約と今後の目標

月 1 回の開催を行い、院内の実施試験を患者さんの人権保護と安全確保の観点から公正に審議していく。

がんサージカルボード運営部会

1. 目的

がん患者の病態に応じた適切ながん医療の提供、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的としたカンファレンスを運営する。

上記カンファレンスの開催は、がん診療連携拠点病院の認定要件である。

2. 開催日・審議事項等

開催は毎週火曜日の 17:30 とする。提示される事例がなければ招集されない。

以下のカンファレンスを開催する。

- ・手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門を異にする医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的にがん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス
- ・臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス

3. 1年間の活動要約

令和 6 年度の開催は 17 回、検討事例件数は 26 例であった。参集メンバーは、病理医、放射線治療医、腫瘍内科医、画像診断医、消化器外科医、消化器内科医、乳腺外科医、整形外科医、脳神経外科医、耳鼻咽喉科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医、泌尿器科医、形成外科医、総合診療科医、緩和ケア医など症例に関連する診療科医、ならびに薬剤師、看護師、放射線技師、栄養士、理学療法士、MSW、医療秘書などである。

治療方針が決定した際には、必要な対診日程なども決定し、速やかに治療が開始できるように調整を行う。

またがんゲノム医療におけるがん遺伝子プロファイリング出検の妥当性について検討を行っており、提出については検体の確認や家族歴の聴取など、多職種での情報共有を行っている。

4. 今後の活動目標

事例の提示方法についての周知を図り、臨床倫理的、社会的な問題について、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした事例の提示の促進を目指す。

院内の関係者が参集できるよう、広く開催案内を行うことに努める。

抗がん剤レジメン管理委員会

1. 目的

抗がん剤レジメンオーダの運用を円滑に行い、抗がん剤の適正使用を推進することを目的とする。注射用抗がん剤はレジメンオーダによってのみ施行できるものとしている。

2. 開催日・審議事項等

(1) 第 54 回 令和 6 年 9 月 13 日

① レジメンの登録、使用状況について

レジメン総数 832 件（使用率 30.5%）

新規登録 15 件、修正 20 件、削除 0 件

② 注射用抗がん剤の当日発生件数について

③ 適応回数の上限を超えた投与の防止策

④ 制吐剤の変更について

(2) 第 55 回 令和 7 年 3 月 6 日

① レジメンの登録、使用状況について

レジメン総数 752 件（使用率 32.7%）

新規登録 17 件、修正 158 件、削除 101 件

② 注射用抗がん剤の当日発生件数について

③ 制吐剤の変更について

④ 年齢別投与量の異なるレジメンについて

3. 1 年間の活動要約

- 1) 迅速審議により、32 レジメンを承認した。
- 2) レジメン管理のため、削除 101 件、修正 178 件を行った。
- 3) 制吐剤ガイドラインの改訂に伴い、中・高度 催吐性レジメンの制吐剤の変更を行った。
- 4) レジメンの上限回数の確認を容易にするため、レジメン名称の修正を行った。
- 5) 前処置のヒドロコルチゾンが供給不足となり、メチルプレドニゾンへ変更を行った。

4. 今後の活動目標

レジメンの稼働率や運用状況、妥当性を評価し、使用していない登録レジメンは削除するなど、レジメンの整理を行い、抗がん剤の適正使用を推進していく。

検体検査運営委員会

1. 目的

検体検査の精度および妥当性を調査し、臨床検査の適正化と質的向上を図るとともにその他検体検査業務に関し、必要と認める事項などの審議を行う。

2. 開催日・審議事項等

毎月 1 回 第 4 月曜日に開催し、下記内容について検体検査室より報告、その内容について審議を行う。

- ①業務量報告
- ②検査活動状況報告および精度管理実施状況報告
- ③トラブル・インシデント報告
- ④外注検査分野からのお知らせ
- ⑤その他

3. 1 年間の活動要約

- (1)検査数は病棟・外来の出検比率に大きな変化は認めない。
- (2)各検査分野における検査報告所要時間は、再検査を含め約 99%が規定報告時間内で報告完了している。
内部精度管理状況は年間を通じ、良好であった。検体検査項目関係要望書による新規項目登録件数は 22 件であった。

- (3)インシデントは 8 件発生した。

全ての事例において根本原因を検証し対策を講じており、対策を実行して 6 ヶ月後に再度検証を行い、継続性を確認している。

KYT 活動を進めリスク管理を行っている。

- (4)外注検査からのお知らせ（新規・変更・中止案内）は 52 件であった。

- (5)その他報告・審議案件として、病院機能評関連、接遇研修会開催、診療要望対応、臨地実習生受入れ、検体検査室機器更新計画、検査変更案内などを行い、審議・承認のうえ対応した。

4. 今後の活動目標

引き続き、品質管理を徹底し、検体検査の質的向上を図っていく。

検査所要時間は規定時間内報告 100%を目指し、またインシデント事例については過去に発生した内容も含め、要因解析を十分に行い、改善策を講じていく。

診療側および院内各部署からの要望事項に可能な限り対応し、診療支援を行う。また新規項目、新たな保険収載項目など最新の情報展開にも心がけ、関係部署との連携を図っていく。

褥瘡防止委員会

1. 目的

当院は、救命救急センターをはじめ、循環器病センター、がんセンター、総合周産期母子医療センターなどの機能を有しており、全身状態が不安定な患者さん、高侵襲の治療を受ける患者さん、高齢者など皮膚が脆弱な患者さん等が多く、褥瘡の発生リスクが非常に高い。当院ではリスクアセスメントを行い、多職種が連携をし、褥瘡発生予防、褥瘡の治癒、褥瘡悪化予防など褥瘡対策に取り組むことを目的としている。

2. 開催日・審議事項等

原則毎月第2金曜日開催

褥瘡発生状況の報告を毎回実施。褥瘡対策に関する内容については医療局、看護局、薬剤局、栄養局、医療技術局、事務局で協議し、チーム医療を推進している。

3. 1年間の活動要約

- (1) 褥瘡保有者の状況報告を毎回実施し、重要な案件に対しては、防止策の検討を行い、周知徹底を目指した。
- (2) 院内発生の褥瘡は、インシデントレポートで報告している。
- (3) 体圧分散寝具が効果的に使用できているか、定期的なラウンドを実施し、整備および不足については購入した。
- (4) 褥瘡防止委員会リンクナース会を毎月開催し、より実践的なケアにつながる知識、技術の向上に取り組んだ。
- (5) 院内研修の実施

4. 今後の活動目標

今後も、褥瘡防止委員会を引き続き1回/月の開催とし、各専門職の専門技能を集結かつ有効に発揮できる場の提供に努める。

また、病院機能に必要な物品等の充足、褥瘡防止等に向けた職員への啓発活動の継続、さらに地域と連携を図り、チーム医療のより一層の充実を図りたい。

行動制限最小化委員会

1. 目的

精神科病棟における患者の基本的人権を尊重するため、医療及び保護に不可欠な必要最低限の行動制限基準を定め、適切な運用を図ることを目的とする。

2. 開催日・審議事項等

毎月第4水曜日に開催する。

3. 1年間の活動要約

行動制限が長期化した症例がなかったかに注意を払った。

医療保護入院から任意入院への変更ができないかを検討した。

また、任意入院の任意性は確保できているかを検討した。

精神科職員に精神保健福祉法の研修を行った。

4. 今後の活動目標

対象事例が発生した場合には委員会を開催して審議する。行動制限を少なくするように検討していく。

適正輸血療法推進委員会

1. 目的

高知医療センターにおける輸血療法の適正化を図る。

2. 開催日

6回／年 隔月第3火曜日開催

3. 1年間の活動要約

1) 月次報告

毎月以下の統計をとり、委員会で検証している。

- ・日赤血購入額
- ・使用単位数内訳（RBC、FFP、PC）
- ・製剤廃棄額
- ・廃棄製剤内訳（RBC、FFP、PC）
- ・Alb/RBC比、FFP/RBC比
- ・科別使用単位数
- ・血液製剤大量使用例
- ・心臓血管外科血液製剤使用例
- ・超緊急対応
- ・副作用報告（発生件数、払出票回収率、終了実施入力率、副作用入力率）
- ・返却PC（理由、転用の有無）
- ・遡及調査
- ・不規則抗体検査実施率

2) 輸血療法に関する説明・同意書（血漿分画製剤を含む）改訂

希釈式自己血及び回収式自己血の内容を追記した。

3) 小児の輸血関連採血量について再周知

4) 救急外来での超緊急輸血オーダ単位数について

現行の1オーダ上限は4単位であるが、限られ

た重症症例のみ1オーダ上限を8単位とした。

5) 輸血同意書の再取得について

再取得の要不要についての事例を検討した。

6) RhD陰性「未確定」患者の緊急輸血について

RhDの確定に時間を要するため、RhD陰性製剤を選択することを条件にRhD「未確定」で製剤使用可とした。

7) 輸血マニュアル改訂

同意書再取得の事例について追記した。

8) 緊急輸血マニュアル改訂

RhD陰性「未確定」患者の緊急輸血について追記した。

9) 免疫グロブリン製剤の説明・同意書改訂

複数製品をまとめたものへ改訂。一部製剤は単一薬剤での説明・同意書を用いることとした。

10) MTP（大量輸血プロトコール）について

運用体制の構築について検討した。

11) 輸血関連インシデントの共有

再発防止と注意喚起のため、情報共有を行った。

12) 高知県輸血・細胞治療研究会活動

世話人会 参加（7月）。

4. 今後の活動目標

院内における輸血に関する問題点を多職種で審議し、より一層輸血療法の適正化を図りたい。

薬事委員会

1. 目的

医薬品の有効かつ安全な使用および病院経営の効率化を検討することを目的とする。

2. 開催日・審議事項等

原則として2ヶ月に1回、定期的に行う。

令和6年度

第1回 令和6年 5月 17日

第2回 令和6年 7月 19日

第3回 令和6年 9月 20日

第4回 令和6年 11月 15日

第5回 令和7年 1月 17日

第6回 令和7年 3月 5日

3. 1年間の活動要約

- 1) 新規採用医薬品申請書の審議や処方量・医薬品の供給状況による変更・削除、後発品への変更等を検討。

●審議結果（品目数）

	採用	削除	後発品 変更	フラグ 変更	屋号 変更
第1回	8	12	1	5	7
第2回	20	9	9	7	1
第3回	12	9	0	8	4
第4回	10	21	1	6	1
第5回	24	2	4	6	6
第6回	7	27	1	7	2

* 採用は限定、院外等も含む

- 2) マニュアル等の改訂

- ・高知医療センターにおける医薬品の採用・削除基準
- ・高知医療センターにおける後発品採用基準
- ・医薬品管理(取扱)マニュアル【第5版】

- 3) 院内WEBを利用した医薬品情報の提供
252件

- 4) 採用医薬品数（令和7年3月31日現在）

- ・採用医薬品：1376品目
- 処方薬：809品目
- 注射薬：567品目
- ・限定購入医薬品：353品目
- ・院外処方専用医薬品：633品目

4. 今後の活動目標

後発品への変更や使用頻度の低い医薬品の削除を検討することで、医薬品購入額を下げ、病院経営の効率化を目指す。

V クリニカルインディケーター

1 退院患者数

(1) 診療科別・性別退院患者数

(単位：人)

診療科	性別	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総合診療科	男	255	190	203
	女	311	169	168
精神科	男	49	50	36
	女	49	63	66
血液内科・輸血科	男	502	555	628
	女	391	382	475
糖尿病・内分泌内科	男	52	34	11
	女	61	31	23
放射線療法科	男	0	0	0
	女	0	0	0
感染症科	男	0	0	0
	女	0	0	0
腫瘍内科	男	2	0	1
	女	1	0	0
ペインクリニック科	男	7	20	6
	女	4	15	16
放射線科	男	353	392	3
	女	298	319	1
脳神経外科	男	0	0	338
	女	0	0	314
眼科	男	57	59	89
	女	70	64	54
耳鼻咽喉科	男	233	239	242
	女	117	141	113
歯科口腔外科	男	67	73	68
	女	66	89	82
呼吸器内科	男	244	244	221
	女	132	118	141
呼吸器外科	男	192	279	256
	女	121	126	96
循環器内科	男	703	692	646
	女	365	347	345
心臓血管外科	男	217	195	200
	女	96	100	101
乳腺・甲状腺外科	男	42	51	31
	女	187	217	93
消化器内科	男	661	655	665
	女	434	427	426
消化器外科・一般外科	男	1,026	1,249	1,160
	女	645	728	718
泌尿器科	男	404	465	364
	女	130	124	105
腎臓内科・膠原病科	男	55	52	66
	女	40	35	47
婦人科	男	0	1	0
	女	552	574	593
生殖医療科	男	0	0	0
	女	2	4	6
移植外科	男	60	79	81
	女	49	82	74
救命救急科	男	154	202	220
	女	121	122	167
小児科	男	505	548	595
	女	389	444	483
小児外科	男	85	96	62
	女	43	40	34
産科	男	2	0	0
	女	731	829	1,044
皮膚科	男	14	8	12
	女	9	14	14
整形外科	男	595	531	463
	女	615	633	548
形成外科	男	86	140	104
	女	86	109	87
緩和ケア内科	男	0	0	0
	女	0	0	0
児童精神科	男	13	8	9
	女	14	21	11
合計	男	6,635	7,107	6,780
	女	6,129	6,367	6,445

(2) - 1 診療科別・在院期間別・性別退院患者数

令和4年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	在院期間								
						1 ～8	9 ～15	16 ～22	23 ～1M	1M ～2M	2M ～3M	3M ～6M	6M ～1Y	1Y～
総 合 診 療 科	566	4.4%	男	255	16.0	69	100	40	14	28	4			
			女	311	12.2	131	111	38	14	12	4	1		
精 神 科	98	0.8%	男	49	48.5	2	6	2	12	13	7	7		
			女	49	36.5	3	7	6	6	21	5	1		
血 液 内 科 ・ 輸 血 科	893	7.0%	男	502	22.8	149	91	109	63	62	11	11	6	
			女	391	17.8	137	63	94	51	34	8	4		
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	113	0.9%	男	52	10.8	24	26	1				1		
			女	61	8.2	39	19	1	1	1				
腫 瘍 内 科	3	0.0%	男	2	9.0	1	1							
			女	1	3.0	1								
ペインクリニック科	11	0.1%	男	7	7.3	5	2							
			女	4	3.5	4								
脳 神 経 外 科	651	5.1%	男	353	13.6	127	110	67	24	23	2			
			女	298	15.3	91	98	64	18	20	7			
眼 科	127	1.0%	男	57	4.5	56	1							
			女	70	5.0	63	6	1						
耳 鼻 咽 喉 科	350	2.7%	男	233	14.0	128	59	8	6	20	12			
			女	117	10.5	65	41	1	2	7	1			
歯 科 口 腔 外 科	133	1.0%	男	67	10.7	45	12	5		2	3			
			女	66	9.8	37	21	4	2	2				
呼 吸 器 内 科	376	2.9%	男	244	11.4	129	52	27	19	16	1			
			女	132	9.6	74	34	10	8	6				
呼 吸 器 外 科	313	2.5%	男	192	9.5	127	42	9	5	8	1			
			女	121	9.0	83	25	9	2	1	1			
循 環 器 内 科	1,068	8.4%	男	703	7.6	543	87	30	12	23	7	1		
			女	365	10.6	214	75	36	18	19	3			
心 臓 血 管 外 科	313	2.5%	男	217	21.2	54	81	38	17	13	8	4	1	1
			女	96	21.9	27	22	10	14	17	5	1		
乳 腺 ・ 甲 状 腺 外 科	229	1.8%	男	42	5.2	40	2							
			女	187	6.3	155	26	1	3	2				
消 化 器 内 科	1,095	8.6%	男	661	9.0	451	118	38	27	26		1		
			女	434	9.3	267	102	34	20	11				
消化器外科・一般外科	1,671	13.1%	男	1,026	13.4	456	303	120	64	71	7	5		
			女	645	12.2	267	242	69	33	31	2	1		
泌 尿 器 科	534	4.2%	男	404	7.3	290	83	19	8	3	1			
			女	130	9.1	92	19	9	5	5				
腎臓内科・膠原病科	95	0.7%	男	55	17.2	26	10	6	5	6	1		1	
			女	40	18.3	19	7	4	2	5	2	1		
婦 人 科	552	4.3%	男	0	-									
			女	552	5.8	490	53	4	2	3				
生 殖 医 療 科	2	0.0%	男	0	-									
			女	2	4.0	2								
移 植 外 科	109	0.9%	男	60	13.7	28	13	5	8	6				
			女	49	12.5	23	14	4	2	6				
救 命 救 急 科	275	2.2%	男	154	4.2	131	11	5	5	2				
			女	121	4.5	109	7	1	1	2		1		
小 児 科	894	7.0%	男	505	9.5	386	65	12	14	15	6	7		
			女	389	12.4	279	47	19	17	15	6	5		1
小 児 外 科	128	1.0%	男	85	5.0	75	6	2	1	1				
			女	43	4.2	39	2	2						
産 科	733	5.7%	男	2	2.0	2								
			女	731	8.5	604	72	23	11	15	5	1		
皮 膚 科	23	0.2%	男	14	24.1	3	4	2	3	1		1		
			女	9	20.4	3	2	1	1	2				
整 形 外 科	1,210	9.5%	男	595	12.3	230	196	106	38	20	4	1		
			女	615	12.8	211	212	128	41	21	1	1		
形 成 外 科	172	1.3%	男	86	17.4	43	12	5	9	15	1	1		
			女	86	10.8	61	9	4	2	10				
児 童 精 神 科	27	0.2%	男	13	56.6		4	1	3		1	4		
			女	14	47.9	2	2	1		4	4	1		
合計	12,764	100.0%	男	6,635	12.4	3,620	1,497	657	357	374	77	44	8	1
			女	6,129	11.2	3,592	1,338	578	276	272	54	18	0	1

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

(2) - 2 診療科別・在院期間別・性別退院患者数

令和5年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	在院期間								
						1 ～8	9 ～15	16 ～22	23 ～1M	1M ～2M	2M ～3M	3M ～6M	6M ～1Y	1Y～
総 合 診 療 科	359	2.7%	男	190	17.7	63	52	27	25	17	4	1	1	
			女	169	15.8	55	48	33	15	16	2			
精 神 科	113	0.8%	男	50	57.0	1	4	4	6	20	10	3	2	
			女	63	45.5	3	10	10	7	16	9	8		
血 液 内 科 ・ 輸 血 科	937	7.0%	男	555	22.6	151	117	105	68	82	18	13	1	
			女	382	19.8	102	101	72	50	40	10	6	1	
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	65	0.5%	男	34	8.5	20	11	2	1					
			女	31	7.8	19	12							
ペインクリニック科	35	0.3%	男	20	6.3	15	4	1						
			女	15	7.5	12	2	1						
脳 神 経 外 科	711	5.3%	男	392	15.2	112	134	73	35	36	2			
			女	319	18.1	71	102	70	42	26	5	3		
眼 科	123	0.9%	男	59	6.0	56	1			2				
			女	64	4.7	62	1			1				
耳 鼻 咽 喉 科	380	2.8%	男	239	13.8	134	67	5	4	17	11	1		
			女	141	7.7	95	40	3	2		1			
歯 科 口 腔 外 科	162	1.2%	男	73	9.5	53	11	3	2	3		1		
			女	89	10.0	59	20	2	1	5	2			
呼 吸 器 内 科	362	2.7%	男	244	10.5	145	44	23	13	18	1			
			女	118	9.5	79	17	9	4	8	1			
呼 吸 器 外 科	405	3.0%	男	279	11.2	170	69	22	9	5	3			1
			女	126	8.9	82	31	8	1	4				
循 環 器 内 科	1,039	7.7%	男	692	7.0	536	84	35	17	19	1			
			女	347	10.4	205	77	30	13	20	2			
心 臓 血 管 外 科	295	2.2%	男	195	19.4	52	52	36	21	30		3	1	
			女	100	18.4	28	18	24	13	16	1			
乳 腺 ・ 甲 状 腺 外 科	268	2.0%	男	51	4.4	50	1							
			女	217	6.1	176	35	1	2	3				
消 化 器 内 科	1,082	8.0%	男	655	8.8	460	117	35	29	12	1		1	
			女	427	8.6	274	101	38	5	8	1			
消化器外科・一般外科	1,977	14.7%	男	1,249	12.1	584	406	109	76	56	16	2		
			女	728	13.0	302	262	77	41	36	5	3	2	
泌 尿 器 科	589	4.4%	男	465	7.3	328	98	29	7	3				
			女	124	8.7	88	19	9		8				
腎臓内科・膠原病科	87	0.6%	男	52	19.3	22	9	5	4	10	1	1		
			女	35	21.0	14	10	1	2	5	1	2		
婦 人 科	575	4.3%	男	1	9.0		1							
			女	574	5.9	509	47	12	1	5				
生 殖 医 療 科	4	0.0%	男	0	-									
			女	4	3.3	4								
移 植 外 科	161	1.2%	男	79	12.6	44	15	2	9	9				
			女	82	12.7	44	22	3	3	9		1		
救 命 救 急 科	324	2.4%	男	202	3.4	181	16	2	3					
			女	122	4.0	115	4		1	1		1		
小 児 科	992	7.4%	男	548	10.4	408	60	23	12	35	6	3	1	
			女	444	9.8	344	53	13	13	10	7	2	1	1
小 児 外 科	136	1.0%	男	96	3.6	91	3	2						
			女	40	4.3	36	1	3						
産 科	829	6.2%	男	0	-									
			女	829	9.3	654	107	23	14	21	7	3		
皮 膚 科	22	0.2%	男	8	11.6	3	2	3						
			女	14	14.1	7	2	4			1			
整 形 外 科	1,164	8.6%	男	531	13.6	203	147	108	39	29	4	1		
			女	633	13.2	174	254	144	41	17	3			
形 成 外 科	249	1.8%	男	140	11.4	85	23	14	6	10	2			
			女	109	10.5	82	11	3	2	8	3			
児 童 精 神 科	29	0.2%	男	8	42.6		1	1	2	1	3			
			女	21	39.3	1	5		4	8	1	2		
合計	13,474	100.0%	男	7,107	12.1	3,967	1,549	669	388	414	83	29	7	1
			女	6,367	11.5	3,696	1,412	593	277	291	62	31	4	1

(2) - 3 診療科別・在院期間別・性別退院患者数

令和6年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	在院期間								
						1 ～8	9 ～15	16 ～22	23 ～1M	1M ～2M	2M ～3M	3M ～6M	6M ～1Y	1Y～
総 合 診 療 科	371	2.8%	男	203	18.0	43	64	40	31	21	3	1		
			女	168	15.1	45	65	23	22	12	1			
精 神 科	102	0.8%	男	36	50.8	2	6	3	3	12	6	3	1	
			女	66	42.5	7	8	9	7	24	4	6	1	
血 液 内 科 ・ 輸 血 科	1,103	8.3%	男	628	19.0	183	130	136	79	82	10	8		
			女	475	19.0	163	75	91	76	56	8	6		
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	34	0.3%	男	11	7.8	5	6							
			女	23	7.2	16	6	1						
腫 瘍 内 科	1	0.0%	男	1	2.0	1								
			女	0	-									
ペインクリニック科	22	0.2%	男	6	4.7	6								
			女	16	6.6	12	4							
放 射 線 科	4	0.0%	男	3	3.3	3								
			女	1	3.0	1								
脳 神 経 外 科	652	4.9%	男	338	16.9	95	111	60	27	36	7	2		
			女	314	16.8	90	81	69	36	30	8			
眼 科	143	1.1%	男	89	5.7	80	6	1	1	1				
			女	54	5.1	52	2							
耳 鼻 咽 喉 科	355	2.7%	男	242	14.6	138	60	10	5	11	18			
			女	113	8.4	77	29	1	3	1	2			
歯 科 口 腔 外 科	150	1.1%	男	68	7.6	48	12	2	6					
			女	82	7.2	57	20	4		1				
呼 吸 器 内 科	362	2.7%	男	221	11.2	137	38	16	11	16	2	1		
			女	141	9.3	91	29	11	3	6	1			
呼 吸 器 外 科	352	2.7%	男	256	10.4	157	61	15	10	11	1	1		
			女	96	8.9	63	26	3	2	1		1		
循 環 器 内 科	991	7.5%	男	646	7.0	496	94	25	15	12	4			
			女	345	8.1	241	57	30	6	10	1			
心 臓 血 管 外 科	301	2.3%	男	200	20.4	49	50	42	22	28	7	2		
			女	101	16.1	38	24	13	18	6	1	1		
乳 腺 ・ 甲 状 腺 外 科	124	0.9%	男	31	4.9	29	1	1						
			女	93	5.2	87	5			1				
消 化 器 内 科	1,091	8.2%	男	665	7.7	488	110	41	12	13	1			
			女	426	8.8	290	81	32	15	6	1	1		
消化器外科・一般外科	1,878	14.2%	男	1,160	13.8	496	375	116	77	73	16	6	1	
			女	718	12.9	297	246	94	38	31	6	6		
泌 尿 器 科	469	3.5%	男	364	7.3	230	100	26	7	1				
			女	105	7.5	68	22	12	2	1				
腎臓内科・膠原病科	113	0.9%	男	66	20.9	36	10	5	3	5	3	4		
			女	47	18.9	23	8	1	6	4	5			
婦 人 科	593	4.5%	男	0	-									
			女	593	5.9	528	48	9	4	4				
生 殖 医 療 科	6	0.0%	男	0	-									
			女	6	3.0	6								
移 植 外 科	155	1.2%	男	81	13.4	40	17	6	11	5	1	1		
			女	74	12.3	31	27	6	6	2	1	1		
救 命 救 急 科	387	2.9%	男	220	4.8	188	17	9	2	4				
			女	167	3.7	154	7	1	2	2	1			
小 児 科	1,078	8.2%	男	595	8.6	467	71	22	10	17	4	3	1	
			女	483	8.7	364	58	19	16	21	3	2		
小 児 外 科	96	0.7%	男	62	3.2	61	1							
			女	34	3.6	33		1						
産 科	1,044	7.9%	男	0	-									
			女	1,044	8.1	909	69	18	17	25	5	1		
皮 膚 科	26	0.2%	男	12	13.8	4	4	2	1	1				
			女	14	13.1	5	6	1		2				
整 形 外 科	1,011	7.6%	男	463	14.9	136	161	91	32	39	2	2		
			女	548	14.5	131	221	123	34	37	2			
形 成 外 科	191	1.4%	男	104	15.5	56	18	13	5	7	3	2		
			女	87	12.7	51	12	9	7	7	1			
児 童 精 神 科	20	0.2%	男	9	30.8	1	2	1	1	2	2			
			女	11	32.2	2	2	2		3	2			
合 計	13,225	100.0%	男	6,780	12.3	3,675	1,525	683	371	397	90	36	3	
			女	6,445	11.0	3,932	1,238	583	320	293	53	25	1	

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

(3) 診療科別・性別・在院日数の平均

(単位：日)

診療科	性別	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総合診療科	男	16.0	17.7	18.0
	女	12.2	15.8	15.1
精神科	男	48.5	57.0	50.8
	女	36.5	45.5	42.5
血液内科・輸血科	男	22.8	22.6	19.0
	女	17.8	19.8	19.0
糖尿病・内分泌内科	男	10.8	8.5	7.8
	女	8.2	7.8	7.2
腫瘍内科	男	9.0	-	2.0
	女	3.0	-	-
ペインクリニック科	男	7.3	6.3	4.7
	女	3.5	7.5	6.6
放射線科	男	-	-	3.3
	女	-	-	3.0
脳神経外科	男	13.6	15.2	16.9
	女	15.3	18.1	16.8
眼科	男	4.5	6.0	5.7
	女	5.0	4.7	5.1
耳鼻咽喉科	男	14.0	13.8	14.6
	女	10.5	7.7	8.4
歯科口腔外科	男	10.7	9.5	7.6
	女	9.8	10.0	7.2
呼吸器内科	男	11.4	10.5	11.2
	女	9.6	9.5	9.3
呼吸器外科	男	9.5	11.2	10.4
	女	9.0	8.9	8.9
循環器内科	男	7.6	7.0	7.0
	女	10.6	10.4	8.1
心臓血管外科	男	21.2	19.4	20.4
	女	21.9	18.4	16.1
乳腺・甲状腺外科	男	5.2	4.4	4.9
	女	6.3	6.1	5.2
消化器内科	男	9.0	8.8	7.7
	女	9.3	8.6	8.8
消化器外科・一般外科	男	13.4	12.1	13.8
	女	12.2	13.0	12.9
泌尿器科	男	7.3	7.3	7.3
	女	9.1	8.7	7.5
腎臓内科・膠原病科	男	17.2	19.3	20.9
	女	18.3	21.0	18.9
婦人科	男	-	9.0	-
	女	5.8	5.9	5.9
生殖医療科	男	-	-	-
	女	4.0	3.3	3.0
移植外科	男	13.7	12.6	13.4
	女	12.5	12.7	12.3
救命救急科	男	4.2	3.4	4.8
	女	4.5	4.0	3.7
小児科	男	9.5	10.4	8.6
	女	12.4	9.8	8.7
小児外科	男	5.0	3.6	3.2
	女	4.2	4.3	3.6
産科	男	2.0	-	-
	女	8.5	9.3	8.1
皮膚科	男	24.1	11.6	13.8
	女	20.4	14.1	13.1
整形外科	男	12.3	13.6	14.9
	女	12.8	13.2	14.5
形成外科	男	17.4	11.4	15.5
	女	10.8	10.5	12.7
児童精神科	男	56.6	42.6	30.8
	女	47.9	39.3	32.2
合計	男	12.4	12.1	12.3
	女	11.2	11.5	11.0

(4) - 1 診療科別・年齢階層別・性別退院患者数

令和4年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	年齢階層							
					0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
総合診療科	566	4.4%	男	255				6	16	36	97	100
			女	311			2	12	71	43	57	126
精神科	98	0.8%	男	49				2	7	18	14	8
			女	49			3	2	14	19	7	4
血液内科・輸血科	893	7.0%	男	502				8	23	77	275	119
			女	391				1	25	39	241	85
糖尿病・内分泌内科	113	0.9%	男	52				5	1	17	25	4
			女	61				1	16	20	21	3
腫瘍内科	3	0.0%	男	2						1	1	
			女	1							1	
ペインクリニック科	11	0.1%	男	7						2	2	3
			女	4					3	1		
脳神経外科	651	5.1%	男	353			10	3	7	53	158	122
			女	298			1		9	40	105	143
眼科	127	1.0%	男	57	1	5	13	1	1	3	23	10
			女	70		11	13		1	5	29	11
耳鼻咽喉科	350	2.7%	男	233	4	7	10	7	28	62	94	21
			女	117	2	6	5	7	18	29	36	14
歯科口腔外科	133	1.0%	男	67		2	8	2	6	19	14	16
			女	66			5	1	11	9	23	17
呼吸器内科	376	2.9%	男	244						26	157	61
			女	132						23	72	37
呼吸器外科	313	2.5%	男	192				4	9	33	112	34
			女	121				1	7	18	67	28
循環器内科	1,068	8.4%	男	703					9	99	375	220
			女	365					2	29	114	220
心臓血管外科	313	2.5%	男	217					3	27	126	61
			女	96						4	40	52
乳腺・甲状腺外科	229	1.8%	男	42					2	9	19	12
			女	187					11	68	93	15
消化器内科	1,095	8.6%	男	661				1	12	137	338	173
			女	434			1	2	17	54	164	196
消化器外科・一般外科	1,671	13.1%	男	1,026			3	3	37	141	660	182
			女	645			2	3	22	113	310	195
泌尿器科	534	4.2%	男	404				1	5	40	252	106
			女	130					4	26	56	44
腎臓内科・膠原病科	95	0.7%	男	55				2	8	13	23	9
			女	40					2	15	20	3
婦人科	552	4.3%	男	0								
			女	552			2	2	130	217	167	34
生殖医療科	2	0.0%	男	0								
			女	2					2			
移植外科	109	0.9%	男	60					4	24	23	9
			女	49					4	20	21	4
救命救急科	275	2.2%	男	154	1	1	3	1	9	28	61	50
			女	121	1			3	14	13	37	53
小児科	894	7.0%	男	505	332	66	102	2	3			
			女	389	268	48	65	5	2	1		
小児外科	128	1.0%	男	85	38	27	19	1				
			女	43	14	19	10					
産科	733	5.7%	男	2	2							
			女	731				1	669	61		
皮膚科	23	0.2%	男	14	1					3	6	4
			女	9					1		5	3
整形外科	1,210	9.5%	男	595		8	22	11	46	141	263	104
			女	615		2	13	5	29	88	200	278
形成外科	172	1.3%	男	86	3	4	10	2	9	18	31	9
			女	86	8	4	9	2	6	34	17	6
児童精神科	27	0.2%	男	13			13					
			女	14			14					
合計	12,764	100.0%	男	6,635	382	120	213	62	245	1,027	3,149	1,437
			女	6,129	293	90	145	48	1,090	989	1,903	1,571

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

(4) - 2 診療科別・年齢階層別・性別退院患者数

令和5年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	年齢階層							
					0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
総合診療科	359	2.7%	男	190			1	4	4	25	85	71
			女	169				3	13	13	41	99
精神科	113	0.8%	男	50				5	11	16	12	6
			女	63			2	12	18	18	10	3
血液内科・輸血科	937	7.0%	男	555				1	23	94	346	91
			女	382				3	25	53	220	81
糖尿病・内分泌内科	65	0.5%	男	34			1	1	1	8	17	6
			女	31					10	11	6	4
ペインクリニック科	35	0.3%	男	20						12	6	2
			女	15					5	1	3	6
脳神経外科	711	5.3%	男	392	1	1	2	2	8	61	199	118
			女	319	2	1	2	2	5	36	125	146
眼科	123	0.9%	男	59	1		10			3	32	13
			女	64		7	15	1	2	6	22	11
耳鼻咽喉科	380	2.8%	男	239	2	17	15	5	19	56	114	11
			女	141		3	11	4	21	46	48	8
歯科口腔外科	162	1.2%	男	73		1	12	1	13	17	22	7
			女	89			4	4	16	22	25	18
呼吸器内科	362	2.7%	男	244					2	19	163	60
			女	118					4	16	63	35
呼吸器外科	405	3.0%	男	279			1	4	6	43	165	60
			女	126					4	23	67	32
循環器内科	1,039	7.7%	男	692			1		9	105	360	217
			女	347						29	111	207
心臓血管外科	295	2.2%	男	195					2	25	106	62
			女	100						4	49	47
乳腺・甲状腺外科	268	2.0%	男	51					3	15	29	4
			女	217					19	70	99	29
消化器内科	1,082	8.0%	男	655				4	12	108	353	178
			女	427				1	13	43	169	201
消化器外科・一般外科	1,977	14.7%	男	1,249			4	3	35	181	763	263
			女	728			1	5	37	137	327	221
泌尿器科	589	4.4%	男	465			1	4	9	55	294	102
			女	124			1		10	16	71	26
腎臓内科・膠原病科	87	0.6%	男	52				2	2	12	16	20
			女	35					4	3	18	10
婦人科	575	4.3%	男	1						1		
			女	574			2	3	124	251	169	25
生殖医療科	4	0.0%	男	0								
			女	4					4			
移植外科	161	1.2%	男	79			1		2	34	35	7
			女	82				2	6	26	36	12
救命救急科	324	2.4%	男	202	1	2	6	6	16	41	66	64
			女	122		1	2	4	8	22	38	47
小児科	992	7.4%	男	548	333	100	103	6	6			
			女	444	279	73	82	6	4			
小児外科	136	1.0%	男	96	54	23	18	1				
			女	40	17	12	10		1			
産科	829	6.2%	男	0								
			女	829				8	768	53		
皮膚科	22	0.2%	男	8						2	4	2
			女	14					3	3	4	4
整形外科	1,164	8.6%	男	531		3	28	9	41	130	226	94
			女	633		1	23	7	20	76	226	280
形成外科	249	1.8%	男	140	4	9	9	8	8	33	51	18
			女	109	3	6	11	5	10	30	30	14
児童精神科	29	0.2%	男	8			8					
			女	21			21					
合計	13,474	100.0%	男	7,107	396	156	221	66	232	1,096	3,464	1,476
			女	6,367	301	104	187	70	1,154	1,008	1,977	1,566

(4) - 3 診療科別・年齢階層別・性別退院患者数

令和6年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	年齢階層							
					0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
総合診療科	371	2.8%	男	203				2	5	16	99	81
			女	168				2	4	11	59	92
精神科	102	0.8%	男	36				1	9	12	9	5
			女	66			3	10	17	20	13	3
血液内科・輸血科	1,103	8.3%	男	628				9	23	125	351	120
			女	475					24	59	280	112
糖尿病・内分泌内科	34	0.3%	男	11						2	7	2
			女	23					7	7	7	2
腫瘍内科	1	0.0%	男	1							1	
			女	0								
ペインクリニック科	22	0.2%	男	6						4	2	
			女	16						8	5	3
放射線科	4	0.0%	男	3							3	
			女	1						1		
脳神経外科	652	4.9%	男	338	2	3	2	3	12	62	151	103
			女	314		1	3		8	51	110	141
眼科	143	1.1%	男	89	1	6	12		3	6	41	20
			女	54		2	9	1	1	4	23	14
耳鼻咽喉科	355	2.7%	男	242	1	12	12	1	25	45	120	26
			女	113	1	1	7	1	16	38	35	14
歯科口腔外科	150	1.1%	男	68			8	6	10	19	18	7
			女	82			5	5	15	13	23	21
呼吸器内科	362	2.7%	男	221					2	29	161	29
			女	141					3	15	86	37
呼吸器外科	352	2.7%	男	256			1	5	3	30	161	56
			女	96			1	2	2	20	40	31
循環器内科	991	7.5%	男	646					2	106	337	201
			女	345					1	20	140	184
心臓血管外科	301	2.3%	男	200					1	23	126	50
			女	101						9	52	40
乳腺・甲状腺外科	124	0.9%	男	31			2		2	3	14	10
			女	93				2	6	39	31	15
消化器内科	1,091	8.2%	男	665				2	25	125	332	181
			女	426				4	22	57	163	180
消化器外科・一般外科	1,878	14.2%	男	1,160			4	3	23	180	741	209
			女	718				5	31	124	350	208
泌尿器科	469	3.5%	男	364			2	4	3	34	235	86
			女	105				2	3	10	64	26
腎臓内科・膠原病科	113	0.9%	男	66				3	3	10	30	20
			女	47					7	7	25	8
婦人科	593	4.5%	男	0								
			女	593			2	9	114	267	177	24
生殖医療科	6	0.0%	男	0								
			女	6					5	1		
移植外科	155	1.2%	男	81					3	24	43	11
			女	74					4	21	45	4
救命救急科	387	2.9%	男	220	4	2	3	10	24	46	72	59
			女	167	1		5	2	15	26	39	79
小児科	1,078	8.2%	男	595	352	77	146	13	7			
			女	483	296	68	103	11	5			
小児外科	96	0.7%	男	62	28	18	16					
			女	34	14	12	8					
産科	1,044	7.9%	男	0								
			女	1,044				17	975	52		
皮膚科	26	0.2%	男	12			1		1	3	4	3
			女	14				1	1	3	4	5
整形外科	1,011	7.6%	男	463	1	3	16	10	41	96	198	98
			女	548	2	4	11	8	11	72	208	232
形成外科	191	1.4%	男	104	6	3	5	8	12	24	30	16
			女	87	2	5	10	1	6	19	26	18
児童精神科	20	0.2%	男	9			9					
			女	11			11					
合計	13,225	100.0%	男	6,780	395	124	239	80	239	1,024	3,286	1,393
			女	6,445	316	93	178	83	1,303	974	2,005	1,493

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

(5) - 1 診療科別・年齢階層別・性別在院日数の平均

令和4年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
総合診療科	566	4.4%	男	255	16.0				5.5	8.8	12.1	17.8	17.6
			女	311	12.2			4.5	6.3	6.4	7.3	16.5	15.8
精神科	98	0.8%	男	49	48.5				29.0	47.7	65.2	33.2	43.4
			女	49	36.5			64.0	51.5	26.6	41.3	38.1	17.0
血液内科・輸血科	893	7.0%	男	502	22.8				28.3	30.7	23.8	24.7	16.0
			女	391	17.8				2.0	22.9	14.4	19.1	14.4
糖尿病・内分泌内科	113	0.9%	男	52	10.8				5.8	14.0	9.0	8.2	40.0
			女	61	8.2				7.0	7.3	6.5	10.5	9.0
腫瘍内科	3	0.0%	男	2	9.0						8.0	10.0	
			女	1	3.0							3.0	
ペインクリニック科	11	0.1%	男	7	7.3						5.0	5.0	10.3
			女	4	3.5					2.7	6.0		
脳神経外科	651	5.1%	男	353	13.6			7.5	3.0	11.7	11.3	14.2	14.7
			女	298	15.3			5.0		10.3	17.3	13.5	16.4
眼科	127	1.0%	男	57	4.5	3.0	2.8	3.2	8.0	3.0	7.0	4.7	5.7
			女	70	5.0		3.0	3.1		3.0	9.8	5.4	6.1
耳鼻咽喉科	350	2.7%	男	233	14.0	7.8	9.7	5.9	6.6	6.6	12.3	20.2	10.0
			女	117	10.5	5.5	8.0	6.0	7.3	7.8	12.5	11.3	12.8
歯科口腔外科	133	1.0%	男	67	10.7		3.0	3.4	6.0	7.8	9.6	14.7	14.9
			女	66	9.8			5.4	10.0	7.9	11.0	9.4	12.2
呼吸器内科	376	2.9%	男	244	11.4						8.2	10.8	14.3
			女	132	9.6						8.0	8.8	12.4
呼吸器外科	313	2.5%	男	192	9.5				4.0	17.7	9.2	8.0	13.2
			女	121	9.0				4.0	5.7	5.9	8.3	13.4
循環器内科	1,068	8.4%	男	703	7.6					6.0	5.9	6.3	10.6
			女	365	10.6					6.5	5.9	9.2	12.0
心臓血管外科	313	2.5%	男	217	21.2					16.3	19.1	23.6	17.5
			女	96	21.9						7.5	25.6	20.2
乳腺・甲状腺外科	229	1.8%	男	42	5.2					7.5	4.9	5.3	4.8
			女	187	6.3					5.3	6.2	6.4	7.1
消化器内科	1,095	8.6%	男	661	9.0				4.0	9.8	7.8	8.6	10.6
			女	434	9.3			6.0	7.5	6.7	7.0	7.0	12.1
消化器外科・一般外科	1,671	13.1%	男	1,026	13.4			5.0	22.7	8.2	12.4	12.9	16.7
			女	645	12.2			4.0	5.3	14.8	10.0	11.5	14.3
泌尿器科	534	4.2%	男	404	7.3				4.0	3.4	6.2	7.4	7.6
			女	130	9.1					6.3	5.8	9.1	11.4
腎臓内科・膠原病科	95	0.7%	男	55	17.2				9.0	6.0	11.0	24.3	20.0
			女	40	18.3					3.0	8.8	22.8	46.3
婦人科	552	4.3%	男	0	-								
			女	552	5.8			3.5	5.0	4.7	5.7	6.4	7.9
生殖医療科	2	0.0%	男	0	-								
			女	2	4.0					4.0			
移植外科	109	0.9%	男	60	13.7					8.3	17.0	14.0	6.4
			女	49	12.5					4.3	13.4	13.4	11.8
救命救急科	275	2.2%	男	154	4.2	8.0	2.0	3.0	16.0	6.0	4.3	3.1	4.8
			女	121	4.5	2.0			4.0	2.8	6.7	6.6	3.0
小児科	894	7.0%	男	505	9.5	10.8	6.7	7.0	4.5	8.0			
			女	389	12.4	11.5	6.5	20.8	5.6	5.0	38.0		
小児外科	128	1.0%	男	85	5.0	5.7	4.5	4.4	3.0				
			女	43	4.2	5.9	3.4	3.3					
産科	733	5.7%	男	2	2.0	2.0							
			女	731	8.5				10.0	8.2	11.0		
皮膚科	23	0.2%	男	14	24.1	10.0					13.7	16.8	46.5
			女	9	20.4					9.0		23.8	18.7
整形外科	1,210	9.5%	男	595	12.3		2.5	3.5	6.1	10.2	11.4	13.4	15.0
			女	615	12.8		3.0	5.7	10.2	9.3	9.3	12.8	14.8
形成外科	172	1.3%	男	86	17.4	4.3	3.5	6.6	16.0	7.4	17.6	25.3	22.4
			女	86	10.8	3.3	4.0	3.3	6.5	9.0	9.6	17.8	26.7
児童精神科	27	0.2%	男	13	56.6			56.6					
			女	14	47.9			47.9					
合計	12,764	100.0%	男	6,635	12.4	10.2	5.7	8.9	10.6	11.9	12.2	12.9	13.5
			女	6,129	11.2	11.0	5.4	17.1	8.5	8.2	9.3	11.7	13.6

(5) - 2 診療科別・年齢階層別・性別在院日数の平均

令和5年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
総合診療科	359	2.7%	男	190	17.7			4.0	9.5	9.3	16.0	17.1	20.1
			女	169	15.8				7.0	7.1	9.8	17.5	17.3
精神科	113	0.8%	男	50	57.0				70.0	81.2	36.6	50.6	69.0
			女	63	45.5			18.5	31.1	26.5	64.5	54.7	89.7
血液内科・輸血科	937	7.0%	男	555	22.6				8.0	30.2	22.1	22.9	20.2
			女	382	19.8				5.7	19.2	20.5	20.2	19.2
糖尿病・内分泌内科	65	0.5%	男	34	8.5			3.0	6.0	6.0	9.1	8.3	10.2
			女	31	7.8					7.8	6.7	9.3	8.3
ペインクリニック科	35	0.3%	男	20	6.3						6.6	6.3	4.0
			女	15	7.5					4.6	19.0	8.0	7.7
脳神経外科	711	5.3%	男	392	15.2	11.0	14.0	3.5	3.5	15.9	11.7	15.0	17.5
			女	319	18.1	6.0	4.0	6.5	13.5	14.0	18.7	18.7	18.2
眼科	123	0.9%	男	59	6.0	2.0		3.0			2.7	7.7	5.1
			女	64	4.7		2.7	2.9	3.0	3.0	8.5	4.9	6.6
耳鼻咽喉科	380	2.8%	男	239	13.8	9.0	7.6	6.7	7.4	7.3	11.3	17.6	21.5
			女	141	7.7		5.3	7.5	7.3	8.3	5.9	8.7	11.0
歯科口腔外科	162	1.2%	男	73	9.5		3.0	3.1	10.0	5.1	5.6	18.7	9.4
			女	89	10.0			3.0	6.3	6.1	9.1	14.4	10.9
呼吸器内科	362	2.7%	男	244	10.5					6.5	5.2	9.7	14.7
			女	118	9.5					2.8	9.0	9.5	10.5
呼吸器外科	405	3.0%	男	279	11.2			5.0	4.8	3.5	19.3	9.5	11.6
			女	126	8.9					8.3	6.4	8.5	11.5
循環器内科	1,039	7.7%	男	692	7.0			4.0		5.1	6.0	6.1	9.0
			女	347	10.4						6.7	7.8	12.3
心臓血管外科	295	2.2%	男	195	19.4					19.0	26.0	17.4	20.2
			女	100	18.4						13.5	17.7	19.4
乳腺・甲状腺外科	268	2.0%	男	51	4.4					4.0	4.8	4.1	4.5
			女	217	6.1					5.2	5.4	7.1	5.3
消化器内科	1,082	8.0%	男	655	8.8				6.3	8.5	7.1	7.9	12.0
			女	427	8.6				9.0	5.1	8.7	6.6	10.6
消化器外科・一般外科	1,977	14.7%	男	1,249	12.1			5.8	11.0	8.1	10.6	11.4	16.0
			女	728	13.0			6.0	6.8	7.8	9.8	12.8	16.5
泌尿器科	589	4.4%	男	465	7.3			3.0	4.8	5.7	6.7	7.2	8.3
			女	124	8.7			6.0		4.0	8.1	10.5	6.0
腎臓内科・膠原病科	87	0.6%	男	52	19.3				4.0	20.5	11.3	28.1	18.5
			女	35	21.0					3.3	7.3	15.8	41.6
婦人科	575	4.3%	男	1	9.0						9.0		
			女	574	5.9			5.0	4.0	4.7	5.9	6.4	9.4
生殖医療科	4	0.0%	男	0	-								
			女	4	3.3					3.3			
移植外科	161	1.2%	男	79	12.6			30.0		16.0	18.2	7.0	9.4
			女	82	12.7				13.5	11.0	18.3	11.1	6.3
救命救急科	324	2.4%	男	202	3.4	1.0	2.0	2.3	2.8	2.3	2.8	3.6	4.0
			女	122	4.0		2.0	1.5	4.5	2.5	2.0	4.0	5.1
小児科	992	7.4%	男	548	10.4	12.2	7.1	7.5	19.5	11.2			
			女	444	9.8	11.8	6.9	5.3	8.3	23.8			
小児外科	136	1.0%	男	96	3.6	3.2	3.3	5.0	2.0				
			女	40	4.3	3.8	4.2	4.8		11.0			
産科	829	6.2%	男	0	-								
			女	829	9.3				10.8	9.0	12.8		
皮膚科	22	0.2%	男	8	11.6						11.5	12.0	11.0
			女	14	14.1					4.7	9.0	22.5	16.8
整形外科	1,164	8.6%	男	531	13.6		2.7	7.2	6.3	8.9	11.7	14.1	19.9
			女	633	13.2		3.0	6.0	5.3	7.2	10.5	13.6	15.0
形成外科	249	1.8%	男	140	11.4	3.0	2.8	4.7	11.1	15.5	16.0	11.6	10.3
			女	109	10.5	3.0	2.8	7.8	4.6	10.7	6.1	10.9	27.8
児童精神科	29	0.2%	男	8	42.6			42.6					
			女	21	39.3			39.3					
合計	13,474	100.0%	男	7,107	12.1	10.8	6.2	7.7	12.8	13.7	11.8	12.0	14.2
			女	6,367	11.5	11.2	5.9	9.3	11.3	8.7	10.0	12.2	14.4

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

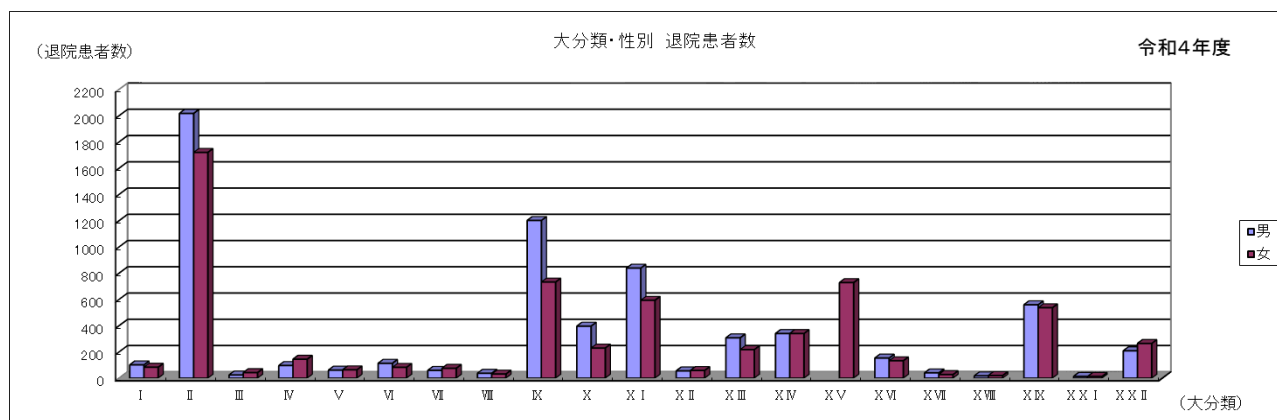
クリニカルインディケータ

(5) - 3 診療科別・年齢階層別・性別在院日数の平均

令和6年度

診療科	患者総数 (人)	患者数 比率	性別	総数 (人)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0~2 才	3~5 才	6~15 才	16~20 才	21~40 才	41~60 才	61~79 才	80才~
総合診療科	371	2.8%	男	203	18.0				12.0	10.2	17.6	18.5	18.2
			女	168	15.1				15.0	12.0	9.6	17.0	14.7
精神科	102	0.8%	男	36	50.8				15.0	70.6	48.8	48.7	31.2
			女	66	42.5			48.0	21.0	61.5	41.3	32.5	53.0
血液内科・輸血科	1,103	8.3%	男	628	19.0				15.0	24.5	21.2	18.3	18.0
			女	475	19.0					14.8	20.3	19.7	17.6
糖尿病・内分泌内科	34	0.3%	男	11	7.8						7.5	8.7	5.0
			女	23	7.2					8.0	6.1	5.7	13.0
腫瘍内科	1	0.0%	男	1	2.0							2.0	
			女	0	-								
ペインクリニック科	22	0.2%	男	6	4.7						3.8	6.5	
			女	16	6.6						6.0	5.8	9.7
放射線科	4	0.0%	男	3	3.3							3.3	
			女	1	3.0						3.0		
脳神経外科	652	4.9%	男	338	16.9	15.0	4.3	12.0	5.7	14.3	16.5	16.6	18.6
			女	314	16.8		2.0	17.0		6.9	19.5	16.1	17.1
眼科	143	1.1%	男	89	5.7	3.0	3.0	3.0		7.0	11.8	5.4	7.0
			女	54	5.1		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	6.1	5.8
耳鼻咽喉科	355	2.7%	男	242	14.6	3.0	8.0	7.2	4.0	6.7	10.0	18.8	18.2
			女	113	8.4	7.0	7.0	7.0	5.0	8.6	7.5	6.3	17.4
歯科口腔外科	150	1.1%	男	68	7.6			3.5	6.5	5.2	6.6	9.7	14.3
			女	82	7.2			3.4	7.4	6.4	6.7	8.9	7.2
呼吸器内科	362	2.7%	男	221	11.2					3.0	7.1	11.0	16.9
			女	141	9.3					2.7	7.2	8.3	13.0
呼吸器外科	352	2.7%	男	256	10.4			3.0	5.0	10.0	12.0	10.2	10.5
			女	96	8.9			4.0	5.5	5.5	7.6	9.1	10.0
循環器内科	991	7.5%	男	646	7.0					5.0	5.9	6.1	9.1
			女	345	8.1					10.0	5.9	6.8	9.4
心臓血管外科	301	2.3%	男	200	20.4					24.0	23.0	19.8	20.8
			女	101	16.1						11.1	17.1	15.8
乳腺・甲状腺外科	124	0.9%	男	31	4.9			6.5		4.5	4.0	5.3	4.5
			女	93	5.2				4.5	4.2	5.5	5.0	5.1
消化器内科	1,091	8.2%	男	665	7.7				9.0	7.0	6.4	7.0	9.9
			女	426	8.8				4.3	5.0	7.0	8.2	10.6
消化器外科・一般外科	1,878	14.2%	男	1,160	13.8			5.3	4.7	8.0	12.4	13.8	16.2
			女	718	12.9				6.6	11.5	11.6	12.8	14.3
泌尿器科	469	3.5%	男	364	7.3			5.0	4.0	5.3	6.1	7.8	6.5
			女	105	7.5				6.5	3.7	3.7	7.2	10.3
腎臓内科・膠原病科	113	0.9%	男	66	20.9				3.0	3.7	5.6	26.2	25.8
			女	47	18.9					3.4	11.9	23.6	23.9
婦人科	593	4.5%	男	0	-								
			女	593	5.9			3.5	4.9	5.0	5.9	6.1	9.8
生殖医療科	6	0.0%	男	0	-								
			女	6	3.0					3.2	2.0		
移植外科	155	1.2%	男	81	13.4					20.3	10.4	15.8	8.3
			女	74	12.3					17.0	10.8	13.0	8.0
救命救急科	387	2.9%	男	220	4.8	1.3	2.0	1.3	2.0	4.0	3.5	7.4	4.1
			女	167	3.7	2.0		3.4	1.0	3.9	2.3	3.7	4.3
小児科	1,078	8.2%	男	595	8.6	9.1	6.5	8.7	7.5	9.7			
			女	483	8.7	9.0	7.4	9.0	4.9	9.0			
小児外科	96	0.7%	男	62	3.2	2.9	3.2	3.9					
			女	34	3.6	2.9	3.1	5.4					
産科	1,044	7.9%	男	0	-								
			女	1,044	8.1				7.5	8.0	10.4		
皮膚科	26	0.2%	男	12	13.8			13.0		8.0	13.0	12.3	18.7
			女	14	13.1				3.0	2.0	10.0	16.5	16.6
整形外科	1,011	7.6%	男	463	14.9	3.0	7.7	7.5	7.5	12.0	13.3	15.4	18.8
			女	548	14.5	16.0	4.3	11.8	5.9	7.9	10.8	14.6	16.4
形成外科	191	1.4%	男	104	15.5	3.5	3.0	6.0	4.9	20.3	22.5	10.9	24.9
			女	87	12.7	2.5	2.8	7.0	8.0	4.8	14.1	14.3	19.1
児童精神科	20	0.2%	男	9	30.8			30.8					
			女	11	32.2			32.2					
合計	13,225	100.0%	男	6,780	12.3	8.5	5.8	8.3	6.8	12.9	12.2	12.7	13.9
			女	6,445	11.0	8.7	6.3	10.3	7.9	8.4	10.0	12.3	13.3

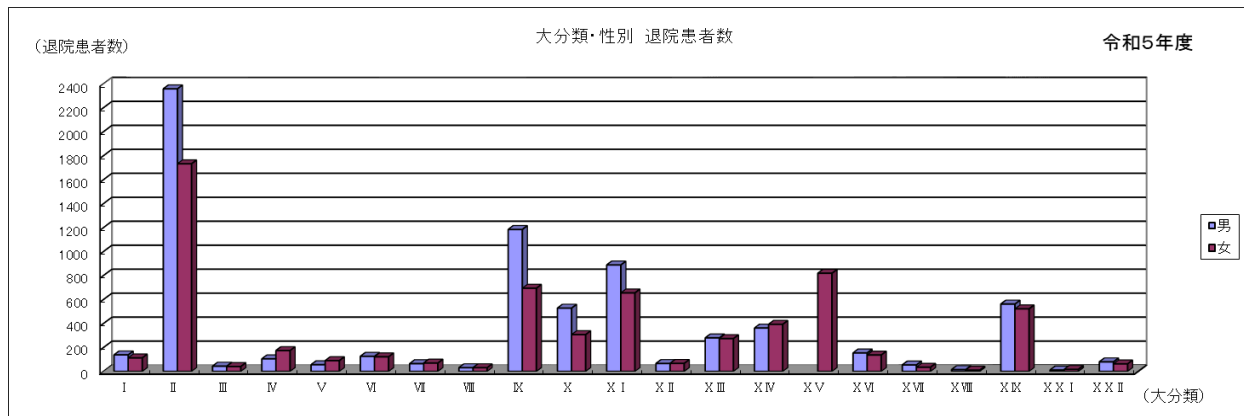
(6) - 1 【令和4年度】大分類・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均



令和4年度

大分類		患者総数 (人)	患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
I	感染症及び寄生虫症	184	1.4%	男	101	44.3	10.9
				女	83	43.5	8.0
II	新生物＜腫瘍＞	3,737	29.3%	男	2,017	69.9	14.7
				女	1,720	64.5	11.7
III	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	66	0.5%	男	24	44.2	10.0
				女	42	59.5	17.4
IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	240	1.9%	男	96	58.7	9.9
				女	144	62.2	7.4
V	精神及び行動の障害	124	1.0%	男	61	43.9	48.3
				女	63	37.4	36.9
VI	神経系の疾患	195	1.5%	男	113	40.6	10.6
				女	82	43.3	11.0
VII	眼及び付属器の疾患	134	1.0%	男	59	50.8	4.8
				女	75	50.5	5.2
VIII	耳及び乳様突起の疾患	68	0.5%	男	37	40.8	4.7
				女	31	55.3	6.6
IX	循環器系の疾患	1,933	15.1%	男	1,201	72.4	10.7
				女	732	78.2	13.0
X	呼吸器系の疾患	625	4.9%	男	396	50.1	12.2
				女	229	44.6	9.7
X I	消化器系の疾患	1,431	11.2%	男	838	64.2	8.4
				女	593	66.4	9.3
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	113	0.9%	男	55	51.3	20.5
				女	58	59.1	17.9
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	524	4.1%	男	307	62.4	12.9
				女	217	67.6	13.3
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	680	5.3%	男	340	62.8	10.4
				女	340	59.8	8.7
X V	妊娠，分娩及び産褥	728	5.7%	男	0	-	-
				女	728	32.9	8.4
X VI	周産期に発生した病態	285	2.2%	男	153	0.0	17.3
				女	132	0.0	15.6
X VII	先天奇形，変形及び染色体異常	67	0.5%	男	40	8.8	5.1
				女	27	9.8	7.9
X VIII	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	37	0.3%	男	17	46.5	5.2
				女	20	46.5	6.9
X IX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,095	8.6%	男	559	56.6	12.3
				女	536	70.9	12.2
X X I	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	26	0.2%	男	13	49.1	5.5
				女	13	55.6	8.2
X X II	その他	472	3.7%	男	208	53.3	13.3
				女	264	54.0	10.6
合計		12,764	100.0%	男	6,635	62.1	12.4
				女	6,129	58.9	11.6

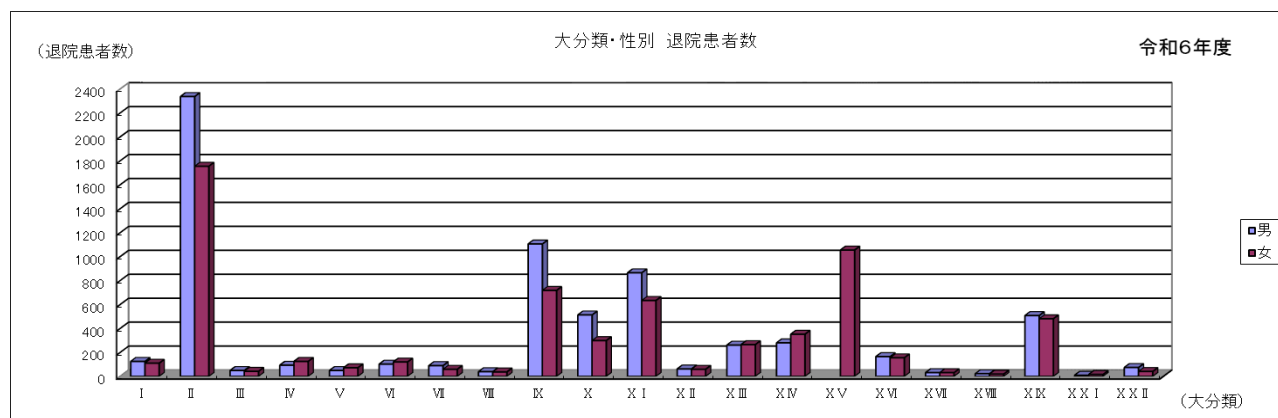
(6) - 2 【令和5年度】大分類別・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均



令和5年度

大分類		患者総数 (人)	患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
I	感染症及び寄生虫症	251	1.9%	男	138	45.4	12.7
				女	113	44.9	9.2
II	新生物＜腫瘍＞	4,089	30.3%	男	2,357	69.9	14.2
				女	1,732	65.2	12.5
III	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	85	0.6%	男	44	55.5	14.9
				女	41	55.7	16.9
IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	279	2.1%	男	105	61.3	10.4
				女	174	60.9	6.5
V	精神及び行動の障害	146	1.1%	男	56	45.1	53.7
				女	90	35.8	40.9
VI	神経系の疾患	248	1.8%	男	126	50.3	10.0
				女	122	54.9	11.2
VII	眼及び付属器の疾患	135	1.0%	男	65	60.8	5.8
				女	70	47.6	5.8
VIII	耳及び乳様突起の疾患	62	0.5%	男	31	32.8	4.2
				女	31	49.7	5.3
IX	循環器系の疾患	1,878	13.9%	男	1,184	72.3	10.4
				女	694	77.3	12.9
X	呼吸器系の疾患	835	6.2%	男	528	47.8	9.9
				女	307	39.5	8.9
X I	消化器系の疾患	1,543	11.5%	男	888	61.4	8.0
				女	655	65.5	8.5
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	133	1.0%	男	66	43.6	14.0
				女	67	49.9	11.0
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	554	4.1%	男	280	58.7	13.1
				女	274	66.3	13.8
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	755	5.6%	男	362	63.6	9.8
				女	393	59.5	8.5
X V	妊娠，分娩及び産褥	819	6.1%	男	0	-	-
				女	819	32.7	9.3
X VI	周産期に発生した病態	291	2.2%	男	154	0.0	18.8
				女	137	0.0	15.9
X VII	先天奇形，変形及び染色体異常	89	0.7%	男	54	10.3	7.9
				女	35	20.5	14.7
X VIII	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	26	0.2%	男	15	63.7	6.1
				女	11	52.9	4.8
X IX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	1,084	8.0%	男	562	59.4	12.8
				女	522	70.0	12.6
X X I	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	29	0.2%	男	12	55.0	7.0
				女	17	52.4	8.0
X X II	その他	143	1.1%	男	80	65.0	13.3
				女	63	61.9	14.1
合計		13,474	100.0%	男	7,107	62.2	12.1
				女	6,367	57.9	11.5

(6) - 3 【令和6年度】大分類・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均



令和6年度

大分類		患者総数 (人)	患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
I	感染症及び寄生虫症	235	1.8%	男	125	42.1	11.6
				女	110	40.7	8.1
II	新生物＜腫瘍＞	4,092	30.9%	男	2,337	69.4	14.2
				女	1,755	65.7	12.3
III	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の傷害	91	0.7%	男	49	53.5	13.7
				女	42	51.7	14.2
IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	218	1.6%	男	93	59.5	8.9
				女	125	60.9	7.7
V	精神及び行動の障害	121	0.9%	男	49	43.4	41.0
				女	72	36.0	39.1
VI	神経系の疾患	222	1.7%	男	102	37.9	12.1
				女	120	49.3	10.0
VII	眼及び付属器の疾患	149	1.1%	男	90	59.2	5.7
				女	59	59.2	5.1
VIII	耳及び乳様突起の疾患	76	0.6%	男	39	40.9	5.8
				女	37	56.5	4.9
IX	循環器系の疾患	1,824	13.8%	男	1,106	71.3	11.0
				女	718	77.1	11.7
X	呼吸器系の疾患	812	6.1%	男	513	46.7	10.9
				女	299	43.8	10.0
X I	消化器系の疾患	1,499	11.3%	男	865	64.4	8.4
				女	634	65.3	9.2
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	121	0.9%	男	62	44.6	16.8
				女	59	56.1	17.6
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	526	4.0%	男	261	61.5	13.9
				女	265	69.0	13.4
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	632	4.8%	男	280	60.7	12.0
				女	352	56.6	8.7
X V	妊娠，分娩及び産褥	1,055	8.0%	男	0	-	-
				女	1,055	32.0	8.0
X VI	周産期に発生した病態	320	2.4%	男	165	0.0	11.5
				女	155	0.0	12.1
X VII	先天奇形，変形及び染色体異常	62	0.5%	男	31	19.4	19.4
				女	31	40.5	6.5
X VIII	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	41	0.3%	男	22	47.5	6.2
				女	19	44.1	4.1
X IX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	989	7.5%	男	508	58.7	12.4
				女	481	68.3	12.9
X X I	健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	25	0.2%	男	9	46.8	6.2
				女	16	55.5	8.1
X X II	その他	115	0.9%	男	74	63.3	15.1
				女	41	59.9	11.8
合計		13,225	100.0%	男	6,780	61.9	12.3
				女	6,445	57.0	11.0

(7) - 1 中分類別・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均

令和4年度

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
Ⅰ 感染症及び寄生虫症							
	腸管感染症	86	46.7%	男	41	25.5	7.0
				女	45	36.7	5.8
	結核	2	1.1%	男	2	57.0	2.0
				女	0	-	-
	その他の細菌性疾患	49	26.6%	男	32	67.1	16.1
				女	17	78.4	8.7
	リケッチア症	2	1.1%	男	2	80.5	15.5
				女	0	-	-
	中枢神経系のウイルス感染症	2	1.1%	男	0	-	-
				女	2	39.5	33.5
	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱	3	1.6%	男	1	60.0	2.0
				女	2	72.5	29.5
	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	21	11.4%	男	11	40.0	8.8
				女	10	18.4	6.5
	ウイルス性肝炎	2	1.1%	男	1	2.0	6.0
				女	1	0.0	19.0
	その他のウイルス性疾患	11	6.0%	男	7	32.0	10.9
				女	4	15.3	7.3
	真菌症	6	3.3%	男	4	69.8	21.0
				女	2	76.5	9.5
Ⅱ 新生物＜腫瘍＞							
	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	105	2.8%	男	79	69.7	23.4
				女	26	67.0	24.0
	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	1,119	29.9%	男	723	70.6	14.1
				女	396	72.8	13.2
	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	425	11.4%	男	277	70.4	10.1
				女	148	69.7	8.3
	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	7	0.2%	男	6	51.2	15.3
				女	1	55.0	9.0
	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	16	0.4%	男	11	76.3	17.6
				女	5	73.6	15.6
	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	39	1.0%	男	15	72.7	8.5
				女	24	50.1	7.1
	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	97	2.6%	男	0	-	-
				女	97	62.0	8.0
	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	215	5.8%	男	0	-	-
				女	215	64.4	6.3
	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	129	3.5%	男	129	73.6	5.2
				女	0	-	-
	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	147	3.9%	男	108	72.2	9.9
				女	39	73.1	13.4
	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	7	0.2%	男	3	56.7	26.7
				女	4	67.0	30.0
	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	53	1.4%	男	24	68.2	6.0
				女	29	61.9	5.0
	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	166	4.4%	男	97	71.3	13.3
				女	69	68.1	9.9
	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞	720	19.3%	男	388	68.1	24.0
				女	332	68.0	20.5
	上皮内新生物＜腫瘍＞	48	1.3%	男	0	-	-
				女	48	42.4	3.8
	良性新生物＜腫瘍＞	232	6.2%	男	53	57.2	6.3
				女	179	45.8	6.7
	性状不詳または不明の新生物＜腫瘍＞	212	5.7%	男	104	68.7	14.8
				女	108	56.2	8.4
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の傷害							
	栄養性貧血	11	16.7%	男	4	76.3	9.8
				女	7	67.0	11.4
	溶血性貧血	4	6.1%	男	1	4.0	8.0
				女	3	73.7	35.7
	無形成性貧血及びその他の貧血	11	16.7%	男	5	31.4	12.0
				女	6	52.8	16.2

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	24	36.4%	男	7	47.6	12.9
				女	17	63.8	17.2
	血液及び造血器のその他の疾患	10	15.2%	男	5	41.2	7.8
				女	5	26.8	24.4
	免疫機構の障害	6	9.1%	男	2	28.0	2.5
女				4	68.0	8.0	
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患							
	甲状腺障害	69	28.8%	男	13	63.1	4.6
				女	56	61.3	4.9
	糖尿病	63	26.3%	男	34	60.9	11.4
				女	29	67.2	9.2
	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	8	3.3%	男	4	58.5	3.5
				女	4	41.0	13.0
	その他の内分泌腺障害	48	20.0%	男	19	57.4	4.8
				女	29	58.1	4.3
	栄養失調(症)	3	1.3%	男	1	69.0	19.0
				女	2	91.5	7.5
	その他の栄養欠乏症	2	0.8%	男	2	32.5	10.5
				女	0	-	-
	肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞	13	5.4%	男	8	50.0	18.1
				女	5	40.0	13.8
	代謝障害	34	14.2%	男	15	59.1	14.0
				女	19	70.7	13.7
Ⅴ 精神及び行動の障害							
	症状性を含む器質性精神障害	17	13.7%	男	12	64.9	50.6
				女	5	57.4	13.0
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	7	5.6%	男	6	49.0	26.7
				女	1	67.0	24.0
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	35	28.2%	男	19	53.6	47.5
				女	16	50.7	42.2
	気分[感情]障害	25	20.2%	男	7	50.3	55.3
				女	18	24.4	38.6
	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	15	12.1%	男	4	14.0	19.0
				女	11	35.7	29.8
	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	6	4.8%	男	2	30.5	105.5
				女	4	37.3	50.5
	成人の人格及び行動の障害	5	4.0%	男	4	12.0	17.5
				女	1	13.0	38.0
	知的障害＜精神遅滞＞	1	0.8%	男	0	-	-
				女	1	42.0	60.0
	心理的発達の障害	5	4.0%	男	2	12.5	95.5
				女	3	38.3	55.7
小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	8	6.5%	男	5	9.2	68.8	
			女	3	13.0	24.3	
Ⅵ 神経系の疾患							
	中枢神経系の炎症性疾患	5	2.6%	男	4	70.5	23.0
				女	1	0.0	24.0
	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	10	5.1%	男	9	33.3	15.0
				女	1	45.0	38.0
	錐体外路障害及び異常行動	3	1.5%	男	3	77.0	4.0
				女	0	-	-
	神経系のその他の変性疾患	1	0.5%	男	0	-	-
				女	1	108.0	8.0
	中枢神経系の脱髄疾患	2	1.0%	男	0	-	-
				女	2	11.0	13.5
	挿間性及び発作性障害	113	57.9%	男	69	34.4	8.5
				女	44	38.5	9.8
	神経、神経根及び神経叢の障害	22	11.3%	男	12	59.1	8.5
				女	10	61.5	8.3
	多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	7	3.6%	男	2	68.5	16.5
				女	5	46.6	12.0
	神経筋接合部及び筋の疾患	3	1.5%	男	3	49.7	10.0
				女	0	-	-
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	1	0.5%	男	0	-	-
女				1	61.0	7.0	
神経系のその他の障害	28	14.4%	男	11	37.0	18.7	
			女	17	45.4	13.2	

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
Ⅶ 眼及び付属器の疾患							
	眼瞼、涙器及び眼窩の障害	26	19.4%	男	10	16.3	4.0
				女	16	33.4	4.4
	結膜の障害	2	1.5%	男	2	36.0	2.5
				女	0	-	-
	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害	1	0.7%	男	1	75.0	3.0
				女	0	-	-
	水晶体の障害	70	52.2%	男	30	73.9	5.4
				女	40	74.8	5.9
	脈絡膜及び網膜の障害	4	3.0%	男	3	76.0	2.7
				女	1	58.0	15.0
	緑内障	1	0.7%	男	1	78.0	3.0
				女	0	-	-
	視機能障害及び盲＜失明＞	1	0.7%	男	0	-	-
				女	1	11.0	4.0
	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害	29	21.6%	男	12	13.6	5.1
				女	17	11.4	3.6
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患							
	外耳疾患	1	1.5%	男	1	50.0	3.0
				女	0	-	-
	中耳及び乳様突起の疾患	30	44.1%	男	21	24.8	4.0
				女	9	28.2	5.6
	内耳疾患	26	38.2%	男	11	67.5	4.9
				女	15	69.9	6.1
	耳のその他の障害	11	16.2%	男	4	49.3	8.0
				女	7	59.0	9.1
Ⅸ 循環器系の疾患							
	急性リウマチ熱	1	0.1%	男	0	-	-
				女	1	11.0	14.0
	慢性リウマチ性心疾患	15	0.8%	男	5	74.6	35.8
				女	10	78.3	49.5
	高血圧性疾患	6	0.3%	男	2	62.5	10.0
				女	4	76.5	6.5
	虚血性心疾患	590	30.5%	男	462	71.0	5.8
				女	128	75.9	6.4
	肺性心疾患及び肺循環疾患	21	1.1%	男	9	78.7	9.9
				女	12	25.8	17.9
	その他の型の心疾患	572	29.6%	男	283	75.1	10.3
				女	289	82.7	12.0
	脳血管疾患	454	23.5%	男	243	73.1	14.8
				女	211	77.6	15.5
	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	233	12.1%	男	169	71.9	18.4
				女	64	79.7	15.1
	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	32	1.7%	男	22	68.1	6.6
				女	10	61.9	19.5
循環器系のその他及び詳細不明の障害	9	0.5%	男	6	52.8	17.0	
			女	3	46.7	11.0	
Ⅹ 呼吸器系の疾患							
	急性上気道感染症	33	5.3%	男	15	15.9	7.4
				女	18	16.1	5.7
	インフルエンザ及び肺炎	139	22.2%	男	98	58.7	12.6
				女	41	59.1	11.3
	その他の急性下気道感染症	79	12.6%	男	42	1.6	5.7
				女	37	4.8	6.7
	上気道のその他の疾患	90	14.4%	男	60	40.8	7.2
				女	30	40.4	7.1
	慢性下気道疾患	66	10.6%	男	42	29.3	7.7
				女	24	11.8	5.4
	外的因子による肺疾患	122	19.5%	男	77	76.6	21.3
				女	45	77.6	14.0
	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	40	6.4%	男	20	73.5	10.5
				女	20	74.6	9.9
	下気道の化膿性及び壊死性病態	10	1.6%	男	8	83.6	24.5
				女	2	86.0	26.0

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	胸膜のその他の疾患	35	5.6%	男	29	58.9	13.1
				女	6	38.3	7.3
	呼吸器系のその他の疾患	11	1.8%	男	5	67.2	9.4
				女	6	76.3	24.8
X I 消化器系の疾患							
	口腔、唾液腺及び顎の疾患	78	5.5%	男	38	46.6	6.6
				女	40	58.7	8.1
	食道、胃及び十二指腸の疾患	103	7.2%	男	51	67.5	8.6
				女	52	73.1	9.8
	虫垂の疾患	64	4.5%	男	32	38.8	7.3
				女	32	56.7	7.1
	ヘルニア	170	11.9%	男	108	59.7	4.4
				女	62	39.9	5.3
	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	23	1.6%	男	13	40.2	12.1
				女	10	33.9	14.8
	腸のその他の疾患	279	19.5%	男	147	68.6	10.8
				女	132	70.1	10.3
	腹膜の疾患	37	2.6%	男	17	67.4	20.2
				女	20	75.0	24.2
	肝疾患	59	4.1%	男	37	67.4	17.1
				女	22	67.1	13.6
胆嚢、胆管及び膵の障害	482	33.7%	男	305	67.4	7.5	
			女	177	73.7	8.4	
消化器系のその他の疾患	136	9.5%	男	90	68.0	7.0	
			女	46	72.4	7.1	
X II 皮膚及び皮下組織の疾患							
	皮膚及び皮下組織の感染症	42	37.2%	男	22	44.6	15.3
				女	20	69.9	18.3
	水疱症	5	4.4%	男	2	85.5	79.0
				女	3	66.3	36.7
	皮膚炎及び湿疹	3	2.7%	男	1	1.0	5.0
				女	2	53.5	12.0
	蕁麻疹及び紅斑	7	6.2%	男	3	38.0	10.3
				女	4	20.8	6.8
	皮膚及び皮下組織放射線(非電離及び電離)に関する障害	1	0.9%	男	1	86.0	8.0
				女	0	-	-
	皮膚付属器の障害	8	7.1%	男	2	32.0	6.5
				女	6	34.0	6.5
皮膚及び皮下組織のその他の障害	47	41.6%	男	24	58.6	24.0	
			女	23	62.4	20.6	
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患							
	感染性関節障害	7	1.3%	男	4	68.5	18.8
				女	3	84.7	24.3
	炎症性多発性関節障害	7	1.3%	男	3	53.0	9.3
				女	4	68.8	9.5
	関節症	61	11.6%	男	18	74.4	15.1
				女	43	75.6	15.4
	その他の関節障害	4	0.8%	男	1	58.0	5.0
				女	3	52.3	11.3
	全身性結合組織障害	35	6.7%	男	22	18.2	17.6
				女	13	28.5	15.9
	変形性脊柱障害	29	5.5%	男	5	65.2	16.6
				女	24	73.8	11.9
	脊椎障害	244	46.6%	男	170	69.1	11.2
				女	74	72.5	13.1
	その他の脊柱障害	69	13.2%	男	46	54.6	9.7
				女	23	48.4	7.4
	筋障害	5	1.0%	男	3	76.7	13.7
				女	2	85.0	14.0
	滑膜及び腱の障害	12	2.3%	男	4	50.0	10.5
				女	8	63.9	4.0
	その他の軟部組織障害	13	2.5%	男	11	66.9	22.6
				女	2	34.5	17.5
	骨の密度及び構造の障害	7	1.3%	男	3	71.0	19.7
				女	4	76.3	14.8
	その他の骨障害	22	4.2%	男	12	56.6	24.3
				女	10	69.4	22.2

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	軟骨障害	2	0.4%	男	2	36.0	13.5
				女	0	-	-
	筋骨格系及び結合組織のその他の障害	7	1.3%	男	3	72.3	11.7
				女	4	88.8	16.5
XⅣ 腎尿路生殖器系の疾患							
	糸球体疾患	42	6.2%	男	30	49.2	9.9
				女	12	54.0	5.1
	腎尿細管間質性疾患	119	17.5%	男	51	64.1	8.0
				女	68	61.7	7.1
	腎不全	141	20.7%	男	79	67.5	19.1
				女	62	68.8	18.7
	尿路結石症	71	10.4%	男	33	67.3	5.6
				女	38	69.8	7.7
	腎及び尿管のその他の障害	5	0.7%	男	3	75.7	16.0
				女	2	63.0	8.0
	尿路系のその他の疾患	61	9.0%	男	31	73.0	13.2
				女	30	67.6	9.8
	男性生殖器の疾患	113	16.6%	男	113	57.9	6.1
				女	0	-	-
	乳房の障害	2	0.3%	男	0	-	-
				女	2	41.5	7.5
	女性骨盤臓器の炎症性疾患	13	1.9%	男	0	-	-
				女	13	51.1	8.2
	女性生殖器の非炎症性障害	112	16.5%	男	0	-	-
				女	112	49.9	4.7
	腎尿路生殖器系のその他の障害	1	0.1%	男	0	-	-
				女	1	70.0	6.0
XⅤ 妊娠，分娩及び産褥							
	流産に終わった妊娠	14	1.9%	男	0	-	-
				女	14	33.5	4.0
	妊娠、分娩及び産褥における浮腫、蛋白尿及び高血圧性障害	38	5.2%	男	0	-	-
				女	38	34.0	8.6
	主として妊娠に関連するその他の母体障害	27	3.7%	男	0	-	-
				女	27	34.3	10.6
	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	238	32.7%	男	0	-	-
				女	238	33.4	8.7
	分娩の合併症	180	24.7%	男	0	-	-
				女	180	33.3	11.7
	分娩	224	30.8%	男	0	-	-
				女	224	31.9	5.6
	主として産褥に関連する合併症	6	0.8%	男	0	-	-
				女	6	29.5	4.0
	その他の産科的病態、他に分類されないもの	1	0.1%	男	0	-	-
				女	1	27.0	8.0
XⅥ 周産期に発生した病態							
	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	15	5.3%	男	6	0.0	9.2
				女	9	0.0	8.6
	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	66	23.2%	男	35	0.0	50.1
				女	31	0.0	42.7
	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	127	44.6%	男	64	0.0	8.7
				女	63	0.0	7.8
	周産期に特異的な感染症	7	2.5%	男	4	0.0	9.8
				女	3	0.0	7.7
	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	46	16.1%	男	30	0.0	4.8
				女	16	0.0	5.6
	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	6	2.1%	男	4	0.0	5.0
				女	2	0.0	9.0
	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	3	1.1%	男	1	0.0	19.0
				女	2	0.0	5.0
	周産期に発生したその他の障害	15	5.3%	男	9	0.0	5.6
				女	6	0.0	4.3
XⅦ 先天奇形，変形及び染色体異常							
	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	17	25.4%	男	6	30.3	3.8
				女	11	11.8	4.3

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	循環器系の先天奇形	2	3.0%	男	1	57.0	2.0
				女	1	1.0	18.0
	唇裂及び口蓋裂	2	3.0%	男	2	0.0	13.0
				女	0	-	-
	消化器系のその他の先天奇形	11	16.4%	男	4	2.0	10.5
				女	7	9.7	8.9
	生殖器の先天奇形	19	28.4%	男	19	3.1	3.7
				女	0	-	-
	腎尿路系の先天奇形	5	7.5%	男	5	6.6	6.0
				女	0	-	-
	筋骨格系の先天奇形及び変形	4	6.0%	男	2	7.0	4.0
				女	2	12.0	3.5
	その他の先天奇形	3	4.5%	男	0	-	-
				女	3	13.7	3.3
	染色体異常、他に分類されないもの	4	6.0%	男	1	0.0	3.0
				女	3	0.3	23.0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの							
	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	8	21.6%	男	4	78.8	5.8
				女	4	84.5	8.0
	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	8	21.6%	男	4	44.0	6.3
				女	4	77.8	14.8
	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	4	10.8%	男	2	39.5	2.0
				女	2	64.0	4.0
	全身症状及び徴候	15	40.5%	男	6	26.8	5.5
				女	9	12.3	3.7
	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	2	5.4%	男	1	60.0	3.0
				女	1	42.0	5.0
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響							
	頭部損傷	134	12.2%	男	86	57.4	9.5
				女	48	69.0	13.0
	頸部損傷	46	4.2%	男	34	64.7	17.9
				女	12	71.4	16.9
	胸部＜郭＞損傷	51	4.7%	男	29	67.2	13.0
				女	22	77.8	16.4
	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	91	8.3%	男	52	61.2	18.4
				女	39	76.4	12.5
	肩及び上腕の損傷	110	10.0%	男	57	42.7	6.7
				女	53	64.5	8.2
	肘及び前腕の損傷	54	4.9%	男	26	36.7	6.7
				女	28	66.3	6.9
	手首及び手の損傷	13	1.2%	男	9	46.0	7.7
				女	4	57.8	13.5
	股関節部及び大腿の損傷	214	19.5%	男	48	76.7	14.8
				女	166	85.0	14.8
	膝及び下腿の損傷	117	10.7%	男	63	53.4	13.9
				女	54	61.9	12.4
	足首及び足の損傷	16	1.5%	男	11	58.9	11.9
				女	5	62.2	9.6
	多部位の損傷	22	2.0%	男	8	49.5	36.8
				女	14	62.9	18.9
	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	3	0.3%	男	3	46.0	8.7
				女	0	-	-
	自然開口部からの異物侵入の作用	13	1.2%	男	8	44.8	3.8
				女	5	43.4	3.0
	熱傷及び腐食	17	1.6%	男	13	52.3	15.6
				女	4	65.8	29.3
	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	29	2.6%	男	6	61.5	4.7
				女	23	40.8	5.0
	薬用を主としない物質の毒作用	12	1.1%	男	9	53.8	3.7
				女	3	50.3	5.3
	外因のその他及び詳細不明の作用	42	3.8%	男	31	36.3	4.3
				女	11	26.3	2.2
	外傷の早期合併症	2	0.2%	男	1	77.0	4.0
				女	1	89.0	5.0
	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	107	9.8%	男	63	65.4	15.9
				女	44	69.4	10.8
	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症	2	0.2%	男	2	53.5	5.0
				女	0	-	-

退院患者数

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用							
	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者	26	100.0%	男	13	49.1	5.5
				女	13	55.6	8.2
X X II その他							
	原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類	472	100.0%	男	208	53.3	13.3
				女	264	54.0	10.6
合計		12,764	100.0%	男	6,635	62.1	12.4
				女	6,129	58.9	11.2

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

(7) - 2 中分類別・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均

令和5年度

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
I 感染症及び寄生虫症							
腸管感染症		111	44.2%	男	56	29.8	6.8
				女	55	30.4	6.7
結核		1	0.4%	男	0	-	-
				女	1	86.0	34.0
人畜共通細菌性疾患		2	0.8%	男	1	75.0	27.0
				女	1	81.0	4.0
その他の細菌性疾患		84	33.5%	男	48	66.7	19.7
				女	36	68.5	13.6
主として性的伝播様式をとる感染症		2	0.8%	男	0	-	-
				女	2	28.0	4.0
リケッチア症		3	1.2%	男	0	-	-
				女	3	76.0	11.0
中枢神経系のウイルス感染症		1	0.4%	男	1	85.0	31.0
				女	0	-	-
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		22	8.8%	男	13	25.9	10.3
				女	9	27.8	5.0
ウイルス性肝炎		3	1.2%	男	2	41.0	5.0
				女	1	3.0	3.0
その他のウイルス性疾患		8	3.2%	男	6	26.5	7.7
				女	2	42.0	11.0
真菌症		12	4.8%	男	9	69.1	17.9
				女	3	48.3	11.0
原虫疾患		1	0.4%	男	1	34.0	3.0
				女	0	-	-
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		1	0.4%	男	1	2.0	10.0
				女	0	-	-
II 新生物＜腫瘍＞							
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		94	2.3%	男	77	69.0	23.3
				女	17	63.5	22.7
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞		1,326	32.4%	男	899	72.4	13.4
				女	427	73.4	14.9
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞		505	12.4%	男	337	71.9	10.4
				女	168	71.2	8.7
骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		21	0.5%	男	7	18.9	17.3
				女	14	75.0	15.0
皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞		19	0.5%	男	12	75.5	7.8
				女	7	71.3	9.7
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞		41	1.0%	男	9	75.2	16.9
				女	32	61.1	11.7
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞		89	2.2%	男	1	81.0	6.0
				女	88	63.1	7.7
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		188	4.6%	男	0	-	-
				女	188	62.0	7.4
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		143	3.5%	男	143	72.3	5.3
				女	0	-	-
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞		164	4.0%	男	127	71.4	9.7
				女	37	70.4	10.7
眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞		15	0.4%	男	3	18.0	6.3
				女	12	69.6	49.4
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞		32	0.8%	男	10	66.2	6.5
				女	22	53.5	5.1
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		166	4.1%	男	98	70.3	10.4
				女	68	70.6	12.6
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞		729	17.8%	男	434	66.3	24.0
				女	295	68.3	21.4
上皮内新生物＜腫瘍＞		39	1.0%	男	3	72.0	8.7
				女	36	46.4	4.1
良性新生物＜腫瘍＞		265	6.5%	男	61	56.6	8.8
				女	204	48.0	6.1
性状不詳または不明の新生物＜腫瘍＞		253	6.2%	男	136	65.6	12.5
				女	117	58.8	9.5

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の傷害								
	栄養性貧血	9	10.6%	男	5	69.4	6.4	
				女	4	73.0	8.5	
	溶血性貧血	1	1.2%	男	1	3.0	3.0	
				女	0	-	-	
	無形成性貧血及びその他の貧血	16	18.8%	男	9	34.3	21.9	
				女	7	74.0	31.1	
	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	42	49.4%	男	16	69.7	13.9	
				女	26	50.9	15.7	
	血液及び造血器のその他の疾患	11	12.9%	男	8	52.3	11.9	
				女	3	49.3	9.3	
	免疫機構の障害	6	7.1%	男	5	49.8	21.0	
				女	1	3.0	4.0	
	Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患							
		甲状腺障害	123	44.1%	男	32	60.8	4.0
女					91	60.6	4.4	
糖尿病		59	21.1%	男	32	66.3	17.0	
				女	27	63.1	10.0	
その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		7	2.5%	男	3	25.0	2.0	
				女	4	23.0	2.5	
その他の内分泌腺障害		38	13.6%	男	19	66.8	7.6	
				女	19	64.8	4.3	
栄養失調（症）		1	0.4%	男	0	-	-	
				女	1	72.0	16.0	
その他の栄養欠乏症		3	1.1%	男	2	43.5	36.5	
				女	1	75.0	44.0	
肥満（症）及びその他の過栄養＜過剰摂食＞		9	3.2%	男	2	43.0	19.5	
				女	7	52.6	13.6	
代謝障害		39	14.0%	男	15	56.9	10.5	
				女	24	63.8	9.0	
Ⅴ 精神及び行動の障害								
	症状性を含む器質性精神障害	14	9.6%	男	8	73.6	58.4	
				女	6	71.2	84.8	
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	9	6.2%	男	5	48.2	9.2	
				女	4	32.8	26.0	
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	25	17.1%	男	13	42.7	77.2	
				女	12	47.6	58.3	
	気分〔感情〕障害	47	32.2%	男	16	52.7	47.9	
				女	31	43.5	36.0	
	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	12	8.2%	男	1	38.0	48.0	
				女	11	23.4	19.0	
	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	8	5.5%	男	1	51.0	78.0	
				女	7	26.1	69.9	
	成人の人格及び行動の障害	2	1.4%	男	1	13.0	76.0	
				女	1	60.0	35.0	
	知的障害＜精神遅滞＞	1	0.7%	男	1	49.0	4.0	
				女	0	-	-	
	心理的発達の障害	14	9.6%	男	3	16.0	68.3	
				女	11	14.4	34.6	
	小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	14	9.6%	男	7	13.9	44.9	
女				7	12.4	20.4		
Ⅵ 神経系の疾患								
	中枢神経系の炎症性疾患	18	7.3%	男	7	38.7	19.4	
				女	11	32.1	9.6	
	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	8	3.2%	男	7	23.7	9.9	
				女	1	1.0	6.0	
	錐体外路障害及び異常行動	5	2.0%	男	2	71.5	4.0	
				女	3	24.3	7.7	
	神経系のその他の変性疾患	3	1.2%	男	2	86.5	16.5	
				女	1	81.0	10.0	
	中枢神経系の脱髄疾患	1	0.4%	男	1	77.0	23.0	
				女	0	-	-	
	挿間性及び発作性障害	137	55.2%	男	73	48.9	8.1	
				女	64	58.7	11.6	

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	神経、神経根及び神経叢の障害	28	11.3%	男	14	63.1	8.9
	女			14	64.1	9.6	
	多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	2	0.8%	男	0	-	-
	女			2	61.0	7.0	
	神経筋接合部及び筋の疾患	3	1.2%	男	0	-	-
	女			3	21.0	15.7	
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	3	1.2%	男	0	-	-
	女			3	23.0	6.0	
	神経系のその他の障害	40	16.1%	男	20	52.5	13.6
	女			20	64.2	13.0	
Ⅶ 眼及び付属器の疾患							
	眼瞼、涙器及び眼窩の障害	23	17.0%	男	8	45.6	3.9
	女			15	26.5	8.5	
	結膜の障害	2	1.5%	男	2	83.5	4.0
	女			0	-	-	
	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害	1	0.7%	男	1	72.0	43.0
	女			0	-	-	
	水晶体の障害	70	51.9%	男	38	75.0	5.4
	女			32	76.6	5.7	
	脈絡膜及び網膜の障害	4	3.0%	男	3	51.0	3.0
	女			1	44.0	33.0	
	緑内障	2	1.5%	男	1	60.0	2.0
	女			1	71.0	2.0	
	視神経及び視（覚）路の障害	1	0.7%	男	0	-	-
	女			1	58.0	4.0	
	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害	32	23.7%	男	12	23.4	6.8
	女			20	15.8	2.8	
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患							
	外耳疾患	1	1.6%	男	0	-	-
	女			1	85.0	24.0	
	中耳及び乳様突起の疾患	38	61.3%	男	25	26.1	4.1
	女			13	32.7	3.8	
	内耳疾患	19	30.6%	男	6	61.0	4.8
	女			13	60.5	4.4	
	耳のその他の障害	4	6.5%	男	0	-	-
	女			4	61.5	8.8	
Ⅸ 循環器系の疾患							
	慢性リウマチ性心疾患	17	0.9%	男	13	70.2	27.1
	女			4	72.5	22.0	
	高血圧性疾患	6	0.3%	男	5	69.0	10.6
	女			1	14.0	11.0	
	虚血性心疾患	555	29.6%	男	432	70.9	4.9
	女			123	75.4	6.7	
	肺性心疾患及び肺循環疾患	14	0.7%	男	6	70.7	19.8
	女			8	43.5	11.1	
	その他の型の心疾患	605	32.2%	男	334	74.8	10.5
	女			271	79.7	12.0	
	脳血管疾患	471	25.1%	男	261	71.1	15.9
	女			210	77.6	16.7	
	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	186	9.9%	男	125	74.1	15.2
	女			61	77.3	17.1	
	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	22	1.2%	男	7	67.4	17.1
	女			15	70.6	7.1	
	循環器系のその他及び詳細不明の障害	2	0.1%	男	1	44.0	12.0
	女			1	67.0	16.0	
Ⅹ 呼吸器系の疾患							
	急性上気道感染症	33	4.0%	男	18	14.6	5.1
	女			15	12.5	4.5	
	インフルエンザ及び肺炎	241	28.9%	男	157	45.6	9.2
	女			84	41.7	10.6	
	その他の急性下気道感染症	115	13.8%	男	61	3.7	5.0
	女			54	3.0	5.5	
	上気道のその他の疾患	132	15.8%	男	77	40.5	7.2
	女			55	46.1	6.8	

退院患者数

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	慢性下気道疾患	62	7.4%	男	31	32.5	5.6
	女			31	15.6	5.2	
	外的因子による肺疾患	132	15.8%	男	93	75.3	14.8
	女			39	82.0	15.1	
	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	43	5.1%	男	29	79.0	16.7
	女			14	74.9	9.4	
	下気道の化膿性及び壊死性病態	30	3.6%	男	24	72.1	17.5
	女			6	80.0	16.0	
	胸膜のその他の疾患	42	5.0%	男	34	62.8	10.3
	女			8	62.3	15.8	
	呼吸器系のその他の疾患	5	0.6%	男	4	73.0	12.5
	女			1	30.0	3.0	
X I 消化器系の疾患							
	口腔、唾液腺及び顎の疾患	122	7.9%	男	57	43.9	5.6
	女			65	54.4	7.2	
	食道、胃及び十二指腸の疾患	98	6.4%	男	53	66.1	10.0
	女			45	72.7	11.2	
	虫垂の疾患	75	4.9%	男	37	41.4	7.1
	女			38	39.7	5.7	
	ヘルニア	203	13.2%	男	127	49.9	4.6
	女			76	46.6	5.4	
	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	31	2.0%	男	24	38.2	11.0
	女			7	40.0	5.9	
	腸のその他の疾患	283	18.3%	男	138	64.0	10.1
	女			145	74.0	11.5	
腹膜の疾患	26	1.7%	男	14	64.9	28.4	
女			12	73.2	15.3		
肝疾患	33	2.1%	男	21	70.5	18.4	
女			12	54.5	8.5		
胆嚢、胆管及び膵の障害	516	33.4%	男	307	67.4	7.4	
女			209	72.3	7.6		
消化器系のその他の疾患	156	10.1%	男	110	71.3	6.2	
女			46	73.3	8.9		
X II 皮膚及び皮下組織の疾患							
	皮膚及び皮下組織の感染症	59	44.4%	男	27	37.9	10.1
	女			32	50.6	10.4	
	水疱症	1	0.8%	男	1	74.0	8.0
	女			0	-	-	
	皮膚炎及び湿疹	5	3.8%	男	2	30.5	9.0
	女			3	36.7	6.0	
	蕁麻疹及び紅斑	4	3.0%	男	3	6.7	3.3
	女			1	54.0	16.0	
	皮膚付属器の障害	9	6.8%	男	6	37.3	7.2
	女			3	33.7	6.0	
	皮膚及び皮下組織のその他の障害	55	41.4%	男	27	54.6	21.1
	女			28	52.3	12.6	
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患							
	感染性関節障害	8	1.4%	男	7	68.9	32.3
	女			1	1.0	10.0	
	炎症性多発性関節障害	17	3.1%	男	5	41.8	10.0
	女			12	76.3	13.3	
	関節症	77	13.9%	男	14	70.3	14.9
	女			63	75.8	13.9	
	その他の関節障害	10	1.8%	男	4	45.0	10.0
	女			6	65.8	11.5	
	全身性結合組織障害	50	9.0%	男	28	11.4	9.6
	女			22	21.7	19.0	
	変形性脊柱障害	33	6.0%	男	12	56.0	10.3
	女			21	66.9	15.6	
脊椎障害	202	36.5%	男	132	68.3	12.9	
女			70	74.9	13.4		
その他の脊柱障害	72	13.0%	男	34	51.2	10.2	
女			38	50.3	7.9		
筋障害	13	2.3%	男	10	61.4	6.6	
女			3	74.3	5.3		

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	滑膜及び腱の障害	7	1.3%	男	4	59.5	6.5
				女	3	56.3	4.3
	その他の軟部組織障害	12	2.2%	男	6	64.2	33.3
				女	6	75.0	28.0
	骨の密度及び構造の障害	16	2.9%	男	8	59.4	15.3
				女	8	76.5	12.9
	その他の骨障害	20	3.6%	男	9	74.1	24.1
				女	11	74.2	21.7
	軟骨障害	1	0.2%	男	1	61.0	11.0
				女	0	-	-
	筋骨格系及び結合組織のその他の障害	16	2.9%	男	6	63.0	9.2
				女	10	76.5	15.4
XIV 腎尿路生殖器系の疾患							
	糸球体疾患	30	4.0%	男	20	51.7	15.2
				女	10	42.3	7.4
	腎尿細管間質性疾患	119	15.8%	男	46	63.7	6.5
				女	73	63.6	7.5
	腎不全	172	22.8%	男	100	67.4	15.4
				女	72	68.5	15.5
	尿路結石症	54	7.2%	男	24	68.2	6.2
				女	30	72.3	8.4
	腎及び尿管のその他の障害	6	0.8%	男	2	85.0	14.5
				女	4	69.8	11.8
	尿路系のその他の疾患	69	9.1%	男	29	70.4	10.9
				女	40	66.0	10.2
	男性生殖器の疾患	140	18.5%	男	140	60.0	6.5
				女	0	-	-
	女性骨盤臓器の炎症性疾患	9	1.2%	男	0	-	-
				女	9	48.4	10.6
	女性生殖器の非炎症性障害	154	20.4%	男	0	-	-
				女	154	50.6	5.1
	腎尿路生殖器系のその他の障害	2	0.3%	男	1	85.0	6.0
				女	1	74.0	5.0
XV 妊娠、分娩及び産褥							
	流産に終わった妊娠	10	1.2%	男	0	-	-
				女	10	32.7	3.0
	妊娠、分娩及び産褥における浮腫、蛋白尿及び高血圧性障害	37	4.5%	男	0	-	-
				女	37	35.2	10.4
	主として妊娠に関連するその他の母体障害	33	4.0%	男	0	-	-
				女	33	33.4	15.2
	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	253	30.9%	男	0	-	-
				女	253	33.1	8.3
	分娩の合併症	278	33.9%	男	0	-	-
				女	278	32.2	12.2
	分娩	205	25.0%	男	0	-	-
				女	205	32.3	5.6
	主として産褥に関連する合併症	3	0.4%	男	0	-	-
				女	3	34.3	6.3
XVI 周産期に発生した病態							
	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	4	1.4%	男	2	0.0	12.0
				女	2	0.0	12.0
	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	79	27.1%	男	51	0.0	44.0
				女	28	0.0	50.8
	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	95	32.6%	男	52	0.0	8.1
				女	43	0.0	8.9
	周産期に特異的な感染症	5	1.7%	男	2	0.0	5.5
				女	3	0.0	9.3
	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	74	25.4%	男	34	0.0	3.9
				女	40	0.0	4.2
	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	2	0.7%	男	0	-	-
				女	2	0.0	9.0
	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	3	1.0%	男	2	0.0	8.5
				女	1	0.0	6.0
	周産期に発生したその他の障害	29	10.0%	男	11	0.0	5.1
				女	18	0.0	7.0

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	
XⅦ 先天奇形，変形及び染色体異常								
	神経系の先天奇形	4	4.5%	男	0	-	-	
				女	4	8.3	64.0	
	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	15	16.9%	男	7	11.6	4.9	
				女	8	18.9	4.5	
	循環器系の先天奇形	11	12.4%	男	8	26.4	24.1	
				女	3	42.3	20.0	
	呼吸器系の先天奇形	2	2.2%	男	1	0.0	5.0	
				女	1	41.0	18.0	
	唇裂及び口蓋裂	3	3.4%	男	1	0.0	3.0	
				女	2	0.0	9.5	
	消化器系のその他の先天奇形	8	9.0%	男	3	41.7	4.0	
				女	5	3.4	9.4	
	生殖器の先天奇形	24	27.0%	男	23	3.4	4.6	
				女	1	83.0	5.0	
	腎尿路系の先天奇形	10	11.2%	男	7	8.9	6.9	
				女	3	34.7	8.7	
	筋骨格系の先天奇形及び変形	6	6.7%	男	3	0.3	7.7	
				女	3	13.7	4.3	
	その他の先天奇形	5	5.6%	男	0	-	-	
				女	5	24.4	7.2	
染色体異常、他に分類されないもの	1	1.1%	男	1	1.0	5.0		
			女	0	-	-		
XⅧ 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの								
	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	7	26.9%	男	3	71.3	5.7	
				女	4	74.3	6.8	
	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	6	23.1%	男	5	87.0	7.8	
				女	1	3.0	3.0	
	腎尿路系に関する症状及び徴候	2	7.7%	男	1	78.0	17.0	
				女	1	76.0	8.0	
	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	2	7.7%	男	1	70.0	5.0	
				女	1	77.0	2.0	
	全身症状及び徴候	9	34.6%	男	5	31.6	2.8	
				女	4	32.3	3.3	
	XⅨ 損傷，中毒及びその他の外因の影響							
		頭部損傷	169	15.6%	男	114	61.4	11.5
女					55	56.6	11.4	
頸部損傷		62	5.7%	男	44	70.8	22.4	
				女	18	73.1	14.3	
胸部＜郭＞損傷		73	6.7%	男	48	69.1	23.0	
				女	25	77.0	13.1	
腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷		110	10.1%	男	52	62.2	15.0	
				女	58	73.6	13.5	
肩及び上腕の損傷		88	8.1%	男	46	49.7	6.2	
				女	42	64.7	11.2	
肘及び前腕の損傷		53	4.9%	男	26	36.9	6.6	
				女	27	71.4	9.6	
手首及び手の損傷		18	1.7%	男	13	64.2	9.5	
				女	5	57.2	3.8	
股関節部及び大腿の損傷		207	19.1%	男	56	70.0	15.7	
				女	151	85.0	15.5	
膝及び下腿の損傷		86	7.9%	男	48	49.3	10.3	
				女	38	60.2	12.8	
足首及び足の損傷		18	1.7%	男	8	46.5	17.8	
				女	10	47.9	15.0	
多部位の損傷	8	0.7%	男	5	69.0	20.0		
			女	3	64.7	15.0		
部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷または部位不明の損傷	4	0.4%	男	4	42.8	12.3		
			女	0	-	-		
自然開口部からの異物侵入の作用	10	0.9%	男	2	3.5	2.5		
			女	8	28.6	5.8		
熱傷及び腐食	13	1.2%	男	6	57.2	17.8		
			女	7	70.9	44.4		
薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	24	2.2%	男	12	31.3	2.8		
			女	12	57.2	5.8		

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	薬用を主としない物質の毒作用	23	2.1%	男	13	50.9	3.3
				女	10	64.9	3.9
	外因のその他及び詳細不明の作用	31	2.9%	男	16	44.6	2.8
				女	15	46.5	2.5
	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	86	7.9%	男	49	68.3	10.5
				女	37	65.5	8.1
	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症	1	0.1%	男	0	-	-
				女	1	24.0	3.0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用							
	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者	29	100.0%	男	12	55.0	7.0
				女	17	52.4	8.0
X X II その他							
	原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類	143	100.0%	男	80	65.0	13.3
				女	63	61.9	14.1
合計		13,474	100.0%	男	7,107	62.2	12.1
				女	6,367	57.9	11.5

(7) - 3 中分類別・性別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均

令和6年度

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
Ⅰ 感染症及び寄生虫症							
	腸管感染症	95	40.4%	男	50	40.0	5.6
				女	45	34.3	5.4
	結核	5	2.1%	男	4	73.3	19.8
				女	1	76.0	70.0
	人畜共通細菌性疾患	1	0.4%	男	1	55.0	14.0
				女	0	-	-
	その他の細菌性疾患	61	26.0%	男	33	60.4	20.9
				女	28	56.6	12.1
	主として性的伝播様式をとる感染症	1	0.4%	男	1	31.0	3.0
				女	0	-	-
	リケッチア症	2	0.9%	男	0	-	-
				女	2	79.5	7.0
	中枢神経系のウイルス感染症	5	2.1%	男	3	25.3	10.7
				女	2	0.0	5.0
	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱	2	0.9%	男	2	77.0	48.5
				女	0	-	-
	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	43	18.3%	男	23	18.2	6.1
				女	20	21.4	6.0
	ウイルス性肝炎	6	2.6%	男	3	13.3	7.3
				女	3	64.3	9.3
	その他のウイルス性疾患	9	3.8%	男	4	28.3	11.5
				女	5	55.4	7.4
	真菌症	1	0.4%	男	1	88.0	39.0
				女	0	-	-
	原虫疾患	1	0.4%	男	0	-	-
				女	1	74.0	7.0
	蠕虫症	3	1.3%	男	0	-	-
				女	3	47.0	6.7
Ⅱ 新生物＜腫瘍＞							
	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	102	2.5%	男	84	69.7	23.4
				女	18	70.4	14.8
	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	1,304	31.9%	男	848	70.8	14.6
				女	456	73.3	13.5
	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	471	11.5%	男	311	71.4	10.2
				女	160	69.3	8.0
	骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	23	0.6%	男	17	14.1	15.1
				女	6	69.8	15.0
	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	25	0.6%	男	16	77.0	13.5
				女	9	73.7	14.2
	中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	34	0.8%	男	10	71.9	11.0
				女	24	66.3	9.8
	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	12	0.3%	男	1	75.0	16.0
				女	11	67.6	10.8
	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	219	5.4%	男	0	-	-
				女	219	62.1	6.6
	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	146	3.6%	男	146	73.7	4.9
				女	0	-	-
	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	177	4.3%	男	132	73.7	10.0
				女	45	76.2	13.6
	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	14	0.3%	男	4	56.0	30.0
				女	10	45.8	25.9
	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	28	0.7%	男	8	58.9	5.6
				女	20	59.2	5.2
	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	147	3.6%	男	82	68.2	10.2
				女	65	69.0	10.4
	リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞	899	22.0%	男	506	67.0	20.0
				女	393	66.9	20.4
	上皮内新生物＜腫瘍＞	50	1.2%	男	3	61.7	9.0
				女	47	42.7	3.6
	良性新生物＜腫瘍＞	220	5.4%	男	48	63.0	8.0
				女	172	47.3	6.9
	性状不詳または不明の新生物＜腫瘍＞	221	5.4%	男	121	66.0	13.0
				女	100	66.2	9.1

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の傷害								
	栄養性貧血	9	9.9%	男	4	69.3	9.5	
				女	5	78.2	5.2	
	溶血性貧血	4	4.4%	男	2	35.5	19.0	
				女	2	74.0	38.5	
	無形成性貧血及びその他の貧血	15	16.5%	男	12	36.3	21.1	
				女	3	66.7	32.3	
	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	44	48.4%	男	19	64.1	10.6	
				女	25	43.6	14.5	
	血液及び造血器のその他の疾患	14	15.4%	男	10	50.8	13.2	
				女	4	32.8	5.5	
	免疫機構の障害	5	5.5%	男	2	56.0	3.5	
				女	3	70.3	4.0	
	Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患							
		甲状腺障害	59	27.1%	男	15	64.5	4.1
女					44	55.8	4.6	
糖尿病		36	16.5%	男	20	61.7	10.8	
				女	16	66.1	13.1	
その他のグルコース調節及び膵内分泌障害		16	7.3%	男	12	47.7	6.0	
				女	4	4.0	2.5	
その他の内分泌腺障害		35	16.1%	男	11	68.6	5.0	
				女	24	63.8	3.9	
その他の栄養欠乏症		5	2.3%	男	4	0.0	5.5	
				女	1	63.0	58.0	
肥満(症)及びその他の過栄養＜過剰摂食＞		9	4.1%	男	2	54.0	39.0	
				女	7	45.3	19.6	
代謝障害		58	26.6%	男	29	65.5	11.2	
				女	29	74.9	8.8	
Ⅴ 精神及び行動の障害								
	症状性を含む器質性精神障害	9	7.4%	男	6	71.7	47.7	
				女	3	77.0	64.0	
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	6	5.0%	男	6	44.5	13.7	
				女	0	-	-	
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	23	19.0%	男	11	47.2	60.6	
				女	12	36.7	63.9	
	気分[感情]障害	34	28.1%	男	10	50.1	52.8	
				女	24	40.4	34.2	
	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	21	17.4%	男	5	48.8	17.0	
				女	16	34.3	28.8	
	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	9	7.4%	男	0	-	-	
				女	9	33.2	45.1	
	成人の人格及び行動の障害	3	2.5%	男	2	13.5	21.0	
				女	1	15.0	20.0	
	知的障害＜精神遅滞＞	5	4.1%	男	4	16.0	45.5	
				女	1	9.0	11.0	
	心理的発達の障害	8	6.6%	男	4	15.3	27.0	
				女	4	14.8	19.3	
小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	3	2.5%	男	1	12.0	30.0		
			女	2	9.5	32.5		
Ⅵ 神経系の疾患								
	中枢神経系の炎症性疾患	14	6.3%	男	9	24.7	21.8	
				女	5	29.0	12.4	
	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	7	3.2%	男	5	24.2	3.8	
				女	2	77.5	42.0	
	錐体外路障害及び異常行動	6	2.7%	男	4	77.0	23.5	
				女	2	40.5	9.0	
	神経系のその他の変性疾患	4	1.8%	男	1	70.0	60.0	
				女	3	69.7	19.0	
	中枢神経系の脱髄疾患	1	0.5%	男	1	12.0	6.0	
				女	0	-	-	
	挿間性及び発作性障害	123	55.4%	男	51	38.0	6.6	
				女	72	48.1	9.0	
	神経、神経根及び神経叢の障害	23	10.4%	男	6	45.3	7.5	
				女	17	59.5	8.5	

退院患者数

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	
	多発(性)ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	2	0.9%	男	1	8.0	13.0	
				女	1	75.0	21.0	
	神経筋接合部及び筋の疾患	3	1.4%	男	2	28.0	14.5	
				女	1	1.0	2.0	
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	6	2.7%	男	4	5.0	2.5	
				女	2	32.0	3.5	
	神経系のその他の障害	33	14.9%	男	18	46.7	23.6	
				女	15	47.4	10.3	
	Ⅶ 眼及び付属器の疾患							
	眼瞼、涙器及び眼窩の障害	15	10.1%	男	6	41.8	2.7	
女				9	32.2	3.9		
結膜の障害	2	1.3%	男	0	-	-		
			女	2	93.0	2.0		
強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害	2	1.3%	男	2	46.0	21.5		
			女	0	-	-		
水晶体の障害	88	59.1%	男	58	76.6	6.6		
			女	30	75.7	6.3		
脈絡膜及び網膜の障害	7	4.7%	男	3	49.0	2.0		
			女	4	67.0	5.0		
緑内障	2	1.3%	男	0	-	-		
			女	2	68.0	4.5		
眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害	33	22.1%	男	21	18.6	3.0		
			女	12	28.2	3.7		
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患								
外耳疾患	2	2.6%	男	2	68.0	15.0		
			女	0	-	-		
中耳及び乳様突起の疾患	40	52.6%	男	23	21.7	4.6		
			女	17	45.6	4.2		
内耳疾患	25	32.9%	男	9	74.6	5.6		
			女	16	67.3	5.1		
耳のその他の障害	9	11.8%	男	5	57.4	8.2		
			女	4	59.5	7.3		
Ⅸ 循環器系の疾患								
慢性リウマチ性心疾患	24	1.3%	男	13	61.9	34.8		
			女	11	71.1	19.1		
高血圧性疾患	13	0.7%	男	8	69.5	11.4		
			女	5	79.4	16.4		
虚血性心疾患	481	26.4%	男	364	70.7	5.0		
			女	117	77.3	5.0		
肺性心疾患及び肺循環疾患	18	1.0%	男	4	70.8	8.5		
			女	14	37.1	10.0		
その他の型の心疾患	625	34.3%	男	341	72.3	9.4		
			女	284	79.9	8.6		
脳血管疾患	442	24.2%	男	232	71.2	17.1		
			女	210	76.7	17.9		
動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	189	10.4%	男	134	73.1	18.8		
			女	55	78.6	18.3		
静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	27	1.5%	男	8	54.8	8.1		
			女	19	71.9	7.9		
循環器系のその他及び詳細不明の障害	5	0.3%	男	2	61.5	17.0		
			女	3	51.3	12.7		
Ⅹ 呼吸器系の疾患								
急性上気道感染症	27	3.3%	男	14	19.9	4.9		
			女	13	20.8	4.9		
インフルエンザ及び肺炎	278	34.2%	男	165	49.4	10.2		
			女	113	37.7	8.9		
その他の急性下気道感染症	105	12.9%	男	74	3.3	5.5		
			女	31	1.7	5.1		
上気道のその他の疾患	107	13.2%	男	67	39.9	7.1		
			女	40	46.9	7.6		
慢性下気道疾患	54	6.7%	男	33	30.1	6.8		
			女	21	35.1	8.3		
外的因子による肺疾患	114	14.0%	男	76	78.9	16.5		
			女	38	79.3	16.7		

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	
	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	48	5.9%	男	26	74.4	22.1	
				女	22	73.5	15.2	
	下気道の化膿性及び壊死性病態	28	3.4%	男	20	70.6	24.3	
				女	8	67.9	22.1	
	胸膜のその他の疾患	39	4.8%	男	31	62.4	11.7	
				女	8	44.3	5.5	
	呼吸器系のその他の疾患	12	1.5%	男	7	45.3	4.9	
				女	5	75.8	20.6	
	X I 消化器系の疾患							
		口腔、唾液腺及び顎の疾患	113	7.5%	男	51	41.8	5.8
女					62	51.8	5.8	
食道、胃及び十二指腸の疾患		80	5.3%	男	51	68.4	9.8	
				女	29	71.2	6.9	
虫垂の疾患		62	4.1%	男	37	37.9	6.8	
				女	25	47.6	5.8	
ヘルニア		171	11.4%	男	108	57.2	6.0	
				女	63	40.8	4.8	
非感染性腸炎及び非感染性大腸炎		30	2.0%	男	20	28.5	15.1	
				女	10	36.1	20.4	
腸のその他の疾患		359	23.9%	男	190	71.0	10.2	
				女	169	68.6	11.6	
腹膜の疾患		23	1.5%	男	11	63.7	15.8	
				女	12	70.5	38.2	
肝疾患		39	2.6%	男	25	68.4	18.8	
				女	14	69.4	13.7	
胆嚢、胆管及び膵の障害	502	33.5%	男	294	70.6	7.4		
			女	208	74.5	8.1		
消化器系のその他の疾患	120	8.0%	男	78	67.5	6.3		
			女	42	74.3	7.1		
X II 皮膚及び皮下組織の疾患								
	皮膚及び皮下組織の感染症	57	47.1%	男	31	44.8	10.8	
				女	26	61.7	11.2	
	水疱症	2	1.7%	男	0	-	-	
				女	2	81.0	37.0	
	皮膚炎及び湿疹	2	1.7%	男	2	55.5	16.0	
				女	0	-	-	
	蕁麻疹及び紅斑	6	5.0%	男	4	9.3	6.0	
				女	2	36.5	5.0	
	皮膚及び皮下組織放射線(非電離及び電離)に関する障害	3	2.5%	男	0	-	-	
				女	3	64.3	33.3	
	皮膚付属器の障害	9	7.4%	男	5	22.2	5.2	
				女	4	32.8	5.3	
	皮膚及び皮下組織のその他の障害	42	34.7%	男	20	56.0	31.2	
				女	22	52.3	24.6	
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患								
	感染性関節障害	9	1.7%	男	6	39.0	13.7	
				女	3	80.3	31.3	
	炎症性多発性関節障害	16	3.0%	男	5	57.2	11.2	
				女	11	62.7	9.9	
	関節症	96	18.3%	男	23	73.8	16.4	
				女	73	75.8	13.8	
	その他の関節障害	8	1.5%	男	3	47.0	8.3	
				女	5	56.8	3.8	
	全身性結合組織障害	40	7.6%	男	21	12.8	13.5	
				女	19	40.4	16.7	
	変形性脊柱障害	24	4.6%	男	10	66.0	9.7	
				女	14	74.0	14.1	
	脊椎障害	197	37.5%	男	115	72.6	14.7	
				女	82	72.5	13.6	
	その他の脊柱障害	52	9.9%	男	29	56.3	9.5	
				女	23	55.2	9.0	
	筋障害	13	2.5%	男	11	58.6	6.3	
				女	2	75.5	13.0	
	滑膜及び腱の障害	10	1.9%	男	5	50.6	5.8	
				女	5	63.4	10.6	
	その他の軟部組織障害	16	3.0%	男	13	55.6	24.2	
				女	3	83.3	14.7	

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	骨の密度及び構造の障害	17	3.2%	男	7	52.7	13.1
				女	10	68.8	16.4
	その他の骨障害	14	2.7%	男	8	58.8	22.4
				女	6	68.7	10.5
	筋骨格系及び結合組織のその他の障害	14	2.7%	男	5	65.2	12.8
				女	9	78.1	14.6
XIV 腎尿路生殖器系の疾患							
	糸球体疾患	35	5.5%	男	19	42.6	6.0
				女	16	43.4	9.8
	腎尿細管間質性疾患	108	17.1%	男	38	67.3	8.7
				女	70	61.5	9.1
	腎不全	198	31.3%	男	126	69.9	18.0
				女	72	67.4	15.3
	尿路結石症	29	4.6%	男	9	58.3	6.6
				女	20	61.2	9.4
	腎及び尿管のその他の障害	3	0.5%	男	3	74.3	10.7
				女	0	-	-
	尿路系のその他の疾患	54	8.5%	男	28	44.7	7.4
				女	26	57.2	8.5
	男性生殖器の疾患	56	8.9%	男	56	49.1	6.3
				女	0	-	-
	女性骨盤臓器の炎症性疾患	18	2.8%	男	0	-	-
				女	18	47.8	9.4
	女性生殖器の非炎症性障害	130	20.6%	男	0	-	-
				女	130	50.0	4.6
	腎尿路生殖器系のその他の障害	1	0.2%	男	1	77.0	5.0
				女	0	-	-
XV 妊娠、分娩及び産褥							
	流産に終わった妊娠	26	2.5%	男	0	-	-
				女	26	30.0	3.3
	妊娠、分娩及び産褥における浮腫、蛋白尿及び高血圧性障害	39	3.7%	男	0	-	-
				女	39	32.7	10.1
	主として妊娠に関連するその他の母体障害	26	2.5%	男	0	-	-
				女	26	32.9	13.2
	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	288	27.3%	男	0	-	-
				女	288	33.2	7.8
	分娩の合併症	350	33.2%	男	0	-	-
				女	350	31.8	10.3
	分娩	319	30.2%	男	0	-	-
				女	319	31.1	5.6
	主として産褥に関連する合併症	3	0.3%	男	0	-	-
				女	3	38.3	6.0
	その他の産科的病態、他に分類されないもの	4	0.4%	男	0	-	-
				女	4	29.8	6.3
XVI 周産期に発生した病態							
	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	3	0.9%	男	1	0.0	6.0
				女	2	0.0	4.0
	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	66	20.6%	男	26	0.0	41.8
				女	40	0.0	29.0
	出産外傷	1	0.3%	男	1	0.0	14.0
				女	0	-	-
	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	99	30.9%	男	53	0.0	7.8
				女	46	0.0	8.9
	周産期に特異的な感染症	7	2.2%	男	5	0.0	4.4
				女	2	0.0	10.5
	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	108	33.8%	男	55	0.0	4.0
				女	53	0.0	4.1
	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	5	1.6%	男	5	0.0	7.2
				女	0	-	-
	胎児及び新生児の消化器系障害	1	0.3%	男	1	0.0	3.0
				女	0	-	-
	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	8	2.5%	男	5	0.0	3.6
				女	3	0.0	2.7
	周産期に発生したその他の障害	22	6.9%	男	13	0.0	5.3
				女	9	0.0	5.9

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
X VII 先天奇形，変形及び染色体異常							
	神経系の先天奇形	3	4.8%	男	2	0.0	15.0
				女	1	11.0	10.0
	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	7	11.3%	男	1	13.0	13.0
				女	6	25.0	4.7
	循環器系の先天奇形	7	11.3%	男	4	79.5	21.8
				女	3	67.7	12.3
	呼吸器系の先天奇形	1	1.6%	男	1	43.0	4.0
				女	0	-	-
	唇裂及び口蓋裂	2	3.2%	男	2	0.0	7.5
				女	0	-	-
	消化器系のその他の先天奇形	9	14.5%	男	3	23.0	3.7
				女	6	38.7	7.5
	生殖器の先天奇形	12	19.4%	男	11	2.5	3.0
				女	1	3.0	4.0
	腎尿路系の先天奇形	10	16.1%	男	2	33.0	13.0
				女	8	63.1	4.4
	筋骨格系の先天奇形及び変形	3	4.8%	男	3	3.7	118.3
				女	0	-	-
	その他の先天奇形	8	12.9%	男	2	27.0	13.0
				女	6	25.5	7.0
X VIII 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの							
	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	5	12.2%	男	3	77.0	9.3
				女	2	78.5	10.5
	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	5	12.2%	男	2	70.5	5.5
				女	3	71.3	4.3
	腎尿路系に関する症状及び徴候	5	12.2%	男	4	72.3	11.8
				女	1	33.0	2.0
	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	4	9.8%	男	2	75.5	10.0
				女	2	86.0	2.0
	全身症状及び徴候	22	53.7%	男	11	21.3	2.7
				女	11	23.8	3.5
X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響							
	頭部損傷	141	14.3%	男	88	60.1	11.3
				女	53	64.4	10.8
	頸部損傷	43	4.3%	男	29	66.9	20.9
				女	14	70.0	16.1
	胸部＜郭＞損傷	66	6.7%	男	42	65.8	10.1
				女	24	71.9	12.8
	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	89	9.0%	男	41	65.2	15.6
				女	48	65.0	16.9
	肩及び上腕の損傷	70	7.1%	男	35	47.6	7.6
				女	35	58.0	9.4
	肘及び前腕の損傷	35	3.5%	男	16	47.9	11.7
				女	19	57.4	5.6
	手首及び手の損傷	7	0.7%	男	4	57.5	8.3
				女	3	13.3	2.3
	股関節部及び大腿の損傷	180	18.2%	男	61	67.3	18.7
				女	119	83.1	15.5
	膝及び下腿の損傷	97	9.8%	男	53	51.2	15.3
				女	44	63.1	18.1
	足首及び足の損傷	12	1.2%	男	7	47.6	15.7
				女	5	62.8	17.2
	多部位の損傷	11	1.1%	男	5	44.6	15.8
				女	6	71.5	19.5
	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	4	0.4%	男	2	45.0	2.5
				女	2	72.5	9.0
	自然開口部からの異物侵入の作用	8	0.8%	男	6	16.7	2.8
				女	2	83.5	5.0
	熱傷及び腐食	16	1.6%	男	7	52.4	21.4
				女	9	71.2	24.0
	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	34	3.4%	男	11	36.8	4.6
				女	23	41.9	3.0
	薬用を主としない物質の毒作用	17	1.7%	男	7	69.3	7.3
				女	10	65.7	5.6
	外因のその他及び詳細不明の作用	54	5.5%	男	28	33.4	3.6
				女	26	64.9	6.0

退院患者数

大分類	中分類	患者総数 (人)	大分類内 患者数 比率	性別	件数	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)
	外傷の早期合併症	2	0.2%	男	2	81.5	17.0
				女	0	-	-
	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	103	10.4%	男	64	71.1	9.1
				女	39	71.2	12.6
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用							
	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者	25	100.0%	男	9	46.8	6.2
				女	16	55.5	8.1
X X II その他							
	原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類	115	100.0%	男	74	63.3	15.1
				女	41	59.9	11.8
合計		13,225	100.0%	男	6,780	61.9	12.3
				女	6,445	57.0	11.0

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

(8) 小分類別・手術の有無・年齢階層別退院患者数・平均年齢・在院日数の平均

令和6年度

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0~2 才	3~5 才	6~15 才	16~20 才	21~40 才	41~60 才	61~79 才	80才~
A020	サルモネラ胃腸炎	無	2	8.5	5.0		1	1					
A020	サルモネラ腸炎	無	1	2.0	6.0	1							
A045	カンピロバクター腸炎	無	2	42.0	7.0					1	1		
A047	クロストリジウム・ディフィシル腸炎	無	2	77.0	14.5							2	
A049	細菌性胃腸炎	無	3	26.0	4.3		1	1			1		
A049	細菌性大腸炎	無	1	57.0	12.0						1		
A049	細菌性腸炎	有	1	76.0	8.0							1	
A049	細菌性腸炎	無	10	43.9	6.0	1	2		1	1		2	3
A080	ロタウイルス性胃腸炎	無	3	4.7	2.7	1	1	1					
A081	ノロウイルス性胃腸炎	無	5	19.6	4.2		2	2				1	
A082	アデノウイルス腸炎	無	1	0.0	5.0	1							
A084	ウイルス性胃腸炎	無	4	3.0	2.3	2	1	1					
A084	ウイルス性下痢	無	1	43.0	6.0						1		
A090	感染性胃腸炎	無	21	26.0	4.4	3	2	10			1	4	1
A090	感染性大腸炎	無	1	44.0	2.0						1		
A090	感染性腸炎	有	2	63.5	13.5					1			1
A090	感染性腸炎	無	23	51.1	6.1			1		8	5	6	3
A099	炎症性腸疾患の疑い	無	2	13.5	2.0			2					
A099	急性胃腸炎	無	9	55.0	5.9	1		1			1	4	2
A099	急性腸炎	有	1	54.0	6.0						1		
A150	肺結核・鏡検確認あり	有	1	68.0	37.0							1	
A150	肺結核・鏡検確認あり	無	1	76.0	70.0							1	
A151	肺結核・培養のみ確認あり	無	1	68.0	20.0							1	
A156	結核性胸膜炎・菌確認あり	無	1	73.0	20.0							1	
A182	結核性リンパ節炎	有	1	84.0	2.0								1
A282	エルシニア菌血症	無	1	55.0	14.0						1		
A310	肺非結核性抗酸菌症	無	1	77.0	8.0							1	
A310	肺非結核性抗酸菌症の疑い	無	2	81.5	2.0								2
A35	破傷風	有	1	78.0	44.0							1	
A370	百日咳菌による百日咳	無	1	0.0	32.0	1							
A401	B群連鎖球菌菌血症	無	1	0.0	13.0	1							
A401	B群連鎖球菌敗血症	無	2	33.0	20.0	1						1	
A410	MRSA菌血症	無	1	76.0	31.0							1	
A410	黄色ぶどう球菌菌血症	無	1	86.0	20.0								1
A412	ぶどう球菌性敗血症	無	1	82.0	12.0								1
A415	グラム陰性菌敗血症	無	3	75.3	11.3						1		2
A415	グラム陰性桿菌敗血症	有	5	70.0	37.6						2	1	2
A415	グラム陰性桿菌敗血症	無	3	74.0	13.0							2	1
A415	大腸菌敗血症	有	2	77.5	25.0							1	1
A415	大腸菌敗血症	無	5	70.4	10.0					1		1	3
A418	セレウス菌敗血症	有	1	66.0	38.0							1	
A418	真菌性敗血症	有	1	82.0	79.0								1
A419	敗血症	有	1	33.0	9.0					1			
A419	敗血症	無	4	67.3	12.3						1	3	
A419	敗血症性ショック	有	7	69.3	25.9						1	6	
A419	敗血症性ショック	無	5	80.6	5.0							2	3
A422	類放線菌症	無	1	72.0	15.0							1	
A46	顔面丹毒	無	1	71.0	7.0							1	
A491	溶連菌感染症	無	2	4.0	4.5		2						
A493	マイコプラズマ感染症	無	1	5.0	4.0		1						
A498	多剤耐性緑膿菌感染症	有	1	68.0	10.0							1	
A498	大腸菌菌血症	無	1	75.0	7.0							1	
A499	菌血症	無	3	1.3	5.7	3							
A499	菌血症の疑い	無	3	1.7	4.7	2	1						
A539	梅毒	無	1	31.0	3.0					1			
A778a	日本紅斑熱	無	2	79.5	7.0							1	1
A810	クロイツフェルト・ヤコブ病の疑い	無	1	70.0	15.0							1	
A850	エンテロウイルス脳炎	無	1	0.0	6.0	1							
A86	ウイルス性髄膜炎	無	1	6.0	12.0			1					
A870	エンテロウイルス髄膜炎	無	1	0.0	5.0	1							
A879	ウイルス性髄膜炎の疑い	無	1	0.0	4.0	1							
A938	重症熱性血小板減少症候群	有	1	77.0	76.0							1	
A938	重症熱性血小板減少症候群	無	1	77.0	21.0							1	
B002	ヘルペス口内炎	無	1	8.0	5.0			1					
B019	水痘	無	1	4.0	3.0		1						
B020	帯状疱疹性髄膜炎	無	1	38.0	17.0					1			
B022	帯状疱疹後神経痛	無	3	71.7	12.3						1	1	1
B027	汎発性帯状疱疹	無	1	74.0	7.0							1	
B029	顔面帯状疱疹	無	1	72.0	13.0							1	
B029	躯幹帯状疱疹	無	2	67.0	11.5						1	1	
B029	後頭部帯状疱疹	無	2	61.0	7.0						1	1	
B029	腰殿部帯状疱疹	無	1	63.0	17.0							1	
B029	頭部顔面帯状疱疹	無	1	80.0	9.0								1
B082	突発性発疹症	無	10	1.0	3.9	10							
B084	手足口病	無	15	1.0	3.5	14	1						
B085	ヘルパンギーナ	無	4	2.5	5.8	3	1						
B159	A型肝炎	無	1	52.0	7.0						1		

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

退院患者数

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
B169	B型急性肝炎	有	1	68.0	14.0							1	
B179	急性肝炎	無	3	25.0	8.7	2						1	
B179	急性肝炎の疑い	無	1	38.0	3.0					1			
B250	サイトメガロウイルス肺炎	無	1	72.0	12.0							1	
B258	サイトメガロウイルス腸炎	無	1	48.0	9.0						1		
B258	サイトメガロウイルス網膜炎	有	1	66.0	30.0							1	
B259	サイトメガロウイルス感染症	有	1	74.0	8.0							1	
B270	E Bウイルス伝染性単核症	無	2	11.5	6.5			1	1				
B279	伝染性単核症	無	1	24.0	5.0					1			
B302	咽頭結膜熱	無	1	6.0	4.0			1					
B342	コロナウイルス感染症	無	1	77.0	2.0							1	
B49	肺真菌症	有	1	88.0	39.0								1
B59	ニューモシスチス肺炎	無	1	74.0	7.0							1	
B810	胃アニサキス症	有	1	61.0	6.0							1	
B810	腸アニサキス症	無	2	40.0	7.0					2			
C01	舌根部癌	有	7	67.1	33.0							7	
C021	舌縁癌	無	2	64.0	43.0							2	
		有	4	58.0	18.8						3		1
C029	舌癌	無	3	64.0	12.3							3	
		有	6	69.8	14.5						2	1	3
C030	上顎歯肉癌	無	4	82.8	15.0							1	3
C031	下顎歯肉癌	有	2	86.0	8.5								2
C040	正中型口腔底癌	無	4	81.8	15.5							1	3
		有	1	70.0	6.0								
C050	硬口蓋癌	有	1	51.0	11.0						1		
C07	耳下腺癌	有	1	42.0	72.0						1		
C080	顎下腺癌	有	2	60.0	14.5						1	1	
		有	2	74.0	7.5							2	
C091	口蓋弓癌	無	1	74.0	7.0							1	
		有	2	80.5	6.5								2
C102	中咽頭側壁癌	有	5	78.4	45.0							2	3
C103	中咽頭後壁癌	有	2	65.5	38.5							2	
C108	中咽頭上壁癌	有	3	71.7	8.0							3	
		無	2	61.0	50.5							2	
C109	中咽頭癌	有	1	63.0	56.0							1	
C12	梨状陥凹癌	有	24	71.9	29.8						1	17	6
		無	18	66.4	6.3						3	15	
C130	輪状後部癌	有	1	74.0	12.0							1	
		無	1	74.0	3.0							1	
C132	下咽頭後部癌	有	3	63.3	31.0						2	1	
C150	頸部食道癌	有	9	67.4	18.7							9	
		無	15	67.9	12.3							15	
C151	胸部下部食道癌	有	20	70.4	21.3						4	10	6
		無	11	72.9	8.8						1	7	3
C151	胸部上部食道癌	有	16	68.8	33.1						1	15	
		無	19	68.6	9.5							18	1
C151	胸部食道癌	有	18	71.4	11.7						3	10	5
		無	21	66.8	7.6						5	14	2
C151	胸部中部食道癌	有	34	68.6	26.0						5	27	2
C151	胸部中部食道癌胃浸潤	有	36	69.6	9.9						1	32	3
		無	3	81.0	24.0								3
C153	上部食道癌	有	3	67.3	39.7						1	1	1
C154	中部食道癌	有	4	67.8	6.0						1	3	
		無	1	77.0	2.0							1	
C155	バレット食道癌	有	2	77.5	36.0							1	1
C155	下部食道癌	有	1	73.0	6.0							1	
C158	食道胃接合部癌	有	5	64.6	19.2						1	4	
		無	7	73.1	8.3							7	
C159	K I T (C D 1 1 7) 陽性食道消化管間質腫瘍	有	1	59.0	7.0						1		
C160	噴門癌	有	7	72.3	10.9						1	5	1
C160	噴門食道接合部癌	無	1	78.0	11.0							1	
		有	6	69.2	18.7						2	2	2
C161	胃底部癌	有	1	75.0	6.0							1	
C162	胃体部G I S T (悪性)	有	2	53.0	15.0						2		
C162	胃体部癌	有	129	72.8	12.7						17	76	36
		無	15	74.9	5.9							14	1
C162	残胃癌体部癌横行結腸浸潤	無	1	77.0	42.0							1	
C163	胃前庭部G I S T (悪性)	有	1	85.0	5.0								1
C163	胃前庭部癌	有	38	76.1	8.8							22	16
		無	1	63.0	1.0							1	
C163	幽門前庭部癌	有	5	73.2	16.0						2	1	2
C164	胃幽門部癌	有	6	79.0	14.5						1	2	3
		無	1	58.0	3.0						1		
C165	胃小弯部癌	有	1	86.0	8.0								1
C169	K I T (C D 1 1 7) 陽性胃消化管間質腫瘍	有	1	76.0	3.0							1	
C169	胃癌の再発	有	1	67.0	26.0							1	
C169	胃神経内分泌腫瘍	有	1	59.0	12.0						1		
C169	胃進行癌	無	1	77.0	12.0							1	
C170	十二指腸癌	有	1	81.0	33.0								1
		無	4	75.8	4.8							3	1

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
C170	十二指腸消化管間質腫瘍	有	3	69.0	16.7						1	1	1
C170	十二指腸神経内分泌腫瘍	有	2	64.5	4.0						1	1	
		無	2	70.0	5.0							2	
C171	空腸GIST(悪性)	有	1	79.0	16.0							1	
C171	空腸癌	有	2	67.5	17.0						1	1	
C171	空腸消化管間質腫瘍	有	1	56.0	8.0						1		
C172	回腸癌の疑い	無	1	87.0	3.0								1
C179	小腸癌の疑い	無	1	75.0	2.0							1	
C179	小腸消化管間質腫瘍	有	1	67.0	17.0							1	
C179	小腸消化管間質腫瘍の疑い	無	1	56.0	2.0						1		
C180	回盲部癌	有	1	85.0	11.0								1
		無	1	78.0	21.0							1	
C180	盲腸癌	有	20	76.0	20.1						2	10	8
C181	虫垂癌	有	4	81.0	13.3						1		3
		無	1	60.0	4.0						1		
C181	虫垂粘液癌	有	2	67.5	6.0						1	1	
		無	1	59.0	6.0						1		
C182	上行結腸癌	有	40	76.0	17.0						7	8	25
		無	2	85.5	14.0							1	1
C183	肝彎曲部癌	無	1	83.0	11.0								1
C184	横行結腸癌	有	35	74.3	16.3						3	20	12
C186	下行結腸癌	有	19	68.6	15.0					1	1	14	3
C187	S状結腸癌	有	55	73.5	17.3					1	3	35	16
		無	7	74.6	6.1							6	1
C19	直腸S状部悪性腫瘍	有	1	88.0	10.0								1
C19	直腸S状部癌	有	25	72.0	17.4						2	18	5
		無	1	85.0	5.0								1
C20	直腸カルチノイド	有	5	40.8	9.0					1	4		
C20	直腸癌	有	197	68.9	20.1					2	38	133	24
		無	9	63.9	17.9						4	5	
C20	直腸癌横行結腸浸潤	有	1	84.0	36.0								1
C20	直腸癌術後再発	有	1	68.0	16.0							1	
		無	3	79.0	13.7							3	
C20	直腸神経内分泌腫瘍	有	4	59.5	9.3					1	1	2	
C211	痔瘻癌	有	1	69.0	55.0							1	
C211	肛門管癌	有	2	77.5	58.5							1	1
C220	肝細胞癌	有	52	71.6	5.8						6	35	11
		無	13	78.5	12.4						1	6	6
C220	肝細胞癌の疑い	無	3	66.3	2.0						1	2	
C220	肝細胞癌破裂	有	1	52.0	10.0						1		
C221	肝内胆管癌	有	5	79.2	15.4							2	3
		無	1	84.0	13.0								1
C221	肝内胆管癌の疑い	無	3	69.0	2.3						1	1	1
C227	混合型肝癌	有	1	43.0	24.0						1		
C23	胆のう癌	有	18	78.8	10.4							11	7
		無	6	74.2	4.5							5	1
C240	遠位胆管癌	有	3	63.7	17.0						1	2	
		無	1	74.0	29.0							1	
C240	肝外胆管癌	有	4	79.5	11.3							1	3
C240	上部胆管癌	有	3	81.0	14.7							2	1
C240	胆のう管癌	有	2	70.0	11.0							2	
		無	1	89.0	11.0								1
C240	胆管癌	有	2	81.5	3.5							1	1
C240	中部胆管癌	有	4	88.5	6.5								4
C241	十二指腸乳頭部癌	有	16	77.3	13.8							11	5
C248	肝門部胆管癌	有	34	77.5	12.6						2	15	17
		無	1	49.0	17.0						1		
C248	肝門部胆管癌術後再発	有	1	73.0	8.0							1	
		無	2	73.0	5.5							2	
C250	膵頭部癌	有	135	71.6	10.4						23	88	24
		無	14	75.4	6.2						1	9	4
C250	膵頭部癌の疑い	無	3	64.3	2.3						1	2	
C250	膵鉤部膵頭部癌	有	1	66.0	10.0							1	
C251	膵体部癌	有	20	68.1	13.3						4	14	2
		無	12	73.9	5.2						2	7	3
C251	膵体部癌の疑い	無	1	50.0	2.0						1		
C252	膵尾部癌	有	13	64.5	11.1						6	5	2
		無	4	73.0	13.8						1	1	2
C252	膵尾部癌の疑い	無	3	68.3	2.7							3	
C253	膵管癌	有	1	80.0	18.0								1
C253	膵管内乳頭粘液性腺癌	有	10	74.6	21.9						1	6	3
C258	膵体尾部癌	有	4	61.5	15.8						1	3	
		無	1	72.0	2.0							1	
C258	膵体尾部癌の疑い	無	1	81.0	2.0								1
C300	鼻腔癌	有	2	63.0	14.0						1	1	
C310	上顎癌	有	2	57.5	59.5						1	1	
		無	3	79.3	50.3							2	1
C311	篩骨洞癌	有	1	54.0	11.0						1		
C311	篩骨洞癌の再発	有	1	74.0	9.0							1	
		無	1	74.0	50.0							1	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
C320	声門癌	有	2	67.0	67.0							2	
		無	3	76.3	12.0							2	1
C321	喉頭蓋癌	有	1	77.0	26.0							1	
C321	声門上癌	有	3	61.0	33.7							3	
		無	2	61.0	32.0						1	1	
C33	気管癌	有	1	74.0	3.0							1	
		無	1	74.0	2.0							1	
C340	肺門部肺癌	無	1	73.0	1.0							1	
C341	E G F R遺伝子変異陽性上葉肺癌	無	1	51.0	12.0						1		
C341	E G F R遺伝子変異陽性上葉肺腺癌	無	1	66.0	12.0							1	
C341	上葉小細胞肺癌	有	5	68.2	13.6						1	3	1
		無	28	74.3	6.7						3	21	4
C341	上葉肺癌	有	73	71.8	10.0						11	42	20
		無	60	71.1	6.0						7	42	11
C341	上葉肺癌の疑い	無	31	73.6	2.5						3	20	8
C341	上葉肺腺癌	無	6	61.7	11.3					2	2		2
C341	上葉肺扁平上皮癌	有	2	82.5	11.5							1	1
		無	3	75.3	32.0							2	1
C341	上葉非小細胞肺癌	有	9	72.3	18.1							9	
		無	22	66.3	9.1						5	17	
C341	肺上葉大細胞神経内分泌癌	無	2	66.0	4.0							2	
C342	中葉肺癌	有	11	67.8	7.7						3	6	2
		無	8	71.6	6.8						2	5	1
C342	中葉肺癌の疑い	無	2	73.5	2.0							2	
C342	中葉非小細胞肺癌	有	2	73.5	13.5							2	
		無	1	77.0	21.0							1	
C343	R E T融合遺伝子陽性下葉肺癌	有	1	55.0	51.0						1		
C343	下葉小細胞肺癌	有	9	74.4	10.7							8	1
		無	31	73.1	7.9							31	
C343	下葉肺癌	有	37	72.7	9.7					1	5	22	9
		無	36	75.9	5.8							26	10
C343	下葉肺癌の疑い	無	20	73.0	2.3					1	3	13	3
C343	下葉肺癌の再発	無	1	77.0	2.0							1	
C343	下葉肺腺癌	有	3	82.7	20.0							1	2
		無	2	81.0	29.5							1	1
C343	下葉肺扁平上皮癌	有	1	70.0	47.0							1	
		無	4	71.0	12.3						1	2	1
C343	下葉非小細胞肺癌	有	10	73.9	18.7							8	2
		無	9	59.7	4.8					2	1	6	
C343	再発下葉肺腺癌の術後	無	1	77.0	3.0							1	
C349	E G F R遺伝子変異陽性非小細胞肺癌	無	2	67.0	11.5						1	1	
C37	胸腺癌	無	1	65.0	2.0							1	
C37	浸潤型胸腺腫	有	2	63.5	4.5						1	1	
C381	前縦隔悪性腫瘍	有	1	71.0	7.0							1	
C383	悪性縦隔腫瘍	有	1	75.0	7.0							1	
C383	悪性縦隔腫瘍の疑い	無	1	78.0	4.0							1	
C383	縦隔神経芽腫	無	7	1.0	3.4	7							
C402	近位脛骨軟骨肉腫	有	1	88.0	47.0								1
C402	大腿骨悪性腫瘍	有	2	68.0	13.5							2	
		無	1	68.0	12.0							1	
C402	大腿骨遠位端骨肉腫	有	4	12.0	7.3			4					
		無	5	12.0	6.4			5					
C402	脛骨遠位部悪性骨腫瘍	有	1	31.0	13.0					1			
C413	肋骨ユーイング肉腫	有	6	8.7	30.0			6					
C413	肋骨軟骨肉腫の疑い	無	1	48.0	2.0						1		
C414	骨盤骨肉腫	有	1	74.0	1.0							1	
C414	腸骨悪性腫瘍の疑い	無	1	53.0	3.0						1		
C437	下肢悪性黒色腫の術後	有	1	76.0	11.0							1	
		無	1	77.0	8.0							1	
C437	母趾悪性黒色腫	有	1	92.0	43.0								1
C440	下唇有棘細胞癌	有	1	83.0	22.0								1
C440	上唇基底細胞癌	有	1	51.0	3.0						1		
C441	上眼瞼基底細胞癌	有	1	92.0	6.0								1
C442	外耳道癌	無	1	83.0	14.0								1
C443	再発性頬部メルケル細胞癌	有	1	80.0	27.0								1
C443	再発性頬部メルケル細胞癌の術後	無	1	80.0	44.0								1
C443	鼻背有棘細胞癌	有	1	88.0	7.0								1
C443	鼻部基底細胞癌	有	6	72.2	8.2							5	1
C443	鼻翼基底細胞癌	有	1	80.0	6.0								1
C444	頸部有棘細胞癌	有	1	66.0	8.0							1	
C444	頭部基底細胞癌	有	2	76.0	8.5							1	1
C444	頭部皮膚癌	有	1	59.0	7.0						1		
C444	頭部有棘細胞癌	有	1	85.0	15.0								1
C449	乳房外パジェット病	有	2	63.5	20.0							2	
C449	皮膚悪性腫瘍	有	1	91.0	17.0								1
C450	悪性胸膜中皮腫	有	1	76.0	9.0							1	
		無	2	73.0	9.0							2	
C450	悪性胸膜中皮腫の疑い	有	2	68.0	4.5							2	
C451	悪性腹膜中皮腫	有	3	48.3	16.7						3		
		無	1	56.0	4.0						1		
C480	後腹膜脂肪肉腫	有	1	58.0	12.0						1		

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
C481	腸間膜脂肪肉腫	有	1	67.0	35.0							1	
C482	腹膜癌	有	4	70.0	8.5							4	
C482	腹膜癌の疑い	無	12	68.8	3.4						1	11	
C482	腹膜癌の疑い	有	1	62.0	5.0							1	
C491	再発性前腕悪性軟部腫瘍	有	1	80.0	4.0								1
C491	上腕脂肪肉腫	有	1	59.0	2.0						1		
C491	前腕悪性軟部腫瘍の再発	有	1	84.0	23.0								1
C492	大腿悪性軟部腫瘍	有	1	78.0	36.0							1	
C492	大腿部脂肪肉腫	有	1	80.0	13.0								1
C496	背部悪性軟部腫瘍	有	1	76.0	51.0							1	
C501	乳房中央部乳癌	有	3	68.7	9.3						1	2	
C502	乳房上内側部乳癌	無	1	52.0	5.0						1		
C503	乳房下内側部乳癌	無	1	80.0	14.0								1
C504	乳房上外側部乳癌	有	4	71.5	9.3							4	
C504	乳房上外側部乳癌	無	1	49.0	38.0						1		
C505	乳房下外側部乳癌	有	1	82.0	9.0								1
C505	乳房下外側部乳癌	無	1	63.0	4.0							1	
C52	陰癌	無	1	82.0	48.0								1
C531	子宮腔部癌	有	4	50.3	7.3					1	2	1	
C531	子宮腔部癌	無	2	60.0	28.5						1	1	
C539	子宮頸癌	有	2	73.0	6.0							2	
C539	子宮頸癌	無	2	40.5	3.5					1	1		
C539	子宮頸部腺癌	有	1	44.0	8.0						1		
C539	子宮頸部腺癌	無	1	36.0	15.0					1			
C541	子宮内膜癌	有	15	60.6	9.2						8	6	1
C541	子宮内膜癌	無	20	59.9	6.3						8	12	
C541	子宮内膜癌の疑い	有	2	47.0	3.0						2		
C542	子宮肉腫	有	2	41.0	6.0						2		
C542	子宮肉腫	無	6	53.0	5.8						3	3	
C549	子宮体癌	有	4	65.3	7.3						2	1	1
C549	子宮体癌の疑い	有	2	63.0	3.0						1	1	
C549	子宮体癌再発	有	6	76.0	4.2							6	
C56	再発卵巣癌	有	1	64.0	4.0							1	
C56	再発卵巣癌	無	7	56.3	4.6						6	1	
C56	卵巣悪性腫瘍	有	1	47.0	7.0						1		
C56	卵巣悪性腫瘍	無	5	46.0	9.2						5		
C56	卵巣癌	有	29	64.6	8.5						11	15	3
C56	卵巣癌	無	87	63.3	5.2						42	38	7
C56	卵巣癌の疑い	有	2	63.0	11.0						1	1	
C56	卵巣癌の疑い	無	1	85.0	2.0								1
C56	卵巣癌肉腫	有	1	77.0	8.0							1	
C570	卵管癌	有	2	59.0	7.5						1	1	
C570	卵管癌	無	13	70.4	4.9						1	13	
C61	去勢抵抗性前立腺癌	有	4	72.5	15.0							4	
C61	前立腺癌	有	4	60.8	9.8						2	2	
C61	前立腺癌	無	36	72.1	9.8						2	31	3
C61	前立腺癌の疑い	有	15	79.0	2.9						1	6	8
C61	前立腺癌の疑い	無	84	74.5	2.1						3	60	21
C629	精巣セミノーマ	有	1	61.0	18.0							1	
C629	精巣セミノーマ	無	2	61.0	13.0							2	
C64	腎癌	有	17	66.4	9.4						5	9	3
C64	腎癌	無	5	72.2	7.4							4	1
C64	腎癌の疑い	有	6	72.8	2.8						1	3	2
C64	腎癌の疑い	無	1	78.0	21.0							1	
C64	腎細胞癌	有	1	61.0	12.0							1	
C65	腎盂癌	有	14	72.6	24.9						2	9	3
C65	腎盂癌	無	9	77.6	12.2							6	3
C65	腎盂癌の疑い	有	3	69.0	5.0							3	
C66	尿管癌	有	8	75.3	12.3							5	3
C66	尿管癌	無	10	76.1	10.1							5	5
C66	尿管癌の疑い	有	1	86.0	5.0								1
C670	膀胱三角部膀胱癌	有	7	73.7	7.4						2	2	3
C670	膀胱三角部膀胱癌	無	3	79.0	10.0							3	
C671	膀胱円蓋部膀胱癌	有	1	71.0	6.0							1	
C671	膀胱円蓋部膀胱癌	無	2	74.0	14.0							1	1
C672	膀胱側壁部膀胱癌	有	31	77.0	9.6						1	19	11
C672	膀胱側壁部膀胱癌	無	13	76.3	12.9							10	3
C673	膀胱前壁部膀胱癌	有	6	76.2	11.5							6	
C673	膀胱前壁部膀胱癌	無	1	78.0	18.0							1	
C674	膀胱後壁部膀胱癌	有	14	77.4	8.7							7	7
C674	膀胱後壁部膀胱癌	無	3	71.3	7.3							3	
C675	膀胱頸部膀胱癌	有	10	77.5	6.7							8	2
C676	尿管口部膀胱癌	有	3	70.7	11.7							3	
C676	尿管口部膀胱癌	無	1	70.0	4.0							1	
C679	膀胱癌の疑い	有	2	77.5	3.0							2	
C679	膀胱癌の疑い	無	1	52.0	11.0						1		
C680	尿道癌	有	1	70.0	19.0							1	
C680	尿道癌	無	3	70.0	15.0							3	
C700	悪性髄膜腫	有	1	84.0	25.0								1
C710	大脳悪性腫瘍	有	1	93.0	9.0								1
C712	側頭葉悪性星状細胞腫	無	1	45.0	6.0						1		

退院患者数

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
C712	頭葉膠芽腫	有	2	86.5	57.5								2
C713	頭頂葉膠芽腫	有	1	56.0	9.0						1		
		無	2	56.0	18.5						2		
C719	テント上上衣腫	有	1	9.0	18.0			1					
C719	鞍上部胚細胞腫瘍	有	2	13.0	51.5			2					
		無	2	13.0	13.0			2					
C720	悪性脊髄腫瘍	有	1	58.0	31.0						1		
C73	甲状腺髄様癌	有	1	58.0	4.0						1		
C73	甲状腺乳頭癌	有	26	58.5	5.2			2			11	9	4
C740	副腎皮質癌	有	1	77.0	9.0							1	
C760	頭頸部癌	有	1	86.0	20.0								1
C770	頸部リンパ節転移	有	8	70.5	8.1					1	1	2	4
C771	胸骨傍リンパ節転移の疑い	有	1	70.0	2.0							1	
C772	後腹膜リンパ節転移	有	1	77.0	20.0							1	
C772	大動脈周囲リンパ節転移	有	1	61.0	9.0							1	
C780	転移性肺癌	有	1	68.0	10.0							1	
C780	転移性肺癌の疑い	有	1	71.0	2.0							1	
		無	1	71.0	2.0							1	
C780	転移性肺腫瘍	有	35	70.8	7.5						9	17	9
		無	1	72.0	1.0							1	
C782	癌性胸水	有	1	83.0	16.0								1
		無	1	56.0	12.0						1		
C782	癌性胸膜炎	有	4	76.8	5.5							3	1
C782	転移性胸膜腫瘍	有	1	49.0	8.0						1		
C785	転移性大腸癌	有	1	71.0	22.0							1	
C785	転移性直腸癌	有	1	64.0	28.0							1	
C785	膵癌の横行結腸浸潤	有	1	95.0	13.0								1
C786	癌性腹水	有	6	65.7	4.7						1	5	
		無	2	64.0	13.0						1	1	
C786	癌性腹膜炎	有	1	71.0	17.0							1	
		無	1	71.0	17.0							1	
C786	転移性後腹膜腫瘍	有	3	70.7	10.7							3	
C786	腹膜偽粘液腫	有	1	52.0	14.0						1		
C786	腹膜播種	有	1	54.0	2.0						1		
C786	腹膜播種結腸浸潤	有	1	53.0	24.0						1		
C787	転移性肝癌	有	15	68.6	10.5					1	4	7	3
		無	4	60.3	6.5						2	2	
C787	転移性肝癌の疑い	有	1	84.0	2.0								1
C787	転移性肝腫瘍	有	8	62.8	14.4						3	4	1
		無	5	73.4	4.2						1	2	2
C790	転移性腎腫瘍	有	1	71.0	9.0							1	
C793	転移性脳腫瘍	有	3	72.0	54.0						1	1	1
		無	7	67.7	10.6						2	3	2
C795	胸椎転移	有	1	77.0	10.0							1	
C795	腰椎転移	有	2	79.5	15.0							1	1
C795	骨転移癌	有	1	85.0	9.0								1
C795	多発性転移性骨腫瘍	有	3	56.3	7.7						1	2	
		無	1	88.0	15.0								1
C795	大腿骨転移性骨腫瘍	有	1	79.0	4.0							1	
		無	1	69.0	11.0							1	
C795	転移性胸椎腫瘍	有	1	69.0	9.0							1	
		無	1	77.0	15.0							1	
C795	転移性骨腫瘍	有	1	49.0	10.0						1		
C796	転移性卵巣癌	有	5	60.6	8.6						3	1	1
C797	転移性副腎腫瘍	有	1	70.0	8.0							1	
C797	副腎転移	有	1	73.0	10.0							1	
C798	癌性心膜炎	有	1	53.0	10.0						1		
C798	転移性腹壁腫瘍	有	1	68.0	8.0							1	
C800	原発不明癌	有	2	49.0	23.0						2		
		無	2	75.0	2.0							2	
C809	喉頭神経内分泌細胞癌	有	1	61.0	20.0							1	
		無	1	61.0	7.0							1	
C810	結節性リンパ球優位型ホジキンリンパ腫	有	1	66.0	22.0							1	
		無	6	66.0	5.0							6	
C811	結節硬化型古典的ホジキンリンパ腫	有	3	68.0	45.0							3	
		無	5	65.8	14.0						1	4	
C811	再発結節硬化型古典的ホジキンリンパ腫	有	3	51.0	33.0						3		
C812	混合細胞型古典的ホジキンリンパ腫	有	2	74.0	23.0							2	
		無	2	70.0	12.5							2	
C820	十二指腸濾胞性リンパ腫・グレード1	有	1	71.0	3.0							1	
C820	濾胞性リンパ腫・グレード1	有	1	69.0	31.0							1	
		無	8	71.6	10.4							7	1
C821	濾胞性リンパ腫・グレード2	有	2	63.0	14.0							2	
		無	20	73.7	8.3							19	1
C821	濾胞性リンパ腫・グレード2の再発	有	1	82.0	25.0								1
C823	濾胞性リンパ腫・グレード3 a	有	4	68.5	18.0						1	2	1
		無	7	81.0	6.6							2	5
C829	濾胞性リンパ腫	有	1	60.0	20.0						1		
		無	9	66.3	8.4						4	5	
C830	リンパ形質細胞性リンパ腫	有	3	77.0	20.3							3	
		無	10	73.9	11.6							9	1
C831	マントル細胞リンパ腫	有	6	58.3	25.5						4	2	
		無	9	66.3	7.2						3	6	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数の 平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
C833	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	有	75	69.4	22.2				2	1	7	50	15
		無	115	66.1	11.8				5	5	23	60	22
C833	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 中枢神経浸潤	有	1	55.0	30.0						1		
		無	3	55.0	17.0						3		
C833	胃びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	無	4	66.0	12.0							4	
C833	高齢者EBV陽性びまん性大細胞型 B細胞性リンパ腫	有	1	81.0	40.0								1
C833	再発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	有	6	74.7	23.5							6	
		無	1	67.0	9.0							1	
C833	再発性びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	有	2	59.0	28.5						2		
C833	再発性びまん性大細胞型B細胞性リ ンパ腫中枢神経浸潤	無	2	77.0	20.0							2	
C833	十二指腸びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	有	3	91.0	21.3								3
		無	2	91.0	20.0								2
C833	中枢神経系原発びまん性大細胞型B 細胞性リンパ腫	有	7	61.6	32.7						4		3
		無	3	47.0	23.0						3		
C833	皮膚原発びまん性大細胞型B細胞リ ンパ腫・下肢型	無	1	94.0	3.0								1
C835	Bリンパ芽球性リンパ腫	有	3	3.3	55.7		3						
		無	2	3.0	9.0		2						
C835	リンパ芽球性リンパ腫	有	3	73.0	24.3							3	
C837	バーキットリンパ腫	有	5	73.0	26.0							5	
C837	バーキットリンパ腫の再発	有	1	66.0	43.0							1	
C838	びまん性大細胞型・バーキット中間 型分類不能B細胞性リンパ腫	有	1	83.0	33.0								1
C838	血管内大細胞型B細胞性リンパ腫	無	1	56.0	2.0						1		
C838	血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の疑い	無	1	68.0	5.0							1	
C838	血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の再発	有	5	60.2	17.4						4	1	
		無	6	61.0	19.8						4	2	
C839	高悪性度B細胞リンパ腫	有	11	68.4	15.0						2	9	
C844	末梢性T細胞リンパ腫	有	5	78.2	25.6							4	1
C847	ALK陰性未分化大細胞リンパ腫	有	6	73.3	20.2							6	
		無	3	73.0	14.7							3	
C851	B細胞性非ホジキンリンパ腫	有	5	82.2	23.6							1	4
		無	3	76.7	10.0							1	2
C851	CD20陽性B細胞性非ホジキンリンパ腫	有	1	84.0	43.0								1
C851	低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫	無	1	74.0	22.0							1	
C859	悪性リンパ腫	有	1	85.0	6.0								1
C859	悪性リンパ腫の疑い	有	2	84.5	4.0							1	1
		無	6	74.5	4.7							6	
C859	胃悪性リンパ腫	無	1	84.0	4.0								1
C859	回盲部悪性リンパ腫	有	2	64.5	15.0						1		1
C859	甲状腺悪性リンパ腫	有	2	73.0	4.0							2	
C859	中枢神経系原発悪性リンパ腫	有	1	73.0	7.0							1	
C859	非ホジキンリンパ腫の疑い	無	1	82.0	18.0								1
C865	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	有	9	77.6	21.1							2	7
		無	20	78.9	11.2							5	15
C865	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の再発	有	1	83.0	42.0								1
C865	再発血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の疑い	無	1	78.0	3.0							1	
C880	原発性マクログロブリン血症	無	2	72.0	5.0							2	
C884	胃MALTLリンパ腫	有	1	85.0	44.0								1
		無	1	63.0	29.0							1	
C884	甲状腺MALTLリンパ腫	無	2	80.0	20.0							1	1
C884	小腸MALTLリンパ腫	有	1	87.0	38.0								1
C900	POEMS症候群	有	2	53.0	7.5						2		
		無	2	53.0	15.0						2		
C900	ペンスジョーンズ型多発性骨髄腫	有	6	72.0	52.5							6	
		無	3	75.3	15.3							2	1
C900	形質細胞性骨髄腫	無	1	69.0	6.0							1	
C900	多発性骨髄腫	有	34	71.0	35.5						1	29	4
		無	60	74.1	16.3						1	42	17
C900	多発性骨髄腫の疑い	無	1	74.0	2.0							1	
C900	多発性骨髄腫の再発	有	1	75.0	34.0							1	
		無	1	68.0	13.0							1	
C900	難治性多発性骨髄腫	有	1	77.0	6.0							1	
		無	1	78.0	18.0							1	
C902	骨外形質細胞腫	無	3	81.3	4.3							1	2
C903	孤立性骨形質細胞腫	無	1	85.0	20.0								1
C910	Bリンパ芽球性白血病	有	3	7.3	70.3		1	2					
		無	5	9.0	4.2			5					
C910	Bリンパ芽球性白血病／リンパ腫	有	9	54.6	29.6						9		
C910	Bリンパ芽球性白血病／リンパ腫の再発	有	1	68.0	50.0							1	
C910	Ph陽性急性リンパ性白血病	有	15	56.2	34.0					3	5	7	
		無	17	58.2	23.7					3	6	8	
C910	TEL-AML1陽性Bリンパ芽球性白血病	有	1	6.0	20.0			1					
		無	4	6.0	20.3			4					
C910	Tリンパ芽球性白血病／リンパ腫	有	2	69.0	53.5							2	
		無	1	69.0	29.0							1	
C910	急性リンパ性白血病	有	5	61.6	32.6						3	2	
		無	7	57.6	24.3					1	4	2	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
C910	小児急性リンパ性白血病	有	3	13.0	38.3			3					
		無	1	13.0	9.0			1					
C910	難治性Bリンパ芽球性白血病	無	5	71.2	25.6							5	
		有	4	68.3	37.3							4	
C910	難治性Ph陽性急性リンパ性白血病	無	17	48.9	18.2				7			10	
		有	2	72.0	13.5							1	1
C911	慢性リンパ性白血病	無	2	72.0	13.5							1	
C914	ヘアリー細胞白血病	無	1	63.0	2.0							1	
C915	CCR4陽性成人T細胞白血病リンパ腫	無	1	74.0	20.0							1	
C915	CCR4陽性成人T細胞白血病リンパ腫の再発	有	1	74.0	23.0							1	
C915	成人T細胞白血病リンパ腫	有	7	77.1	29.6						1	2	4
		無	6	79.0	26.0							4	2
C915	成人T細胞白血病リンパ腫・急性型	有	4	59.3	30.5						4		
		無	1	60.0	23.0						1		
C915	難治性成人T細胞白血病リンパ腫・急性型	有	2	60.0	78.5						2		
C917	T細胞性大顆粒リンパ球白血病	無	1	87.0	17.0								1
C920	FLT3-ITD変異陽性急性骨髄性白血病	有	8	49.8	36.1					1	6	1	
		無	1	27.0	52.0					1			
C920	FLT3-ITD変異陽性急性骨髄性白血病の再発	有	2	71.0	37.0							2	
C920	急性骨髄性白血病	有	49	67.4	33.9					2	6	40	1
		無	61	71.0	8.0					2	7	48	4
C920	再発FLT3-ITD変異陽性急性骨髄性白血病	有	1	71.0	62.0							1	
C920	再発急性骨髄性白血病・最末分化型	有	1	15.0	127.0			1					
C920	分化型急性骨髄性白血病 (M2)	有	1	80.0	31.0								1
		無	2	71.0	14.0							2	
C920	未分化型急性骨髄性白血病 (M1)	有	2	82.0	36.0							1	1
		無	5	87.4	6.8								5
C921	慢性骨髄性白血病	有	1	66.0	54.0							1	
		無	6	66.7	12.7						2	3	1
C921	慢性骨髄性白血病急性転化	有	3	74.3	29.7							3	
		無	1	75.0	29.0							1	
C921	慢性骨髄性白血病慢性期	無	2	70.5	6.5						1		1
		有	1	70.0	5.0							1	
C923	顆粒球肉腫	無	11	69.4	5.0							11	
C924	急性前骨髄球性白血病	有	2	48.5	34.5					1		1	
		無	7	42.7	22.4					4	1	2	
C924	再発性急性前骨髄球性白血病	有	2	43.0	31.5						2		
		無	3	42.0	40.0						3		
C928	骨髄異形成関連変化を伴う急性骨髄性白血病	有	25	69.2	35.6						8	12	5
		無	11	72.1	10.6						1	10	
C930	急性単球性白血病	無	1	60.0	11.0						1		
D001	食道上皮内癌	有	1	77.0	6.0							1	
D046	示指ボーエン病	有	1	47.0	11.0						1		
D069	子宮頸部上皮内癌	有	2	41.0	4.0					1	1		
D069	子宮頸部上皮内腫瘍・異型度3	有	42	42.6	3.7					20	19	3	
		無	1	23.0	2.0					1			
D071	外陰部ボーエン病	有	1	68.0	4.0							1	
D072	膣上皮内癌	有	1	42.0	3.0						1		
D090	膀胱上皮内癌	無	1	61.0	10.0							1	
D121	虫垂性腫瘍	有	2	79.0	7.0							1	1
D122	上行結腸腺腫	有	3	69.0	3.0						1	1	1
D123	横行結腸腺腫	有	3	70.3	3.0							3	
D126	大腸腺腫	有	2	79.5	5.0							1	1
D128	直腸腺腫	有	5	76.2	5.8							3	2
D131	胃腺腫	有	7	52.7	4.7					3	1	3	
D132	十二指腸腺腫	有	7	65.1	4.0						3	3	1
D134	肝良性腫瘍	有	1	65.0	9.0							1	
D135	胆のう腺筋腫	有	3	62.3	4.7						1	2	
D136	膵管内乳頭粘液性腺腫	有	6	74.7	18.5						1	3	2
		無	1	84.0	2.0								1
D140	副鼻腔内反性乳頭腫	有	2	74.0	5.5							1	1
D143	肺良性腫瘍	有	5	73.0	12.6						1	3	1
D152	良性縦隔腫瘍	有	1	69.0	4.0							1	
D164	外耳道骨腫	有	1	60.0	3.0						1		
D165	下顎エナメル上皮腫	有	1	63.0	28.0							1	
D171	腰部脂肪腫	有	1	71.0	4.0							1	
D172	肩部脂肪腫	有	1	78.0	5.0							1	
D175	胃脂肪腫	有	1	52.0	8.0						1		
D177	腎血管筋脂肪腫	有	2	51.0	6.0					1		1	
D181	頸部のう胞性リンパ管腫	無	1	36.0	3.0					1			
D181	腹腔内リンパ管腫	有	1	53.0	2.0						1		
D200	後腹膜良性腫瘍	有	2	60.0	7.5						1	1	
D210	頸部良性軟部腫瘍	有	2	63.5	4.0							2	
D211	肩部良性軟部腫瘍	有	1	65.0	8.0							1	
D211	中指軟部良性腫瘍	有	1	73.0	5.0							1	
D212	足部良性軟部腫瘍	有	1	50.0	4.0						1		
D213	胸部良性軟部腫瘍	有	1	48.0	8.0						1		
D215	殿部良性軟部腫瘍	有	1	68.0	11.0							1	
D216	背部良性軟部腫瘍	有	4	60.0	6.0						3	1	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
D219	後頭部良性軟部腫瘍	有	1	49.0	3.0						1		
D219	上唇血管平滑筋腫	有	1	61.0	4.0							1	
D223	前額部母斑細胞母斑	有	1	6.0	3.0			1					
D224	額部母斑細胞母斑	有	1	9.0	3.0			1					
D226	肩母斑細胞母斑	有	1	4.0	3.0		1						
D231	下眼瞼皮膚良性腫瘍	有	1	5.0	3.0		1						
D231	上眼瞼皮膚良性腫瘍	有	2	42.0	4.0	1							1
D232	耳介皮膚良性腫瘍	有	3	28.7	3.3				1	1	1		
D233	額部皮膚良性腫瘍	有	1	69.0	2.0							1	
D233	鼻部皮膚良性腫瘍	有	1	72.0	11.0							1	
D233	頬部皮膚良性腫瘍	有	2	14.5	3.5		1			1			
D234	頭部皮膚良性腫瘍	有	1	70.0	2.0							1	
D235	殿部皮膚良性腫瘍	有	1	65.0	38.0							1	
D237	足底皮膚良性腫瘍	有	1	18.0	8.0				1				
D250	子宮粘膜下筋腫	有	21	43.5	5.0					5	16		
D251	子宮筋層内筋腫	有	17	42.5	6.2					6	11		
D251	壁内子宮平滑筋腫	有	1	28.0	3.0					1			
D251	子宮漿膜下筋腫	有	26	46.1	6.8					5	18	3	
D252	子宮漿膜下筋腫	有	2	44.0	6.0					1	1		
D252	漿膜下子宮平滑筋腫	有	6	38.2	6.3					3	3		
D259	多発性子宮筋腫	有	1	48.0	2.0						1		
D27	卵巣のう腫	有	28	46.5	5.8				1	10	9	7	1
D27	卵巣のう腫破裂	有	1	90.0	15.0								1
D27	卵巣奇形腫	有	1	51.0	5.0						1		
D27	卵巣奇形腫	有	5	30.0	5.0				1	2	2		
D27	卵巣奇形腫	有	1	19.0	1.0				1				
D27	卵巣成熟のう胞性奇形腫	有	4	31.0	6.0					3	1		
D27	卵巣成熟奇形腫	有	3	16.7	5.3			1	2				
D27	卵巣漿液性腺腫	有	1	89.0	11.0								1
D320	円蓋部髄膜腫	有	1	62.0	17.0							1	
D320	小脳橋角部髄膜腫	有	1	62.0	24.0							1	
D320	小脳橋角部髄膜腫	有	1	70.0	45.0							1	
D320	大脳鎌髄膜腫	有	1	71.0	20.0							1	
D320	蝶形骨髄膜腫の疑い	有	1	62.0	3.0							1	
D320	蝶形骨稜髄膜腫	有	1	63.0	19.0							1	
D320	傍矢状洞髄膜腫	有	1	60.0	10.0						1		
D320	嗅溝部髄膜腫	有	1	80.0	71.0								1
D320	嗅窩髄膜腫	有	1	46.0	28.0						1		
D350	副腎腺腫	有	1	54.0	7.0						1		
D352	下垂体腺腫	有	2	54.0	9.5						1	1	
D352	下垂体腺腫の疑い	有	1	10.0	3.0			1					
D361	大腿部神経鞘腫	有	1	72.0	3.0							1	
D370	顎下腺腫瘍	有	3	70.0	6.0							3	
D370	耳下腺腫瘍	有	10	63.9	6.0						3	7	
D370	副咽頭間隙腫瘍	有	1	72.0	10.0							1	
D370	扁桃腫瘍	有	1	54.0	4.0						1		
D371	胃粘膜下腫瘍	有	2	72.5	7.0							2	
D372	十二指腸粘膜下腫瘍	有	1	72.0	4.0							1	
D372	小腸腫瘍	有	1	81.0	8.0								1
D373	虫垂腫瘍	有	4	70.3	6.5						1	2	1
D373	低異型度虫垂粘液性腫瘍	有	1	79.0	11.0							1	
D374	S状結腸腫瘍	有	1	71.0	5.0							1	
D374	上行結腸粘膜下腫瘍	有	1	78.0	15.0							1	
D375	直腸腫瘍	有	1	45.0	4.0						1		
D376	肝腫瘍	有	1	75.0	27.0							1	
D376	十二指腸乳頭部腫瘍	有	1	63.0	16.0							1	
D377	食道粘膜下腫瘍	有	1	81.0	7.0								1
D377	膵管内管状腫瘍	有	1	81.0	2.0								1
D377	膵管内乳頭粘液性腫瘍	有	2	58.0	16.0						1	1	
D377	膵管内乳頭粘液性腫瘍	有	23	70.5	2.2						4	17	2
D377	膵管内乳頭粘液性腫瘍の疑い	有	1	76.0	2.0							1	
D377	膵神経内分泌腫瘍	有	1	81.0	32.0								1
D377	膵頭部腫瘍	有	1	76.0	18.0							1	
D380	喉頭腫瘍	有	1	69.0	3.0							1	
D380	声帯腫瘍	有	1	70.0	4.0							1	
D383	後縦隔腫瘍	有	2	48.0	4.0						2		
D383	縦隔腫瘍	有	1	76.0	8.0							1	
D383	縦隔腫瘍の疑い	有	1	73.0	2.0							1	
D383	前縦隔腫瘍	有	3	62.3	5.0						2	1	
D385	上顎洞腫瘍	有	1	72.0	5.0							1	
D385	鼻副鼻腔腫瘍	有	3	74.7	4.7							2	1
D390	子宮頸部腫瘍	有	2	71.5	2.5							2	
D391	のう胞性卵巣腫瘍	有	2	52.0	5.5						2		
D391	充実性卵巣腫瘍	有	2	62.5	5.0						1	1	
D391	卵巣境界悪性腫瘍	有	2	58.0	7.0						1	1	
D391	卵巣腫瘍	有	4	63.8	7.8						1	3	
D391	卵巣腫瘍	有	6	50.2	6.2					1	4	1	
D391	卵巣腫瘍破裂	有	1	46.0	5.0						1		
D391	卵巣粘液性境界悪性腫瘍	有	1	74.0	14.0							1	
D391	卵巣顆粒膜細胞腫	有	1	44.0	12.0						1		

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数の 平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
D410	腎腫瘍	無	1	73.0	3.0							1	
D430	テント上脳腫瘍	無	1	94.0	23.0								1
D430	脳室内腫瘍	有	1	75.0	116.0							1	
		無	1	75.0	12.0							1	
D432	脳腫瘍の疑い	無	1	0.0	2.0	1							
D441	副腎腫瘍	有	1	41.0	7.0						1		
D447	傍神経節腫	有	1	73.0	24.0							1	
D45	真性赤血球増加症	無	1	86.0	21.0								1
		有	1	92.0	21.0								1
D462	芽球増加を伴う不応性貧血－1 R A E B－1	無	10	82.5	8.7								10
D462	芽球増加を伴う不応性貧血－2	有	3	78.0	62.3							1	2
D462	芽球増加を伴う不応性貧血－2 R A E B－2	有	3	80.0	30.0								3
D465	多血球系異形成を伴う不応性血球減少症	有	6	74.3	30.7							5	1
D469	骨髄異形成症候群	有	27	71.8	23.4					1	3	19	4
		無	29	71.7	8.2						5	12	12
D469	分類不能型骨髄異形成症候群	有	2	73.0	21.0							2	
D474	続発性骨髄線維症	有	3	72.3	8.3							3	
D480	下顎骨腫瘍	有	1	47.0	6.0						1		
D480	骨盤骨腫瘍	有	1	12.0	3.0			1					
D480	上顎骨腫瘍	有	1	86.0	13.0								1
D480	上腕骨遠位部骨腫瘍	有	1	44.0	2.0						1		
D480	仙骨腫瘍の疑い	無	1	86.0	3.0								1
D480	大腿骨腫瘍	有	1	59.0	12.0						1		
D480	膝蓋骨腫瘍	有	2	23.0	6.5				1	1			
D480	膝関節腫瘍	有	1	14.0	3.0			1					
D480	脛骨近位部巨細胞腫	有	1	31.0	5.0					1			
D480	脛骨近位部骨腫瘍	有	1	64.0	3.0							1	
D480	脛骨骨幹部骨腫瘍	有	1	17.0	5.0				1				
D480	腓骨腫瘍	無	1	2.0	3.0	1							
D481	下腿軟部腫瘍	有	1	46.0	2.0							1	
D481	肩軟部腫瘍	有	1	55.0	3.0						1		
D481	上腕軟部腫瘍	有	1	69.0	3.0							1	
D481	大腿軟部腫瘍	有	2	66.5	4.0						1		1
D481	殿部皮下腫瘍	有	1	64.0	12.0							1	
D481	頭部皮下腫瘍	有	2	40.5	2.5	1							1
D481	膝関節滑膜骨軟骨腫症	有	1	56.0	5.0						1		
D481	膝部軟部腫瘍	有	1	51.0	3.0						1		
D481	腹腔内デスマイド	有	1	56.0	27.0						1		
D483	後腹膜腫瘍	有	1	72.0	8.0							1	
D484	腸間膜腫瘍	有	2	72.0	6.5							2	
D485	外耳道腫瘍	有	1	19.0	4.0				1				
D485	耳介皮膚腫瘍	有	1	31.0	3.0					1			
D485	足底皮膚腫瘍	有	1	29.0	2.0					1			
D485	膝部皮膚腫瘍	有	1	79.0	18.0							1	
D487	胸壁腫瘍	有	1	54.0	7.0						1		
D487	頸部リンパ節腫瘍	有	1	87.0	4.0								1
D487	耳介腫瘍	有	1	0.0	3.0	1							
D487	心臓腫瘍	無	1	0.0	7.0	1							
D508	小球性貧血	有	2	73.5	6.0							2	
D509	鉄欠乏性貧血	有	3	81.7	8.3							1	2
D529	葉酸欠乏性貧血	無	1	59.0	11.0						1		
D531	巨赤芽球性貧血	有	2	66.5	5.5						1	1	
D538	亜鉛欠乏性貧血	有	1	84.0	5.0								1
D550	G 6 P D 欠乏性貧血	有	1	3.0	3.0		1						
D591	温式自己免疫性溶血性貧血	有	1	56.0	29.0						1		
		無	1	68.0	35.0							1	
D592	薬剤性溶血性貧血	有	1	92.0	48.0								1
D600	慢性後天性赤芽球ろう	有	1	78.0	11.0							1	
D613	特発性再生不良性貧血	無	1	16.0	10.0				1				
D619	再生不良性貧血	有	3	63.7	40.3					1			2
		無	1	60.0	11.0						1		
D619	最重症再生不良性貧血	有	6	22.0	25.2					6			
		無	2	31.5	16.5					1	1		
D619	汎血球減少症	有	1	95.0	13.0								1
D65	播種性血管内凝固	有	1	90.0	5.0								1
D680	フォンウィルブランド病	無	1	13.0	2.0			1					
D683	抗凝固薬による出血傾向	無	1	73.0	14.0							1	
D684	後天性血友病A	無	2	89.0	19.5								2
D684	後天性第Ⅴ因子欠乏症	有	1	85.0	56.0								1
D688	低フィブリノゲン血症	無	1	98.0	8.0								1
D690	I g A 血管炎	無	13	11.2	7.6	1	5	6				1	
D690	I g A 血管炎の疑い	無	1	14.0	7.0			1					
D693	特発性血小板減少性紫斑病	有	12	83.7	21.5							3	9
		無	7	69.4	7.3						2	2	3
D693	難治性特発性血小板減少性紫斑病	無	1	39.0	4.0					1			
D693	慢性特発性血小板減少性紫斑病	無	1	15.0	4.0			1					
D695	薬剤性血小板減少性紫斑病	有	1	61.0	9.0							1	
D696	血小板減少症	無	1	7.0	7.0			1					
D70	先天性好中球減少症	無	2	53.0	15.5						2		
D70	発熱性好中球減少症	無	1	71.0	7.0							1	
D721	好酸球増加症	無	3	67.3	17.7						1	1	1

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0~2才	3~5才	6~15才	16~20才	21~40才	41~60才	61~79才	80才~
D721	特発性好酸球増多症候群	無	1	69.0	16.0							1	
D731	脾機能亢進症	有	1	63.0	6.0							1	
D734	脾のう胞	無	1	35.0	6.0					1			
D763	組織球性壊死性リンパ節炎	有	1	10.0	3.0			1					
D763	組織球性壊死性リンパ節炎	無	4	20.8	8.0			2		2			
D860	肺サルコイドーシス	有	1	57.0	5.0						1		
D862	リンパ節サルコイドーシスを伴う肺サルコイドーシスの疑い	無	1	55.0	2.0						1		
D868	心サルコイドーシス	有	1	77.0	6.0							1	
D869	サルコイドーシス	有	1	67.0	4.0							1	
D869	サルコイドーシスの疑い	無	1	67.0	2.0							1	
E049	縦隔甲状腺腫	有	1	84.0	4.0								1
E049	腺腫様甲状腺腫	有	43	63.3	4.2				1	3	16	12	11
E050	バセドウ病	有	7	47.4	4.3				1	2	2	2	
E050	バセドウ病	無	4	34.0	6.8			2			1	1	
E059	甲状腺機能亢進症	無	1	13.0	8.0			1					
E063	橋本病	有	2	51.0	5.5						2		
E071	ベンドロッド症候群	有	1	35.0	4.0					1			
E101	1型糖尿病・ケトアシドーシス合併あり	無	1	13.0	12.0			1					
E101	1型糖尿病性ケトアシドーシス	無	1	66.0	3.0							1	
E101	1型糖尿病性ケトアシドーシス	無	2	45.0	5.5					1		1	
E106	1型糖尿病性高血糖高浸透圧症候群	無	1	79.0	10.0							1	
E109	1型糖尿病・糖尿病性合併症なし	無	1	11.0	8.0			1					
E111	2型糖尿病・ケトアシドーシス合併あり	無	4	69.0	19.3						1	3	
E111	2型糖尿病性ケトアシドーシス	無	1	92.0	9.0								1
E112	2型糖尿病・腎合併症あり	無	4	68.3	9.0						2	1	1
E112	2型糖尿病性腎症第2期	無	1	57.0	10.0						1		
E113	2型糖尿病・眼合併症あり	無	1	71.0	10.0							1	
E115	2型糖尿病・末梢循環合併症あり	無	1	53.0	9.0						1		
E116	2型糖尿病・糖尿病性合併症あり	無	3	69.3	11.0						1	1	1
E116	2型糖尿病性高血糖高浸透圧症候群	無	1	71.0	11.0							1	
E117	2型糖尿病・多発糖尿病性合併症あり	無	4	68.5	15.0						1	2	1
E119	2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	無	4	68.3	10.5					1		2	1
E131	臍性糖尿病・ケトアシドーシス合併あり	無	1	79.0	10.0							1	
E139	臍性糖尿病・糖尿病性合併症なし	無	4	53.8	9.0						3	1	
E146	高血糖高浸透圧症候群	無	1	90.0	38.0								1
E15	低血糖昏睡	有	1	81.0	28.0								1
E15	低血糖昏睡	無	1	90.0	2.0								1
E160	インスリン低血糖	無	2	60.0	5.0						1	1	
E160	医原性低血糖症	無	2	87.0	6.5								2
E161	ケトン性低血糖症	無	7	6.4	2.4			4	3				
E161	低血糖性脳症	無	1	72.0	8.0							1	
E162	低血糖	無	2	3.0	2.0	1	1						
E210	原発性副甲状腺機能亢進症	有	17	67.0	4.0					1	5	7	4
E211	続発性副甲状腺機能亢進症	有	3	69.0	5.0						1	1	1
E230	下垂体機能低下症の疑い	無	2	58.0	4.0						1	1	
E230	汎下垂体機能低下症	無	2	68.5	3.5							2	
E230	汎下垂体機能低下症の疑い	無	1	80.0	4.0								1
E236	ラトケのう胞	有	1	77.0	9.0							1	
E248	サブクリニカルクッシング症候群	無	1	84.0	6.0								1
E248	サブクリニカルクッシング症候群の疑い	無	1	63.0	3.0							1	
E249	クッシング症候群の疑い	無	1	45.0	3.0						1		
E250	21水酸化酵素欠損症	無	1	9.0	2.0			1					
E274	続発性副腎皮質機能低下症	無	1	74.0	7.0							1	
E274	続発性副腎皮質機能低下症の疑い	無	1	77.0	3.0							1	
E274	副腎皮質機能低下症	無	1	57.0	3.0						1		
E328	胸腺のう胞	有	2	60.0	5.0						1	1	
E512	ウェルニッケ脳症	無	1	63.0	58.0							1	
E639	栄養障害	無	4	0.0	5.5	4							
E668	病的肥満症	有	3	45.3	28.0					1	2		
E668	病的肥満症	無	5	49.6	21.2					2	2	1	
E669	肥満症	無	1	41.0	25.0						1		
E722	高アンモニア血症	無	4	73.0	12.3						1	2	1
E834	高マグネシウム血症	有	1	77.0	18.0							1	
E834	低マグネシウム血症	無	1	43.0	4.0						1		
E835	高カルシウム血症	無	1	76.0	8.0							1	
E858	ALAアミロイドーシス	無	1	86.0	22.0								1
E858	全身性ALAアミロイドーシス	有	1	76.0	27.0							1	
E859	原発性全身性アミロイドーシス	無	1	81.0	68.0								1
E86	高張性脱水症	無	1	86.0	1.0								1
E86	混合性脱水	無	1	76.0	3.0							1	
E86	脱水症	有	1	71.0	21.0							1	
E86	脱水症	無	7	67.7	3.3	1					1	1	4
E870	高ナトリウム血症	有	1	94.0	26.0								1
E870	高ナトリウム血症	無	2	78.5	18.5							1	1
E871	低ナトリウム血症	有	1	92.0	7.0								1
E871	低ナトリウム血症	無	17	79.3	8.5							8	9
E872	ケトン血性嘔吐症	無	4	5.0	3.0	1	1	2					
E872	代謝性アシドーシス	無	1	69.0	9.0							1	
E872	乳酸アシドーシス	無	1	51.0	5.0						1		
E875	高カリウム血症	無	7	76.6	4.7						1	4	2

退院患者数

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
E876	低カリウム血症	無	3	62.3	15.7						2		1
E878	リフィーディング症候群	無	1	79.0	15.0							1	
F03	老年期認知症	無	1	82.0	120.0								1
F050	認知症に重ならないせん妄	無	1	84.0	36.0								1
F051	認知症に重なったせん妄	有	1	95.0	16.0								1
		無	2	80.5	21.5							1	1
F067	軽度認知障害	無	2	74.5	36.0							2	
F069	高次脳機能障害	無	2	45.0	95.5						2		
F100	急性アルコール中毒	無	1	22.0	2.0					1			
F102	アルコール依存症	無	5	49.0	16.0						5		
F200	妄想型統合失調症	有	1	46.0	86.0						1		
		無	4	40.5	155.3					2	1	1	
F201	破瓜型統合失調症	無	1	18.0	25.0				1				
F202	緊張型統合失調症	有	1	43.0	58.0						1		
		無	1	43.0	38.0						1		
F203	型分類困難な統合失調症	有	1	39.0	14.0					1			
		無	5	42.2	60.8					3	1	1	
F205	残遺型統合失調症	無	1	76.0	24.0							1	
F208	統合失調症様状態	無	2	39.0	15.0					1	1		
F209	統合失調症	無	1	51.0	38.0						1		
F232	急性統合失調症	無	3	39.0	26.3					1	2		
F250	躁病型統合失調感情障害	無	2	37.5	58.0					2			
F310	双極性感情障害・軽躁病エピソード	無	2	34.0	59.5					1	1		
F312	双極性感情障害・精神病症状を伴う躁病エピソード	無	5	56.6	49.0						2	3	
F313	双極性感情障害・軽症のうつ病エピソード	無	1	73.0	91.0							1	
F313	双極性感情障害・中等症のうつ病エピソード	無	5	25.8	27.0				2	2	1		
F314	双極性感情障害・精神病症状を伴わない重症うつ病エピソード	有	1	21.0	116.0					1			
		無	2	35.5	41.0					2			
F316	双極性感情障害・混合性エピソード	無	6	39.0	20.7				2		4		
F318	双極2型障害	無	1	27.0	5.0					1			
F319	双極1型障害	無	1	56.0	59.0						1		
F320	軽症うつ病エピソード	無	1	51.0	15.0						1		
F321	中等症うつ病エピソード	無	2	50.5	30.5					1		1	
F322	精神病症状を伴わない重症うつ病エピソード	無	5	48.2	32.6				1		2	2	
F323	精神病症状を伴う重症うつ病エピソード	有	1	80.0	53.0								1
F329	うつ状態	有	1	35.0	80.0					1			
F402	歯科治療恐怖症	有	1	58.0	2.0						1		
F411	不安神経症	無	2	72.5	9.5							2	
F412	混合性不安抑うつ障害	無	1	13.0	31.0			1					
F421	強迫行為	無	1	25.0	138.0					1			
F430	急性ストレス反応	無	1	55.0	25.0						1		
F432	適応障害	無	8	34.8	30.6			2	2	2		2	
F447	混合性解離性障害	無	1	14.0	43.0			1					
F449	解離性障害の疑い	無	1	54.0	2.0						1		
F449	転換性障害	無	1	24.0	6.0					1			
F453	咽喉頭食道神経症	無	1	11.0	25.0			1					
F453	心因性多飲症	無	1	10.0	2.0			1					
F453	神経性食道通過障害	有	1	90.0	5.0								1
F488	心因性失神	無	1	15.0	2.0			1					
F500	神経性食欲不振症	無	8	34.3	50.5			2	1	2	3		
F530	産褥期うつ状態	無	1	25.0	2.0					1			
F638	ゲーム症	無	3	14.0	20.7			3					
F701	軽度知的障害・要治療の行動機能障害あり	無	1	8.0	37.0			1					
F711	中等度知的障害・要治療の行動機能障害あり	無	2	13.0	37.5			2					
F721	重度知的障害・要治療の行動機能障害あり	無	2	19.5	40.5			1		1			
F840	自閉症	無	1	13.0	64.0			1					
F840	小児自閉症	無	3	16.0	14.7			2	1				
F841	非定型自閉症	無	2	16.0	25.5				2				
F845	アスペルガー症候群	無	1	15.0	9.0			1					
F848	自閉性精神発達遅滞	無	1	12.0	17.0			1					
F900	注意欠陥多動障害	無	3	10.3	31.7			3					
G002	連鎖球菌性髄膜炎	無	1	0.0	25.0	1							
G020	水痘髄膜炎	無	1	39.0	19.0					1			
G020	帯状疱疹性髄膜炎	無	1	21.0	18.0					1			
G030	無菌性髄膜炎	無	3	30.3	6.7	2							1
G030	無菌性髄膜炎の疑い	無	1	17.0	5.0				1				
G040	急性散在性脳脊髄炎	有	1	17.0	19.0				1				
G060	前頭部脳膿瘍	有	2	52.0	24.5						2		
G060	頭頂葉脳膿瘍	有	1	69.0	73.0							1	
G09	脳炎後遺症	無	3	3.0	10.0	1	2						
G121	脊髄性筋萎縮症ⅠⅠ型	無	1	6.0	2.0			1					
G122	筋萎縮性側索硬化症	有	1	76.0	65.0							1	
		無	1	85.0	11.0								1
G122	脊髄性筋萎縮症	無	3	10.0	2.0			3					
G128	頸椎性筋萎縮症	有	1	79.0	19.0							1	
G20	パーキンソン症候群	無	1	78.0	2.0							1	
G210	悪性症候群	無	1	14.0	9.0			1					
G211	薬剤性パーキンソン症候群	無	1	71.0	70.0							1	
G231	進行性核上性麻痺	有	1	68.0	3.0							1	
G244	口部ジスキネジア	無	1	91.0	19.0								1

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0~2才	3~5才	6~15才	16~20才	21~40才	41~60才	61~79才	80才~
G250	本態性振戦	無	1	67.0	9.0							1	
G301	アルツハイマー型老年認知症	無	1	88.0	31.0								1
G301	アルツハイマー型老年認知症の疑い	無	1	70.0	60.0							1	
G318	レビー小体型認知症	無	1	71.0	21.0							1	
G320	亜急性性連合性脊髄変性症の疑い	無	1	50.0	5.0						1		
G371	脳梁離断症候群	無	1	12.0	6.0			1					
G401	焦点性てんかん	無	5	4.2	4.2	1	2	2					
G402	症候性複雑部分てんかん	無	2	9.0	5.0			2					
G402	前頭葉てんかんの疑い	無	1	8.0	2.0			1					
G403	ミオクロヌスてんかんの疑い	無	1	0.0	2.0	1							
G403	特発性全般てんかん	有	1	70.0	39.0							1	
G403	特発性全般てんかん	無	2	61.0	5.0					1			1
G404	レノックス・ガストー症候群	無	1	11.0	1.0			1					
G404	点頭てんかん	無	3	0.0	26.7	3							
G404	点頭てんかんの疑い	無	1	0.0	2.0	1							
G405	ストレスてんかん	無	1	30.0	12.0					1			
G405	ストレスてんかんの疑い	無	1	15.0	1.0			1					
G408	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	無	3	11.7	4.0		1	1	1				
G408	症候性てんかん	有	3	77.7	14.3						1		2
G408	症候性てんかんの疑い	無	59	57.2	8.9	1	3	7		2	13	21	12
G408	難治性てんかん	無	5	17.4	3.8	1		2		2			
G408	難治性てんかん	無	2	10.0	2.0			2					
G409	てんかん	無	2	34.5	15.5			1			1		
G409	てんかんの疑い	無	5	4.8	2.0	2	1	2					
G419	てんかん重積状態	無	1	3.0	5.0		1						
G431	片麻痺性片頭痛	無	5	42.2	7.4						5		
G439	片頭痛	無	1	32.0	7.0					1			
G453	一過性黒内障	無	1	90.0	2.0								1
G459	一過性脳虚血発作	無	10	77.9	4.5						1	5	4
G459	一過性脳虚血発作の疑い	無	2	65.5	6.5						1	1	
G473	睡眠時無呼吸症候群	有	5	5.0	9.6		3	2					
G500	左三叉神経痛第2・3枝領域	無	1	57.0	3.0						1		
G510	顔面神経麻痺	無	8	36.8	8.0	2	1			2	1	1	1
G510	特発性末梢性顔面神経麻痺	無	1	11.0	9.0			1					
G510	末梢性顔面神経麻痺	無	5	75.0	7.4					1		1	3
G522	反回神経麻痺	有	1	69.0	8.0							1	
G530	帯状疱疹後神経痛	無	3	83.0	9.7								3
G560	手根管症候群	有	1	68.0	2.0							1	
G563	橈骨神経麻痺	有	2	46.0	8.5					1		1	
G572	大腿神経麻痺	有	1	69.0	21.0							1	
G610	ギラン・バレー症候群	有	2	41.5	17.0			1				1	
G710	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	有	1	24.0	23.0					1			
G713	ミトコンドリア脳筋症の疑い	無	1	32.0	6.0					1			
G713	ミトコンドリア脳筋症の疑い	無	1	1.0	2.0	1							
G800	先天性痙攣性麻痺の疑い	無	1	0.0	3.0	1							
G800	痙攣性脳性麻痺	無	1	1.0	1.0	1							
G809	脳性麻痺	無	1	62.0	3.0							1	
G831	下肢弛緩性麻痺	無	3	7.0	3.3	1		2					
G908	複合性局所疼痛症候群	有	4	54.5	7.0						4		
G910	交通性水頭症	有	3	66.0	23.0						1	1	1
G912	正常圧水頭症	無	1	79.0	7.0							1	
G912	正常圧水頭症の疑い	無	1	79.0	3.0							1	
G930	くも膜のう胞	有	1	78.0	22.0							1	
G931	低酸素性脳症	有	2	36.5	45.5			1			1		
G934	急性脳症	有	1	8.0	3.0			1					
G934	急性脳症の疑い	無	2	4.5	4.0	1		1					
G934	代謝性脳症	無	1	75.0	42.0							1	
G934	痙攣重積型急性脳症	無	1	9.0	14.0			1					
G934	痙攣重積型二相性急性脳症の疑い	無	1	2.0	7.0	1							
G948	インフルエンザ脳症	無	2	11.5	6.5			2					
G948	インフルエンザ脳症の疑い	無	3	24.3	4.3	2						1	
G948	低血糖性脳症	有	1	63.0	29.0							1	
G951	脊髄梗塞	有	1	59.0	58.0						1		
G951	脊髄梗塞の疑い	無	1	45.0	4.0						1		
G951	特発性頸椎硬膜外血腫	無	1	67.0	6.0							1	
G959	頸髄症	有	3	74.7	41.3							2	1
G960	脳脊髄液漏	有	1	52.0	13.0						1		
G960	脳脊髄液漏	無	1	52.0	18.0						1		
G969	中枢性神経障害性疼痛	有	1	66.0	7.0							1	
H000	下眼瞼蜂巣炎	無	1	13.0	8.0			1					
H001	霰粒腫	有	1	5.0	3.0		1						
H020	眼瞼内反症	有	8	16.0	2.9		2	5					1
H024	眼瞼下垂症	有	4	76.3	3.0							4	
H051	眼窩筋炎	無	1	90.0	5.0								1
H110	翼状片	有	2	93.0	2.0								2
H150	強膜炎	無	1	52.0	28.0						1		
H160	角膜潰瘍	無	1	40.0	15.0					1			
H250	老人性初発白内障	有	79	76.7	6.6						1	50	28
H250	老人性初発白内障	無	4	77.3	3.5							3	1
H258	成熟白内障	有	4	73.5	7.5							4	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0~2才	3~5才	6~15才	16~20才	21~40才	41~60才	61~79才	80才~
H268	放射線白内障	有	1	58.0	3.0						1		
H341	網膜中心動脈閉塞症	有	1	67.0	6.0							1	
		無	3	67.0	4.7							3	
H348	網膜静脈分枝閉塞症による黄斑浮腫	無	3	49.0	2.0						3		
H402	急性緑内障発作	有	1	60.0	3.0						1		
H402	原発閉塞隅角緑内障	有	1	76.0	6.0							1	
H493	眼窩先端部症候群	有	1	71.0	11.0							1	
H500	内斜視	有	6	19.7	3.0		1	3		1	1		
H500	乳児内斜視	有	1	1.0	3.0	1							
H500	部分調節性内斜視	有	2	6.0	3.0		1	1					
H501	外斜視	有	6	34.3	3.0			2		2	1	1	
H502	下斜筋過動	有	3	6.0	3.0		2	1					
H502	下斜視	有	1	78.0	3.0							1	
H502	上下斜視	有	1	52.0	3.0						1		
H503	間欠性外斜視	有	12	14.3	3.0		1	9	1			1	
H604	外耳道真珠腫	有	1	88.0	27.0								1
H618	サーファーズイヤーズ	有	1	48.0	3.0						1		
H652	慢性滲出性中耳炎	有	5	4.4	3.0	1	2	2					
H660	急性化膿性中耳炎	有	6	3.0	6.7	2	4						
H663	慢性化膿性穿孔性中耳炎	有	14	42.6	3.4			3		4	2	5	
H669	両急性中耳炎	有	1	1.0	5.0	1							
H700	急性乳様突起炎	無	2	59.5	8.5						1	1	
H71	真珠腫性中耳炎	有	12	43.2	4.3					2	10		
H810	メニエール病	無	1	66.0	6.0							1	
H810	内耳性めまい	無	7	74.1	4.4						1	4	2
H812	前庭神経炎	無	3	64.3	6.7						1	1	1
H813	耳性めまい	無	5	61.0	5.0					1	1	2	1
H813	末梢性めまい	無	9	73.8	5.6					1	1	3	4
H904	一側性感音難聴	無	1	65.0	8.0							1	
H905	急性低音障害型感音難聴	無	1	35.0	9.0					1			
H908	混合性難聴	有	1	64.0	4.0							1	
H912	突発性難聴	有	6	60.2	8.2			1			1	3	1
I050	僧帽弁狭窄症	有	1	83.0	25.0								1
I080	僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症兼大動脈弁狭窄症	有	2	69.5	24.5							2	
		無	1	70.0	3.0							1	
I080	僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症兼大動脈弁閉鎖不全症	有	1	44.0	59.0						1		
I080	大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症	有	1	47.0	15.0						1		
I081	僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	有	13	65.5	22.9						7	5	1
		無	1	54.0	3.0						1		
I083	大動脈弁狭窄症兼僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	有	3	72.3	17.0							3	
I083	大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	有	1	81.0	160.0								1
I110	高血圧性うつ血性心不全	有	5	79.4	23.8							2	3
		無	5	77.6	8.8							3	2
I110	高血圧性心不全	無	1	83.0	3.0								1
I150	腎血管性高血圧症	有	1	72.0	3.0							1	
I150	腎血管性高血圧症の疑い	有	1	13.0	4.0			1					
I200	不安定狭心症	有	24	74.3	8.8						1	16	7
		無	2	83.0	2.5							1	1
I200	不安定狭心症の疑い	無	2	76.0	2.0							1	1
I201	冠攣縮性狭心症	有	2	63.0	2.5						1	1	
		無	6	51.7	2.7						6		
I201	冠攣縮性狭心症の疑い	無	3	68.7	2.7						1	1	1
I208	安静時狭心症	無	2	76.0	3.0							2	
I208	安静時狭心症の疑い	無	1	71.0	3.0							1	
I208	労作性狭心症	有	137	72.1	3.9						24	78	35
		無	183	72.3	3.0						30	106	47
I210	急性広範前壁心筋梗塞	有	1	82.0	18.0								1
I210	急性前側壁心筋梗塞	有	2	71.0	13.0							2	
I210	急性前壁心筋梗塞	有	18	72.1	11.6						5	8	5
		無	2	70.5	10.0						1		1
I210	急性前壁中隔心筋梗塞	有	10	72.1	17.8						2	4	4
I211	急性下後壁心筋梗塞	有	1	76.0	2.0							1	
I211	急性下壁心筋梗塞	有	23	75.3	14.9						1	16	6
I212	急性基部側壁心筋梗塞	有	1	79.0	11.0							1	
I212	急性後壁心筋梗塞	有	5	75.8	13.8							4	1
I212	急性側壁心筋梗塞	有	3	64.7	8.0						1	1	1
I219	急性心筋梗塞の疑い	有	1	85.0	2.0								1
		無	1	78.0	3.0							1	
I251	冠状動脈狭窄症	有	1	78.0	3.0							1	
		無	1	72.0	2.0							1	
I252	陳旧性下壁心筋梗塞	有	1	86.0	3.0								1
I252	陳旧性心筋梗塞	無	34	70.3	2.9						7	22	5
I252	陳旧性前壁心筋梗塞	無	2	73.0	3.0							2	
I252	陳旧性前壁中隔心筋梗塞	無	1	74.0	3.0							1	
I255	虚血性心筋症	無	5	74.6	3.0							5	
I256	無症候性心筋虚血	有	2	70.0	3.0							2	
		無	3	77.0	3.0							3	
I258	冠動脈慢性完全閉塞	有	1	85.0	19.0								1

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
I269	肺血栓塞栓症	無	1	74.0	8.0							1	
I269	肺塞栓症	無	1	65.0	12.0							1	
I269	肺動脈血栓塞栓症	有	1	66.0	68.0							1	
I269	肺動脈血栓塞栓症	無	2	73.0	9.5							2	
I270	肺高血圧症	無	1	70.0	9.0							1	
I270	肺動脈性肺高血圧症	有	1	18.0	7.0				1				
I270	肺動脈性肺高血圧症	無	7	17.6	5.4				7				
I280	肺動静脈瘻	有	4	60.3	3.3						1	3	
I300	特発性心膜炎	無	2	11.0	4.0			2					
I300	特発性心膜炎の疑い	無	1	15.0	1.0			1					
I319	心膜液貯留	無	2	78.5	2.5							1	1
I330	MRSA感染性心内膜炎	有	1	59.0	48.0						1		
I340	僧帽弁逆流症	有	1	80.0	14.0								1
I340	僧帽弁逆流症	無	2	69.0	3.0						1		1
I340	僧帽弁閉鎖不全症	有	11	67.1	12.2						4	4	3
I340	僧帽弁閉鎖不全症	無	2	76.0	9.5							2	
I350	大動脈弁狭窄症	有	58	84.5	15.5							12	46
I350	大動脈弁狭窄症	無	44	84.2	3.1							9	35
I351	大動脈弁逆流症	有	1	62.0	18.0							1	
I351	大動脈弁閉鎖不全症	有	3	66.7	16.3							3	
I351	大動脈弁閉鎖不全症	無	1	86.0	3.0								1
I352	大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症	有	1	55.0	16.0						1		
I400	ウイルス性心筋炎	無	1	24.0	6.0					1			
I422	肥大型心筋症	無	1	88.0	17.0								1
I441	2対1房室ブロック	有	2	82.5	7.5								2
I441	ウェンケバハ型第2度房室ブロック	有	1	81.0	2.0								1
I441	高度房室ブロック	有	9	80.4	5.1							3	6
I441	高度房室ブロックの疑い	有	2	82.5	2.0							1	1
I442	完全房室ブロック	有	20	82.0	6.7							5	15
I442	第3度房室ブロック	有	1	72.0	8.0							1	
I460	蘇生に成功した心停止	有	1	64.0	1.0							1	
I460	蘇生に成功した心停止	無	9	62.2	1.3	1		1				5	2
I469	心停止	無	1	93.0	1.0								1
I469	心肺停止	有	5	58.2	1.0					1	2	1	1
I469	心肺停止	無	5	56.2	1.0				1		3		1
I469	来院時心肺停止	有	7	52.0	1.0	1			1		1	3	1
I469	来院時心肺停止	無	91	72.8	1.0	2		2	1	3	15	22	46
I471	心房頻拍	有	3	73.7	6.3						1		2
I471	心房頻拍	無	1	82.0	7.0								1
I471	発作性上室頻拍	有	9	67.2	4.0						2	7	
I472	持続性心室頻拍	有	2	63.5	10.0						1		1
I472	持続性心室頻拍	無	1	86.0	4.0								1
I472	心室頻拍	有	1	55.0	7.0						1		
I472	非持続性心室頻拍	有	2	64.5	4.5						1	1	
I472	非持続性心室頻拍	無	1	76.0	2.0							1	
I480	発作性心房細動	有	16	71.4	6.1						2	11	3
I480	発作性心房細動	無	2	86.0	2.0								2
I480	発作性心房細動の疑い	有	1	74.0	2.0							1	
I480	発作性頻脈性心房細動	有	4	63.3	4.0						1	3	
I480	非弁膜症性発作性心房細動	有	21	74.3	4.8						2	13	6
I480	非弁膜症性発作性心房細動	無	1	83.0	2.0								1
I481	持続性心房細動	有	13	66.8	4.6						3	10	
I481	長期持続性心房細動	有	1	81.0	4.0								1
I481	非弁膜症性持続性心房細動	有	8	72.5	4.0						1	6	1
I481	非弁膜症性持続性心房細動	無	1	82.0	6.0								1
I482	慢性心房細動	無	1	67.0	3.0							1	
I489	一過性心房粗動	有	1	68.0	4.0							1	
I489	徐脈性心房細動	有	6	83.5	6.0							2	4
I489	心室細動	有	2	61.0	4.0						1	1	
I489	心室細動	無	2	77.0	3.5							2	
I489	非弁膜症性心房細動	有	3	62.0	4.7						1	2	
I489	頻脈性心房細動	有	4	63.5	4.3						2	2	
I490	ブルガダ症候群の疑い	無	1	44.0	2.0						1		
I490	心室細動	有	2	71.0	23.5						1		1
I490	心室細動	無	1	74.0	11.0							1	
I493	心室期外収縮	有	4	53.3	4.0					1	2		1
I495	一過性洞不全症候群	有	1	69.0	8.0							1	
I495	洞不全症候群	有	22	84.1	6.4						1	2	19
I495	洞不全症候群	無	3	78.0	8.0							2	1
I495	洞不全症候群の疑い	有	2	80.0	2.0							1	1
I500	うっ血性心不全	有	35	78.3	24.4			1			2	11	21
I500	うっ血性心不全	無	91	79.9	13.4					1	8	30	52
I500	うっ血性心不全の急性増悪	無	1	87.0	9.0								1
I500	右心不全	無	1	75.0	14.0							1	
I500	慢性うっ血性心不全	有	4	81.8	33.3							2	2
I500	慢性うっ血性心不全	無	12	76.1	9.5						2	4	6
I501	左室駆出率が軽度低下した心不全	有	2	86.0	30.0								2
I501	左室駆出率が軽度低下した心不全	無	1	80.0	9.0								1
I501	左室駆出率の低下した心不全	有	12	75.8	23.3						1	7	4
I501	左室駆出率の低下した心不全	無	18	67.9	11.6						5	10	3

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
I501	左室駆出率の保たれた心不全	有	1	87.0	15.0								1
		無	9	87.0	15.6							1	8
I509	急性心不全	有	1	60.0	14.0						1		
I509	慢性心不全	有	1	72.0	8.0							1	
		無	2	62.5	9.5						1	1	
I518	たこつば型心筋症	有	2	77.0	15.0							2	
		無	3	83.3	12.0							1	2
I600	I C－A C h A動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	1	92.0	38.0								1
I600	I C－P C動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	4	64.0	17.0					1	1	1	1
		無	1	92.0	6.0								1
I600	内頸動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	2	60.0	44.5						1	1	
I601	中大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	2	73.0	28.5						1		1
		無	1	100.0	2.0								1
I602	前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	6	75.2	28.8							6	
I604	脳底動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	1	60.0	63.0						1		
I605	破裂性椎骨動脈解離によるくも膜下出血	有	1	43.0	3.0						1		
I606	後大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	2	66.5	29.0						1		1
I606	前下小脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血	有	1	71.0	32.0							1	
I609	特発性くも膜下出血	無	1	41.0	17.0						1		
I610	後頭葉脳皮質下出血	無	1	94.0	24.0								1
I610	視床出血	有	8	73.9	31.0						2	3	3
		無	16	72.9	18.8						2	10	4
I610	頭頂葉脳皮質下出血	無	1	88.0	14.0								1
I610	頭葉脳皮質下出血	無	1	27.0	1.0					1			
I610	脳皮質下出血	有	4	70.0	16.5						1	2	1
		無	18	82.7	13.2							6	12
I610	被殻出血	有	8	59.3	32.3						4	3	1
		無	25	60.8	12.9					2	12	7	4
I610	尾状核出血	有	1	87.0	30.0								1
		無	2	72.0	10.0						1		1
I613	橋出血	有	1	56.0	40.0						1		
		無	2	72.0	13.5							2	
I613	脳幹部出血	有	1	48.0	35.0						1		
		無	5	77.8	14.6						1	2	2
I614	小脳出血	有	1	53.0	25.0						1		
		無	9	78.6	12.0							3	6
I615	脳室内出血	有	1	78.0	17.0							1	
		無	1	85.0	4.0								1
I620	慢性硬膜下血腫	有	5	79.2	36.8							3	2
		無	1	74.0	14.0							1	
I631	内頸動脈血栓症による脳梗塞	有	1	78.0	9.0							1	
I631	脳底動脈血栓症による脳梗塞	有	1	74.0	22.0							1	
I632	頸部内頸動脈閉塞による脳梗塞	有	1	45.0	27.0						1		
I632	内頸動脈閉塞による脳梗塞	有	1	38.0	55.0					1			
I633	アテローム血栓性脳梗塞	有	5	75.2	14.6					1		1	3
		無	23	75.0	14.2					1	2	10	10
I633	アテローム血栓性脳梗塞・急性期	有	17	78.8	26.1						2	5	10
		無	43	75.6	16.4						7	18	18
I633	血栓性脳梗塞	無	1	25.0	17.0					1			
I634	再発心原性脳塞栓症	無	1	82.0	17.0								1
I634	塞栓性脳梗塞	有	1	85.0	17.0								1
I634	塞栓性脳梗塞・急性期	有	6	73.8	14.8							3	3
		無	4	57.5	14.0					1	1	1	1
I634	心原性小脳梗塞	無	1	71.0	6.0							1	
I634	心原性脳塞栓症	有	43	79.3	23.0				1	1	1	16	24
		無	51	82.1	18.6						1	17	33
I635	延髄梗塞・急性期	無	1	79.0	9.0							1	
I635	小脳梗塞	無	1	85.0	37.0								1
I635	中大脳動脈狭窄による脳梗塞	無	1	11.0	34.0			1					
I635	脳幹梗塞	無	1	77.0	13.0							1	
I638	ラクナ梗塞	有	3	55.7	23.7					1	1	1	
		無	49	75.1	14.2						7	19	23
I638	多発性ラクナ梗塞	無	1	50.0	37.0						1		
I638	多発性脳梗塞	無	2	76.0	39.5							1	1
I639	トルソー症候群による脳梗塞	有	1	64.0	34.0							1	
		無	4	76.5	10.3							3	1
I652	頸部内頸動脈狭窄症	有	1	70.0	9.0							1	
		無	3	71.3	2.0							3	
I652	内頸動脈狭窄症	有	4	69.3	6.3							4	
		無	8	74.6	3.4							7	1
I671	硬膜動静脈瘻	有	1	72.0	23.0							1	
		無	1	73.0	2.0							1	
I671	前交通動脈瘤	無	3	61.3	2.0						1	2	
I671	多発性脳動脈瘤	有	1	67.0	13.0							1	
		無	2	59.5	2.0						1	1	
I671	内頸動脈後交通動脈分岐部動脈瘤	有	2	66.5	13.0						1	1	
		無	6	71.0	3.2						2	4	
I671	内頸動脈前脈絡叢動脈分岐部動脈瘤	有	1	47.0	2.0						1		
		無	1	41.0	12.0						1		
I675	もやもや病	有	1	41.0	12.0						1		
		無	2	43.0	2.0						2		

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
I678	可逆性脳血管攣縮症候群	無	1	73.0	6.0							1	
I678	可逆性脳血管攣縮症候群の疑い	無	1	36.0	2.0					1			
I691	脳出血後遺症	有	2	78.5	3.0							1	1
I693	脳梗塞後遺症	有	2	82.5	2.5							1	1
I7010	腎動脈狭窄症	無	1	79.0	15.0							1	
I7020	下肢閉塞性動脈硬化症	有	2	65.5	3.0						1	1	
I7020	下肢閉塞性動脈硬化症	有	41	73.5	11.9						2	32	7
I7020	末梢動脈硬化症	無	7	73.6	7.1							6	1
I7020	末梢動脈硬化症	有	1	83.0	12.0								1
I7021	下肢閉塞性動脈硬化症・壊疽あり	有	1	79.0	18.0							1	
I710	解離性胸部大動脈瘤	有	4	76.8	31.3							4	
I710	解離性大動脈瘤Stanford A	有	2	78.0	26.0							1	1
I710	急性大動脈解離	有	3	63.7	17.7						1	1	1
I710	急性大動脈解離	無	2	89.5	10.0								2
I710	急性大動脈解離DeBakey I	有	2	73.5	28.0							1	1
I710	急性大動脈解離DeBakey II	有	1	79.0	20.0							1	
I710	急性大動脈解離DeBakey IIIa	有	1	77.0	9.0							1	
I710	急性大動脈解離Stanford A	有	8	75.5	20.8							5	3
I710	急性大動脈解離Stanford A	無	1	91.0	26.0								1
I710	急性大動脈解離Stanford B	有	3	67.0	44.0							3	
I710	急性大動脈解離Stanford B	無	3	71.3	18.7							2	1
I710	慢性大動脈解離	有	1	62.0	16.0							1	
I711	胸部大動脈瘤破裂	有	5	74.0	35.2							4	1
I712	下行胸部大動脈瘤	有	2	78.0	8.5							2	
I712	感染性胸部大動脈瘤	有	1	81.0	61.0								1
I712	胸部大動脈瘤	有	16	74.6	34.3						1	11	4
I712	胸部大動脈瘤切迫破裂	無	4	78.8	3.0							2	2
I712	胸部大動脈瘤切迫破裂	有	1	75.0	28.0							1	
I712	上行胸部大動脈瘤	有	1	89.0	34.0								1
I713	破裂性腹部大動脈瘤	有	1	63.0	87.0							1	
I713	腹部大動脈瘤破裂	有	2	79.0	10.5							1	1
I714	感染性腹部大動脈瘤	有	1	83.0	22.0								1
I714	腹部大動脈瘤	有	18	74.6	15.9						1	14	3
I714	腹部大動脈瘤	無	3	82.3	3.7							1	2
I714	腹部大動脈瘤切迫破裂	有	1	86.0	8.0								1
I714	腹部大動脈瘤切迫破裂	無	1	85.0	3.0								1
I716	胸腹部大動脈瘤	有	2	75.5	31.5							2	
I716	胸腹部大動脈瘤	無	2	71.5	13.0							2	
I720	内頸動脈瘤	有	2	72.0	8.5							2	
I720	内頸動脈瘤	無	1	76.0	2.0							1	
I720	未破裂内頸動脈解離	有	1	51.0	7.0						1		
I723	総腸骨動脈瘤	有	4	77.8	15.0							3	1
I723	腸骨動脈瘤	有	1	75.0	3.0							1	
I723	腸骨動脈瘤	無	1	75.0	3.0							1	
I725	脳底動脈瘤	無	2	57.5	2.0						1	1	
I728	胃仮性動脈瘤	有	1	72.0	3.0							1	
I728	胃十二指腸動脈瘤	有	2	65.5	3.0						1	1	
I728	腹腔動脈解離	有	2	69.0	65.0							2	
I728	肋間動脈瘤	有	1	68.0	5.0							1	
I729	感染性動脈瘤	有	1	75.0	43.0							1	
I738	肢端紅痛症	有	1	78.0	6.0							1	
I740	ルリッシュ症候群	有	1	80.0	17.0								1
I740	ルリッシュ症候群	無	1	80.0	4.0								1
I742	上腕動脈血栓塞栓症	有	1	90.0	15.0								1
I743	下肢急性動脈閉塞症	有	15	79.6	25.7							7	8
I745	総腸骨動脈閉塞症	有	1	66.0	12.0							1	
I745	総腸骨動脈閉塞症	無	1	66.0	9.0							1	
I770	動静脈瘻	無	1	79.0	23.0							1	
I770	内頸動脈海綿静脈洞瘻	無	1	77.0	2.0							1	
I771	鎖骨下動脈狭窄症	有	1	65.0	3.0							1	
I772	大動脈十二指腸瘻	有	1	69.0	51.0							1	
I781	毛細血管拡張症	有	1	74.0	2.0							1	
I802	下肢深部静脈血栓症	無	1	90.0	16.0								1
I802	下肢静脈血栓症	無	1	42.0	33.0						1		
I802	深部静脈血栓症	無	1	56.0	9.0						1		
I830	下肢静脈瘤潰瘍	有	3	78.3	2.0							1	2
I831	うっ滞性皮膚炎	有	2	81.5	3.5							1	1
I831	下腿うっ滞性皮膚炎	有	1	57.0	2.0						1		
I831	下腿うっ滞性皮膚炎	無	1	87.0	12.0								1
I839	下肢静脈性血管瘤	有	2	64.5	25.0						1	1	
I839	下肢静脈瘤	有	7	79.6	2.4							2	5
I861	精索静脈瘤	有	2	14.5	3.0			2					
I864	胃静脈瘤破裂	有	2	74.0	14.0							2	
I880	腸間膜リンパ節炎	無	1	16.0	6.0				1				
I890	下肢リンパ浮腫	無	1	62.0	12.0							1	
I898	乳び漏	有	2	66.5	5.5						1		1
I951	起立性調節障害	無	1	12.0	3.0			1					
I951	起立性眩暈	無	1	60.0	18.0						1		
I982	肝硬変に伴う食道静脈瘤	有	3	68.3	17.0							3	
J010	急性上顎洞炎	無	1	72.0	2.0							1	
J020	連鎖球菌性咽頭炎	無	2	9.0	3.5			2					

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
J028	アデノウイルス咽頭炎	無	1	1.0	4.0	1							
J028	ウイルス性咽頭炎	無	1	14.0	3.0			1					
J029	急性咽頭炎	無	4	17.8	5.0	1	1	1				1	
J029	急性化膿性咽頭炎	無	1	9.0	4.0			1					
J039	急性化膿性扁桃炎	無	1	2.0	4.0	1							
J039	急性扁桃炎	無	3	33.7	6.3					2	1		
J050	急性閉塞性喉頭炎	無	2	4.0	5.0	1		1					
J051	急性喉頭蓋炎	有	1	72.0	23.0							1	
J060	急性咽頭喉頭炎	無	2	52.0	5.5						2		
J068	咽頭扁桃炎	無	1	0.0	4.0	1					1		
J069	急性上気道炎	無	6	3.3	3.3	2	3	1					
J101	インフルエンザA型	有	1	58.0	15.0						1		
J101	インフルエンザB型	無	29	27.7	5.9	9	5	4	2			3	6
J110	インフルエンザ肺炎	無	1	4.0	9.0		1						
J121	R S ウイルス肺炎	無	2	7.0	3.0	1		1					
J123	ヒトメタニューモウイルス肺炎	無	26	1.0	6.0	24	2						
J129	ウイルス性肺炎	無	12	7.0	7.0	6	3	1		2			
J13	肺炎球菌肺炎	無	3	1.7	3.7	3							
J13	肺炎球菌肺炎	有	1	63.0	39.0							1	
J14	インフルエンザ菌肺炎	無	2	44.5	6.0					1	1		
J151	緑膿菌肺炎	有	1	60.0	9.0						1		
J151	緑膿菌肺炎	有	1	76.0	97.0							1	
J157	マイコプラズマ肺炎	無	1	60.0	16.0						1		
J159	細菌性肺炎	無	16	7.9	5.1	2	2	12					
J159	細菌性肺炎	有	13	71.4	19.9						3	7	3
J171	サイトメガロウイルス肺炎	無	129	66.9	10.8	5	6	2	2	2	12	49	51
J171	サイトメガロウイルス肺炎	無	1	64.0	8.0							1	
J178	肺癌による閉塞性肺炎	無	1	80.0	15.0								1
J180	びまん性肺炎	無	1	66.0	20.0							1	
J180	気管支肺炎	有	1	75.0	11.0							1	
J180	気管支肺炎	無	5	69.2	10.2						1	3	1
J181	大葉性肺炎	無	1	73.0	17.0							1	
J188	胸膜肺炎	無	1	77.0	9.0							1	
J189	急性肺炎	有	1	81.0	9.0								1
J189	急性肺炎	無	25	20.5	7.3	6	9	5				2	3
J189	小児肺炎	無	2	3.5	3.5		2						
J189	乳児肺炎	無	1	0.0	6.0	1							
J200	マイコプラズマ気管支炎	無	1	2.0	3.0	1							
J202	肺炎球菌性気管支炎	無	1	76.0	8.0							1	
J205	R S ウイルス気管支炎	無	31	0.7	5.7	27	4						
J208	ヒトメタニューモウイルス気管支炎	無	5	1.0	4.2	4	1						
J209	クループ性気管支炎	無	6	2.0	3.2	5		1					
J209	急性気管支炎	無	48	3.6	5.4	25	16	7					
J210	R S ウイルス細気管支炎	無	12	0.6	6.0	11	1						
J211	ヒトメタニューモウイルス細気管支炎	無	1	2.0	5.0	1							
J302	季節性アレルギー性鼻炎	有	1	29.0	5.0					1			
J304	アレルギー性鼻炎	有	5	46.8	4.4					1	3	1	
J320	口腔上顎洞炎	有	2	56.5	6.5						2		
J324	汎副鼻腔炎	有	9	54.9	4.7						8		1
J324	汎副鼻腔炎	有	1	52.0	2.0						1		
J328	複数洞慢性副鼻腔炎	有	26	57.0	4.9					2	13	10	1
J341	鼻前庭のう胞	有	1	66.0	2.0							1	
J342	鼻中隔彎曲症	有	3	48.0	4.0					1	1	1	
J350	慢性扁桃炎	有	18	36.6	10.3		1			12	3	2	
J350	扁桃病巣感染症	有	1	58.0	12.0						1		
J351	扁桃肥大	有	15	9.7	9.7		6	7		2			
J351	扁桃肥大	有	2	6.0	2.0		1	1					
J352	アデノイド肥大	有	1	8.0	4.0			1					
J36	化膿性扁桃周囲炎	無	2	22.0	6.5				1	1			
J36	菌性扁桃周囲膿瘍	有	1	69.0	17.0							1	
J36	扁桃周囲炎	有	1	59.0	6.0						1		
J36	扁桃周囲膿瘍	有	5	58.8	10.0					1	1	3	
J36	扁桃周囲膿瘍	有	4	27.0	6.0			1		2	1		
J380	声帯麻痺	有	2	84.5	17.5							1	1
J381	ボリープ様声帯	有	1	52.0	4.0						1		
J381	声帯ボリープ	有	1	45.0	4.0						1		
J383	声帯のう胞	有	1	49.0	4.0						1		
J390	咽後膿瘍	有	1	72.0	10.0							1	
J390	深頸部膿瘍	有	1	78.0	20.0							1	
J390	深頸部膿瘍	無	2	7.0	8.0		1	1					
J432	中心小葉性肺気腫	無	1	67.0	9.0							1	
J441	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	無	7	78.6	14.4							4	3
J449	慢性閉塞性肺疾患	有	1	78.0	14.0							1	
J450	小児喘息	無	1	4.0	4.0			1					
J450	小児喘息性気管支炎	無	7	2.3	5.3	5	2						
J459	気管支喘息	無	1	3.0	4.0			1					
J459	喘息性気管支炎	無	2	5.5	5.0		1	1					
J46	気管支喘息重積発作	無	2	63.0	10.5							2	
J46	気管支喘息発作	無	32	27.4	6.3	8	7	4			7	4	2
J672	鳥関連過敏性肺炎	無	2	77.0	10.5							2	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
J690	誤嚥性肺炎	有	19	82.8	29.1						1	3	15
		無	86	78.9	14.2			1		4	1	30	50
J702	急性薬物誘発性間質性肺障害	無	4	71.3	12.8							4	
J704	薬剤性間質性肺炎	無	3	72.0	13.0							3	
J80	急性呼吸窮迫症候群	有	1	77.0	26.0							1	
		無	3	70.7	7.3						1	1	
J82	慢性好酸球性肺炎	無	1	60.0	5.0						1		
J840	自己免疫性肺胞蛋白症	無	1	45.0	93.0						1		
J841	びまん性間質性肺炎	有	1	74.0	13.0							1	
		無	31	75.1	18.2						3	16	12
J841	急性間質性肺炎	無	1	67.0	22.0							1	
J841	特発性間質性肺炎	無	3	80.3	10.3							2	1
J841	特発性器質性肺炎	無	2	79.0	13.5							2	
J841	特発性肺線維症	無	2	67.0	29.0							2	
J848	器質性肺炎	有	1	75.0	23.0							1	
		無	1	79.0	24.0							1	
J851	肺炎合併肺膿瘍	無	1	28.0	20.0					1			
J852	肺化膿症	無	6	79.8	15.5							2	4
J852	肺膿瘍	無	2	79.5	18.5							1	1
J860	気管支癒膿胸	有	3	64.7	50.3						1	2	
		有	7	64.1	29.6					1	1	4	1
J869	急性膿胸	無	6	74.5	12.7						2	1	3
J869	限局性膿胸	無	1	68.0	13.0							1	
J869	全膿胸	無	1	84.0	41.0								1
J869	膿胸	無	1	46.0	25.0						1		
J90	胸水貯留	無	4	69.0	8.3						1	3	
J90	細菌性胸膜炎	無	2	75.5	11.5							2	
J90	漏出性胸水	無	1	77.0	6.0							1	
J931	自然気胸	有	8	22.4	8.6			1	5	1	1		
		無	12	56.5	9.3				2	3		3	4
J938	続発性気胸	有	3	75.3	15.7							2	1
		無	9	78.0	12.9							7	2
J9600	急性1型呼吸不全	無	2	40.5	8.0	1							1
J9609	急性呼吸不全の疑い	無	1	1.0	2.0	1							
J9609	慢性呼吸不全	無	3	73.0	11.0							2	1
J9611	慢性2型呼吸不全	無	1	81.0	8.0								1
J982	縦隔気腫	無	1	15.0	3.0			1					
J990	関節リウマチ性間質性肺炎	無	1	71.0	46.0							1	
J991	全身性強皮症性呼吸器障害	無	1	66.0	5.0							1	
J991	皮膚筋炎性間質性肺炎	無	1	81.0	22.0								1
J998	アレルギー性気管支肺真菌症の疑い	無	1	81.0	2.0								1
K001	正中上顎過剰歯	有	2	7.0	3.0			2					
K010	下顎骨性完全埋伏智歯	有	4	63.5	6.5					1	1	1	1
K010	下顎水平埋伏智歯	有	1	38.0	5.0					1			
K010	骨性完全埋伏歯	有	2	47.0	4.5			1					1
K011	上顎過剰埋伏歯	有	1	6.0	4.0			1					
K011	上顎正中過剰埋伏歯	有	2	8.0	3.0			2					
K011	正中過剰埋伏歯	有	2	6.0	3.0			2					
K011	埋伏歯	有	2	17.0	2.5				2				
K011	埋伏智歯	有	4	56.8	4.3					1	1	2	
K028	う蝕第4度	有	1	16.0	4.0				1				
K045	根尖性歯周炎	有	4	81.8	2.0							2	2
K047	歯槽膿瘍	有	1	12.0	5.0			1					
K048	歯根のう胞	有	12	56.7	5.3			1			5	6	
K053	智歯周囲炎	有	1	27.0	3.0					1			
K071	下顎前突症	有	1	17.0	10.0				1				
K073	下顎水平埋伏智歯	有	11	42.8	3.6				1	6	1	2	1
K076	顎関節炎	無	1	91.0	6.0								1
K079	顎変形症	有	12	26.2	10.0				4	7	1		
K090	下顎骨膿性菌原性のう胞	無	1	41.0	3.0						1		
K090	下顎歯原性角化のう胞	無	1	10.0	4.0			1					
K090	含菌性のう胞	有	13	45.2	5.2			1		4	6	2	
K090	歯根のう胞	有	1	74.0	5.0							1	
K090	上顎歯原性角化のう胞	有	1	16.0	9.0				1				
K091	鼻口蓋管のう胞	有	2	42.5	4.0				1			1	
K092	下顎顎骨のう胞	有	1	34.0	6.0					1			
K092	顎骨のう胞	有	1	52.0	5.0						1		
K092	上顎歯原性顎骨のう胞	有	1	50.0	5.0						1		
K092	単純性骨嚢胞	有	1	13.0	4.0			1					
K098	口腔類表皮のう胞	有	1	54.0	9.0						1		
K100	下顎隆起	有	2	77.5	3.5							2	
K100	口蓋隆起	有	1	71.0	7.0							1	
K102	下顎骨骨髓炎	有	3	64.3	6.7					1		1	1
K102	下顎骨周囲膿瘍	有	1	91.0	10.0								1
K102	顎骨腐骨	有	1	75.0	2.0							1	
K102	骨吸収抑制薬関連顎骨	有	1	91.0	11.0								1
K102	骨吸収抑制薬関連顎骨壊死	有	5	82.2	7.2							1	4
K102	薬剤関連顎骨壊死	無	1	91.0	2.0								1
K102	下顎骨骨髓炎	有	1	53.0	5.0						1		
K108	上顎顎骨外骨症	有	1	87.0	3.0								1
K112	急性化膿性耳下腺炎	無	1	0.0	6.0	1							

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
K113	耳下腺膿瘍	無	1	50.0	10.0						1		
K115	顎下腺腺体内唾石症	有	1	44.0	5.0						1		
K115	顎下腺唾石症	有	1	26.0	8.0					1			
K122	顎下部膿瘍	有	2	62.0	18.0						1	1	
K132	口腔紅板症	有	1	68.0	14.0							1	
K132	舌白板症	有	1	43.0	9.0						1		
K20	腐食性食道炎	無	1	58.0	3.0						1		
K210	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	無	1	13.0	4.0			1					
K210	逆流性食道炎	有	1	85.0	5.0								1
K210	逆流性食道炎	無	1	95.0	1.0								1
K220	食道アカラシア	有	1	53.0	3.0						1		
K222	食道狭窄	無	1	0.0	16.0	1							
K223	食道穿孔	無	1	60.0	13.0						1		
K223	特発性食道破裂	有	1	49.0	82.0						1		
K226	マロリー・ワイス症候群	有	2	72.0	6.5							1	1
K228	食道粘膜下腫瘍	無	1	59.0	2.0						1		
K250	急性出血性胃潰瘍	有	16	70.4	7.2					2	3	3	8
K251	急性胃潰瘍穿孔	有	1	79.0	15.0							1	
K253	急性胃潰瘍	有	1	88.0	4.0								1
K260	急性出血性十二指腸潰瘍	有	11	76.6	8.5							6	5
K260	急性出血性十二指腸潰瘍	無	2	65.5	7.5					1			1
K261	急性十二指腸潰瘍穿孔	有	8	68.6	11.4						4	1	3
K263	急性十二指腸潰瘍	無	1	7.0	10.0			1					
K279	胃十二指腸潰瘍	無	1	75.0	6.0							1	
K280	急性出血性吻合部潰瘍	有	1	76.0	8.0							1	
K287	吻合部潰瘍瘢痕	有	1	80.0	18.0								1
K291	急性びらん性胃炎	無	1	90.0	5.0								1
K294	萎縮性胃炎	無	1	83.0	7.0								1
K298	十二指腸炎	無	2	39.5	7.0					1	1		
K311	術後幽門狭窄	有	1	58.0	21.0						1		
K315	十二指腸狭窄症	無	1	94.0	9.0								1
K315	上腸間膜動脈症候群	有	1	76.0	10.0							1	
K315	上腸間膜動脈症候群	無	2	77.5	16.5							2	
K317	胃ポリープ	有	1	90.0	5.0								1
K317	胃過形成ポリープ	有	5	68.4	3.2						1	4	
K317	十二指腸ポリープ	有	2	43.0	4.0					1	1		
K318	胃軸捻症	無	1	89.0	12.0								1
K318	胃前庭部毛細血管拡張症	有	8	80.0	5.3							4	4
K352	虫垂炎性汎発性腹膜炎	有	2	49.0	11.0						2		
K353	急性穿孔性虫垂炎	有	5	52.6	7.2						4	1	
K353	虫垂周囲膿瘍	有	8	45.6	11.1				1	2	4	1	
K358	急性化膿性虫垂炎	有	5	46.6	4.6		1	1			1	1	1
K358	急性虫垂炎	有	33	40.6	5.4			3	5	8	12	4	1
K358	急性虫垂炎	無	6	22.7	5.7			4			2		
K36	慢性虫垂炎	有	3	53.3	4.7					1	1	1	
K402	両側内鼠径ヘルニア	有	1	77.0	4.0							1	
K402	両側鼠径ヘルニア	有	5	44.2	3.6		2					3	
K403	鼠径ヘルニア嵌頓	有	3	60.3	5.0						2	1	
K404	壊疽性鼠径ヘルニア	有	1	83.0	8.0								1
K409	外鼠径ヘルニア	有	6	60.8	4.3					1	2	3	
K409	再発性鼠径ヘルニア	有	4	73.8	4.0							3	1
K409	再発鼠径ヘルニア	有	1	4.0	3.0		1						
K409	内鼠径ヘルニア	有	1	78.0	4.0							1	
K409	鼠径ヘルニア	有	77	44.3	3.9	9	13	7		2	10	31	5
K409	鼠径ヘルニア	無	3	4.0	2.0		2	1					
K413	絞扼性大腿ヘルニア	有	1	88.0	9.0								1
K413	大腿ヘルニア嵌頓	有	5	81.8	5.4							2	3
K419	大腿ヘルニア	有	3	74.7	3.7							3	
K419	大腿ヘルニアの再発	有	1	71.0	4.0							1	
K420	非還納性臍ヘルニア	有	1	52.0	5.0						1		
K420	臍ヘルニア嵌頓	有	1	68.0	4.0							1	
K429	臍ヘルニア	有	18	18.7	3.4	12	1				3	2	
K429	臍ヘルニア	無	1	1.0	2.0	1							
K432	腹壁瘢痕ヘルニア	有	15	67.5	10.0					1	3	9	2
K439	腹壁ヘルニア	有	1	76.0	6.0							1	
K449	食道裂孔ヘルニア	有	3	71.0	9.0						1	2	
K449	食道裂孔ヘルニア	無	2	77.0	10.5						1		1
K450	閉鎖孔ヘルニア嵌頓	有	2	81.0	15.5							1	1
K458	閉鎖孔ヘルニア	有	1	82.0	6.0								1
K469	大網ヘルニア	有	1	82.0	29.0								1
K469	内ヘルニア	有	12	77.0	12.5						1	6	5
K469	内ヘルニア	無	1	71.0	14.0							1	
K500	回腸クローン病	有	1	62.0	14.0							1	
K500	回腸クローン病	無	2	39.0	13.5					1	1		
K500	小腸クローン病	有	1	37.0	19.0					1			
K500	小腸クローン病	無	1	12.0	3.0			1					
K501	大腸クローン病	無	1	25.0	10.0					1			
K508	小腸大腸クローン病	有	1	45.0	33.0						1		
K509	クローン病	無	1	8.0	33.0			1					
K510	潰瘍性大腸炎・全大腸炎型	有	2	34.0	58.5					2			
K510	潰瘍性大腸炎・全大腸炎型	無	9	16.0	14.7			7	1	1			

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
K519	慢性持続型潰瘍性大腸炎	無	1	57.0	3.0						1		
K520	放射線性腸炎	無	1	81.0	3.0								1
K521	薬剤性腸炎	有	1	72.0	15.0							1	
		無	1	63.0	56.0							1	
K522	食物蛋白誘発胃腸炎	無	3	0.3	2.7	3							
K528	好酸球性胃腸炎	無	3	29.0	5.3				2		1		
K529	非感染性回腸炎	無	1	91.0	17.0								1
K550	急性虚血性大腸炎	無	8	77.6	7.3							6	2
K550	急性虚血性腸炎	有	4	79.5	11.8							2	2
		無	25	68.4	6.6					3	5	11	6
K550	急性上腸間膜動脈閉塞症	有	1	81.0	11.0								1
K550	腸壊死	有	1	94.0	20.0								1
K550	非閉塞性腸間膜虚血	有	5	83.8	47.8							2	3
		無	2	97.5	7.5								2
K552	大腸血管形成異常	有	2	84.0	6.5								2
K558	小腸血管形成異常	有	2	77.0	6.5							2	
K560	麻痺性イレウス	有	2	65.0	33.0						1	1	
		無	3	86.0	7.0							1	2
K561	腸重積症	有	2	2.0	3.5	1	1						
K562	S状結腸軸捻転	有	6	79.8	16.2							3	3
		無	12	89.4	8.5							2	10
K562	絞扼性イレウス	有	19	76.3	17.0						2	8	9
K562	小腸軸捻転症	有	1	13.0	17.0			1					
K562	複雑性イレウス	有	1	75.0	12.0							1	
		有	5	79.0	13.6							3	2
K564	糞便性イレウス	有	4	55.5	11.0			1			1	2	
		無	15	71.6	18.1						3	7	5
K565	癒着性イレウス	有	42	65.1	8.8					10	4	16	12
K566	S状結腸狭窄症	有	1	32.0	10.0					1			
K566	癌性イレウス	有	4	67.5	12.3						2	1	1
		無	1	77.0	5.0							1	
K566	結腸狭窄症	有	1	72.0	3.0							1	
K566	小腸イレウス	有	1	70.0	9.0							1	
		無	1	55.0	18.0						1		
K567	イレウス	有	1	87.0	12.0								1
K570	十二指腸憩室穿孔	有	2	68.5	38.5						1		1
K571	回腸憩室炎	有	1	59.0	11.0						1		
K571	十二指腸憩室出血	有	2	90.5	19.5								2
K572	S状結腸憩室穿孔	有	9	69.6	18.6						2	6	1
		無	1	47.0	15.0						1		
K572	下行結腸憩室穿孔	有	1	79.0	28.0							1	
K573	S状結腸憩室炎	有	4	54.0	7.8						3	1	
		無	16	78.9	7.1							7	9
K573	S状結腸憩室出血	有	7	77.1	7.7						1	2	4
K573	横行結腸憩室炎	無	1	53.0	9.0						1		
K573	横行結腸憩室出血	有	3	60.0	6.3						2	1	
K573	下行結腸憩室炎	有	2	60.5	7.0						1	1	
		無	4	68.0	19.8						1	3	
K573	上行結腸憩室炎	有	9	58.0	6.4					3	1	4	1
		無	12	72.0	8.3						2	8	2
K573	上行結腸憩室出血	有	3	53.0	5.7					1	1	1	
		無	9	75.3	8.9						1	5	3
K573	大腸憩室出血	有	8	77.9	6.6						1	3	4
		無	1	74.0	8.0							1	
K573	大腸憩室出血の疑い	有	1	55.0	10.0						1		
K573	盲腸憩室炎	有	1	14.0	2.0			1					
K580	下痢型過敏性腸症候群	無	1	13.0	3.0			1					
K589	過敏性腸症候群の疑い	無	2	9.5	4.0			2					
K590	重症便秘症	無	4	17.3	4.0	1		2			1		
K590	便秘症	有	3	43.7	12.3				1		1	1	
K603	痔瘻	有	1	45.0	14.0						1		
K603	複雑痔瘻	有	4	76.5	5.3							2	2
K621	直腸ポリープ	有	14	80.6	9.2						1	5	8
K623	直腸脱	有	1	73.0	12.0							1	
K623	直腸粘膜脱	有	2	76.5	15.0							2	
K624	直腸出血	有	5	76.2	10.2						1	2	2
K625	肛門出血	無	1	32.0	1.0					1			
K626	限局性直腸潰瘍	無	1	90.0	7.0								1
K626	直腸潰瘍	有	3	73.3	14.7							2	1
K631	S状結腸穿孔	有	2	76.0	17.0							1	1
K631	外傷性結腸穿孔	有	2	57.0	16.0						2		
K631	結腸穿孔	有	2	89.5	15.0								2
K631	小腸穿孔	有	2	57.0	44.0						1	1	
K631	人工肛門部腸穿孔	有	1	83.0	13.0								1
K631	直腸穿孔	有	4	67.3	16.0						2	1	1
K633	宿便性潰瘍	有	1	76.0	7.0							1	
K633	小腸潰瘍	有	2	65.5	8.5						1	1	
K633	非特異性多発性小腸潰瘍症	無	1	80.0	13.0								1
K635	S状結腸ポリープ	有	2	67.5	2.5							2	
K635	大腸ポリープ	有	23	71.4	3.4						2	18	3
K638	小腸ポリープ	無	1	27.0	2.0					1			

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
K638	腸管気腫症	無	2	69.0	12.0							2	
K641	脱出性内痔核	有	2	45.0	15.0					1	1		
K648	炎症性内痔核	有	1	90.0	18.0								1
K650	急性汎発性腹膜炎	有	7	80.0	26.9						1	2	4
K650	急性腹膜炎	無	1	61.0	2.0							1	
K650	急性腹膜炎	無	1	29.0	4.0					1			
K650	後腹膜膿瘍	有	1	77.0	15.0							1	
K650	後腹膜膿瘍	無	1	56.0	5.0						1		
K650	穿孔性腹膜炎	有	1	74.0	13.0							1	
K650	腸腰筋膿瘍	有	2	79.5	58.0							1	1
K650	腸腰筋膿瘍	無	1	61.0	12.0							1	
K650	特発性細菌性腹膜炎	無	1	79.0	14.0							1	
K650	腹腔内遺残膿瘍	有	1	48.0	19.0						1		
K650	腹腔内膿瘍	有	2	57.0	92.5						1	1	
K650	腹腔内膿瘍	無	1	69.0	22.0							1	
K658	腸間膜脂肪織炎	無	1	15.0	4.0			1					
K661	後腹膜血腫	有	2	72.5	16.5							2	
K703	アルコール性肝硬変	有	1	39.0	9.0					1			
K703	アルコール性肝硬変に伴う食道静脈瘤出血	有	1	60.0	23.0						1		
K703	非代償性アルコール性肝硬変	有	5	59.4	15.0						4	1	
K703	非代償性アルコール性肝硬変	無	1	50.0	9.0						1		
K704	急性アルコール性肝不全	有	1	52.0	17.0						1		
K711	急性薬物性肝不全	無	1	84.0	21.0								1
K712	急性薬物性肝炎	無	1	74.0	10.0							1	
K716	薬物性肝炎	無	1	71.0	54.0							1	
K719	薬物性肝障害	無	1	57.0	9.0						1		
K720	急性肝不全	有	1	48.0	34.0						1		
K743	原発性胆汁性胆管炎	有	1	68.0	4.0							1	
K746	非代償性肝硬変	有	2	65.0	7.5							2	
K750	化膿性肝膿瘍	有	4	78.8	15.0							2	2
K750	肝膿瘍	無	1	91.0	22.0								1
K750	肝膿瘍	有	5	72.2	20.4							4	1
K750	肝膿瘍の疑い	無	2	87.0	24.5								2
K750	肝膿瘍の疑い	無	1	68.0	2.0							1	
K750	細菌性肝膿瘍	有	2	69.5	12.0						1		1
K750	細菌性肝膿瘍	無	1	74.0	9.0							1	
K754	自己免疫性肝炎	無	1	73.0	19.0							1	
K768	肝のう胞	有	3	76.3	22.7							2	1
K768	肝のう胞	無	1	71.0	8.0							1	
K800	胆石性急性胆のう炎	有	43	74.8	7.9					3		23	17
K800	胆石性急性胆のう炎	無	2	80.0	6.5							1	1
K801	胆石性胆のう炎	有	33	65.0	5.5					2	8	18	5
K802	多発胆石症	有	2	73.0	4.5							2	
K802	胆のう管結石症	無	1	71.0	3.0							1	
K802	胆のう結石症	有	23	64.7	4.9					1	6	12	4
K802	胆のう結石症	無	1	86.0	3.0								1
K802	胆石仙痛	無	1	66.0	5.0							1	
K802	胆泥	無	1	83.0	2.0								1
K803	肝内結石性胆管炎	有	3	86.0	3.3								3
K803	総胆管結石を伴う急性化膿性胆管炎	無	1	74.0	2.0							1	
K803	総胆管結石を伴う急性閉塞性化膿性胆管炎	有	6	86.3	14.2							1	5
K803	総胆管結石性胆管炎	有	153	78.2	9.0				1	4	8	58	82
K803	総胆管結石性胆管炎	無	6	70.8	4.0						1	4	1
K803	胆管結石性胆管炎	有	1	70.0	6.0							1	
K804	総胆管結石性胆のう炎	有	2	71.5	6.5							2	
K805	肝内結石症	有	5	66.6	3.6						1	4	
K805	肝内結石症	無	1	80.0	2.0								1
K805	総胆管結石	有	25	74.1	5.8					1	2	14	8
K805	胆のう胆管結石症	有	1	77.0	16.0							1	
K805	胆道結石	有	3	65.0	8.3							3	
K808	胆石性膵炎	有	1	64.0	8.0							1	
K810	黄色肉芽腫性胆嚢炎	無	1	92.0	5.0								1
K810	壊疽性胆のう炎	有	1	85.0	14.0								1
K810	急性胆のう炎	有	12	72.8	7.1						2	7	3
K810	急性胆のう炎	無	1	83.0	3.0								1
K811	黄色肉芽腫性胆のう炎	有	2	65.0	11.5						1	1	
K811	慢性胆のう炎	有	1	86.0	10.0								1
K811	慢性胆のう炎	無	1	72.0	6.0							1	
K828	多発性胆のうポリープ	有	1	46.0	4.0						1		
K828	胆のうポリープ	無	1	45.0	2.0						1		
K828	胆のうポリープ	有	2	55.0	4.0						2		
K830	I g G 4 関連硬化性胆管炎の疑い	無	1	73.0	4.0							1	
K830	逆行性胆管炎	有	4	73.3	3.0							3	1
K830	逆行性胆管炎	無	6	60.5	5.3			1			1	2	2
K830	急性化膿性胆管炎	無	1	85.0	24.0								1
K830	急性胆管炎	有	19	71.7	9.3						4	10	5
K830	急性胆管炎	無	6	64.3	13.2			1				3	2
K830	急性閉塞性化膿性胆管炎	有	22	79.6	12.2						3	5	14
K830	狭窄性胆管炎	有	3	59.0	6.7						3		
K830	原発性硬化性胆管炎	有	2	72.0	3.0							2	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数 (人)	平均年齢 (才)	在院日数 の平均 (日)	年齢階層							
						0～2 才	3～5 才	6～15 才	16～20 才	21～40 才	41～60 才	61～79 才	80才～
K830	術後胆管炎	無	1	68.0	4.0							1	
K830	胆管炎	有	3	80.0	2.0							2	1
K831	ミリッチ症候群	無	2	75.5	2.5							1	1
K831	術後胆管狭窄	有	2	91.5	9.0								2
K831	術後胆管狭窄症	有	5	58.6	2.6						5		
K831	術後胆管狭窄症	有	1	56.0	7.0						1		
K831	総胆管狭窄症	有	4	76.8	4.3							2	2
K831	総胆管狭窄症	無	1	62.0	2.0							1	
K831	総胆管閉塞症	有	1	78.0	2.0							1	
K831	胆管狭窄症	有	8	67.6	2.1						2	6	
K831	胆管閉塞症	有	2	52.0	2.0						2		
K831	胆汁うっ滞	有	1	77.0	13.0							1	
K831	胆道閉塞	有	1	80.0	2.0								1
K831	閉塞性黄疸	有	9	77.1	9.0							5	4
K838	肝外閉塞性黄疸	有	2	56.5	4.0						1	1	
K838	肝外閉塞性黄疸	無	1	23.0	9.0					1			
K838	肝内胆管拡張症	無	1	79.0	3.0							1	
K838	総胆管拡張症	有	2	82.0	2.5								2
K850	特発性急性膵炎	無	11	74.9	10.6						2	3	6
K851	胆石性膵炎	有	5	78.0	9.6							4	1
K851	胆石性膵炎	無	1	71.0	30.0							1	
K852	アルコール性急性膵炎	無	13	44.5	10.0					5	7	1	
K853	薬剤性膵炎	無	1	53.0	8.0						1		
K858	術後膵炎	無	1	69.0	3.0							1	
K859	再発性急性膵炎	無	2	9.0	8.5			2					
K860	アルコール性慢性膵炎	有	5	60.4	16.2						2	3	
K860	アルコール性慢性膵炎	無	3	63.0	7.7						1	1	1
K861	慢性膵炎	有	3	46.0	2.0						3		
K862	膵のう胞	無	5	68.6	2.0						1	4	
K868	腫瘍形成性膵炎の疑い	無	1	67.0	2.0							1	
K868	術後膵液瘻	有	1	55.0	2.0						1		
K868	膵管拡張	有	1	74.0	6.0							1	
K911	胃切除後消化障害	無	1	85.0	12.0								1
K911	後期ダンピング症候群	無	1	69.0	7.0							1	
K913	術後イレウス	有	1	96.0	9.0								1
K913	術後イレウス	無	13	69.7	10.0	2						6	5
K913	術後癒着性イレウス	有	3	60.7	25.7					1		2	
K913	術後癒着性イレウス	無	25	67.6	8.7			1		1		4	12
K918	術後食道狭窄	有	41	68.7	2.1						6	26	9
K918	術後胆管炎	有	2	73.0	6.0							2	
K918	術後胆管炎	無	1	75.0	13.0							1	
K918	術後胆管狭窄	有	2	71.0	3.0							2	
K918	術後胆管狭窄	無	1	88.0	2.0								1
K918	術後胆汁瘻	有	1	49.0	9.0						1		
K918	術後膵液瘻	有	2	65.5	6.5						1		1
K918	胆管空腸吻合部狭窄	有	2	58.5	6.0						1	1	
K918	胆管空腸吻合部狭窄	無	2	72.5	3.0							2	
K918	内視鏡処置後胃潰瘍	有	1	79.0	3.0							1	
K918	内視鏡処置後胃潰瘍	有	6	76.2	8.2						1	2	3
K922	下部消化管出血	有	3	78.7	4.0							2	1
K922	下部消化管出血	無	4	73.5	10.8							3	1
K922	小腸出血	有	1	95.0	12.0								1
K922	小腸出血	無	2	76.5	8.5							2	
K922	上部消化管出血	有	2	45.0	3.0			1				1	
K922	上部消化管出血の疑い	有	3	82.3	10.7							2	1
K922	毛細血管拡張症による消化管出血	有	3	74.7	7.0							2	1
L020	頬部膿瘍	有	3	47.0	18.0							1	
L022	会陰部膿瘍	有	1	56.0	9.0						1		
L022	腹部膿瘍	有	3	75.0	10.7							3	
L022	腹壁膿瘍	有	1	68.0	14.0							1	
L024	下腿膿瘍	有	1	66.0	21.0							1	
L024	大腿部膿瘍	有	1	68.0	10.0							1	
L029	おとがい部膿瘍	有	1	36.0	13.0					1			
L031	下肢蜂巣炎	有	4	51.8	6.8	1					1	2	
L031	下肢蜂巣炎	無	5	72.4	18.2						1	3	1
L031	下肢蜂巣炎	有	6	69.7	12.3			1				2	3
L031	手蜂巣炎	無	2	53.0	9.0					1		1	
L031	上腕蜂巣炎	有	2	86.5	19.5								2
L031	上腕蜂巣炎	無	1	0.0	4.0	1							
L031	前腕蜂巣炎	有	1	70.0	22.0							1	
L031	足関節部蜂巣炎	無	1	63.0	7.0							1	
L031	足蜂巣炎	有	5	55.6	9.0	1					2	1	1
L031	大腿部蜂巣炎	無	1	12.0	4.0			1					
L031	膝部蜂巣炎	無	1	6.0	8.0			1					
L032	顔面蜂巣炎	無	4	13.8	6.5	1	1	1			1		
L033	胸壁蜂巣炎	無	1	70.0	8.0							1	
L033	殿部蜂巣炎	無	1	80.0	16.0								1
L040	頸部リンパ節炎	有	2	6.0	9.0		1	1					
L040	頸部化膿性リンパ節炎	有	1	71.0	5.0							1	
L040	頸部化膿性リンパ節炎	無	2	4.0	6.0	1		1					
L042	腋窩急性リンパ節炎	無	1	54.0	10.0						1		

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
L049	急性化膿性リンパ節炎	無	1	21.0	14.0					1			
L059	毛嚢洞	有	1	24.0	8.0					1			
L080	殿部慢性膿皮症	有	2	55.5	17.0						1	1	
L100	尋常性天疱瘡	無	1	79.0	41.0							1	
L120	水疱性類天疱瘡	有	1	83.0	33.0								1
L270	薬剤性過敏症症候群	有	1	56.0	29.0						1		
L508	薬物性じんま疹	無	1	55.0	3.0						1		
L518	多形滲出性紅斑	無	1	63.0	2.0							1	
L52	結節性紅斑	無	1	23.0	8.0	1		3					
L598	下腿放射線皮膚潰瘍	有	2	57.0	42.0						2		
L598	胸部放射線皮膚潰瘍	有	1	79.0	16.0							1	
L600	陥入爪	有	1	55.0	8.0						1		
L639	頭頂部円形脱毛症	無	1	18.0	3.0				1				
L750	腋臭症	有	7	24.1	5.1			1	4	1	1		
L858	頭部角化棘細胞腫	有	1	65.0	10.0							1	
L88	潰瘍性慢性膿皮症	無	1	81.0	31.0								1
L892	大腿骨転子部褥瘡・ステージⅠⅠⅠ	有	1	64.0	8.0							1	
L892	殿部褥瘡・ステージⅠⅠⅠ	有	1	76.0	52.0							1	
L892	褥瘡・ステージⅠⅠⅠ	有	2	60.0	27.0						1	1	
L893	坐骨褥瘡・ステージⅠⅤ	有	4	40.5	60.0			2			1		1
L893	踵褥瘡・ステージⅠⅤ	無	1	73.0	21.0							1	
L905	顔面癰痕拘縮	有	5	48.4	9.6		1				2	2	
L905	胸部癰痕拘縮	有	2	50.5	7.0						2		
L905	手指癰痕拘縮	有	2	24.5	20.5					2			
L905	手部癰痕拘縮	有	1	57.0	24.0						1		
L905	膝癰痕拘縮	有	1	8.0	4.0			1					
L905	腹部癰痕拘縮	有	1	14.0	4.0			1					
L905	母指癰痕拘縮	有	1	41.0	4.0						1		
L905	腋窩癰痕拘縮	有	1	65.0	5.0							1	
L910	大腿部肥厚性癰痕	有	2	14.0	20.5			2					
L923	顔面皮膚異物肉芽腫	有	1	63.0	8.0							1	
L97	下肢難治性皮膚潰瘍	有	1	62.0	26.0							1	
L97	下腿難治性皮膚潰瘍	有	4	76.5	26.0							1	3
L97	下腿皮膚潰瘍	有	3	73.7	22.7							3	
L97	足背皮膚潰瘍	有	1	81.0	13.0								1
L97	足部皮膚潰瘍	有	1	56.0	63.0						1		
L97	踵部難治性皮膚潰瘍	有	1	64.0	58.0							1	
L984	上腹部皮膚潰瘍	有	1	62.0	110.0							1	
L984	足底糖尿病性潰瘍	有	1	58.0	47.0						1		
L984	皮膚潰瘍	有	1	50.0	66.0						1		
M0006	MR S A 膝関節炎	無	1	83.0	15.0								1
M0006	ぶどう球菌性膝関節炎	有	3	73.7	27.0							2	1
M0093	化膿性関節炎・手関節	有	1	75.0	24.0							1	
M0095	化膿性関節炎・股関節の疑い	無	1	2.0	3.0	1							
M0096	化膿性関節炎・膝関節	有	2	40.5	22.5	1							1
M0239	反応性関節炎	無	1	13.0	8.0			1					
M0685	関節リウマチ・股関節・合併症なし	有	3	73.3	11.0							3	
M0686	関節リウマチ・膝関節・合併症なし	有	2	58.5	12.5						1	1	
M0690	関節リウマチ	無	1	91.0	14.0								1
M0696	関節リウマチ・膝関節	有	1	53.0	13.0						1		
M0730	多発性乾癬性関節炎	無	1	73.0	15.0							1	
M1006	膝関節痛風	無	1	70.0	9.0							1	
M1128	クラウンデンス症候群	無	1	91.0	10.0								1
M1128	頸椎偽痛風	無	1	87.0	8.0								1
M1315	股関節炎	無	3	5.3	4.3		2	1					
M1399	急性関節炎の疑い	無	1	74.0	8.0							1	
M160	両側性原発性股関節症	有	10	75.1	12.8							6	4
M161	一側性原発性股関節症	有	7	76.6	10.7							5	2
M161	一側性原発性変形性股関節症	有	1	78.0	17.0							1	
M161	原発性股関節症	有	1	82.0	12.0								1
M162	両側性形成不全性股関節症	有	5	71.4	14.0						1	4	
M163	一側性形成不全性股関節症	有	6	72.5	13.7							6	
M163	形成不全性股関節症	有	1	52.0	15.0						1		
M164	両側性外傷後変形性股関節症	有	1	84.0	19.0								1
M165	外傷後変形性股関節症	有	1	56.0	21.0						1		
M167	一側性続発性股関節症	有	1	70.0	9.0							1	
M167	一側性続発性変形性股関節症	有	1	72.0	18.0							1	
M170	両側性原発性膝関節症	有	30	77.0	12.0						2	14	14
M170	両側性変形性膝関節症	有	19	78.8	16.8						1	8	10
M171	一側性原発性膝関節症	有	1	64.0	21.0							1	
M171	一側性変形性膝関節症	有	6	71.5	15.0						1	4	1
M171	原発性膝関節症	有	1	82.0	58.0								1
M173	一側性外傷後膝関節症	有	1	72.0	23.0							1	
M174	両側性続発性膝関節症	有	1	53.0	13.0						1		
M175	一側性続発性膝関節症	有	2	74.0	16.0							2	
M220	反復性膝蓋骨脱臼	有	1	20.0	7.0				1				
M2303	内側半月のう腫	有	1	87.0	10.0								1
M2316	円板状外側半月板	有	1	16.0	4.0				1				
M2332	内側半月板後根断裂	有	3	64.3	3.0						1	2	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
M2452	肘関節拘縮	有	2	54.5	7.0					1		1	
M301	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	無	1	84.0	7.0								1
M303	急性熱性皮膚リンパ節症候群	無	4	3.0	12.8	3		1					
M303	川崎病	無	14	3.3	10.8	7	4	3					
M303	不全型川崎病	無	5	3.6	10.6	1	3	1					
M310	薬剤誘発性過敏性血管炎	無	1	57.0	7.0						1		
M311	後天性血栓性血小板減少性紫斑病	有	1	66.0	38.0							1	
M329	全身性エリテマトーデス	有	2	32.0	15.0			1			1		
M329	全身性エリテマトーデスの疑い	無	3	47.0	16.3			1				2	
M329	全身性強皮症	無	1	4.0	13.0		1						
M340	全身性強皮症	有	2	81.0	48.0							1	1
M350	シェーグレン症候群	無	1	15.0	6.0			1					
M353	リウマチ性多発筋痛	無	3	78.0	18.0							1	2
M359	I g G 4 関連疾患	無	1	67.0	43.0							1	
M359	I g G 4 関連疾患の疑い	無	1	67.0	4.0							1	
M4185	胸腰椎変性側弯症	有	1	43.0	16.0						1		
M4186	変性側弯症	有	2	61.0	15.5						1	1	
M4312	頸椎すべり症	有	1	73.0	18.0							1	
M4316	腰椎すべり症	有	12	77.1	15.7							7	5
		無	3	75.0	2.0							3	
M4316	腰椎分離すべり症	有	3	58.0	11.0						2	1	
		無	2	67.0	1.5							2	
M4636	腰椎化膿性椎間板炎	有	2	82.5	37.5								2
		無	1	81.0	28.0								1
M4654	胸椎化膿性脊椎炎	有	1	77.0	30.0							1	
M4654	胸椎化膿性脊椎炎の疑い	無	1	52.0	2.0						1		
M4656	腰椎化膿性脊椎炎	有	13	79.0	33.9							5	8
		無	2	81.5	17.5							1	1
M4712	頸椎症性脊髄症	有	36	69.5	15.9						8	18	10
		無	3	68.3	3.3						1	1	1
M4714	胸椎症性脊髄症	有	1	74.0	11.0							1	
M4722	頸椎症性神経根症	有	3	60.0	10.3						2	1	
		無	1	58.0	2.0						1		
M4782	頸椎症	有	1	82.0	20.0								1
M4786	変形性腰椎症	無	1	82.0	3.0								1
M4804	胸部脊柱管狭窄症	有	2	67.0	16.0						1	1	
		無	1	78.0	3.0							1	
M4806	腰部脊柱管狭窄症	有	75	73.3	15.0						4	53	18
		無	33	71.1	2.1						7	18	8
M4819	びまん性特発性骨増殖症	有	1	85.0	23.0								1
M4854	胸椎圧迫骨折後偽関節による遅発性麻痺	有	1	84.0	16.0								1
M4881	軸椎歯突起後方偽腫瘍	有	3	84.7	18.7							1	2
M4882	頸椎後縦靱帯骨化症	有	8	71.0	14.0						1	5	2
		無	2	63.0	2.5							2	
M4884	胸椎黄色靱帯骨化症	有	1	76.0	29.0							1	
M4885	胸腰椎後縦靱帯骨化症	有	1	80.0	16.0								1
M4886	腰椎椎間関節のう腫	有	2	71.5	31.0							2	
		無	1	67.0	2.0							1	
M502	頸椎椎間板ヘルニア	有	5	42.0	11.2					1	4		
M512	胸椎椎間板ヘルニア	有	1	51.0	2.0						1		
M512	腰椎椎間板ヘルニア	有	30	58.2	12.0				1	5	8	15	1
		無	13	58.0	2.2					2	6	5	
M512	第4・5腰椎椎間板ヘルニア	有	1	37.0	12.0					1			
M5326	腰椎不安定症	有	2	52.0	12.5					1		1	
M6009	感染性筋炎	無	1	8.0	3.0			1					
M6009	大腿四頭筋化膿性筋炎	無	1	62.0	10.0							1	
M6029	足底異物肉芽腫	有	1	2.0	3.0	1							
M6289	横紋筋融解	有	9	78.9	8.2						1	3	5
M6289	横紋筋融解の疑い	無	1	13.0	5.0			1					
M6504	中指化膿性腱鞘炎	有	1	77.0	10.0							1	
M6586	膝・非特異性慢性滑膜炎	有	1	46.0	3.0						1		
M6596	膝関節滑膜炎	有	4	44.8	4.8			1			3		
M6597	足関節外果足関節部腱鞘炎	有	1	85.0	4.0								1
M674	足背部ガングリオン	有	1	53.0	2.0						1		
M678	滑膜ひだ障害	有	1	55.0	12.0						1		
M680	手非結核性抗酸菌性滑膜炎	有	1	75.0	32.0							1	
M7075	化膿性股関節滑液包炎	有	1	38.0	12.0					1			
M7075	坐骨滑液包炎	有	1	59.0	10.0						1		
M7106	膝化膿性滑液包炎	有	1	83.0	9.0								1
M7204	デュピュイトラン拘縮	有	1	75.0	3.0							1	
M7204	手部デュピュイトラン拘縮	有	1	65.0	7.0							1	
M7260	下肢壊死性筋膜炎	有	2	65.5	25.5						1		1
		無	1	91.0	7.0								1
M7265	会陰部フルニエ壊疽	無	1	47.0	7.0						1		
M7266	下腿壊死性筋膜炎	有	2	74.0	27.5						1		1
		無	1	79.0	11.0							1	
M7267	足部壊死性筋膜炎	有	2	60.5	90.0					1			1
M7955	大腿筋肉内異物残留	有	1	32.0	3.0					1			
M7969	下肢痛	有	1	4.0	4.0		1						
M8005	閉経後骨粗鬆症・骨盤部病的骨折あり	有	1	82.0	16.0								1
M8088	老年性骨粗鬆症・脊椎病的骨折あり	有	2	87.0	35.0								2

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
M8408	眼窩変形治癒骨折	有	1	50.0	8.0						1		
M8408	鼻骨変形治癒骨折	有	2	26.0	4.5			1		1			
M8408	頬骨変形治癒骨折	有	1	47.0	9.0						1		
M8411	鎖骨偽関節	有	1	65.0	11.0							1	
M8413	橈骨偽関節	有	1	56.0	10.0						1		
M8415	大腿骨偽関節	有	3	73.7	20.3						1	1	1
M8415	大腿骨骨折後骨癒合不全	有	1	20.0	3.0			1					
M8416	脛骨偽関節症	有	1	60.0	10.0						1		
M8418	胸椎偽関節	有	2	77.0	13.5							1	1
M8425	大腿骨骨折の遷延癒合	有	1	76.0	22.0							1	
M8694	母指骨髄炎	有	2	82.0	9.0								2
M8695	血行性大腿骨骨髄炎	無	1	13.0	28.0			1					
M8697	母趾骨髄炎	有	1	83.0	22.0								1
M8699	骨幹炎	有	1	50.0	70.0						1		
M8705	特発性大腿骨頭壊死	有	2	57.0	19.0						1	1	
M8705	特発性大腿骨内顆骨壊死	有	1	81.0	15.0								1
M8795	大腿骨内顆骨壊死	有	2	74.0	12.5							1	1
M8900	複合性局所疼痛症候群	有	2	47.0	5.5						2		
M8900	複合性局所疼痛症候群	無	1	46.0	3.0						1		
M9075	転移性骨腫瘍による大腿骨骨折	有	1	89.0	12.0								1
M950	外鼻変形	有	2	14.5	4.5			1	1				
M966	人工肩関節周囲骨折	有	1	84.0	16.0								1
M966	人工股関節周囲骨折	有	2	72.0	19.0							1	1
M966	人工股関節周囲骨折	無	1	97.0	10.0								1
M966	人工膝関節周囲骨折	有	2	82.0	15.0							1	1
M966	人工膝関節周囲骨折	無	1	83.0	14.0								1
M966	大腿骨人工関節周囲骨折	有	3	87.0	14.7								3
M966	大腿骨人工関節周囲骨折	無	1	78.0	15.0							1	
M966	大腿骨人工膝関節周囲骨折	有	1	89.0	19.0								1
N003	急性びまん性メサングウム増殖性糸球体腎炎	無	2	42.0	3.0						2		
N017	A N C A 関連腎炎の疑い	無	1	66.0	4.0							1	
N028	I g A 腎症	有	4	36.5	10.8					3	1		
N028	I g A 腎症	無	11	31.6	3.0			3	5	2	2	1	
N028	I g A 腎症の疑い	無	2	27.5	4.0					2			
N039	慢性糸球体腎炎の疑い	無	4	48.5	4.0					2		2	
N040	微小変化型ネフローゼ症候群	無	2	79.5	37.5							1	1
N049	ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群	無	1	56.0	2.0						1		
N049	ネフローゼ症候群	無	2	44.0	7.0			1				1	
N049	難治性ネフローゼ症候群	無	1	60.0	18.0						1		
N055	膜性増殖性糸球体腎炎	無	1	70.0	31.0							1	
N083	2型糖尿病性腎症第3期	無	1	61.0	4.0							1	
N083	2型糖尿病性腎症第5期	無	1	42.0	2.0						1		
N083	2型糖尿病性腎不全	無	1	67.0	9.0							1	
N085	ループス腎炎の疑い	無	1	9.0	4.0			1					
N10	気腫性腎盂腎炎	無	1	82.0	11.0								1
N10	急性腎盂腎炎	無	40	53.7	9.9	7	1	1		2	2	21	6
N10	急性巣状細菌性腎炎	無	4	56.5	18.5			1			1	1	1
N10	単純性腎盂腎炎	無	1	72.0	16.0							1	
N12	腎盂腎炎	有	1	77.0	31.0							1	
N12	腎盂腎炎	無	1	69.0	8.0							1	
N12	水腎症を伴う腎盂腎炎	有	3	80.7	38.3							2	1
N12	水腎症を伴う腎盂腎炎	無	5	82.4	8.6							2	3
N130	尿管腎盂移行部閉塞を伴う水腎症	有	1	54.0	9.0						1		
N131	尿管狭窄を伴う水腎症	有	43	69.2	4.8					2	9	24	8
N132	尿管結石性閉塞を伴う水腎症	有	1	81.0	10.0								1
N133	水腎症	有	1	76.0	3.0							1	
N137	膀胱尿管逆流	有	3	41.7	4.3	1						2	
N142	薬剤性腎障害	無	2	82.5	9.0							1	1
N151	腎膿瘍	無	1	61.0	12.0							1	
N170	急性腎性腎不全	有	1	57.0	26.0						1		
N170	急性腎性腎不全	無	10	68.3	13.9						3	4	3
N178	急性腎後性腎不全	有	3	67.7	13.7						1	2	
N178	急性腎後性腎不全	無	1	73.0	8.0							1	
N178	急性腎前性腎不全	有	5	66.0	15.8						2	2	1
N178	急性腎前性腎不全	無	16	63.4	16.0					1	3	11	1
N179	急性腎不全	有	2	78.0	8.0							1	1
N179	急性腎不全	無	5	75.0	6.2							5	
N183	慢性腎臓病ステージG 3	有	1	67.0	2.0							1	
N183	慢性腎臓病ステージG 3 a	無	2	37.0	5.0					1	1		
N183	慢性腎臓病ステージG 3 a	無	2	55.5	4.0					1		1	
N184	慢性腎臓病ステージG 4	有	5	75.8	30.0						1	1	3
N184	慢性腎臓病ステージG 4	無	4	78.8	15.8							3	1
N185	慢性腎臓病ステージG 5	有	52	70.4	18.7					2	9	25	16
N185	慢性腎臓病ステージG 5	無	11	73.2	16.3						2	5	4
N185	慢性腎臓病ステージG 5 D	有	44	68.8	20.4					3	7	23	11
N185	慢性腎臓病ステージG 5 D	無	30	67.4	14.2						7	18	5
N185	慢性腎不全・維持透析中	無	1	76.0	7.0							1	
N189	慢性腎不全	有	2	77.5	21.5							1	1
N19	無機能腎	有	1	73.0	9.0							1	
N200	腎結石症	有	5	51.0	6.0				2			3	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0~2才	3~5才	6~15才	16~20才	21~40才	41~60才	61~79才	80才~
N201	尿管結石症	有	3	46.3	5.3					1	2		
		無	3	42.3	2.7					1	2		
N201	尿管結石症の疑い	無	1	29.0	4.0					1			
N209	結石性腎盂腎炎	有	10	75.7	11.3						1	5	4
		無	2	89.0	25.0								2
N210	膀胱結石症	有	4	53.5	5.0					1	2	1	
N211	尿道結石症	有	1	49.0	6.0						1		
N288	急性腎障害	無	2	70.0	14.5							2	
N288	腎出血	有	1	83.0	3.0								1
N300	急性出血性膀胱炎	有	1	90.0	6.0								1
		無	3	6.0	4.0	1		2					
N308	尿管膿瘍	有	1	74.0	10.0							1	
N319	神経因性膀胱	無	1	3.0	5.0		1						
N319	膀胱直腸障害	無	1	8.0	6.0			1					
N321	結腸膀胱瘻	有	1	84.0	19.0								1
N322	膀胱皮膚瘻	有	1	74.0	4.0							1	
N328	過活動膀胱	有	1	69.0	5.0							1	
N328	膀胱出血	有	2	67.0	10.0							2	
N350	外傷後尿道狭窄	有	1	33.0	4.0					1			
N390	単純性尿路感染症	無	2	69.5	8.5							2	
N390	尿路感染症	有	2	82.0	7.0								2
		無	34	54.4	8.5	7	2	2			2	11	10
N390	反復性尿路感染症	無	1	0.0	5.0	1							
N390	複雑性尿路感染症	無	2	0.5	6.5	2							
N40	前立腺肥大症	有	23	75.2	9.8						1	16	6
N410	急性細菌性前立腺炎	無	6	63.5	7.3						3	3	
N421	前立腺出血	無	1	89.0	5.0								1
N432	交通性陰のう水腫	有	8	3.5	3.0	3	4	1					
		無	1	1.0	2.0	1							
N433	精索水腫	有	3	4.3	3.0		2	1					
N44	精巣垂捻転	有	1	17.0	2.0				1				
N44	精巣捻転症	有	7	12.9	3.1	1		4	2				
N47	真性包茎	有	5	66.2	3.4			1			1		3
N47	包茎	有	1	72.0	3.0							1	
N700	急性付属器炎	有	2	59.5	6.5						1	1	
		無	1	41.0	6.0						1		
N700	急性卵管炎	無	1	32.0	6.0					1			
N700	急性卵管膿腫	有	1	83.0	19.0								1
		無	1	24.0	4.0					1			
N700	急性卵管卵巣膿瘍	有	1	36.0	28.0					1			
N711	慢性子宮内膜炎	有	1	29.0	3.0					1			
N733	急性骨盤腹膜炎	有	3	65.0	15.7						2	1	
		無	2	33.5	5.0					2			
N735	ダグラス窩膿瘍	有	1	44.0	11.0						1		
N738	骨盤内偽嚢胞	有	1	45.0	2.0						1		
N739	骨盤内炎症性疾患	無	1	20.0	9.0				1				
N739	骨盤膿瘍・女性	有	1	76.0	10.0							1	
N750	バルトリン腺のう胞	有	1	50.0	2.0						1		
N800	子宮腺筋症	有	9	44.3	5.8					3	6		
N801	チョコレートのう胞	有	8	42.9	5.6					3	5		
N801	卵巣子宮内膜症	有	2	49.5	4.5						2		
N801	卵巣子宮内膜症のう胞	有	10	38.7	6.2					5	5		
N803	骨盤子宮内膜症	有	3	38.3	5.0					2	1		
N809	子宮内膜症	有	1	50.0	5.0						1		
N811	膀胱瘤	有	15	66.9	4.7						3	11	1
		無	1	70.0	6.0							1	
N812	子宮下垂	有	1	62.0	6.0							1	
N812	子宮脱1度	有	2	66.0	6.0							2	
N812	子宮脱2度	有	2	71.5	6.0							2	
N813	完全子宮脱	有	6	75.5	5.3							4	2
		有	6	73.0	5.5							6	
N813	子宮脱3度	無	1	67.0	5.0							1	
N816	直腸瘤	有	1	70.0	6.0							1	
N823	直腸腔瘻	有	1	47.0	5.0						1		
N832	卵巣のう胞	有	1	51.0	5.0						1		
N835	卵管捻転	有	1	48.0	4.0						1		
N835	卵巣のう腫茎捻転	有	1	85.0	11.0								1
N835	卵巣茎捻転	有	3	35.7	4.0				1		2		
N835	卵巣捻転	有	1	40.0	4.0					1			
N836	卵管留血症	有	1	27.0	5.0					1			
N838	傍卵管のう胞	有	1	39.0	5.0					1			
N838	卵巣出血	有	1	46.0	4.0						1		
N840	子宮内膜ポリープ	有	7	48.0	2.4						6	1	
N841	子宮頸管ポリープ	有	4	49.8	2.3					1	2	1	
N841	子宮頸管粘膜ポリープ	有	1	57.0	3.0						1		
N851	子宮内膜異型増殖症	有	5	48.8	5.2						5		
N857	子宮留血症	無	1	38.0	14.0					1			
N870	子宮頸部軽度異形成	有	2	47.5	3.0					1		1	
N871	子宮頸部中等度異形成	有	17	42.8	3.1					7	8	2	
N872	子宮頸部高度異形成	有	5	36.4	3.4					4	1		
N879	子宮頸部異形成	有	1	50.0	3.0						1		

退院患者数

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
N888	分葉状内頸部腺過形成	有	1	42.0	2.0						1		
N890	膺上皮異形成・異型度1	有	1	52.0	3.0						1		
N948	ヌック管水腫	有	2	13.5	3.5	1				1			
N980	採卵後骨盤内炎症性疾患	無	1	39.0	3.0					1			
N981	卵巣過剰刺激症候群	有	3	31.3	3.7					3			
N991	術後尿道狭窄	有	1	77.0	5.0							1	
O001	卵管妊娠	有	4	30.3	4.0					4			
O001	卵管妊娠の疑い	無	1	25.0	2.0					1			
O001	卵管膨大部妊娠	有	1	30.0	3.0					1			
O009	異所性妊娠	有	1	28.0	6.0					1			
O011	部分胞状奇胎	有	2	23.5	3.0				1	1			
O021	稽留流産	有	3	34.3	3.7					3			
O034	不全流産	有	1	33.0	3.0					1			
O034	不全流産	無	2	40.0	2.0					1		1	
O039	自然流産	無	1	35.0	2.0					1			
O039	進行流産	無	2	34.0	2.0					2			
O049	人工妊娠中絶	無	7	26.3	3.6				1	6			
O080	流産後子宮内膜炎	無	1	27.0	3.0					1			
O11	加重型妊娠高血圧腎症	無	1	31.0	27.0					1			
O13	妊娠高血圧症	有	1	37.0	13.0					1			
O13	妊娠高血圧症	無	1	36.0	6.0					1			
O140	軽症妊娠高血圧症候群	有	4	32.3	10.3				1	2	1		
O140	軽症妊娠高血圧症候群	無	6	35.3	8.3					6			
O140	軽症妊娠高血圧腎症	有	1	28.0	11.0					1			
O140	軽症妊娠高血圧腎症	無	2	28.5	11.5					2			
O141	重症妊娠高血圧症候群	有	12	31.8	8.8				1	11			
O141	重症妊娠高血圧腎症	有	6	31.0	9.5					6			
O142	HELLP症候群	有	4	36.5	14.0					2	2		
O142	HELLP症候群の疑い	無	1	32.0	3.0					1			
O200	切迫流産	無	7	32.1	15.3					7			
O208	絨毛膜下血腫	有	1	41.0	71.0						1		
O208	絨毛膜下血腫	無	3	35.3	14.3					3			
O211	重症妊娠悪阻	無	2	32.5	15.5					2			
O211	脱水を伴う妊娠悪阻	無	1	27.0	6.0					1			
O235	妊娠中の性器感染症	有	1	35.0	6.0					1			
O241	2型糖尿病合併妊娠	有	1	34.0	15.0					1			
O241	2型糖尿病合併妊娠	無	4	32.3	6.5					4			
O244	妊娠糖尿病	無	6	32.0	6.2					6			
O300	一絨毛膜二羊膜性双胎	有	3	31.3	19.0					2	1		
O300	二絨毛膜二羊膜性双胎	有	6	34.3	29.5					6			
O321	骨盤位	有	15	33.3	7.0				1	13	1		
O321	骨盤位のための母体管理	有	3	38.7	6.7					2	1		
O331	狭骨盤	有	1	24.0	7.0					1			
O331	比較的狭骨盤	有	2	31.0	7.5					2			
O333	骨盤出口狭窄	有	1	35.0	7.0					1			
O335	巨大児による骨盤不均衡	有	2	33.0	9.0					2			
O337	胎児仙尾部奇形腫による骨盤不均衡	有	1	25.0	7.0					1			
O341	筋腫合併妊娠	有	1	29.0	7.0					1			
O342	既往子宮術後妊娠	有	2	38.0	7.0					2			
O342	既往帝王切開後妊娠	有	128	34.0	7.0					117	11		
O342	帝王切開癒痕症候群	有	1	32.0	5.0					1			
O343	子宮頸管無力症のための母体管理	有	13	34.3	8.5					12	1		
O343	子宮頸管無力症のための母体管理	無	2	40.0	21.5					1	1		
O344	頸管熟化不全	有	1	28.0	8.0					1			
O344	頸管熟化不全	無	22	33.2	6.9					20	2		
O344	軟産道強靱症	有	1	28.0	7.0					1			
O351	胎児染色体異常の疑い	無	1	36.0	1.0					1			
O358	胎児心疾患のための母体管理	無	1	29.0	15.0					1			
O364	子宮内胎児死亡	有	2	36.0	3.0					2			
O364	子宮内胎児死亡	無	2	26.0	4.0					2			
O364	子宮内胎児死亡のための母体管理	無	5	35.6	4.0					5			
O365	胎児発育不全のための母体管理	有	1	27.0	44.0					1			
O365	胎児発育不全のための母体管理	無	2	30.0	9.0					2			
O40	羊水過多症	有	1	36.0	18.0					1			
O410	原因不明の羊水過少症	無	1	27.0	5.0					1			
O410	羊水過少症	有	1	27.0	38.0					1			
O410	羊水過少症	無	1	25.0	8.0					1			
O411	絨毛膜羊膜炎	有	5	34.8	9.0					5			
O420	前期破水・分娩開始が破水後24時間未満	無	15	29.5	6.4					15			
O421	前期破水・分娩開始が破水後24時間以降	有	1	48.0	7.0						1		
O421	前期破水・分娩開始が破水後24時間以降	無	19	29.7	7.3					18	1		
O429	前期破水	無	1	28.0	3.0					1			
O441	出血を伴う前置胎盤	無	1	37.0	9.0					1			
O441	前置胎盤	有	2	34.0	27.0					2			
O441	前置胎盤	有	1	37.0	7.0					1			
O459	常位胎盤早期剥離	有	3	32.3	6.3					3			
O459	常位胎盤早期剥離の疑い	無	2	35.5	2.0					2			
O470	妊娠満37週未満の偽陣痛	無	1	33.0	2.0					1			
O471	妊娠40週妊娠満37週以後の前陣痛	無	1	31.0	2.0					1			
O471	妊娠満37週以後の偽陣痛	無	13	32.2	1.8					13			

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
O600	切迫早産	有	15	34.6	40.0					13	2		
		無	57	30.9	20.3				4	50	3		
O600	切迫早産の疑い	無	1	31.0	3.0					1			
O620	原発性陣痛微弱	無	18	33.4	6.6					17	1		
O621	続発性陣痛微弱	有	5	30.8	7.4					5			
		無	56	30.8	6.4					55	1		
O622	微弱陣痛	無	8	33.1	6.8					8			
O623	急産	無	1	40.0	5.0					1			
O624	切迫子宮破裂	有	25	33.4	6.2					23	2		
O631	第2期遷延分娩	有	1	39.0	7.0					1			
O640	後方後頭位による分娩停止	有	2	32.0	7.0					2			
O640	高在縦定位による分娩停止	有	4	33.0	7.3					3	1		
O640	児頭回旋異常	有	1	32.0	5.0					1			
O640	児頭回旋異常による分娩停止	有	13	31.9	7.8					12	1		
O640	不正軸廻入による分娩停止	有	2	32.5	10.0					2			
O651	単純狭骨盤による分娩停止	有	4	27.5	9.0					4			
O651	侏小骨盤による分娩停止	有	9	29.1	7.8					9			
O654	胎児骨盤不均衡による分娩停止	有	1	30.0	6.0					1			
O655	子宮筋腫による分娩停止	有	1	42.0	7.0						1		
O655	軟産道強靱症による分娩停止	有	5	28.2	8.6				1	4			
O662	巨大児による分娩停止	有	5	31.4	7.4					5			
O680	胎児機能不全	有	54	31.4	7.0				1	51	2		
		無	14	31.0	6.0					14			
O680	胎児機能不全の疑い	無	3	28.7	3.0				1	2			
O680	胎児心拍異常	有	4	37.0	7.5					3	1		
		無	4	31.5	5.0					3	1		
O690	臍帯下垂	有	3	38.3	8.0					3			
O700	会陰腔壁裂傷	有	2	32.0	7.0					2			
O702	会陰裂傷第3度	有	3	36.3	6.0					3			
O713	子宮頸管裂傷	有	1	41.0	7.0						1		
O717	産科的外陰血腫	有	1	38.0	5.0					1			
O717	産科的内陰血腫	有	1	37.0	3.0					1			
O720	胎盤遺残	無	1	32.0	2.0					1			
O720	癒着胎盤	有	1	36.0	8.0					1			
O721	弛緩出血	有	14	30.8	6.1				1	13			
		無	3	32.7	5.0					3			
O721	分娩後異常出血	有	1	31.0	6.0					1			
O722	後期分娩後異常出血	有	1	36.0	5.0					1			
O722	部分癒着胎盤	有	4	28.8	7.3					4			
O723	分娩後D I C	有	1	29.0	5.0					1			
O800	自然頭位分娩	有	8	34.4	5.6					7	1		
		無	310	31.0	5.6				4	297	9		
O809	自然分娩	無	1	31.0	5.0					1			
O860	帝王切開創感染症	無	1	34.0	5.0					1			
O861	子宮内感染症(産褥中)	無	1	39.0	3.0					1			
O881	羊水塞栓症	有	1	42.0	10.0						1		
O983	尖圭コンジローマ合併妊娠	有	2	20.5	5.5				1	1			
O994	もやもや病合併妊娠	有	1	39.0	7.0					1			
O994	妊娠期脳血管疾患合併症	有	1	39.0	7.0					1			
P002	B群溶連菌感染母体より出生した児	無	2	0.0	4.0	2							
P002	COVID-19感染母体より出生した児	無	1	0.0	6.0	1							
P070	超低出生体重児	有	2	0.0	82.5								
		無	1	0.0	83.0	1							
P071a	極低出生体重児	無	6	0.0	65.5	6							
P071b	低出生体重児	無	53	0.0	28.6	53							
P073	早産児	無	3	0.0	23.0	3							
P073	妊娠28週以降の早産児	無	1	0.0	21.0	1							
P130	新生児頭蓋骨骨折	無	1	0.0	14.0	1							
P210	重症新生児仮死	有	5	0.0	12.2	5							
P211	軽度新生児仮死	無	1	0.0	8.0	1							
P221	新生児一過性多呼吸	有	1	0.0	9.0	1							
		無	4	0.0	6.0	4							
P228	新生児呼吸障害	有	1	0.0	11.0	1							
		無	67	0.0	9.4	67							
P240	胎便吸引症候群	有	1	0.0	8.0	1							
		無	4	0.0	4.3	4							
P284	新生児無呼吸発作	無	15	0.0	3.9	15							
P360	新生児B群連鎖球菌敗血症	無	1	0.0	18.0	1							
P399	新生児感染症	無	6	0.0	4.2	6							
P541	新生児メレナ	無	9	0.0	4.3	9							
P544	新生児副腎出血	無	1	0.0	15.0	1							
P599	新生児黄疸	無	96	0.0	3.8	96							
		有	1	0.0	8.0	1							
P610	新生児血小板減少症	無	1	0.0	13.0	1							
P704	新生児低血糖	無	4	0.0	8.5	4							
P721	新生児甲状腺機能亢進症	無	1	0.0	2.0	1							
P783	新生児下痢症	無	1	0.0	3.0	1							
P808	新生児低体温症	無	1	0.0	4.0	1							
P819	新生児発熱	無	6	0.0	3.0	6							
P836	新生児臍ポリープ	無	1	0.0	4.0	1							
P90	新生児痙攣の疑い	無	1	0.0	4.0	1							

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0~2才	3~5才	6~15才	16~20才	21~40才	41~60才	61~79才	80才~
P920	新生児嘔吐	無	17	0.0	5.5	17							
P922	哺乳不全	無	2	0.0	8.0	2							
P923	新生児の哺乳不足	無	2	0.0	4.5	2							
Q039	先天性水頭症	有	1	11.0	10.0			1					
Q054	髄膜瘤を伴う水頭症	有	1	0.0	11.0	1							
Q059	脊髄髄膜瘤	有	1	0.0	19.0	1							
Q170	副耳	有	1	7.0	3.0			1					
Q172	小耳症	有	1	13.0	13.0			1					
Q178	埋没耳	有	1	43.0	11.0						1		
Q181	先天性耳瘻孔	有	3	32.0	4.0					1		1	
		無	1	4.0	2.0		1						
Q211	心房中隔欠損症	無	2	80.0	3.0								2
Q211	卵円孔開存症	無	1	82.0	23.0								1
Q212	不完全型房室中隔欠損症	有	1	79.0	29.0							1	
Q254	バルサルバ洞動脈瘤	有	2	78.0	30.5							1	1
Q283	脳幹部海綿状血管腫	無	1	44.0	5.0						1		
Q313	喉頭のう胞	有	1	43.0	4.0						1		
Q379	唇顎裂	有	1	0.0	8.0	1							
Q379	片側性唇顎裂	有	1	0.0	7.0	1							
Q390	先天性食道閉鎖症D型	無	1	0.0	1.0	1							
Q431	ヒルシュスプリング病の疑い	無	1	0.0	1.0	1							
Q438	S状結腸過長症	無	1	57.0	24.0						1		
Q442	胆道閉鎖症	無	1	8.0	5.0			1					
Q444	先天性胆管拡張症	有	1	40.0	12.0					1			
Q445	膵管胆管合流異常	有	1	40.0	3.0					1			
Q445	膵管胆管合流異常の疑い	無	1	40.0	3.0					1			
Q446	多発性肝のう胞	無	2	58.0	3.5						1	1	
Q527	先天性外陰のう胞	有	1	3.0	4.0		1						
Q531	停留精巣	有	7	2.6	3.0	5	1	1					
Q539	停留精巣	有	4	2.3	3.0	3	1						
Q613	感染性多房性腎のう胞	有	1	65.0	23.0							1	
Q613	多発性のう胞腎	有	7	63.4	3.7							7	
Q621	先天性腎盂尿管移行部狭窄	有	2	31.0	6.0	1						1	
Q704	多合指症	有	1	8.0	8.0			1					
Q704	母指多合指症	有	1	3.0	3.0		1						
Q743	先天性多発性関節拘縮症	無	1	0.0	344.0	1							
Q831	副乳	有	1	30.0	4.0					1			
Q858	スタージ・ウェーバ症候群	無	1	0.0	7.0	1							
Q858	ポイツ・ジェガース症候群	有	1	19.0	2.0				1				
Q870	第1第2鰓弓症候群	有	1	0.0	3.0	1							
Q874	マルファン症候群	有	2	46.0	21.5					1	1		
		無	1	52.0	7.0						1		
Q878	ミラー・ディカー症候群	無	1	14.0	2.0			1					
R040	鼻出血症	無	1	65.0	4.0							1	
R042	喀血	有	1	81.0	5.0								1
		無	1	77.0	3.0							1	
R068	CO2ナルコーシス	無	2	82.5	18.5								2
R11	化学療法に伴う嘔吐症	有	1	54.0	8.0						1		
R11	嘔気	有	1	91.0	2.0								1
R18	腹水症	有	3	70.0	4.7						1	1	1
R33	膀胱タンポナーデ	有	3	72.3	12.3							3	
		無	1	72.0	10.0							1	
R34	乏尿	有	1	33.0	2.0					1			
R402	意識消失	無	1	87.0	2.0								1
R402	意識障害	無	2	75.5	10.0							2	
R402	一過性意識障害	無	1	85.0	2.0								1
R509	反復性発熱	無	1	72.0	9.0							1	
R55	失神	無	2	78.5	1.5							1	1
R55	心臓性失神の疑い	有	1	79.0	2.0							1	
R560	熱性痙攣	無	14	2.3	3.1	10	4						
R568	無熱性痙攣	無	1	4.0	2.0		1						
R568	痙攣重積発作	無	1	5.0	4.0		1						
R571	循環血液量減少性ショック	無	2	73.5	2.0						1		1
S000	後頭部打撲傷	無	1	1.0	2.0	1							
S000	頭部打撲傷	有	1	38.0	5.0					1			
S000	頭部皮下血腫	無	1	68.0	2.0							1	
S007	顔面多発擦過傷	有	1	79.0	2.0							1	
S010	後頭部挫創	有	1	83.0	5.0								1
S010	後頭部裂創	有	1	54.0	2.0						1		
S010	前頭部割創	有	1	63.0	9.0							1	
S010	前頭部挫創	有	1	80.0	1.0								1
S010	側頭部挫創	無	1	6.0	2.0			1					
S010	側頭部頭部裂創	有	1	88.0	2.0								1
S010	頭頂部挫創	有	1	77.0	3.0							1	
S010	頭部割創	有	1	70.0	10.0							1	
S010	頭部挫創	有	1	17.0	1.0				1				
S011	眼瞼裂創	有	1	76.0	3.0							1	
S015	口腔開放創	有	1	42.0	2.0						1		
S017	顔面多発挫創	有	2	47.0	2.0				1			1	
S0210	眼窩上蓋骨折	有	1	55.0	4.0						1		
S0210	頭蓋底骨折	有	1	77.0	21.0							1	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
S0210	頭骨骨折	無	1	71.0	8.0							1	
S0220	鼻骨骨折	有	5	13.6	3.0			4	1				
S0230	眼窩底骨折	無	1	50.0	2.0						1		
S0240	ルフォー1型骨折	有	3	50.3	7.0					1	1	1	
S0240	頬骨弓骨折	有	1	74.0	12.0							1	
S0240	頬骨骨折	有	1	77.0	4.0							1	
S0240	頬骨骨折	有	2	65.0	6.0						1		1
S0260	下顎骨骨折	有	1	78.0	9.0							1	
S0260	正中下顎骨骨折	有	1	73.0	25.0							1	
S0261	下顎正中中部開放骨折	有	1	69.0	22.0							1	
S0280	眼窩骨折	有	1	64.0	7.0							1	
S0280	眼窩内側壁骨折	有	2	76.0	4.0							2	
S030	顎関節脱臼	無	1	75.0	7.0							1	
S0600	脳振盪・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	1	8.0	2.0			1					
S0600	脳振盪・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	12	38.3	2.4	1	2	1	1	2	1	2	2
S0620	脳挫傷・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	4	87.8	17.0							1	3
S0630	局所性脳挫傷・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	1	84.0	2.0								1
S0630	小脳挫傷・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	1	83.0	18.0								1
S0630	前頭葉局所性脳挫傷・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	1	54.0	40.0						1		
S0640	急性硬膜外血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	1	22.0	21.0					1			
S0640	急性硬膜外血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	2	5.0	4.5		1	1					
S0641	急性硬膜外血腫・頭蓋内に達する開放創合併あり	有	1	49.0	73.0						1		
S0650	外傷性慢性硬膜下血腫	有	23	75.9	13.2						1	15	7
S0650	急性硬膜下血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	3	91.7	13.7							1	2
S0650	急性硬膜下血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	5	78.2	29.0						1	1	3
S0660	外傷性くも膜下出血・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	13	78.4	14.9							7	6
S0660	外傷性くも膜下出血・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	10	58.6	12.9		1	1		1	2		5
S0660	外傷性脳室内出血・頭蓋内に達する開放創合併なし	無	18	59.9	12.6		2		1	1	4	3	7
S0680	外傷性脳室内出血・頭蓋内に達する開放創合併なし	有	1	85.0	16.0								1
S070	顔面挫滅創	有	3	42.7	3.3					1	2		
S078	前額部挫滅創	有	1	73.0	4.0							1	
S1200	環椎骨折	有	1	87.0	17.0								1
S1200	環椎骨折	無	1	75.0	16.0							1	
S1200	環椎破裂骨折	有	1	93.0	4.0								1
S1210	軸椎骨折	有	1	77.0	14.0							1	
S1220	第5頸椎椎体骨折	有	1	80.0	10.0								1
S1220	第5頸椎棘突起骨折	有	1	73.0	8.0							1	
S1220	第5頸椎棘突起骨折	無	1	91.0	9.0								1
S1220	第6頸椎脱臼骨折	有	1	65.0	7.0							1	
S1220	第7頸椎骨折	有	1	78.0	3.0							1	
S1220	第7頸椎脱臼骨折	有	1	15.0	35.0			1					
S1220	第7頸椎椎体骨折	有	1	82.0	57.0								1
S1220	第7頸椎破裂骨折	有	2	70.5	25.5							2	
S1270	頸椎多発骨折	有	1	62.0	21.0							1	
S131	環軸関節亜脱臼	有	1	74.0	22.0							1	
S134	外傷性頸部症候群	有	1	19.0	1.0				1				
S134	頸椎捻挫	有	1	64.0	9.0							1	
S134	頸椎捻挫	無	1	38.0	2.0					1			
S141	下位頸髄損傷	有	2	35.5	20.5					1	1		
S141	頸髄硬膜外血腫	有	1	94.0	21.0								1
S141	頸髄損傷	有	7	66.1	34.9						1	5	1
S141	中心性頸髄損傷	有	5	69.4	16.4						2	1	2
S141	中心性頸髄損傷	無	2	59.5	4.5						2		
S141	非骨傷性頸髄損傷	有	3	79.7	24.0							1	2
S141	非骨傷性頸髄損傷	無	5	74.4	15.4						1	2	2
S202	胸部打撲傷	有	2	56.0	3.0					1		1	
S202	前胸部打撲傷	有	2	58.0	2.0					1			1
S211	前胸部刺創	有	1	79.0	3.0							1	
S2200	胸椎圧迫骨折	有	4	81.3	16.0							1	3
S2200	胸椎横突起骨折	有	3	84.7	9.3								3
S2200	胸椎横突起骨折	無	1	96.0	15.0								1
S2200	胸椎胸椎破裂骨折	有	1	82.0	1.0								1
S2200	胸椎脱臼骨折	有	1	31.0	31.0					1			
S2200	胸椎椎体骨折	有	3	73.0	13.0						1		2
S2200	胸椎椎体骨折	無	1	74.0	17.0							1	
S2200	胸椎破裂骨折	有	8	54.1	18.0					1	5		2
S2210	胸椎多発骨折	有	1	34.0	32.0					1			
S2220	胸骨骨折	有	1	80.0	22.0								1
S2220	胸骨骨折	無	2	55.0	3.0					1		1	
S2230	肋骨骨折	有	2	76.5	7.5							2	
S2240	肋骨多発骨折	有	2	84.5	10.0								2
S2240	肋骨多発骨折	無	9	65.4	4.2					1	2	4	2
S241	胸髄損傷	有	1	73.0	22.0							1	
S2691	心臓損傷・胸腔に達する開放創合併あり	有	1	61.0	20.0							1	
S2700	外傷性気胸・胸腔に達する開放創合併なし	有	1	70.0	12.0							1	
S2700	外傷性気胸・胸腔に達する開放創合併なし	無	5	71.4	6.2						2	1	2
S2700	閉鎖性外傷性気胸	有	1	70.0	5.0							1	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
S2710	外傷性血胸・胸腔に達する開放創合併なし	有	2	80.0	23.0							1	1
		無	5	72.2	9.8					1		2	2
S2720	外傷性血気胸・胸腔に達する開放創合併なし	有	2	60.0	17.0						1	1	
		無	3	76.3	7.7						1		2
S2730	肺挫傷・胸腔に達する開放創合併なし	無	1	30.0	2.0					1			
S300	腰殿部打撲傷	無	1	91.0	6.0								1
S300	殿部打撲傷	無	1	54.0	2.0						1		
S301	腹壁下血腫	無	1	92.0	7.0								1
S302	外傷性会陰血腫	有	2	25.0	3.0			1		1			
S310	殿部刺創	有	1	66.0	12.0							1	
S314	脛裂傷	有	2	38.0	3.5				1		1		
S3200	腰椎圧迫骨折	有	4	71.8	10.5						1	2	1
		無	2	76.5	6.5							1	1
S3200	腰椎横突起骨折	無	1	72.0	5.0							1	
S3200	腰椎椎体骨折	有	8	81.3	18.1						1	1	6
S3200	腰椎椎体骨折の疑い	無	1	66.0	7.0							1	
S3200	腰椎破裂骨折	有	19	62.6	15.8				1	1	6	8	3
S3210	仙骨骨折	有	1	68.0	34.0							1	
S3230	腸骨骨折	無	1	87.0	25.0								1
S3240	寛骨臼骨折	有	4	56.0	30.3						3	1	
		無	1	83.0	16.0								1
S3250	恥骨骨折	無	1	89.0	23.0								1
S3270	腰椎多発圧迫骨折	無	1	83.0	9.0								1
S3280	骨盤骨折	有	8	70.0	28.9			1			1	1	5
		無	2	72.5	19.0						1		1
S3280	骨盤輪骨折	有	5	59.2	34.0						3	1	1
		無	4	81.0	15.3							2	2
		有	1	85.0	18.0								1
S3280	坐骨骨折	有	1	13.0	2.0			1					
		無	1	41.0	12.0						1		
S358	腰動脈損傷	有	1	41.0	12.0						1		
S3610	肝損傷・腹腔に達する開放創合併なし	無	2	55.5	3.0					1		1	
S3610	閉鎖性肝損傷	無	1	9.0	6.0			1					
S3640	小腸損傷・腹腔に達する開放創合併なし	有	1	38.0	23.0					1			
S3641	開放性小腸損傷	有	1	23.0	20.0					1			
S3680	閉鎖性腸間膜損傷	有	1	72.0	10.0							1	
S3700	腎損傷・骨盤腔に達する開放創合併なし	無	3	59.7	8.3				1			1	1
S3720	膀胱損傷・骨盤腔に達する開放創合併なし	有	1	37.0	14.0					1			
S3730	尿道損傷・骨盤腔に達する開放創合併なし	無	1	98.0	2.0								1
S3760	子宮穿孔・骨盤腔に達する開放創合併なし	有	1	39.0	5.0					1			
S381	殿部挫減創	有	1	95.0	6.0								1
S390	殿部筋肉内血腫	有	2	72.0	10.5							1	1
S400	肩打撲傷	無	1	6.0	7.0			1					
S4200	鎖骨遠位端骨折	有	5	57.8	14.2					2		2	1
S4200	鎖骨骨幹部骨折	有	9	52.2	6.8			1		1	4	3	
S4200	鎖骨骨折	有	6	48.3	4.3				2	1		2	1
		無	1	84.0	9.0								1
S4210	肩関節脱臼骨折	有	2	66.0	8.0						1		1
S4210	肩甲骨骨折	無	1	83.0	2.0								1
S4210	肩甲骨体部骨折	無	1	68.0	3.0							1	
S4220	上腕骨近位端骨折	有	15	71.7	11.1						1	10	4
S4220	上腕骨大結節骨折	有	2	58.5	7.5					1			1
S4230	上腕骨骨幹部骨折	有	9	62.9	13.2					1	2	5	1
S4231	上腕骨骨幹部開放骨折	有	1	43.0	11.0						1		
S4240	上腕骨遠位端骨折	有	2	68.5	11.5						1	1	
S4240	上腕骨通頸骨折	有	1	86.0	9.0								1
S4240	上腕骨内上顆骨折	有	2	9.5	2.5				2				
S4240	上腕骨顆上骨折	有	9	6.9	2.8			5	4				
S4241	上腕骨遠位端開放骨折	有	1	70.0	16.0							1	
S431	肩鎖関節脱臼	有	2	48.5	5.0						2		
S501	前腕皮下血腫	無	1	83.0	2.0								1
S510	肘関節挫創	無	1	45.0	8.0						1		
S5200	尺骨近位端骨折	有	1	85.0	12.0								1
S5200	肘関節脱臼骨折	有	3	31.3	5.0			2				1	
S5200	肘頭骨折	有	1	16.0	7.0				1				
S5201	尺骨肘頭開放骨折	有	2	65.5	9.0						1		1
S5220	尺骨骨折	無	1	14.0	7.0			1					
S5230	橈骨骨幹部骨折	有	1	77.0	74.0							1	
S5240	橈骨尺骨骨幹部骨折	有	3	22.0	4.0			2			1		
S5250	橈骨遠位端関節内骨折	有	1	76.0	5.0							1	
S5250	橈骨遠位端骨折	有	12	55.6	2.3					2	7	1	2
S5251	橈骨遠位端開放骨折	有	2	49.5	10.5			1					1
S5260	橈骨尺骨遠位端骨折	有	1	82.0	16.0								1
S5261	開放性橈骨尺骨遠位端骨折	有	2	66.0	24.0							2	
S5281	尺骨遠位端開放骨折	有	1	90.0	8.0								1
S541	正中神経断裂	有	1	53.0	4.0						1		
S564	示指伸筋腱断裂	有	1	47.0	9.0						1		
S610	母指皮膚欠損創	有	1	42.0	12.0						1		
S6200	手舟状骨骨折	有	2	42.0	2.0					1	1		
S6231	中手骨開放骨折	有	1	75.0	17.0							1	
S6260	小指末節骨骨端線損傷	有	1	6.0	2.0			1					
S681	示指切断	有	1	3.0	3.0		1						

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
S681	中指切断	有	1	60.0	2.0						1		
S7200	大腿骨頸部骨折	有	80	79.9	17.2						6	28	46
S7200	大腿骨頸部内側骨折	有	1	78.0	6.0							1	
S7210	大腿骨転子部骨折	有	2	91.0	19.0								2
S7210	大腿骨転子部骨折	有	59	85.7	17.0					2	2	7	48
S7210	大腿骨転子部骨折	有	2	88.0	3.5								2
S7210	大腿骨転子部骨折	有	2	94.5	12.5								2
S7220	大腿骨転子下骨折	有	1	1.0	29.0	1							
S7220	大腿骨転子下骨折	有	1	79.0	2.0							1	
S7220	転子下骨折	有	2	79.0	15.5							1	1
S7220	転子下骨折の術後	有	1	2.0	3.0	1							
S7230	大腿骨骨幹部骨折	有	12	48.7	19.3		1	2	2	1		2	4
S7231	大腿骨骨幹部開放骨折	有	2	39.5	20.5					1	1		
S7240	大腿骨遠位端骨折	有	4	69.3	18.5						1	2	1
S7240	大腿骨遠位端骨折	有	1	97.0	14.0								1
S7240	大腿骨内顆骨折	有	1	15.0	3.0			1					
S7241	大腿骨遠位端開放骨折	有	1	41.0	7.0						1		
S7241	大腿骨遠位端開放骨折	有	2	67.0	22.0						1		1
S7290	大腿骨不全骨折	有	1	90.0	2.0								1
S730	股関節脱臼	有	1	41.0	11.0						1		
S750	深大腿動脈損傷	有	1	87.0	12.0								1
S761	膝蓋腱断裂	有	1	67.0	4.0							1	
S764	大腿筋肉内血腫	有	2	86.5	7.5								2
S800	膝関節打撲傷	有	1	19.0	2.0				1				
S801	下腿皮下血腫	有	1	62.0	3.0							1	
S819	下腿皮膚欠損創	有	2	82.5	25.5							1	1
S8200	膝蓋骨骨折	有	6	71.5	9.3							5	1
S8200	膝蓋骨骨折の術後	有	1	75.0	2.0							1	
S8201	膝蓋骨開放骨折	有	2	85.5	24.5							1	1
S8210	脛骨近位端骨折	有	7	70.6	14.3					1		3	3
S8210	脛骨高原骨折	有	3	56.3	9.0					1		2	
S8210	脛骨粗面骨折	有	2	81.0	10.0								2
S8210	脛骨腓骨近位端骨折	有	1	14.0	16.0			1					
S8220	脛骨骨幹部骨折	有	2	42.5	19.5			1				1	
S8220	脛骨腓骨骨幹部骨折	有	4	68.0	27.0							4	
S8221	脛骨開放骨折	有	2	47.5	48.0					1	1		
S8221	脛骨骨幹部開放骨折	有	2	50.5	5.5						2		
S8221	脛骨腓骨開放骨折	有	2	38.0	7.5					1	1		
S8230	脛骨遠位端骨折	有	5	23.0	29.0			2	1	2			
S8230	脛骨遠位端骨折	有	1	24.0	3.0					1			
S8230	脛骨腓骨遠位端骨折	有	6	72.3	22.2						2	2	2
S8230	脛骨腓骨遠位端粉碎骨折	有	1	63.0	20.0							1	
S8231	脛骨遠位端開放骨折	有	1	62.0	32.0							1	
S8250	足関節内果骨折	有	6	53.8	11.3					1	3	2	
S8260	足関節外果骨折	有	8	50.0	5.8				1		6	1	
S8280	足関節骨折	有	5	59.0	13.8					2	1	1	1
S8280	足関節三果骨折	有	1	76.0	18.0							1	
S8280	足関節脱臼骨折	有	4	70.5	32.3						2		2
S832	外側半月板損傷	有	3	40.7	9.0				1	1		1	
S832	外側半月板断裂	有	1	56.0	3.0						1		
S832	内側半月板損傷	有	4	58.3	8.0						2	2	
S832	内側半月板損傷の術後	有	1	50.0	4.0						1		
S834	膝関節内側副靱帯断裂	有	1	35.0	16.0					1			
S835	前十字靱帯損傷	有	2	18.5	10.5				2				
S835	前十字靱帯断裂	有	1	42.0	6.0						1		
S850	膝窩動脈損傷	有	1	7.0	75.0			1					
S860	アキレス腱断裂	有	3	60.0	5.7					1		1	1
S870	膝挫減創	有	1	65.0	8.0							1	
S878	下腿挫減創	有	2	78.0	12.0							1	1
S881	下腿不全切断	有	1	47.0	114.0						1		
S9200	踵骨骨折	有	8	59.8	16.8					2	1	4	1
S9230	中足骨骨折	有	1	60.0	4.0						1		
S9231	中足骨開放骨折	有	1	76.0	40.0							1	
S934	前脛腓靱帯損傷	有	1	17.0	9.0				1				
S934	足前脛腓靱帯損傷	有	1	16.0	9.0				1				
T009	全身打撲	有	2	31.5	2.0		1				1		
T0210	胸腰椎圧迫骨折	有	2	78.5	15.5							1	1
T0220	一側上肢多発骨折	有	1	21.0	30.0					1			
T0231	一側下肢多発開放骨折	有	1	83.0	22.0								1
T0240	両側上肢多発骨折	有	3	60.0	13.0					1		2	
T0280	複合部位の骨折	有	2	74.0	35.0						1		1
T141	殿部挫創	有	1	65.0	3.0							1	
T1420	下顎骨粉碎骨折	有	1	90.0	14.0								1
T148	高エネルギー外傷	有	2	40.0	3.0					1	1		
T158	結膜下異物	有	1	82.0	5.0								1
T175	気管支異物	有	1	1.0	1.0	1							
T179	気道内異物による窒息	有	1	94.0	2.0								1
T181	食道異物	有	1	73.0	8.0							1	
T182	胃内異物	有	2	3.0	2.5	1		1					
T182	胃内異物	有	1	7.0	4.0			1					
T189	異物誤飲	有	1	4.0	2.0		1						

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
T202	顔面第2度熱傷	有	1	85.0	8.0								1
T212	胸部第2度熱傷	無	2	1.0	2.0	2							
T213	殿部第3度熱傷	有	1	92.0	8.0								1
T222	上肢第2度熱傷	有	1	73.0	42.0							1	
T232	手第2度熱傷	無	2	58.5	14.0					1			1
T233	手第3度熱傷	有	1	61.0	28.0							1	
T233	手背第3度熱傷	有	1	24.0	54.0					1			
T242	下肢第2度熱傷	有	1	92.0	35.0								1
T243	下肢第3度熱傷	有	1	87.0	45.0								1
T243	下腿部第3度熱傷	有	2	91.5	32.5								2
T273	気道熱傷	無	1	25.0	5.0					1			
T292	全身第2度熱傷	有	2	83.5	22.0							1	1
T391	アセトアミノフェン中毒	無	5	20.4	4.6			1	1	3			
T402	モルヒネ中毒	無	1	17.0	1.0				1				
T424	ベンゾジアゼピン中毒	有	2	51.0	14.5					1		1	
T424	ベンゾジアゼピン中毒	無	11	42.0	2.6			1		5	4		1
T426	ゾピクロン中毒	無	1	46.0	2.0						1		
T426	バルプロ酸中毒	無	1	51.0	2.0						1		
T432	抗うつ薬中毒	無	1	28.0	2.0					1			
T435	抗精神病薬中毒	無	1	64.0	3.0							1	
T451	抗凝固剤漏出性皮膚障害	有	1	82.0	6.0								1
T509	医薬品中毒	無	3	24.3	1.7				1	2			
T509	急性薬物中毒	無	7	48.7	2.9					3	2	1	1
T58	一酸化炭素中毒	無	1	50.0	1.0						1		
T600	有機リン中毒	無	1	86.0	31.0								1
T603	除草剤中毒	無	1	59.0	6.0						1		
T612	フグ中毒	無	1	68.0	7.0							1	
T622	植物アルカロイド中毒	有	1	87.0	25.0								1
T630	マムシ咬傷	無	6	77.3	3.5							4	2
T634	蜂刺によるアナフィラキシーショック	無	5	65.4	2.8						1	4	
T652	タバコ誤飲	無	1	1.0	2.0	1							
T678	熱中症	有	1	97.0	14.0								1
T678	熱中症	無	14	70.7	5.2					2	2	4	6
T68	低体温	有	1	89.0	19.0								1
T68	低体温	無	11	86.3	8.1							1	10
T751	溺水	無	3	16.3	2.0			1	2				
T754	電撃傷	無	1	25.0	2.0					1			
T780	ビーナッツによるアナフィラキシー	無	1	6.0	2.0			1					
T780	牛乳によるアナフィラキシー	無	2	4.0	2.0	1		1					
T780	牛乳によるアナフィラキシーショック	無	1	2.0	3.0	1							
T780	小麦によるアナフィラキシー	無	1	3.0	2.0			1					
T780	食物によるアナフィラキシー	無	9	19.1	2.0	1	1	3	1	1	2		
T780	食物によるアナフィラキシーショック	無	2	59.5	2.0						1	1	
T780	食物依存性運動誘発アナフィラキシー	無	2	19.0	2.0			1		1			
T780	卵によるアナフィラキシー	無	2	1.0	2.0	2							
T781	食物アレルギー	無	1	0.0	8.0	1							
T782	アナフィラキシーショック	無	2	37.5	2.0					1	1		
T793	創傷感染症	有	1	78.0	32.0							1	
T794	外傷性出血性ショック	有	1	85.0	2.0								1
T810	後出血	有	1	85.0	8.0								1
T810	術後出血	有	3	78.7	4.3							1	2
T810	人工肛門部出血	有	1	9.0	11.0			1					
T810	抜歯後出血	無	1	63.0	2.0							1	
T812	医原性気胸	無	1	91.0	11.0								1
T813	手術創離開	有	3	77.0	34.7							2	1
T813	足関節外果手術創離開	無	1	93.0	11.0								1
T814	MRSA術後創部感染	無	1	76.0	4.0							1	
T814	手術創部膿瘍	有	2	69.0	22.0						1		1
T814	手術創部膿瘍	無	1	77.0	26.0							1	
T814	術後感染症	無	1	45.0	21.0						1		
T814	術後創部感染	有	4	71.3	39.5						1	1	2
T814	術後膿瘍	有	3	71.7	4.0							2	1
T814	術後膿瘍	有	1	39.0	12.0					1			
T814	術後腹腔内膿瘍	有	4	68.8	14.3						1	3	
T814	上腕骨術後感染症	無	1	76.0	18.0							1	
T814	上腕骨術後感染症	有	1	73.0	12.0							1	
T818	吻合部狭窄	有	10	74.5	2.2						2	4	4
T820	人工弁不全	有	2	83.0	16.5							1	1
T821	ペースメーカーリード断線	有	1	83.0	5.0								1
T821	ペースメーカー電池消耗	有	27	78.7	7.0						3	9	15
T821	ペースメーカー不全	有	1	85.0	5.0								1
T821	ペースメーカー不全	無	1	79.0	3.0							1	
T821	植込型除細動器電池消耗	有	2	79.0	6.0							1	1
T824	血管透析カテーテルの機械的合併症	無	1	77.0	2.0							1	
T825	植込型カテーテルポート破損	有	1	25.0	3.0					1			
T826	人工弁感染	有	1	59.0	45.0						1		
T826	人工弁感染	無	2	81.0	12.0							1	1
T827	ペースメーカー植え込み後感染症	有	1	79.0	27.0							1	
T827	移植人工血管感染	有	1	78.0	57.0							1	
T827	中心静脈カテーテル感染症	無	1	62.0	20.0							1	
T828	透析シャント閉塞	有	1	63.0	8.0							1	

ICD-10	小分類	手術の有無	総数(人)	平均年齢(才)	在院日数の平均(日)	年齢階層							
						0～2才	3～5才	6～15才	16～20才	21～40才	41～60才	61～79才	80才～
T840	人工股関節脱臼	有	1	79.0	5.0							1	
T857	おとがい部プレートによる感染	有	1	28.0	2.0					1			
T857	歯科インプラント周囲炎	有	1	83.0	2.0								1
T859	歯科インプラント迷入	有	1	53.0	5.0						1		
T861	腎移植急性拒絶反応	無	2	67.0	2.5						1		1
T861	腎移植急性拒絶反応の疑い	無	3	44.0	2.0					1	2		
T861	腎移植拒絶反応	無	1	49.0	3.0						1		
T861	腎移植拒絶反応の疑い	無	1	49.0	2.0						1		
T861	腎移植慢性拒絶反応	無	1	41.0	3.0						1		
T874	下腿切断端感染症	有	1	71.0	15.0							1	
T886	造影剤ショック	無	3	68.3	5.0							3	
T886	薬物性ショック	無	1	56.0	2.0						1		
T887	造影剤アレルギー	無	2	52.5	2.0					1			1
T888	脊椎インプラント破損	有	1	85.0	28.0								1
U071	COVID-19	有	11	73.6	36.6						1	6	4
U071	COVID-19・ウイルス同定	無	93	59.1	10.8	15		2	4	3	6	35	28
U071	COVID-19肺炎	有	1	70.0	5.0							1	
U071	COVID-19肺炎	無	9	90.0	36.0								1
Z520	末梢血幹細胞移植ドナー	有	8	36.9	3.8					6	2		
Z523	骨髄移植ドナー	有	2	45.0	4.0						2		
Z524	腎移植ドナー	有	15	61.6	9.9						7	8	

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケータ

2 外来患者数（前年度対比）

上段： 令和5年度

下段： 令和6年度

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合診療科	237	266	343	261	339	363	304	310	288	217	199	208	3,335
	249	242	218	243	253	272	291	288	221	236	196	222	2,931
心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	99	89	123	113	135	125	167	155	149	158	160	173	1,646
	159	166	164	192	162	171	204	182	171	173	159	189	2,092
地域医療科	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	58
	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	59
血液内科・輸血科	750	735	837	801	827	873	873	863	832	849	808	875	9,923
	849	833	782	890	842	839	928	843	893	879	847	954	10,379
糖尿病・内分泌内科	417	416	425	420	418	415	436	449	454	479	438	477	5,244
	449	536	462	498	457	390	489	431	424	414	354	236	5,140
放射線療法科	299	214	315	445	334	202	237	301	315	197	343	308	3,510
	240	260	323	291	244	299	273	207	273	211	326	235	3,182
感染症科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	29	3	6	2	0	0	0	1	6	4	1	52
腫瘍内科	433	415	443	416	404	388	385	397	367	366	379	343	4,736
	385	400	346	419	347	394	457	411	374	429	377	408	4,747
ペインクリニック科	382	431	507	461	482	428	475	439	436	413	418	412	5,284
	385	445	375	429	367	369	407	352	347	313	278	277	4,344
放射線科	77	68	73	68	57	42	80	67	62	68	70	64	796
	72	69	70	78	78	70	94	74	80	86	77	75	923
神経内科	95	88	107	88	90	101	89	86	95	76	75	100	1,090
	84	90	88	85	88	92	103	86	104	100	57	105	1,082
脳神経外科	184	200	260	218	214	236	244	221	246	220	213	267	2,723
	208	231	247	235	209	244	249	235	249	227	203	266	2,803
眼科	639	590	628	651	641	664	637	625	679	655	575	626	7,610
	668	622	585	667	592	601	697	607	621	550	572	634	7,416
耳鼻咽喉科	796	814	916	745	814	756	828	820	805	832	736	903	9,765
	940	856	904	1,061	842	808	965	910	973	881	760	972	10,872
歯科口腔外科	1,155	1,286	1,356	1,223	1,167	1,129	1,246	1,288	1,239	1,172	1,263	1,281	14,805
	1,322	1,427	1,373	1,406	1,266	1,259	1,432	1,304	1,306	1,166	1,228	1,349	15,838
呼吸器内科	336	358	368	345	350	352	383	332	358	352	334	381	4,249
	365	349	395	358	345	336	376	347	353	336	323	339	4,222
呼吸器外科	284	301	328	312	337	316	329	326	316	306	311	331	3,797
	303	303	314	301	308	312	320	276	276	323	299	319	3,654
循環器内科	445	462	532	457	426	435	496	429	505	460	439	480	5,566
	468	511	506	492	420	476	517	465	494	452	415	425	5,641
心臓血管外科	224	241	229	217	231	199	230	193	221	225	204	255	2,669
	235	224	221	209	214	185	231	200	202	225	188	252	2,586
乳腺・甲状腺外科	467	496	462	499	489	468	467	499	512	489	444	444	5,736
	422	412	425	458	392	400	438	361	370	413	364	407	4,862
消化器内科	555	577	637	586	615	576	603	614	617	561	585	630	7,156
	651	659	697	651	553	526	661	631	708	575	628	648	7,588
消化器外科・一般外科	1,020	1,148	1,173	1,092	1,185	1,127	1,159	1,158	1,151	1,104	1,152	1,146	13,615
	1,216	1,199	1,279	1,283	1,269	1,236	1,278	1,168	1,266	1,148	1,053	1,157	14,552
泌尿器科	451	480	532	483	472	478	569	501	535	494	523	535	6,053
	444	468	459	434	475	459	449	415	466	419	400	467	5,355
腎臓内科・膠原病科	299	332	348	325	346	325	370	352	378	342	381	371	4,169
	369	381	360	370	354	349	369	302	331	308	312	355	4,160
婦人科	634	612	683	623	635	622	694	644	718	637	606	651	7,759
	703	726	641	675	695	696	802	706	712	743	656	663	8,418
生殖医療科	277	311	290	322	324	302	301	272	270	284	268	232	3,453
	208	223	202	242	139	183	235	204	162	173	199	211	2,381
移植外科	209	250	242	231	274	195	242	236	255	263	250	249	2,896
	256	258	196	261	219	223	260	244	250	260	207	250	2,884
救命救急科	622	655	584	754	749	754	670	643	751	796	644	649	8,271
	637	688	627	808	741	664	602	620	812	877	605	598	8,279
集中治療科	0	1	0	1	1	6	1	0	2	3	1	1	17
	2	1	6	2	2	0	3	2	3	0	2	2	25
麻酔科	0	2	0	0	0	3	0	0	1	1	1	2	10
	1	2	4	1	0	0	0	1	2	5	5	1	22
小児科	1,003	1,075	1,161	1,243	1,399	1,089	1,234	1,270	1,312	1,131	1,087	1,287	14,291
	1,267	1,266	1,259	1,435	1,474	1,182	1,362	1,385	1,459	1,304	1,198	1,363	15,954
小児外科	179	183	182	192	186	153	179	165	173	156	140	178	2,066
	186	127	164	186	217	132	148	127	164	133	145	193	1,922
産科	662	720	752	724	822	745	791	765	793	785	795	820	9,174
	881	904	864	1,016	977	939	1,034	899	875	908	867	892	11,056
皮膚科	430	390	473	439	451	406	483	439	470	397	427	415	5,220
	432	417	463	521	433	421	519	469	481	450	396	484	5,486
整形外科	630	631	705	672	697	657	720	749	762	702	714	765	8,404
	731	745	735	803	649	688	774	635	679	682	582	680	8,383
形成外科	228	238	274	310	312	290	312	260	269	252	244	293	3,282
	228	213	209	242	268	195	260	208	239	229	228	246	2,765
緩和ケア内科	35	47	40	40	39	40	53	53	46	42	48	43	526
	51	51	46	57	47	36	48	42	39	52	44	43	556
児童精神科	181	185	184	186	192	170	189	180	203	188	186	196	2,240
	200	207	196	209	210	177	223	214	210	196	179	217	2,438
令和5年度合計	14,738	15,311	16,517	15,968	16,459	15,435	16,481	16,106	16,590	15,677	15,466	16,396	191,144
令和6年度合計	16,271	16,544	16,213	17,519	16,155	15,628	17,503	15,856	16,595	15,887	14,738	16,140	195,049
令和5年度検診等合計	372	411	415	401	466	401	441	396	453	435	442	476	5,109
令和6年度検診等合計	554	557	535	652	626	600	679	592	543	592	541	581	7,052
増減数	1,533	1,233	-304	1,551	-304	193	1,022	-250	5	210	-728	-256	3,905
増減率	10.4%	8.1%	-1.8%	9.7%	-1.8%	1.3%	6.2%	-1.6%	0.0%	1.3%	-4.7%	-1.6%	2.0%
増減数...令和6年度合計－令和5年度合計													
増減率...増減数／令和5年度合計													

3 全科疾病分類別上位頻度表

I 感染症及び寄生虫症

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	A09	59	25.1%
2	その他の敗血症	A41	40	17.0%
3	皮膚及び粘膜病変を特徴とするその他のウイルス感染症、他に分類されないもの	B08	29	12.3%
4	その他の細菌性腸管感染症	A04	19	8.1%
5	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	A08	14	6.0%
6	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	B02	12	5.1%
7	部位不明の細菌感染症	A49	11	4.7%
8	呼吸器結核、細菌学的又は組織学的に確認されたもの	A15	4	1.7%
9	サイトメガロウイルス病	B25	4	1.7%
10	その他の急性ウイルス肝炎	B17	4	1.7%
	その他		39	16.6%
	合計		235	100.0%

II 新生物＜腫瘍＞

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	C34	435	10.6%
2	非濾胞性リンパ腫	C83	293	7.2%
3	食道の悪性新生物＜腫瘍＞	C15	226	5.5%
4	膵の悪性新生物＜腫瘍＞	C25	223	5.4%
5	直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	C20	220	5.4%
6	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	C16	219	5.4%
7	骨髄性白血病	C92	208	5.1%
8	結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	C18	189	4.6%
9	前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	C61	143	3.5%
10	卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞	C56	134	3.3%
	その他		1,802	44.0%
	合計		4,092	100.0%

III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	紫斑病及びその他の出血性病態	D69	37	40.7%
2	その他の無形成性貧血	D61	14	15.4%
3	その他の凝固障害	D68	6	6.6%
4	鉄欠乏性貧血	D50	5	5.5%
5	リンパ細網組織及び細網組織球組織のその他の明示された疾患	D76	5	5.5%
6	サルコイドーシス	D86	5	5.5%
7	白血球のその他の障害	D72	4	4.4%
8	後天性溶血性貧血	D59	3	3.3%
9	無顆粒球症	D70	3	3.3%
10	その他の栄養性貧血	D53	3	3.3%
	その他		6	6.6%
	合計		91	100.0%

IV 内分泌、栄養及び代謝疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	その他の非中毒性甲状腺腫	E04	44	20.2%
2	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	E87	38	17.4%
3	2型＜インスリン非依存性＞糖尿病＜N I DDM＞	E11	24	11.0%
4	副甲状腺＜上皮小体＞機能亢進症及びその他の副甲状腺＜上皮小体＞障害	E21	20	9.2%
5	その他の膵内分泌障害	E16	14	6.4%
6	甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	E05	12	5.5%
7	体液量減少(症)	E86	10	4.6%
8	肥満(症)	E66	9	4.1%
9	1型＜インスリン依存性＞糖尿病＜I DDM＞	E10	6	2.8%
10	下垂体機能低下症及びその他の下垂体障害	E23	6	2.8%
	その他		35	16.1%
	合計		218	100.0%

V 精神及び行動の障害

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	双極性感情障害<躁うつ病>	F31	24	19.8%
2	統合失調症	F20	18	14.9%
3	うつ病エピソード	F32	10	8.3%
4	重度ストレスへの反応及び適応障害	F43	9	7.4%
5	摂食障害	F50	8	6.6%
6	広汎性発達障害	F84	8	6.6%
7	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	F10	6	5.0%
8	脳の損傷及び機能不全並びに身体疾患によるその他の精神障害	F06	4	3.3%
9	せん妄、アルコールその他の精神作用物質によらないもの	F05	4	3.3%
10	多動性障害	F90	3	2.5%
	その他		27	22.3%
	合計		121	100.0%

VI 神経系の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	てんかん	G40	98	44.1%
2	顔面神経障害	G51	14	6.3%
3	一過性脳虚血発作及び関連症候群	G45	13	5.9%
4	脳のその他の障害	G93	9	4.1%
5	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	G12	7	3.2%
6	片頭痛	G43	6	2.7%
7	他に分類される疾患における脳のその他の障害	G94	6	2.7%
8	その他の脊髄疾患	G95	6	2.7%
9	睡眠障害	G47	5	2.3%
10	水頭症	G91	5	2.3%
	その他		53	23.9%
	合計		222	100.0%

VII 眼及び付属器の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	老人性白内障	H25	87	58.4%
2	その他の斜視	H50	32	21.5%
3	眼瞼のその他の障害	H02	12	8.1%
4	網膜血管閉塞症	H34	7	4.7%
5	結膜のその他の障害	H11	2	1.3%
6	麦粒腫及びさん<霰>粒腫	H00	2	1.3%
7	緑内障	H40	2	1.3%
8	麻痺性斜視	H49	1	0.7%
9	眼窩の障害	H05	1	0.7%
10	角膜炎	H16	1	0.7%
	その他		2	1.3%
	合計		149	100.0%

VIII 耳及び乳様突起の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	前庭機能障害	H81	25	32.9%
2	化膿性及び詳細不明の中耳炎	H66	21	27.6%
3	中耳真珠腫	H71	12	15.8%
4	その他の難聴	H91	6	7.9%
5	非化膿性中耳炎	H65	5	6.6%
6	伝音及び感音難聴	H90	3	3.9%
7	乳(様)突(起)炎及び関連病態	H70	2	2.6%
8	外耳炎	H60	1	1.3%
9	その他の外耳障害	H61	1	1.3%
	合計		76	100.0%

IX 循環器系の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	狭心症	I20	362	19.8%
2	脳梗塞	I63	264	14.5%
3	心不全	I50	191	10.5%
4	心停止	I46	119	6.5%
5	非リウマチ性大動脈弁障害	I35	108	5.9%
6	脳内出血	I61	106	5.8%
7	大動脈瘤及び解離	I71	92	5.0%
8	心房細動及び粗動	I48	87	4.8%
9	急性心筋梗塞	I21	67	3.7%
10	慢性虚血性心疾患	I25	52	2.9%
	その他		376	20.6%
	合計		1,824	100.0%

X 呼吸器系の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	細菌性肺炎、他に分類されないもの	J15	160	19.7%
2	固形物及び液状物による肺臓炎	J69	105	12.9%
3	急性気管支炎	J20	92	11.3%
4	その他の間質性肺疾患	J84	43	5.3%
5	ウイルス肺炎、他に分類されないもの	J12	41	5.0%
6	慢性副鼻腔炎	J32	38	4.7%
7	肺炎、病原体不詳	J18	38	4.7%
8	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	J35	37	4.6%
9	喘息発作重積状態	J46	34	4.2%
10	気胸	J93	32	3.9%
	その他		192	23.6%
	合計		812	100.0%

X I 消化器系の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	胆石症	K80	315	21.0%
2	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	K56	122	8.1%
3	胆道のその他の疾患	K83	111	7.4%
4	そけい<単径>ヘルニア	K40	102	6.8%
5	消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	K91	99	6.6%
6	腸の憩室性疾患	K57	96	6.4%
7	急性虫垂炎	K35	59	3.9%
8	腸の血行障害	K55	50	3.3%
9	腸のその他の疾患	K63	45	3.0%
10	急性膵炎	K85	34	2.3%
	その他		466	31.1%
	合計		1,499	100.0%

X II 皮膚及び皮下組織の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	蜂巣炎<蜂窩織炎>	L03	36	29.8%
2	皮膚の萎縮性障害	L90	14	11.6%
3	皮膚膿瘍、せつ<フルンケル>及びよう<カルブンケル>	L02	11	9.1%
4	下肢の潰瘍、他に分類されないもの	L97	11	9.1%
5	褥瘡性潰瘍及び圧迫領域	L89	9	7.4%
6	急性リンパ節炎	L04	7	5.8%
7	アボクリン汗腺の障害	L75	7	5.8%
8	多形紅斑	L51	4	3.3%
9	皮膚及び皮下組織の放射線に関連するその他の障害	L59	3	2.5%
10	皮膚及び皮下組織のその他の障害、他に分類されないもの	L98	3	2.5%
	その他		16	13.2%
	合計		121	100.0%

X III 筋骨格系及び結合組織の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	その他の脊椎障害	M48	131	24.9%
2	膝関節症[膝の関節症]	M17	61	11.6%
3	脊椎症	M47	46	8.7%
4	その他の椎間板障害	M51	45	8.6%
5	股関節症[股関節部の関節症]	M16	35	6.7%
6	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	M30	24	4.6%
7	その他の変形性脊柱障害	M43	21	4.0%
8	その他の炎症性脊椎障害	M46	20	3.8%
9	骨の癒合障害	M84	14	2.7%
10	処置後筋骨格障害、他に分類されないもの	M96	12	2.3%
	その他		117	22.2%
	合計		526	100.0%

X IV 腎尿路生殖器系の疾患

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	慢性腎不全	N18	154	24.4%
2	閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	N13	49	7.8%
3	急性尿細管間質性腎炎	N10	46	7.3%
4	急性腎不全	N17	43	6.8%
5	尿路系のその他の障害	N39	41	6.5%
6	女性性器脱	N81	35	5.5%
7	子宮内膜症	N80	33	5.2%
8	子宮頸(部)の異形成	N87	25	4.0%
9	腎結石及び尿管結石	N20	24	3.8%
10	前立腺肥大(症)	N40	23	3.6%
	その他		159	25.2%
	合計		632	100.0%

X V 妊娠、分娩及び産褥

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	単胎自然分娩	O80	319	30.2%
2	既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	O34	171	16.2%
3	娩出力の異常	O62	113	10.7%
4	胎児ストレス[仮死<ジストレス>]を合併する分娩	O68	79	7.5%
5	切迫早産及び早産	O60	73	6.9%
6	前期破水	O42	36	3.4%
7	子癇前症	O14	36	3.4%
8	分娩後出血	O72	26	2.5%
9	胎位異常及び胎向異常による分娩停止	O64	22	2.1%
10	母体の骨盤異常による分娩停止	O65	20	1.9%
	その他		160	15.2%
	合計		1,055	100.0%

X VI 周産期に発生した病態

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	P59	96	30.0%
2	新生児の呼吸窮<促>迫	P22	73	22.8%
3	妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	P07	66	20.6%
4	新生児の哺乳上の問題	P92	21	6.6%
5	周産期に発生したその他の呼吸器病態	P28	15	4.7%
6	その他の新生児出血	P54	10	3.1%
7	新生児のその他の体温調節機能障害	P81	6	1.9%
8	周産期に特異的なその他の感染症	P39	6	1.9%
9	出生時仮死	P21	6	1.9%
10	新生児吸引症候群	P24	5	1.6%
	その他		16	5.0%
	合計		320	100.0%

XVII 先天奇形, 変形及び染色体異常

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	停留精巣<睾丸>	Q53	11	17.7%
2	のう<嚢>胞性腎疾患	Q61	8	12.9%
3	胆嚢、胆管及び肝の先天奇形	Q44	6	9.7%
4	多系統に及ぶその他の明示された先天奇形症候群	Q87	5	8.1%
5	心(臓)中隔の先天奇形	Q21	4	6.5%
6	顔面及び頸部のその他の先天奇形	Q18	4	6.5%
7	耳のその他の先天奇形	Q17	3	4.8%
8	腎盂の先天性閉塞性欠損及び尿管の先天奇形	Q62	2	3.2%
9	腸のその他の先天奇形	Q43	2	3.2%
10	大型動脈の先天奇形	Q25	2	3.2%
	その他		15	24.2%
	合計		62	100.0%

XVIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	けいれん<痙攣>、他に分類されないもの	R56	16	39.0%
2	傾眠、昏迷及び昏睡	R40	4	9.8%
3	尿閉	R33	4	9.8%
4	失神及び虚脱	R55	3	7.3%
5	腹水	R18	3	7.3%
6	気道からの出血	R04	3	7.3%
7	ショック、他に分類されないもの	R57	2	4.9%
8	悪心及び嘔吐	R11	2	4.9%
9	呼吸の異常	R06	2	4.9%
10	不明熱	R50	1	2.4%
11	無尿及び乏尿<尿量減少>	R34	1	2.4%
	合計		41	100.0%

XIX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	大腿骨骨折	S72	175	17.7%
2	頭蓋内損傷	S06	97	9.8%
3	下腿の骨折、足首を含む	S82	72	7.3%
4	肩及び上腕の骨折	S42	67	6.8%
5	腰椎及び骨盤の骨折	S32	65	6.6%
6	心臓及び血管のプロステシス、挿入物及び移植片の合併症	T82	43	4.3%
7	処置の合併症、他に分類されないもの	T81	40	4.0%
8	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	S22	39	3.9%
9	前腕の骨折	S52	31	3.1%
10	頸部の神経及び脊髄の損傷	S14	25	2.5%
	その他		335	33.9%
	合計		989	100.0%

XXI 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	臓器及び組織の提供者<ドナー>	Z52	25	100.0%
	合計		25	100.0%

XXII その他

順位	疾病分類名称	ICDコード	件数	%
1	新型コロナウイルス感染症	U07	115	100.0%
	合計		115	100.0%

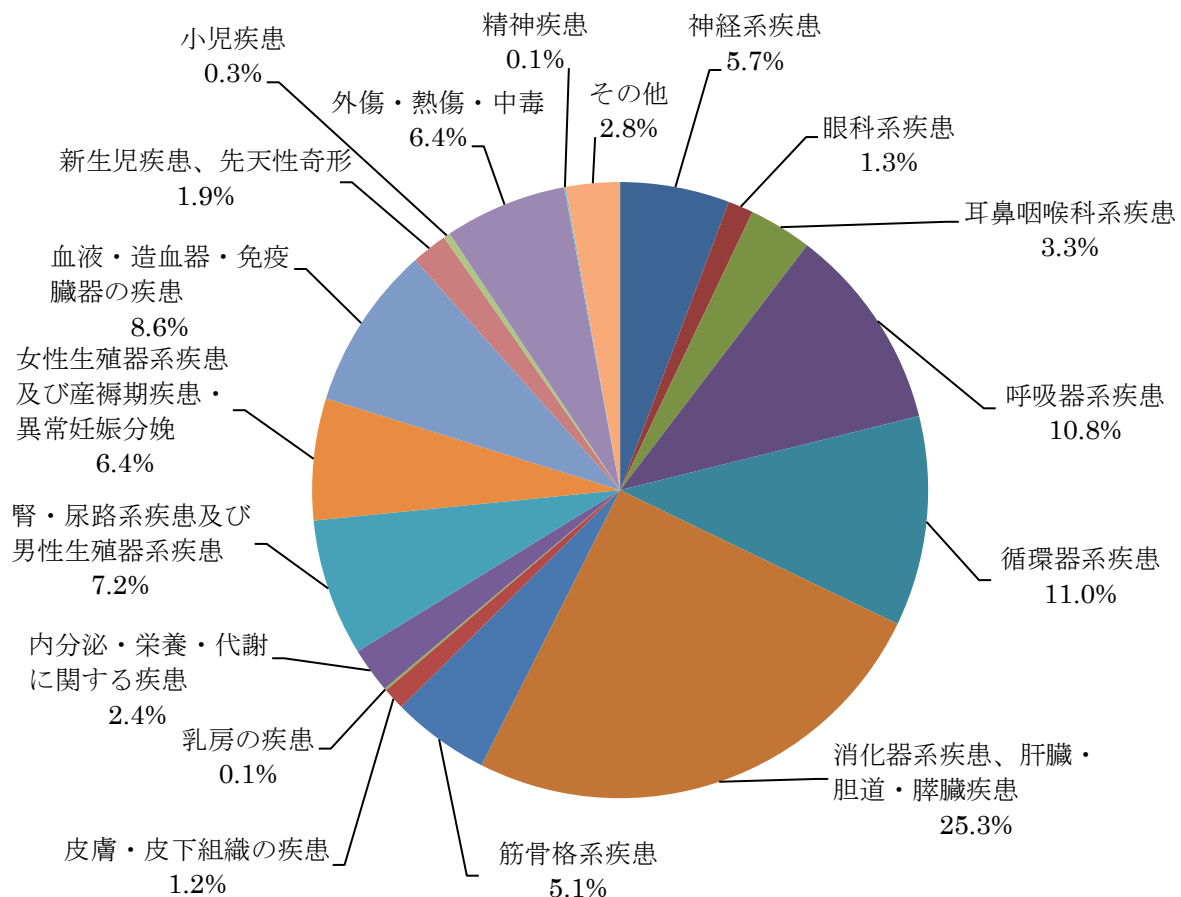
4 DPC統計

(1) MDC別退院患者数

令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者
(自費を除く)

MDC 番号	MDC 名称	件数
MDC01	神経系疾患	658
MDC02	眼科系疾患	152
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	379
MDC04	呼吸器系疾患	1,232
MDC05	循環器系疾患	1,263
MDC06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	2,895
MDC07	筋骨格系疾患	590
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	134
MDC09	乳房の疾患	13
MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	272
MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	824
MDC12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	732
MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	986
MDC14	新生児疾患、先天性奇形	217
MDC15	小児疾患	40
MDC16	外傷・熱傷・中毒	737
MDC17	精神疾患	9
MDC18	その他	324
合 計		11,457

MDC別退院患者割合



(2) 在院期間別退院患者数

令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者
(自費を除く)

	在院期間									合計	平均在院 日数 (日)
	1～10日	11～20日	21～30日	31～40日	41～50日	51～60日	61～ 90日	91～ 180日	181日～		
MDC01 神経系疾患	264	232	87	37	17	5	14	2		658	16.1
MDC02 眼科系疾患	145	5	1	1						152	5.4
MDC03 耳鼻咽喉科系疾患	299	39	11	1	4	5	20			379	11.9
MDC04 呼吸器系疾患	885	224	66	23	22	3	6	3		1,232	9.9
MDC05 循環器系疾患	892	217	80	31	18	7	14	4		1,263	10.1
MDC06 消化器系疾患、肝臓・胆 道・膵臓疾患	1,924	608	211	61	35	21	22	12	1	2,895	11.2
MDC07 筋骨格系疾患	247	264	47	11	9	7	3	2		590	13.5
MDC08 皮膚・皮下組織の疾患	83	30	9	4	5	1	1	1		134	13.0
MDC09 乳房の疾患	9	3		1						13	10.7
MDC10 内分泌・栄養・代謝に関 する疾患	213	27	22	4	1	2	3			272	9.0
MDC11 腎・尿路系疾患及び男性 生殖器系疾患	602	154	37	11	5	2	7	6		824	9.8
MDC12 女性生殖器系疾患及び産 褥期疾患・異常妊娠分娩	646	51	16	4	8	4	3			732	7.4
MDC13 血液・造血器・免疫臓器 の疾患	393	257	186	81	28	21	10	10		986	18.4
MDC14 新生児疾患、先天性奇形	182	18	9	1		1	3	2	1	217	9.6
MDC15 小児疾患	28	12								40	7.7
MDC16 外傷・熱傷・中毒	383	220	63	45	13	7	4	2		737	13.1
MDC17 精神疾患	8		1							9	5.6
MDC18 その他	190	69	33	15	6	1	7	3		324	13.8
合 計	7,393	2,430	879	331	171	87	117	47	2	11,457	10.9

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

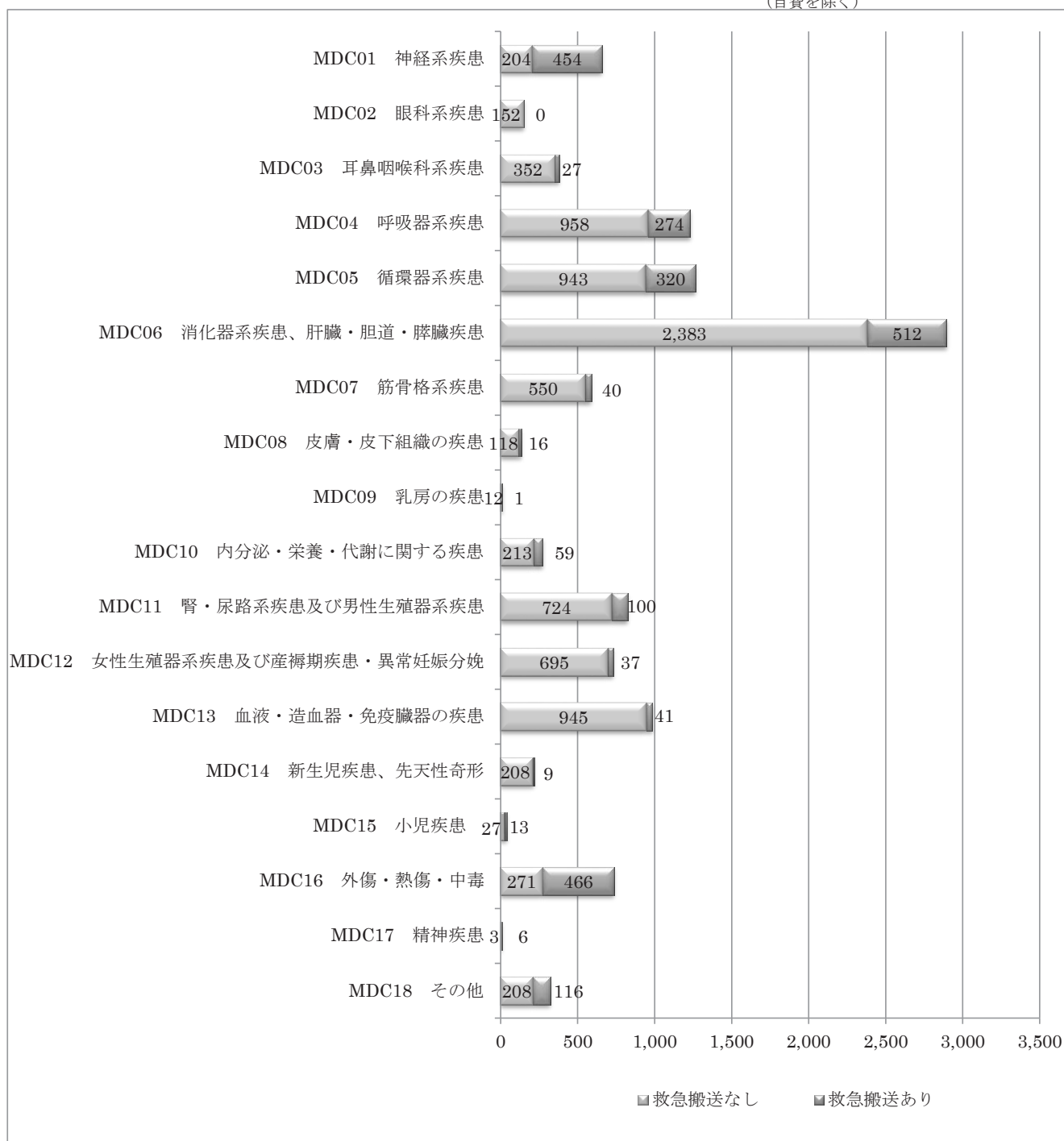
クリニカルインディケーター

(3) MDC別年齢別・性別退院患者数

令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者
(自費を除く)

	性別	年齢階層											合計
		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～109	
MDC01 神経系疾患	男	29	14	6	6	21	28	52	86	68	16		326
	女	27	12	2	7	19	30	31	79	81	40	4	332
MDC02 眼科系疾患	男	17	3		2	4	3	11	31	16	4		91
	女	10	4	1			3	10	18	10	5		61
MDC03 耳鼻咽喉科系疾患	男	39	6	7	13	25	21	54	58	25	1		249
	女	19	4	5	11	19	22	15	20	10	5		130
MDC04 呼吸器系疾患	男	138	19	9	6	16	52	109	281	132	22		784
	女	102	17	6	4	11	28	47	118	88	26	1	448
MDC05 循環器系疾患	男		1	1	1	22	101	155	298	206	34		819
	女		4		1	9	15	29	158	164	62	2	444
MDC06 消化器系疾患、 肝臓・胆道・膵臓疾患	男	48	27	16	28	63	186	385	635	314	49		1,751
	女	53	18	17	28	51	105	173	330	244	120	5	1,144
MDC07 筋骨格系疾患	男	18	12	3	10	16	36	47	89	54	1		286
	女	5	5	4	3	13	37	58	86	81	12		304
MDC08 皮膚・皮下組織の疾患	男	13	3	4	2	6	4	12	19	6	3		72
	女	5	7	2		4	8	10	14	9	3		62
MDC09 乳房の疾患	男								1				1
	女				1	1	2	2	4	2			12
MDC10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	男	14	3	1	1	3	18	18	34	21	3		116
	女	6	8	1	9	17	31	18	27	31	8		156
MDC11 腎・尿路系疾患及び 男性生殖器系疾患	男	28	15	1	2	13	48	97	233	114	10		561
	女	13	4	12	5	19	13	60	77	45	15		263
MDC12 女性生殖器系疾患 及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	男												0
	女	1	12	83	172	158	122	86	75	21	2		732
MDC13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	男	6	23	5	4	18	67	118	199	96	9		545
	女	26	3	9	6	22	21	80	177	88	9		441
MDC14 新生児疾患、先天性奇形	男	113	3			2		2	1	2			123
	女	73	2	1		4	3	9	1	1			94
MDC15 小児疾患	男	25											25
	女	13	1					1					15
MDC16 外傷・熱傷・中毒	男	29	23	15	14	21	32	46	76	68	23	1	348
	女	19	19	16	8	11	32	40	60	109	74	1	389
MDC17 精神疾患	男		2	1			3				1		7
	女		1	1									2
MDC18 その他	男	34	7	1	6	8	14	28	59	32	7		196
	女	25	3	4	5	12	6	12	25	25	11		128
合 計		948	285	234	355	608	1,091	1,815	3,369	2,163	575	14	11,457

(4) MDC別退院患者・救急搬送数

令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者
(自費を除く)

※ 退院患者総数 11,457
救急搬送総数 2,491

(5) 科別診断群分類 (DPC) 上位頻度表

対象：令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者

総合診療科 総件数 368件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	180030xxxxxx0x	その他の感染症（真菌を除く。） 定義副傷病なし	44
2	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	41
3	0400802499x0xx	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上） 手術なし 手術・処置等2 なし	26
4	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	24
5	100393xx99xxxx	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 手術なし	15
6	180030xxxxxx1x	その他の感染症（真菌を除く。） 定義副傷病あり	10
7	110290xx99x0xx	急性腎不全 手術なし 手術・処置等2 なし	7
8	040081xx97x0xx	誤嚥性肺炎 手術あり 手術・処置等2 なし	7
9	040150xx99x0xx	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術なし 手術・処置等2 なし	6
10	180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等2 なし	6

精神科 総件数 24件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	161070xxxxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	10
2	161000x299x0xx	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷（Burn Index10以上） 手術なし 手術・処置等2 なし	1
3	160870xx97x00x	頸椎頸髄損傷 その他の手術あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	1
4	160835xx97xxxx	下腿足関節周辺の骨折 その他の手術あり	1
5	070520xx99xxxx	リンパ節、リンパ管の疾患 手術なし	1
6	160690xx01xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。） 脊椎、骨盤脱臼観血的手術等	1
7	161070xxxxxx3xx	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等2 3あり	1
8	160660xxxx000x	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	1
9	160610xx99xxxx	四肢筋腱損傷 手術なし	1
10	040081xx99x1xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 あり	1

血液内科・輸血科 総件数 1057件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	130030xx97x50x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等2 5あり 定義副傷病なし	77
2	130010xx99x9xx	急性白血病 手術なし 手術・処置等2 9あり	65
3	130030xx99xbxx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 Bあり	58
4	130010xx97x9xx	急性白血病 手術あり 手術・処置等2 9あり	40
5	130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2 4あり	36
6	130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 5あり	36
7	130040xx99x5xx	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物 手術なし 手術・処置等2 5あり	32
8	130010xx97x2xx	急性白血病 手術あり 手術・処置等2 2あり	28
9	130030xx99x7xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 7あり	27
10	130010xx99xcxx	急性白血病 手術なし 手術・処置等2 Cあり	25

糖尿病・内分泌内科 総件数 34件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	10007xxxxxx1xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） 手術・処置等2 1あり	9
2	10007xxxxxx0xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） 手術・処置等2 なし	4
3	100180xx99000x	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	3
4	100250xx99x20x	下垂体機能低下症 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病なし	3
5	100140xx99x2xx	甲状腺機能亢進症 手術なし 手術・処置等2 2あり	2
6	100202xxxxxx0x	その他の副腎皮質機能低下症 定義副傷病なし	2
7	100250xx99x21x	下垂体機能低下症 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病あり	2
8	120200xx99x1xx	妊娠中の糖尿病 手術なし 手術・処置等2 あり	2
9	100040xxxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏迷 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	2
10	10008xxxxxx1xx	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） 手術・処置等2 1あり	1

腫瘍内科

総件数 1件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	180040xx99x0xx	手術・処置等の合併症 手術なし 手術・処置等2 なし	1

ペインクリニック科

総件数 21件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	010290xxxxxxxx	自律神経系の障害	4
2	020210xx97x0xx	網膜血管閉塞症 その他の手術あり 手術・処置等2 なし	3
3	010111xxxxx0xx	遺伝性ニューロパチー 手術・処置等2 なし	3
4	070350xx97xxxx	椎間板変性、ヘルニア その他の手術あり	2
5	070430xx97xxxx	神経栄養症、骨成長障害、骨障害（その他） その他の手術あり	2
6	080020xxxxxxxx	帯状疱疹	1
7	010310xx97x0xx	脳の障害（その他） 手術あり 手術・処置等2 なし	1
8	020210xx99x0xx	網膜血管閉塞症 手術なし 手術・処置等2 なし	1
9	050170xx97000x	閉塞性動脈疾患 その他の手術あり 手術・処置等1 なし、1あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	1
10	070341xx020xxx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 頸部 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定等 手術・処置等1 なし	1

放射線科

総件数 4件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1あり 手術・処置等2 なし	2
2	070030xx9900xx	脊椎・脊髄腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	1
3	040010xx99x0xx	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 なし	1

脳神経外科

総件数 617件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	010060xx99x40x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病なし	78
2	010040xx099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	41
3	010060xx99x50x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 5あり 定義副傷病なし	30
4	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	29
5	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	29
6	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	28
7	010040xx199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10以上） 手術なし 手術・処置等2 なし	26
8	010060xx02x40x	脳梗塞 経皮的脳血管形成術等 手術・処置等2 4あり 定義副傷病なし	19
9	010060xx99x20x	脳梗塞 手術なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病なし	17
10	010230xx99x30x	てんかん 手術なし 手術・処置等2 3あり 定義副傷病なし	17

眼科

総件数 142件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	61
2	020150xx97xxxx	斜視（外傷性・癒着性を除く。） 手術あり	32
3	020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 両眼	22
4	020320xx97xxxx	眼瞼、涙器、眼窩の疾患 手術あり	9
5	020110xx99xxxx	白内障、水晶体の疾患 手術なし	4
6	020210xx99x1xx	網膜血管閉塞症 手術なし 手術・処置等2 あり	3
7	020220xx97xxx1	緑内障 その他の手術あり 両眼	2
8	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2 なし	2
9	020250xx97xxxx	結膜の障害 その他の手術あり	2
10	020280xx99xxxx	角膜の障害 手術なし	1

DPC 統計

耳鼻咽喉科

総件数 353件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	030230xxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	41
2	030350xxxxxxx	慢性副鼻腔炎	36
3	030400xx99xxx	前庭機能障害 手術なし	22
4	030150xx97xxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 手術あり	22
5	03001xxx0200xx	頭頸部悪性腫瘍 頭部悪性腫瘍手術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	18
6	030440xx01xxx	慢性化膿性中耳炎・中耳真珠腫 鼓室形成手術等	16
7	03001xxx97x3xx	頭頸部悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 3あり	16
8	03001xxx01xxx	頭頸部悪性腫瘍 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）等	13
9	030390xx99xxx	顔面神経障害 手術なし	11
10	030240xx99xxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	10

呼吸器内科

総件数 354件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	66
2	040040xx99041x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病あり	30
3	040040xx990axx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 Aあり	22
4	040110xxxx00xx	間質性肺炎 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	16
5	040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病なし	15
6	040110xxxx10xx	間質性肺炎 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	13
7	040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	12
8	040040xx97xaxx	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 Aあり	12
9	040040xx9903xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 3あり	8
10	040040xx97x4xx	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 4あり	8

呼吸器外科

総件数 342件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	040040xx02x0xx	肺の悪性腫瘍 肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの等 手術・処置等 2 なし	125
2	040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	27
3	040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	19
4	040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	14
5	040040xx990axx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 Aあり	13
6	040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	10
7	040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	10
8	040150xx99x0xx	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術なし 手術・処置等 2 なし	9
9	040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病なし	6
10	040150xx97x1xx	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術あり 手術・処置等 2 あり	6

循環器内科

総件数 985件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	050050xx9910xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 1あり 手術・処置等 2 なし	177
2	050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等 1 なし、1、2あり 手術・処置等 2 なし	172
3	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等 1 なし、1、3あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	94
4	050070xx03x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等 2 なし	76
5	050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	51
6	050080xx99100x	弁膜症（連合弁膜症を含む。） 手術なし 手術・処置等 1 1あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	41
7	050050xx9910x0	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 1あり 手術・処置等 2 なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	40
8	050030xx03000x	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等 1 なし、1あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	36
9	050130xx9910xx	心不全 手術なし 手術・処置等 1 1あり 手術・処置等 2 なし	36
10	050080xx02010x	弁膜症（連合弁膜症を含む。） 経カテーテル弁置換術等 手術・処置等 1 なし、1あり 手術・処置等 2 1あり 定義副傷病なし	32

心臓血管外科

総件数 296件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	050080xx0101xx	弁膜症（連合弁膜症を含む。） ロス手術（自己肺動脈弁組織による大動脈基部置換術）等 手術・処置等1なし 手術・処置等2 1あり	32
2	050161xx01x1xx	大動脈解離 大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。） 上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術等 手術・処置等2 1あり	19
3	050163xx03x1xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 ステントグラフト内挿術 手術・処置等2 1あり	18
4	050170xx02010x	閉塞性動脈疾患 動脈形成術、吻合術 指（手、足）の動脈等 手術・処置等1なし、1あり 手術・処置等2 1あり 定義副傷病なし	17
5	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等1なし、1あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	16
6	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	12
7	050163xx02x1xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。） 腹部大動脈（分枝血管の再建を伴うもの）等 手術・処置等2 1あり	9
8	050163xx9900xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	8
9	050163xx01x1xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。） 上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術等 手術・処置等2 1あり	7
10	180040xx97x0xx	手術・処置等の合併症 手術あり 手術・処置等2 なし	7

乳腺・甲状腺外科

総件数 124件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	100130xx97x0xx	甲状腺の良性結節 手術あり 手術・処置等2 なし	45
2	100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）等 手術・処置等1なし	24
3	100220xx01xxxx	原発性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺腫瘍 副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術 副甲状腺（上皮小体）摘出術等	17
4	100140xx97xxxx	甲状腺機能亢進症 手術あり	8
5	090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳房悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等 手術・処置等1なし	5
6	03001xxx0200xx	頭頸部悪性腫瘍 頭部悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	5
7	100230xx01xxxx	続発性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	3
8	100150xxxxxxx	慢性甲状腺炎	2
9	070520xx97xxxx	リンパ節、リンパ管の疾患 手術あり	2
10	090010xx99x0xx	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 なし	2

消化器内科

総件数 1087件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	235
2	060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	76
3	06007xxx97x0xx	脾臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2 なし	62
4	060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。） 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	43
5	06007xxx9900xx	脾臓、脾臓の腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	37
6	060102xx02xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 小腸結腸内視鏡的止血術等	32
7	060102xx99xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	28
8	060190xx99x0xx	虚血性腸炎 手術なし 手術・処置等2 なし	28
9	060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの） その他の手術あり 手術・処置等2 なし	26
10	060060xx9710xx	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等1あり 手術・処置等2 なし	25

消化器外科・一般外科

総件数 1836件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	060035xx0100xx	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	87
2	060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	71
3	060335xx0200xx	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	68
4	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	66
5	06007xxx97x0xx	脾臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2 なし	59
6	060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	56
7	06007xxx010xxx	脾臓、脾臓の腫瘍 脾頭部腫瘍切除術等 手術・処置等1なし	43
8	060040xx9700xx	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	43
9	060570xx97x0xx	その他の消化器等の障害 手術あり 手術・処置等2 なし	36
10	060040xx0300xx	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 直腸切除・切断術 切除術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	35

DPC 統計

泌尿器科

総件数 466件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1あり	96
2	110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 なし	58
3	110420xx02xxxx	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等	40
4	110080xx01xxxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等	35
5	110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	23
6	11001xxx01x0xx	腎腫瘍 腎（尿管）悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	16
7	110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 2あり 定義副傷病なし	16
8	110060xx01x0xx	腎盂・尿管の悪性腫瘍 腎（尿管）悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	10
9	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	9
10	11022xxx01xxxx	男性生殖器疾患 精索捻転手術等	9

腎臓内科・膠原病科

総件数 112件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等 1なし 手術・処置等 2 なし	21
2	110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	21
3	110280xx9901xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等 1なし 手術・処置等 2 1あり	15
4	110280xx991xxx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等 1あり	12
5	110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等 2 なし	5
6	110280xx97x01x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病あり	4
7	110275xxxxxxxx	急性腎炎症候群	3
8	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	3
9	110260xx99x0xx	ネフローゼ症候群 手術なし 手術・処置等 2 なし	3
10	110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等 2 1あり	3

婦人科

総件数 592件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	12002xxx02xxxx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部（腔部）切除術等	50
2	120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	50
3	120010xx99x30x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 3あり 定義副傷病なし	40
4	120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	38
5	12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	36
6	120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	33
7	120100xx01xxxx	子宮内膜症 子宮全摘術等	29
8	12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病なし	23
9	120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 5あり 定義副傷病なし	23
10	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	21

生殖医療科

総件数 6件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	120300xxxxxxxx	人工授精に関する合併症	3
2	120180xx97xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 その他の手術あり	1
3	120140xxxxxxxx	流産	1
4	180040xx97x0xx	手術・処置等の合併症 手術あり 手術・処置等 2 なし	1

児童精神科

総件数 1件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	160600xxxxxxxx	四肢血管損傷	1

移植外科

総件数 126件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	20
2	110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	16
3	110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓除去術等 手術・処置等2 なし	16
4	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	11
5	180041xxxxxxxx	移植臓器及び組織の不全及び拒絶反応	8
6	180030xxxxxx1x	その他の感染症（真菌を除く。） 定義副傷病あり	5
7	080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1 なし	5
8	11013xxx04xxxx	下部尿路疾患 膀胱尿管逆流症手術（治療用注入材によるもの）等	4
9	110290xx97x1xx	急性腎不全 その他の手術あり 手術・処置等2 1あり	3
10	110290xx99x0xx	急性腎不全 手術なし 手術・処置等2 なし	3

救命救急科

総件数 208件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	161070xxxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	37
2	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	11
3	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	9
4	161060xx99x0xx	詳細不明の損傷等 手術なし 手術・処置等2 なし	9
5	161020xxxxx00x	体温異常 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	9
6	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	8
7	0400802499x0xx	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上） 手術なし 手術・処置等2 なし	6
8	180030xxxxxx0x	その他の感染症（真菌を除く。） 定義副傷病なし	5
9	100380xxxxxxxx	体液量減少症	5
10	160400xx99x0xx	胸郭・横隔膜損傷 手術なし 手術・処置等2 なし	5

小児科

総件数 910件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（2500g以上） 手術なし 手術・処置等2 なし	117
2	040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	102
3	180030xxxxxx0x	その他の感染症（真菌を除く。） 定義副傷病なし	60
4	040070xxxxx0xx	インフルエンザ、ウイルス性肺炎 手術・処置等2 なし	59
5	0400801199x0xx	肺炎等（1歳以上15歳未満） 手術なし 手術・処置等2 なし	43
6	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	42
7	060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2 なし	32
8	040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	31
9	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	23
10	140010x299x0xx	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害（1500g以上2500g未満） 手術なし 手術・処置等2 なし	21

小児外科

総件数 96件

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	060160x101xxxx	鼠径ヘルニア（15歳未満） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	32
2	11022xxx01xxxx	男性生殖器疾患 精索捻転手術等	17
3	060170xx02xx0x	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア ヘルニア手術 腹壁瘢痕ヘルニア等 定義副傷病なし	13
4	140590xx97xxxx	停留精巣 手術あり	11
5	060160x199xxxx	鼠径ヘルニア（15歳未満） 手術なし	3
6	060150xx99xxxx	虫垂炎 手術なし	2
7	160300xx99x0xx	喉頭・頸部気管損傷 手術なし 手術・処置等2 なし	1
8	060150xx02xxxx	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴うもの等	1
9	060170xx99xxxx	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア 手術なし	1
10	060210xx9700xx	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術あり 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	1

DPC 統計

産科

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	120170x199xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数34週未満） 手術なし	34
2	120260x001xxxx	分娩の異常（分娩時出血量2000ml未満） 子宮破裂手術等	18
3	120160xx01xxxx	妊娠高血圧症候群関連疾患 子宮破裂手術等	16
4	120180xx99xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 手術なし	15
5	120180xx02xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 骨盤位娩出術等	12
6	120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	12
7	120170x101xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数34週未満） 子宮破裂手術等	12
8	120150xx99xxxx	妊娠早期の出血 手術なし	10
9	120170x099xxxx	早産、切迫早産（妊娠週数34週以上） 手術なし	8
10	120140xxxxxxxx	流産	5

皮膚科

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1なし	9
2	080020xxxxxxxx	帯状疱疹	3
3	080110xxxxx0xx	水疱症 手術・処置等2 なし	2
4	080190xxxxxxxx	脱毛症	1
5	080090xxxxxxxx	紅斑症	1
6	180060xx97xxx	その他の新生物 手術あり	1
7	080250xx9700xx	褥瘡潰瘍 手術あり 手術・処置等1なし 手術・処置等2 なし	1
8	080100xxxx0x0x	薬疹、中毒疹 手術・処置等1なし 定義副傷病なし	1
9	070560xxxxx00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	1
10	070395xx99xxx	壊死性筋膜炎 手術なし	1

整形外科

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	160800xx02xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	119
2	070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	56
3	070341xx020xxx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 頸部 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定等 手術・処置等1なし	46
4	070343xx01x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定等 手術・処置等2 なし	45
5	070343xx97x0xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等2 なし	42
6	07040xxx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	40
7	070343xx99x2xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 手術・処置等2 2あり	32
8	160690xx01xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰部損傷を含む。） 脊椎、骨盤脱臼観血的手術等	23
9	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	22
10	160720xx01xxxx	肩関節周辺の骨折・脱臼 骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿等	22

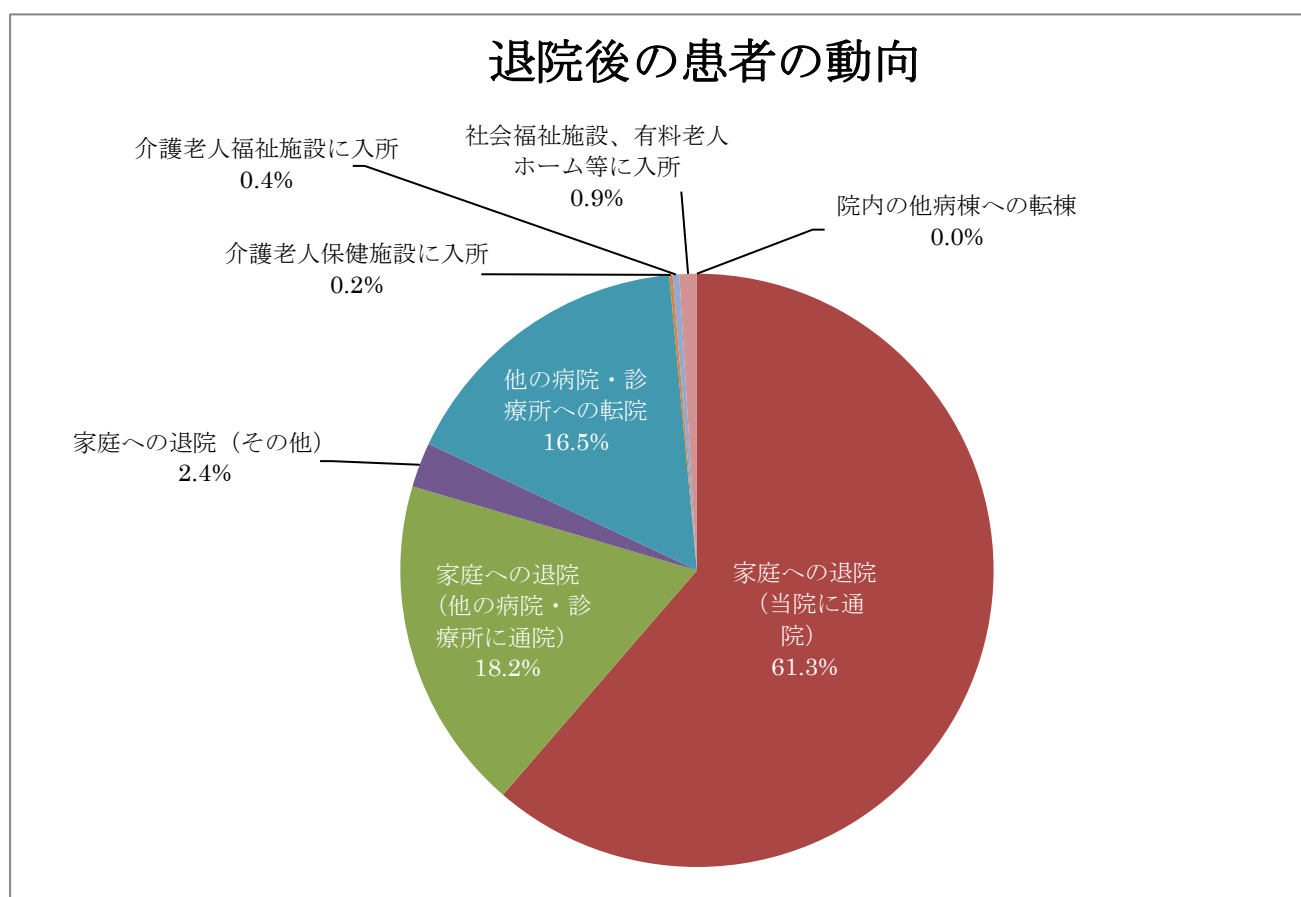
形成外科

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	件数
1	080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等2 なし	18
2	080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等1なし	10
3	100100xx97x1xx	糖尿病足病変 手術あり 手術・処置等2 あり	9
4	070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 手術あり 手術・処置等1なし	9
5	080220xx97xxx	エクリン汗腺の障害、アポクリン汗腺の障害 手術あり	7
6	160200xx030xxx	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。） 鼻骨骨折整復固定術等 手術・処置等1なし	5
7	160200xx020xxx	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。） 眼窩骨折観血的手術（眼窩ブローアウト骨折手術を含む。）等 手術・処置等1なし	5
8	070570xx012xxx	癬痕拘縮 癬痕拘縮形成手術 手術・処置等1 2あり	5
9	080010xxxx1xxx	膿皮症 手術・処置等1あり	4
10	070570xx010xxx	癬痕拘縮 癬痕拘縮形成手術 手術・処置等1なし	4

(6) 退院後の患者の動向

対象：令和6年4月1日～令和7年3月31日退院患者

退院先	件数
院内の他病棟への転棟	0
家庭への退院（当院に通院）	6,913
家庭への退院（他の病院・診療所に通院）	2,054
家庭への退院（その他）	275
他の病院・診療所への転院	1,859
介護老人保健施設に入所	20
介護老人福祉施設に入所	41
社会福祉施設、有料老人ホーム等に入所	107
終了（死亡等）	188
合計	11,457



構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

5 悪性新生物統計

(1) 悪性新生物 主な手術・処置件数

令和6年度

コード	部位	主な手術・処置（1入院に対して主な手術・処置を1つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C00-C14 口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞				
C01 ～C06	舌、舌根＜基底＞部、口腔、 歯肉	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	2	12.0
		ペムプロリズマブ	2	7.5
		化学療法ありかつ放射線療法あり	1	82.0
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用挿込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	1	76.5
		口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術	1	43.0
		舌悪性腫瘍手術 亜全摘	1	42.0
		化学療法なしかつ放射線療法あり	1	22.0
		口腔底悪性腫瘍手術	1	14.0
		セツキシマブ	1	10.0
		リンパ節群郭清術 顎下部又は舌下部（浅在性）	1	9.0
C07～C08	耳下腺、唾液腺	中咽頭腫瘍摘出術 経口腔によるもの	1	9.0
		耳下腺悪性腫瘍手術 全摘	2	14.5
C09 ～C13	咽頭、梨状陥凹＜洞＞、扁桃	顎下腺悪性腫瘍手術	1	7.0
		鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	15	10.7
		胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	11	68.0
		ペムプロリズマブ	9	8.7
		セツキシマブ	5	3.0
		咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	5	11.4
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用挿込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	4	33.3
		化学療法ありかつ放射線療法なし	3	3.0
		化学療法ありかつ放射線療法あり	1	87.0
		喉頭、下咽頭悪性腫瘍手術（頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む。）	1	81.0
		口蓋扁桃手術 摘出	1	13.0
		化学療法なしかつ放射線療法あり	1	7.0
		頸部郭清術 片側	1	6.0
		喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの	1	5.0
		喉頭形成手術 人工形成材料挿置術、軟骨片挿置術	1	4.0
C15-C26 消化器の悪性新生物＜腫瘍＞				
C15	食道	化学療法ありかつ放射線療法なし	44	9.8
		内視鏡的食道粘膜切除術 早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	30	6.3
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用挿込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	27	14.2
		化学療法ありかつ放射線療法あり	25	12.2
		胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術 頸部、胸部、腹部の操作によるもの	21	33.9
		ペムプロリズマブ	14	7.8
		食道ステント留置術	6	11.7
		胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	4	57.0
		食道空置バイパス作成術	4	55.3
		化学療法なしかつ放射線療法あり	4	11.0
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	3	44.7
		鼻腔栄養	3	6.0
		縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	2	83.5
		食道悪性腫瘍手術（単に切除のみのもの） 頸部食道の場合	2	31.5
		腹腔鏡下試験開腹術	2	5.5
		鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	1	84.0
		食道悪性腫瘍手術（単に切除のみのもの） 胸部食道の場合	1	74.0
		食道切除後2次の再建術 消化管利用によるもの	1	61.0
		食道腫瘍摘出術 腹腔鏡下、縦隔鏡下又は胸腔鏡下によるもの	1	7.0
C16 ～C17	胃・小腸	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	39	6.2
		内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍粘膜切除術	36	6.1
		腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術	25	12.3
		腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	20	11.9
		胃切除術 悪性腫瘍手術	16	23.0
		胃全摘術 悪性腫瘍手術	10	17.0
		腹腔鏡下胃腸吻合術	8	25.8
		腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	5	12.8
		化学療法ありかつ放射線療法なし	5	5.6
		腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術	4	19.0
		胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む。）	3	26.0
		急性汎発性腹膜炎手術	2	30.5
		中心静脈注射	2	19.0

コード	部位	主な手術・処置（１入院に対して主な手術・処置を１つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C16 ～C17	胃・小腸	内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	2	17.5
		腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術	2	17.0
		小腸切除術 複雑なもの	2	13.5
		腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	2	13.5
		試験開腹術	2	5.5
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	2	3.5
		腹腔鏡下試験開腹術	2	3.5
		腹腔鏡下小腸切除術 複雑なもの	1	19.0
		胃局所切除術	1	17.0
		直腸切除・切断術 切除術	1	17.0
		小腸切除術 その他のもの	1	15.0
		噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術	1	13.0
		経皮経食道胃管挿入術（PTEG）	1	12.0
		胃、十二指腸憩室切除術・ポリープ切除術（開腹によるもの）	1	10.0
		小腸腫瘍、小腸憩室摘出術（メッケル憩室炎手術を含む。）	1	8.0
		腹腔鏡下胃局所切除術 その他のもの	1	5.0
		内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍ポリープ切除術	1	3.0
C18 ～C21	結腸、直腸、肛門	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	149	15.6
		腹腔鏡下直腸切除・切断術 切除術	51	24.1
		腹腔鏡下直腸切除・切断術 低位前方切除術	50	16.0
		人工肛門閉鎖術 腸管切除を伴うもの その他のもの	49	11.0
		腹腔鏡下直腸切除・切断術 超低位前方切除術	41	24.5
		腹腔鏡下人工肛門造設術	18	31.4
		腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	11	41.9
		早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	8	3.1
		結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術	7	34.4
		化学療法ありかつ放射線療法あり	5	24.8
		人工肛門閉鎖術 腸管切除を伴わないもの	5	10.2
		中心静脈注射	3	17.7
		リンパ節群郭清術 後腹膜	2	10.5
		骨盤内臓全摘術	2	73.5
		小腸・結腸狭窄部拡張術（内視鏡によるもの）	1	28.0
		腸吻合術	1	17.0
		直腸切除・切断術 切除術	1	39.0
		腹腔鏡下腸管癒着剥離術	1	30.0
C22	肝及び肝内胆管	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） 選択的動脈化学塞栓術	28	3.4
		肝切除術 部分切除 単回の切除によるもの	9	14.8
		肝切除術 １区域切除（外側区域切除を除く。）	3	14.7
		肝切除術 ２区域切除	3	12.0
		肝切除術 亜区域切除	3	11.3
		肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として） ２センチメートルを超えるもの その他のもの	3	7.0
		血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） 止血術	3	3.7
		肝切除術 外側区域切除	2	10.5
		肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として） ２センチメートルを超えるもの 腹腔鏡によるもの	2	7.5
		肝門部胆管悪性腫瘍手術 血行再建なし	1	12.0
		腹腔鏡下肝切除術 部分切除 単回の切除によるもの	1	7.0
		肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として） ２センチメートル以内のもの その他のもの	1	4.0
C23 ～C24	胆のう<嚢>、胆道	内視鏡的胆道ステント留置術	48	6.5
		膵頭部腫瘍切除術 リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術の場合又は十二指腸温存膵頭切除術の場合	8	22.3
		肝門部胆管悪性腫瘍手術 血行再建なし	6	25.3
		経皮的胆管ドレナージ術	5	13.0
		胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む。）	3	14.0
		胆管悪性腫瘍手術 肝外胆道切除術によるもの	3	23.7
		胆嚢悪性腫瘍手術 肝切除（亜区域切除以上）を伴うもの	3	21.3
		胆嚢摘出術	2	8.0
		総胆管胃（腸）吻合術	1	31.0
		内視鏡的胆道拡張術	1	21.0
		内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	1	6.0
C25	膵	内視鏡的胆道ステント留置術	100	5.3
		膵頭部腫瘍切除術 血行再建を伴う腫瘍切除術の場合	16	23.1
		膵頭部腫瘍切除術 リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術の場合又は十二指腸温存膵頭切除術の場合	15	23.6
		膵体尾部腫瘍切除術 リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術の場合	8	18.5
		超音波内視鏡下穿刺吸引生検法	6	2.0
		胃・十二指腸ファイバースコーピー	5	3.8
		膵全摘術	4	24.8
		総胆管胃（腸）吻合術	4	14.3
		膵中央切除術	3	28.7

コード	部位	主な手術・処置（１入院に対して主な手術・処置を１つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C25	膵	膵体尾部腫瘍切除術 周辺臓器（胃、結腸、腎、副腎等）の合併切除を伴う腫瘍切除術の場合	3	25.3
		中心静脈注射	3	17.7
		腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 脾同時切除の場合	3	17.0
		内視鏡的膵管ステント留置術	3	4.7
		十二指腸空腸吻合術	2	18.0
		経皮的胆管ドレナージ術	2	16.0
		試験開腹術	2	10.5
		内視鏡的胆道結石除去術 その他のもの	2	4.5
		胸水・腹水濾過濃縮再静注法	2	4.0
		膵頭部腫瘍切除術 膵頭十二指腸切除術の場合	1	28.0
膵体尾部腫瘍切除術 膵尾部切除術の場合 脾同時切除の場合	1	21.0		
C30-C39 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞				
C30 ～C31	鼻腔及び中耳、副鼻腔	化学療法ありかつ放射線療法あり	3	64.7
		鼻副鼻腔悪性腫瘍手術 全摘	3	29.3
		鼻副鼻腔悪性腫瘍手術 切除	2	6.0
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	1	67.0
C32	喉頭	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	3	50.7
		化学療法なしかつ放射線療法あり	2	14.0
		化学療法ありかつ放射線療法あり	1	61.0
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	1	46.0
		喉頭悪性腫瘍手術 全摘	1	26.0
		化学療法ありかつ放射線療法なし	1	3.0
C33 ～C34	気管、気管支及び肺	化学療法ありかつ放射線療法なし	63	5.2
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	56	9.0
		気管支ファイバースコープ	42	2.5
		経気管肺生検法	41	2.5
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	32	9.4
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	30	16.4
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	29	6.3
		ペムプロリズマブ	17	5.7
		経皮的針生検法	16	5.2
		デュルバルマブ	10	4.1
		カルボプラチン＋パクリタキセルあり	9	28.9
		ラムシルマブ	8	6.1
		化学療法ありかつ放射線療法あり	6	21.7
		アテゾリズマブ	5	7.0
		ニボルマブ	5	4.6
		ペメトレキシドナトリウム	5	6.2
		化学療法なしかつ放射線療法あり	5	24.6
		テボチニブ塩酸塩	4	24.8
		超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法（E B U S－T B N A）	4	5.5
		オシメルチニブメシル酸塩	2	9.0
		気管支腫瘍摘出術（気管支鏡又は気管支ファイバースコープによるもの）	2	11.5
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 気管支形成を伴う肺切除	2	48.0
ロルラチニブ	1	10.0		
胸腔鏡下臍胸腔搔爬術	1	51.0		
肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	1	13.0		
肺悪性腫瘍手術 部分切除	1	9.0		
C37	胸腺	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	2	4.5
		化学療法ありかつ放射線療法なし	1	2.0
C38	心臓、縦隔及び胸膜	化学療法ありかつ放射線療法なし	5	4.0
		胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	1	7.0
C40-C41 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞				
C40 ～C41	その他の骨及び関節軟骨	中心静脈注射	5	20.8
		化学療法ありかつ放射線療法なし	4	8.5
		メトトレキサート大量療法（骨肉腫に対するもの）	3	7.3
		骨悪性腫瘍手術 前腕、下腿	2	30.0
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	1	15.0
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	1	13.0
C43-C44 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞				
C43 ～C44	皮膚及びその他の皮膚	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	18	10.4
		皮膚悪性腫瘍切除術 広汎切除	1	43.0
		口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術	1	27.0
		デブリードマン 100平方センチメートル未満	1	9.0
		エンコラフェニブ＋ビニメチニブあり	1	8.0

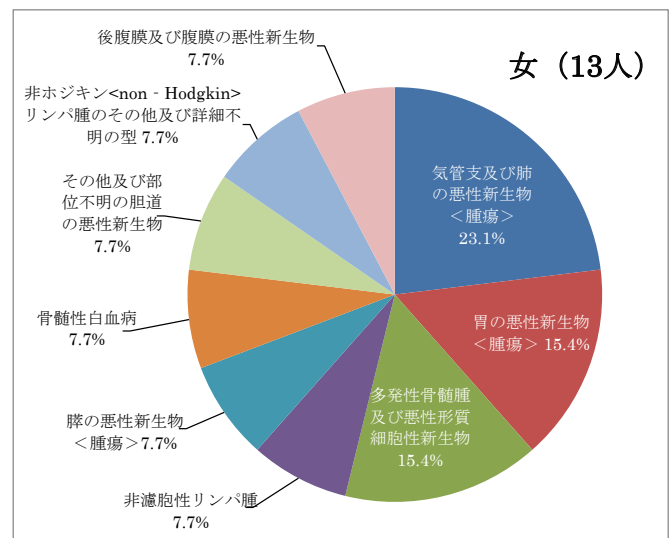
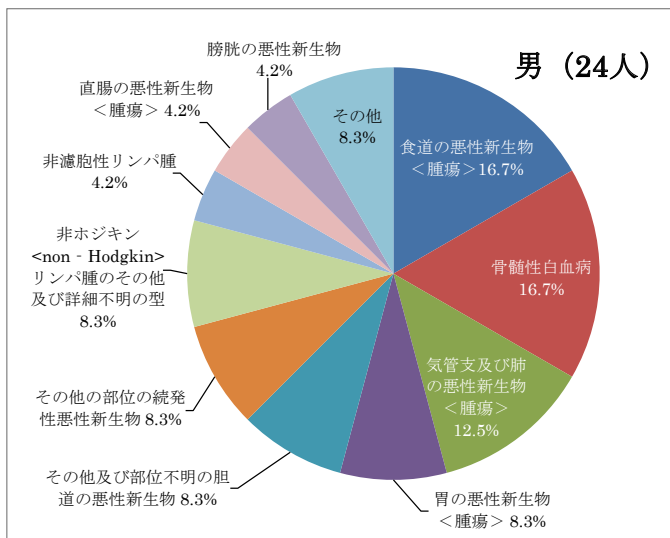
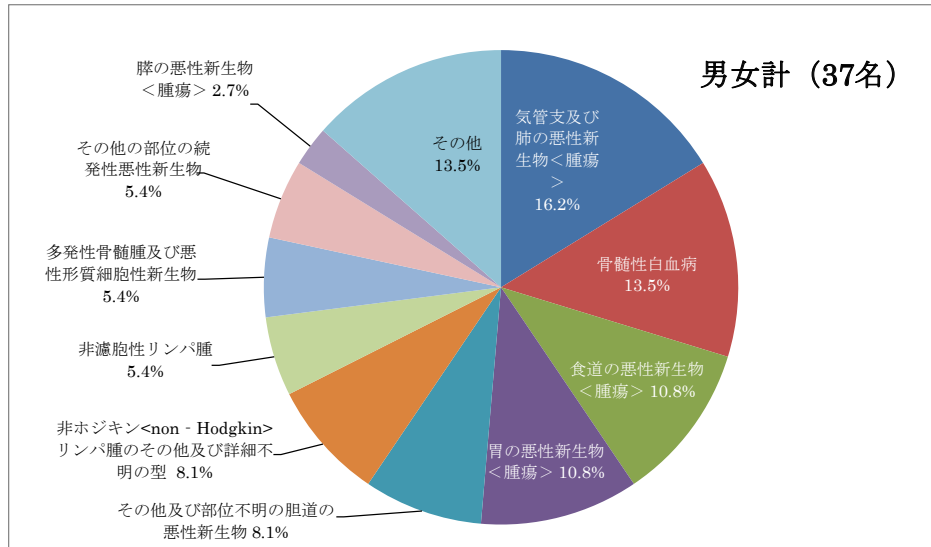
コード	部位	主な手術・処置（1入院に対して主な手術・処置を1つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C45-C49 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞				
C45	中皮腫	胸腔鏡下試験切除術	2	4.5
		化学療法ありかつ放射線療法なし	2	3.0
		胸水・腹水濾過濃縮再静注法	1	3.0
C48	後腹膜及び腹膜	カルボプラチン＋パクリタキセルあり	12	3.4
		子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	2	9.0
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	1	35.0
C49	その他の結合組織及び軟部組織	後腹膜悪性腫瘍手術	1	12.0
		四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、軀幹	5	18.6
		放射線療法	1	36.0
C50 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞				
C50	乳房	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	3	8.3
		乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの	2	12.5
		乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	1	5.0
C51-C58 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞				
C52	陰	放射線療法	1	48.0
C53	子宮頸（部）	子宮悪性腫瘍手術	4	8.8
		化学療法ありかつ放射線療法あり	2	33.0
		化学療法ありかつ放射線療法なし	2	5.0
		子宮頸部（腔部）切除術	2	3.0
		子宮全摘術	1	8.0
		セミプリマブ	1	3.0
C54	子宮体部	化学療法ありかつ放射線療法なし	21	4.5
		子宮悪性腫瘍手術	10	8.9
		腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	7	6.0
		ペムプロリズマブ	3	11.3
		子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリープ切除術 組織切除回収システム利用によるもの	2	3.0
		ベバシズマブ	1	6.0
		子宮内膜搔爬術	1	3.0
C56	卵巣	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリープ切除術 電解質溶液利用のもの	1	3.0
		カルボプラチン＋パクリタキセルあり	40	5.4
		ベバシズマブ	27	5.9
		ドキシソルピシン塩酸塩 リポソーム製剤	20	3.5
		子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	10	9.0
		化学療法ありかつ放射線療法なし	6	4.7
		胸水・腹水濾過濃縮再静注法	5	4.8
		カルボプラチン＋ドセタキセルあり	4	11.8
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	4	6.3
		子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 開腹によるもの	2	15.5
		腹腔鏡下試験切除術	2	11.0
		大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術 腸切除を伴わないもの	2	7.5
C57	その他の女性生殖器	リンパ節群郭清術 後腹膜	1	8.0
		ベバシズマブ	6	4.5
		カルボプラチン＋パクリタキセルあり	3	4.7
		子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	2	7.5
		カルボプラチン＋ドセタキセルあり	1	3.0
C60-C63 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞				
C61	前立腺	前立腺針生検法 その他のもの	97	2.1
		腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	33	10.6
		ドセタキセル	4	10.5
		精巣摘出術	3	3.3
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	2	16.5
		腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	2	10.0
C62	精巣＜睾丸＞	カバジタキセル アセトン付加物	1	9.0
C64-C68 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞				
C64	腎盂を除く腎	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	15	9.5
		経皮的腎生検法	7	3.0
		ペムプロリズマブ	3	5.0
		腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cm以内）	1	7.0

コード	部位	主な手術・処置（1入院に対して主な手術・処置を1つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C65	腎盂	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	7	10.1
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	3	70.7
		化学療法	3	18.0
		ペムプロリズマブ	3	8.3
		膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの	1	14.0
		アベルマブ	1	5.0
		エンホルツマブ ベドチン	1	4.0
C66	尿管	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	6	11.8
		ペムプロリズマブ	3	6.7
		化学療法	2	18.5
		ニボルマブ	2	5.0
		経尿道的腎盂尿管腫瘍摘出術	1	9.0
		エンホルツマブ ベドチン	1	4.0
			1	4.0
C67	膀胱	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの	58	7.1
		化学療法	13	13.7
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	7	14.4
		ペムプロリズマブ	5	8.4
		腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 全摘（回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）	4	29.5
		エンホルツマブ ベドチン	1	18.0
			1	18.0
C68	その他及び部位不明の尿路	化学療法	3	15.0
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	1	19.0
C69-C72 眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞				
C70	髄膜	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	1	25.0
C71	脳	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	2	44.5
		化学療法ありかつ放射線療法なし	2	17.0
		中心静脈注射	2	13.0
		内視鏡下脳腫瘍生検術	1	75.0
		脳切除術	1	44.0
		定位脳腫瘍生検術	1	9.0
			1	9.0
C73-C75 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞				
C73	甲状腺	甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	10	4.5
		甲状腺悪性腫瘍手術 全摘及び亜全摘（片側頸部外側区域郭清を伴うもの）	4	6.5
		甲状腺悪性腫瘍手術 全摘及び亜全摘（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	4	5.0
		甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区域郭清を伴うもの）	3	6.7
		頸部郭清術 片側	2	4.0
		甲状腺悪性腫瘍手術 全摘及び亜全摘（両側頸部外側区域郭清を伴うもの）	1	7.0
		甲状腺部分切除術、甲状腺腫瘍摘出術 片葉のみの場合	1	4.0
		内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術 切除	1	4.0
C74	副腎	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1	9.0
C76-C80 部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞				
C77	リンパ節の続発性及び部位不明	頸部郭清術 片側	5	4.8
		リンパ節群郭清術 後腹膜	2	14.5
		頸部郭清術 両側	1	9.0
		リンパ節群郭清術 頸部（深在性）	1	9.0
C78	呼吸器及び消化器の続発性	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	24	6.3
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	10	10.6
		肝切除術 亜区域切除	7	13.4
		胸水・腹水濾過濃縮再静注法	7	7.0
		肝切除術 部分切除 単回の切除によるもの	4	9.8
		腹腔鏡下肝切除術 部分切除 単回の切除によるもの	4	7.3
		中心静脈注射	4	7.3
		肝切除術 部分切除 複数回の切除を要するもの	3	13.7
		結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術	2	23.0
		後腹膜悪性腫瘍手術	2	11.0
		腹腔鏡下直腸切除・切断術 超低位前方切除術	1	28.0
		肝切除術 3区域切除以上のもの	1	24.0
		肝切除術 1区域切除（外側区域切除を除く。）	1	19.0
		肝切除術 2区域切除	1	12.0
		大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術 腸切除を伴わないもの	1	10.0
		肝切除術 外側区域切除	1	9.0
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	1	8.0
		肺悪性腫瘍手術 部分切除	1	7.0
			1	7.0

コード	部位	主な手術・処置（１入院に対して主な手術・処置を１つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C79	その他の部位の続発性	放射線療法	4	10.3
		化学療法なしかつ放射線療法あり	4	7.0
		頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	2	63.0
		胸水・腹水濾過濃縮再静注法	2	13.5
		脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方又は後側方固定	2	10.5
		腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	2	9.0
		子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	2	8.5
		経皮的椎体形成術	2	7.5
		骨悪性腫瘍手術 肩甲骨、上腕、大腿	1	15.0
		子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	1	12.0
		子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 開腹によるもの	1	11.0
		腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	1	9.0
C80	部位の明示なし	腹壁腫瘍摘出術（形成手術を必要としない）	1	8.0
C80	部位の明示なし	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	2	30.5
C81-C96 リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞、原発と記載された又は推定されたもの				
C81	ホジキン＜Hodgkin＞リンパ腫	化学療法ありかつ放射線療法なし	9	10.7
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	4	30.8
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径５センチメートル未満）	2	35.0
		ペムブロリズマブ	2	29.5
		中心静脈注射	2	19.5
		ブレンツキシマブ ベドチン	2	17.5
C82	濾胞性〔結節性〕非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫	オビヌツズマブ	19	7.0
		ベンダムスチン塩酸塩	10	7.3
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	7	18.3
		リツキシマブ＋フィルグラスチムあり	6	16.0
		リツキシマブ	4	6.3
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル未満	1	25.0
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル以上	1	23.0
C83	非濾胞性リンパ腫	レナリドミド	1	12.0
		リツキシマブ＋フィルグラスチムあり	69	19.8
		ボラツズマブ ベドチン	53	11.9
		リツキシマブ	41	12.3
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	21	20.4
		化学療法ありかつ放射線療法なし	18	23.0
		メトトレキサート大量療法（非ホジキンリンパ腫に対するもの）	8	21.0
		中心静脈注射	8	19.6
		造血幹細胞採取（末梢血幹細胞採取）（自家移植）	8	10.9
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル未満	5	33.6
		造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（自家移植）	5	29.0
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル以上	5	22.8
		イブルチニブ	5	10.8
		ベンダムスチン塩酸塩	4	9.3
		放射線療法	3	14.7
		チラブルチニブ塩酸塩	3	9.3
		経皮経食道胃管挿入術（PTEG）	2	58.5
		内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径２センチメートル未満	2	27.5
		ビルトブルチニブ	1	11.0
C84	成熟T/NK細胞リンパ腫	化学療法ありかつ放射線療法なし	10	23.8
		造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（自家移植）	1	30.0
		造血幹細胞採取（末梢血幹細胞採取）（自家移植）	1	8.0
		リツキシマブ＋フィルグラスチムあり	4	25.0
C85	非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫のその他の型	ベンダムスチン塩酸塩	2	17.0
		腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	2	15.0
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル以上	1	6.0
		甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 片葉のみの場合	1	4.0
		甲状腺悪性腫瘍手術 切除（頸部外側区区域郭清を伴わないもの）	1	4.0
		ブレンツキシマブ ベドチン	15	11.0
C86	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型	化学療法ありかつ放射線療法なし	7	19.0
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル以上	2	38.0
		リンパ節摘出術 長径３センチメートル未満	1	26.0
		パレメトスタットシル酸塩	1	8.0
		放射線療法	2	29.5
C88	悪性免疫増殖性疾患	ベンダムスチン塩酸塩	2	5.0
		リツキシマブ＋フィルグラスチムあり	1	44.0

コード	部位	主な手術・処置（1入院に対して主な手術・処置を1つ選択）	件数	在院日数の平均（日）
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	ダラツムマブ／ボルヒアルロニダーゼ アルファ	25	16.8
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	9	35.8
		レナリドミド	9	22.1
		イサツキシマブ	8	26.3
		ボルテゾミブ	7	16.6
		造血幹細胞採取（末梢血幹細胞採取）（自家移植）	6	6.5
		造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（自家移植）	4	60.0
		カルフィルゾミブ	4	36.5
		化学療法ありかつ放射線療法なし	4	23.8
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	3	51.7
		放射線療法	3	23.3
		末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの	2	82.5
		経皮的シャント拡張術・血栓除去術 初回	2	54.5
		中心静脈注射	2	26.0
		ボマリドミド	2	20.5
C91	リンパ性白血病	エロツズマブ	1	5.0
		中心静脈注射	25	27.5
		ブリナツモマブ	22	30.0
		ボナチニブ塩酸塩	18	22.4
		化学療法	18	18.8
		モガムリズマブ	7	28.4
		ダサチニブ	5	32.4
		化学療法ありかつ放射線療法なし	4	24.8
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	3	27.7
		造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（同種移植）	2	80.0
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	2	43.0
		リンパ節摘出術 長径3センチメートル以上	2	38.5
		内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満	2	30.5
C92	骨髄性白血病	アザシチジン＋ベネトクラクスあり	94	12.9
		化学療法	17	33.2
		アザシチジン	17	12.4
		三酸化ヒ素製剤	11	29.4
		キザルチニブ塩酸塩	6	34.7
		抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 四肢に設置した場合	6	13.3
		造血幹細胞移植（骨髄移植）（同種移植）	4	78.8
		中心静脈注射	4	36.3
		ダサチニブ	4	23.8
		イマチニブメシル酸塩	4	21.3
		造血幹細胞移植（臍帯血移植）	3	86.0
		創傷処理 筋肉、臓器に達するもの（長径5センチメートル未満）	3	55.0
		造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（同種移植）	2	71.5
		鼻腔粘膜焼灼術	2	68.5
		ボナチニブ塩酸塩	2	27.0
D00-D09	上皮内新生物＜腫瘍＞	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満	2	20.5
		ベネトクラクス	2	13.5
		上皮下新生物＜腫瘍＞		
		口腔、食道及び胃の上皮内癌	1	6.0
		皮膚の上皮内癌	1	11.0
		子宮頸部（陰部）切除術	26	3.0
		腹腔鏡下腔式子宮全摘術	11	5.9
		子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療	7	2.9
		女子外性器腫瘍摘出術	1	4.0
		子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療	1	3.0
		その他及び部位不明の生殖器の上皮内癌	1	10.0
		その他及び部位不明の上皮内癌	1	10.0
		ペムブロリズマブ	1	10.0

(2) 悪性新生物による死亡患者数



構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

6 死亡患者統計

(1) 科別死亡率

診療科	退院患者数			死亡患者数				
	男	女	計	男	女	計	死亡率 (%)	平均年齢 (才)
総合診療科	203	168	371	8	6	14	3.8%	86.9
精神科	36	66	102				-	-
血液内科・輸血科	628	475	1,103	13	7	20	1.8%	70.8
糖尿病・内分泌内科	11	23	34				-	-
腫瘍内科	1		1				-	-
ペインクリニック科	6	16	22				-	-
放射線科	3	1	4				-	-
脳神経外科	338	314	652	28	25	53	8.1%	78.8
眼科	89	54	143				-	-
耳鼻咽喉科	242	113	355				-	-
歯科口腔外科	68	82	150				-	-
呼吸器内科	221	141	362	7	4	11	3.0%	75.0
呼吸器外科	256	96	352	6	3	9	2.6%	79.4
循環器内科	646	345	991	9	7	16	1.6%	79.5
心臓血管外科	200	101	301	8	8	16	5.3%	79.2
乳腺・甲状腺外科	31	93	124				-	-
消化器内科	665	426	1,091	10	5	15	1.4%	80.1
消化器外科・一般外科	1,160	718	1,878	11	5	16	0.9%	72.7
泌尿器科	364	105	469	2		2	0.4%	79.5
腎臓内科・膠原病科	66	47	113	4	1	5	4.4%	81.8
婦人科		593	593				-	-
生殖医療科		6	6				-	-
移植外科	81	74	155	2	3	5	3.2%	74.4
救命救急科	220	167	387	90	73	163	42.1%	72.9
小児科	595	483	1,078	3		3	0.3%	3.0
小児外科	62	34	96				-	-
産科		1,044	1,044				-	-
皮膚科	12	14	26				-	-
整形外科	463	548	1,011	3	1	4	0.4%	79.0
形成外科	104	87	191				-	-
児童精神科	9	11	20				-	-
合計	6,780	6,445	13,225	204	148	352	2.7%	75.0

病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

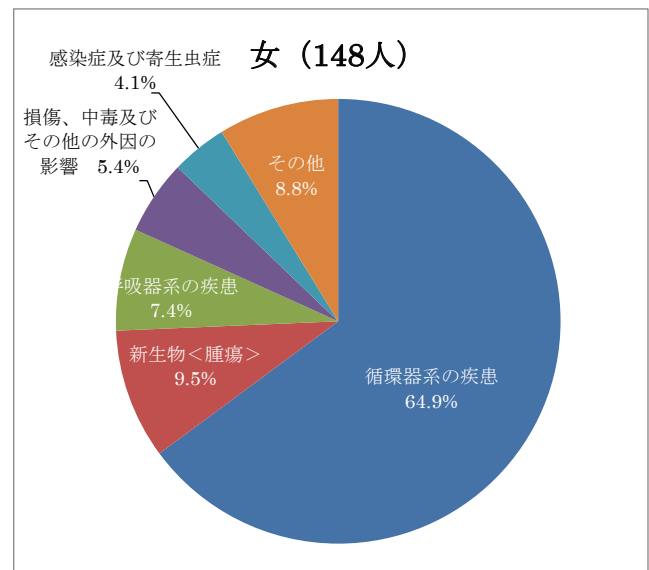
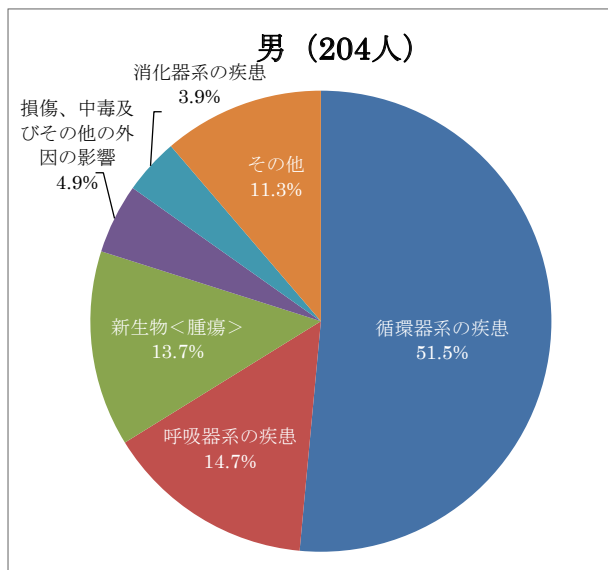
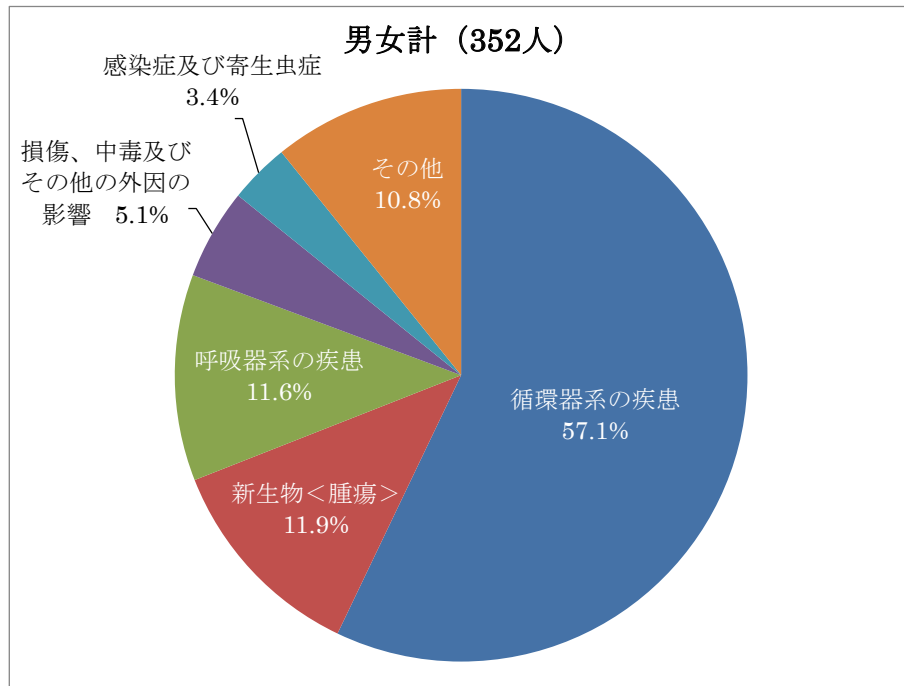
クリニカルインディケーター

(2) 死亡患者数

疾 病 大 分 類		死亡患者数			
		男	女	計	%
I	感染症及び寄生虫症	6	6	12	3.4%
II	新生物＜腫瘍＞	28	14	42	11.9%
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の傷害	1	2	3	0.9%
IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	2	0	2	0.6%
V	精神及び行動の障害				-
VI	神経系の疾患				-
VII	眼及び付属器の疾患				-
VIII	耳及び乳様突起の疾患				-
IX	循環器系の疾患	105	96	201	57.1%
X	呼吸器系の疾患	30	11	41	11.6%
X I	消化器系の疾患	8	4	12	3.4%
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	0	1	1	0.3%
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	1	1	2	0.6%
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	6	5	11	3.1%
X V	妊娠，分娩及び産褥				-
X VI	周産期に発生した病態				-
X VII	先天奇形，変形及び染色体異常	1	0	1	0.3%
X VIII	症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				-
X IX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	10	8	18	5.1%
X X	傷病及び死亡の外因				-
X X II	その他	6	0	6	1.7%
合 計		204	148	352	100.0%

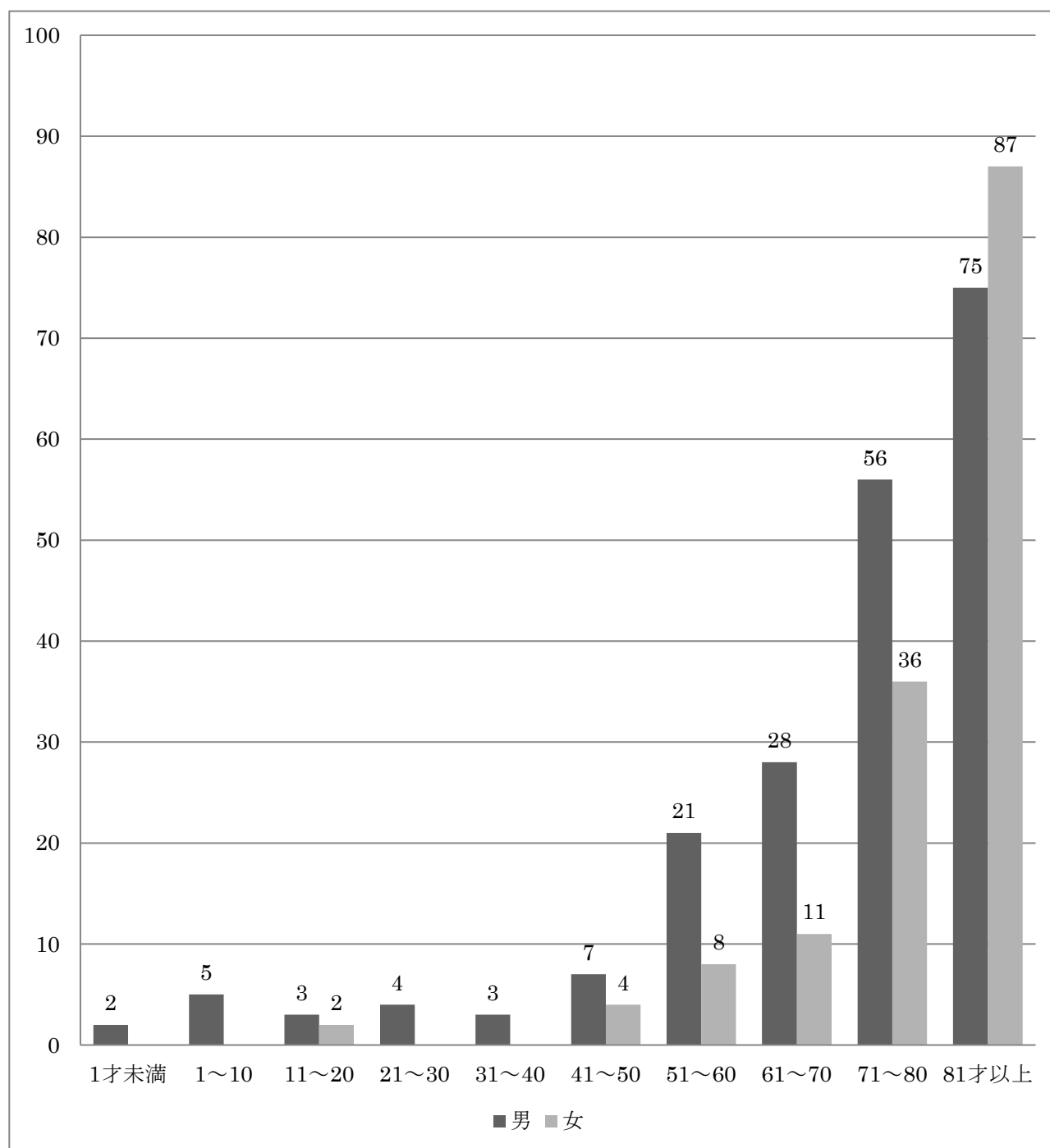
構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

(3) 死亡患者数の割合



構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

(4) 年齢別死亡患者数



病院の概要

各局資料

各診療科資料

各委員会資料

クリニカルインディケーター

(5) 死亡患者疾病順位表＜性別・年齢別＞

		順位									
年齢階層	患者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男 (204人)	1才未満	循環器系の疾患 1	先天奇形、変形及び染色体異常 1								
	1・10	循環器系の疾患 4	損傷、中毒及びその他の外因の影響 1								
	11・20	循環器系の疾患 3									
	21・30	循環器系の疾患 3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 1								
	31・40	循環器系の疾患 2	新生物＜腫瘍＞ 1								
	41・50	循環器系の疾患 6	新生物＜腫瘍＞ 1								
	51・60	循環器系の疾患 14	新生物＜腫瘍＞ 4	呼吸器系の疾患 2	感染症及び寄生虫症 1						
	61・70	循環器系の疾患 16	新生物＜腫瘍＞ 5	呼吸器系の疾患 3	消化器系の疾患 2	損傷、中毒及びその他の外因の影響 1	感染症及び寄生虫症 1				
	71・80	循環器系の疾患 24	新生物＜腫瘍＞ 13	呼吸器系の疾患 6	腎臓路生殖器系の疾患 3	特殊目的用コード 3	損傷、中毒及びその他の外因の影響 2	感染症及び寄生虫症 2	消化器系の疾患 1	内分泌、栄養及び代謝疾患 1	筋骨格系及び結合組織の疾患 1
	81才以上	循環器系の疾患 32	呼吸器系の疾患 19	損傷、中毒及びその他の外因の影響 6	消化器系の疾患 5	新生物＜腫瘍＞ 4	腎臓路生殖器系の疾患 3	特殊目的用コード 3	感染症及び寄生虫症 2	内分泌、栄養及び代謝疾患 1	
女 (148人)	1才未満	0									
	1・10	0									
	11・20	2									
	21・30	0									
	31・40	0									
	41・50	4	新生物＜腫瘍＞ 2	新生物＜腫瘍＞ 1	感染症及び寄生虫症 1						
	51・60	8	呼吸器系の疾患 5	呼吸器系の疾患 1	消化器系の疾患 1	新生物＜腫瘍＞ 1					
	61・70	11	新生物＜腫瘍＞ 5	呼吸器系の疾患 3	呼吸器系の疾患 1	腎臓路生殖器系の疾患 1					
	71・80	36	呼吸器系の疾患 19	呼吸器系の疾患 4	感染症及び寄生虫症 4	損傷、中毒及びその他の外因の影響 2	腎臓路生殖器系の疾患 2	皮膚及び皮下組織の疾患 1	筋骨格系及び結合組織の疾患 1		
	81才以上	87	新生物＜腫瘍＞ 63	新生物＜腫瘍＞ 6	呼吸器系の疾患 5	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 2	消化器系の疾患 2	腎臓路生殖器系の疾患 2	感染症及び寄生虫症 1		

令和6年度
高知医療センター年報

発行 高知医療センター 広報委員会

〒781-8555 高知市池2125番地1

電話 088-837-3000(代)

